青森県埋蔵文化財調査報告書　第366集

野尻(1)遺跡Ⅵ

－国道101号浪岡五所川原道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－

野尻(2)遺跡Ⅲ

－国道７号浪岡バイパス建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－

２００４年３月

青森県教育委員会

序

津軽平野の南東部に位置し、リンゴ産地として知られている浪岡町には、国指定史跡の高屋敷館遺跡や浪岡城跡など重要な遺跡が数多く存在します。また、縄文～弥生時代・古代・中世等の遺跡も数多く分布しています。

この報告書は、国道101号浪岡五所川原道路及び国道７号浪岡バイパス建設事業の実施に先立って調査を実施した浪岡町野尻⑴遺跡・野尻⑵両遺跡の調査結果をまとめたものです。

調査によって、縄文時代の土器・石器をはじめ、平安時代の集落跡や墓跡と考えられる環状の溝が発見されました。これらは当時の集落の様子を考える上で貴重な資料となるものです。また、平安時代の集落跡からは土師器・須恵器などのやきものの他に鉄製品や土製の玉・碁石が見つかっており、ここで暮らしていた人々の生活の一端を垣間見ることができます。

本書によって浪岡町の歴史を、より身近に感じていただき、地域理解を深めていただければ幸いです。

調査の実施及び報告書の刊行にあたって種々御指導、御協力をいただいた関係各位に対して、厚くお礼申し上げます。

平成16年３月

青森県埋蔵文化財調査センター

所　長　佐　藤　良　治

例　　言

1　本報告書は、平成14年度に当センターが実施した浪岡町野尻⑴遺跡・野尻⑵遺跡の発掘調査報告書である。

2　野尻⑴遺跡は、青森県遺跡地図に遺跡番号29060、野尻⑵遺跡は遺跡番号29061で登録されている。

3　本報告書の執筆者は、依頼原稿については文頭に記載し、その他は文末に記した。

4　試料の分析、鑑定等については、次の方々に依頼した(順不同、敬称略)。

石器・石製品の石質鑑定	青森県立八戸中央高等学校教諭	佐々木辰雄
須恵器の蛍光Ｘ線分析	大谷女子大学教授	三辻　利一
放射性炭素年代測定	株式会社地球科学研究所	
	パリノ・サーヴェイ株式会社	

5　本書に掲載した地形図（遺跡の位置と周辺の主な遺跡）は、国土地理院発行の５万分の１地形図「青森西部」を複製したものである。

6　挿図の縮尺は、各図ごとにスケールを付してある。なお、写真の縮尺は統一していない。

7　遺構・遺物の文・図中での表現は、原則として次の様式・基準によった。

⑴　検出遺構については次の略号を使用し、発見順に番号を付した。

ＳＩ＝竪穴住居跡　ＳＩＤ＝竪穴に付随する溝跡　ＳＩＢ＝竪穴に付随する掘立柱建物跡

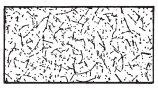
ＳＫ＝土坑　ＳＤ＝溝跡　ＳＲ＝埋設土器　ＳＮ＝焼土遺構

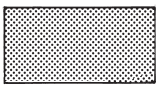
⑵　遺構内外堆積土の注記には、『新版標準土色帖』(小山、竹原；1996)を用いた。

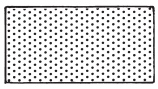
⑶　層位名は基本層位を「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ…」などのローマ数字、遺構内堆積土層位を「１・２・３…」などの算用数字で表記し、細分層についてはその後にアルファベットの小文字を付けている。

⑷　遺物には観察表・計測値を付した。計測値の単位は土器類・金属製品はcm、土製品の一部・石器類はmm、重量はgである。

⑸　遺構・遺物実測図で使用したスクリーントーンの表示は次のとおりである。


焼　土


黒色処理


火襷痕

⑹　白頭山‐苫小牧火山灰の呼称は、白頭山火山灰とＢ-Ｔｍを併用している。

8　引用・参考文献については本文末に納めた。

9　発掘調査における出土遺物・実測図・写真等は、現在、青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。

10　発掘調査及び本報告書作成にあたって、下記の諸氏からご協力・ご助言を得た(順不同、敬称略)。

北林 八洲晴、成田 誠治、小口 雅史、鈴木 克彦、宮内 勝巳、林田 利之、鈴木 徹、新岡 巖、奈良岡 淳、相澤 治、藤原 弘明

目　次

序
例　言
目　次
図版目次・写真目次
第１章　調査要項……1
第２章　調査方法と調査経過
第１節　調査方法……3
第２節　調査経過……4
第３章　遺跡周辺の環境
第１節　基本層序……5
第２節　遺跡周辺の地形及び環境……6
第４章　野尻⑴遺跡から検出された遺構と遺物
第１節　検出遺構と出土遺物……9
１　建物跡……9
２　土坑……43
３　溝跡……48
４　土器埋設遺構……55
５　焼土遺構……56
第２節　出土遺物……58
１　縄文土器……58
２　石器……58
３　土師器・須恵器……58
４　土製品……58
５　石製品……59
６　金属製品……59
７　その他……59
第５章　野尻⑵遺跡から検出された遺構と遺物
第１節　検出された遺構と出土遺物……68
１　竪穴住居跡……68
２　土坑……69
３　円形周溝……69
第２節　遺構外出土遺物……70
第６章　自然科学的分析
第１節　出土須恵器の蛍光Ｘ線分析……81
第２節　胎土分析結果に対するコメント……86
第３節　放射性炭素年代測定１……93
第４節　放射性炭素年代測定２……96
第７章　まとめ
第１節　野尻⑴遺跡の遺構について……100
第２節　野尻⑴遺跡から出土した須恵器・土師器の特徴……103
第３節　まとめ……110
引用・参考文献……112
写真図版……113
報告書抄録……125

図版目次

図１　遺跡の位置と周辺の主な遺跡……２
図２　野尻⑴遺跡遺構配置図……７
図３　野尻⑴遺跡調査区及び遺構配置図……８
図４　第320・306号建物跡１……15
図５　第320・306号建物跡２……16
図６　第320・306号建物跡３……17
図７　第320・306号建物跡４……18
図８　第320・306号建物跡５……19
図９　第312号建物跡……20
図10　第317号建物跡１……21
図11　第317号建物跡２……22
図12　第601号建物跡１……23
図13　第601号建物跡２……24
図14　第601号建物跡３……25
図15　第601号建物跡４……26
図16　第602号建物跡……27
図17　第603号建物跡１……28
図18　第603号建物跡２……29
図19　第603号建物跡３……30
図20　第603号建物跡４……31
図21　第603号建物跡５……32
図22　第603号建物跡６……33
図23　第603号建物跡７……34
図24　第604号建物跡１……35
図25　第604号建物跡２……36
図26　第604号建物跡３……37
図27　第604号建物跡４……38
図28　第604号建物跡５……39
図29　第604号建物跡６……40
図30　第604号建物跡７……41
図31　第605号建物跡……42
図32　第306・601～603号土坑……45
図33　第604～606号土坑……46
図34　土坑内出土遺物……47
図35　第601号溝跡１……49
図36　第601号溝跡２……50
図37　第602号溝跡１……51
図38　第602号溝跡２……52
図39　第602号溝跡３……53
図40　第603号溝跡……54
図41　第601号土器埋設遺構……55
図42　第601～604号焼土遺構……57
図43　遺構外出土遺物１……60
図44　遺構外出土遺物２……61
図45　遺構外出土遺物３……62
図46　遺構外出土遺物４……63
図47　遺構外出土遺物５……64
図48　遺構外出土遺物６……65
図49　野尻⑵遺跡調査区及び周辺地形図……66
図50　野尻⑵遺跡遺構配置図……67
図51　第109号竪穴住居跡・第148号土坑１…71
図52　第109号竪穴住居跡・第148号土坑２…72
図53　第110号竪穴住居跡……73
図54　第108号円形周溝１……74
図55　第108号円形周溝２・遺構外出土遺物…75
図56　周辺の遺跡遺構配置図……98

写真目次

写真１……113
写真２……114
写真３……115
写真４……116
写真５……117
写真６……118
写真７……119
写真８……120
写真９……121
写真10……122
写真11……123
写真12……124

第１章　調査要項

１　調査目的

国道101号浪岡五所川原道路及び国道７号浪岡バイパス建設事業の実施に先立ち、当該地区に所在する野尻⑴遺跡・野尻⑵遺跡の発掘調査を行い、その記録を保存して、地域社会の文化財の活用に資する。

２　発掘調査期間　　野尻⑴遺跡　平成14年４月18日～同年７月19日
　　野尻⑵遺跡　平成14年７月23日～同年10月18日

３　遺跡名及び所在地　　野尻⑴遺跡（青森県遺跡番号29060）
　　南津軽郡浪岡町大字徳才子字山本175-141外
　　野尻⑵遺跡（青森県遺跡番号29061）
　　南津軽郡浪岡町大字高屋敷字野尻55-2外

４　調査対象面積　　野尻⑴遺跡　　4,700平方メートル
　　野尻⑵遺跡　　740平方メートル

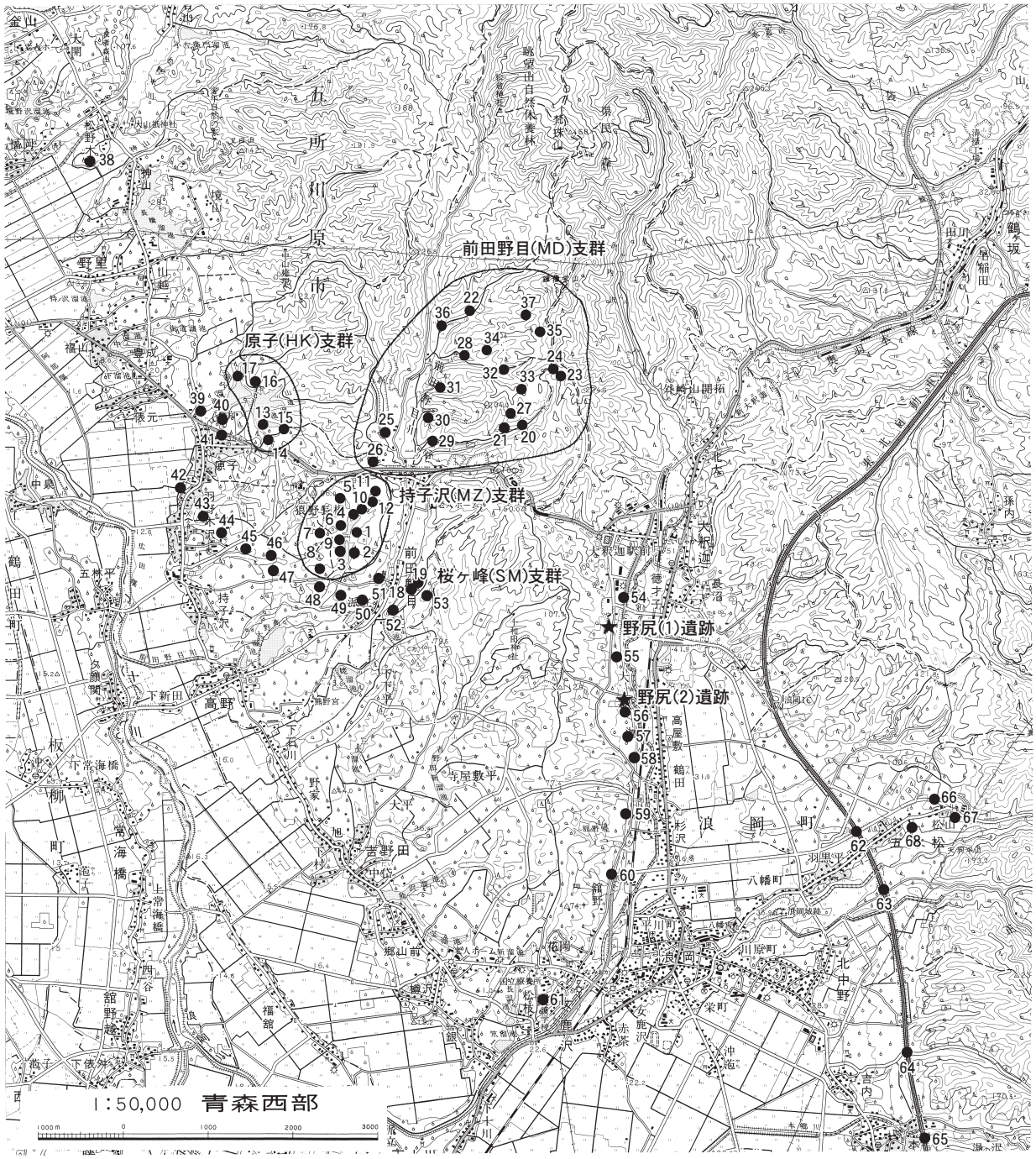
５　調査委託者　　国土交通省青森河川国道事務所

６　調査受託者　　青森県教育委員会

７　調査担当機関　　青森県埋蔵文化財調査センター

８　調査体制

調査指導員　村越　潔　　青森大学教授（考古学）
調　査　員　山口義伸　　青森県環境生活部文化・スポーツ振興課総括主幹（地質学）
　　（現　青森県立浪岡高等学校教諭）
　　山田昌久　　東京都立大学人文学部助教授（考古学）
　　工藤清泰　　浪岡町教育委員会生涯学習課文化班長（考古学）
調査担当者　青森県埋蔵文化財調査センター
　　所長　　佐藤良治
　　次長　　福田友之
　　総務課長　　工藤和夫
　　調査第三課長　　大湯卓二（現　資料課長）
　　文化財保護総括主査　笹森一朗
　　文化財保護主事　　小林雅人
　　調査補助員　　山内教子、後藤千春、青山里香、対馬康仁
　　研修職員　　樋口徹典（尾上町教育委員会生涯学習課主事補）



番号	遺跡名	市町村	遺跡番号	番号	遺跡名	市町村	遺跡番号	番号	遺跡名	市町村	遺跡番号
1	MZ1号窯(持子沢A遺跡)	五所川原市	05021	24	MD5号窯(砂田D-2号窯)	五所川原市	05015	47	隠川⑾	五所川原市	05071
2	MZ2号窯(持子沢B遺跡)	五所川原市	05022	25	MD6号窯(鞠ノ沢窯)	五所川原市	05017	48	隠川⑿	五所川原市	05072
3	MZ3号窯(持子沢C遺跡)	五所川原市	05023	26	MD7号窯(犬走窯)	五所川原市	05091	49	隠川(4)	五所川原市	05064
4	MZ4号窯(持子沢D遺跡)	五所川原市	05024	27	MD8号窯(砂田B遺跡)	五所川原市	05011	50	隠川(3)	五所川原市	05063
5	MZ5号窯(隠川⒀遺跡)	五所川原市		28	MD9号窯(野脇遺跡)	五所川原市		51	隠川(2)	五所川原市	05062
6	MZ6号窯(隠川(1)遺跡)	五所川原市	05020	29	MD10号窯(砂田F遺跡)	五所川原市		52	真言館跡	五所川原市	05043
7	MZ7号窯(隈無(7)遺跡)	五所川原市	05079	30	MD11号窯(砂田G遺跡)	五所川原市		53	桜ヶ峰(2)	五所川原市	05059
8	MZ8号窯(隠川⑽遺跡)	五所川原市	05070	31	MD12号窯(前田野目山(1)遺跡)	五所川原市		54	山本	浪岡町	29049
9	MZ9号窯(持子沢C遺跡)	五所川原市	05023	32	MD13号窯(前田野目山(2)遺跡)	五所川原市		55	野尻(4)	浪岡町	29063
10	MZ10号窯(持子沢D遺跡)	五所川原市	05024	33	MD14号窯(前田野目山(2)遺跡)	五所川原市		56	野尻(3)	浪岡町	29062
11	MZ11号窯(持子沢D遺跡)	五所川原市	05024	34	MD15号窯(前田野目山(3)遺跡)	五所川原市		57	高屋敷館	浪岡町	29003
12	MZ12号窯(持子沢D遺跡)	五所川原市	05024	35	MD16号窯(前田野目山(4)遺跡)	五所川原市		58	山元(1)	浪岡町	29054
13	HK1号窯(山道溜池遺跡)	五所川原市	05010	36	MD17号窯(砂田C遺跡)	五所川原市		59	山元(2)	浪岡町	29055
14	HK2号窯(山道溜池遺跡)	五所川原市	05010	37	MD18号窯(前田野目山(5)遺跡)	五所川原市		60	山元(3)	浪岡町	29056
15	HK3号窯(山道溜池遺跡)	五所川原市	05010	38	観音林	五所川原市	05002	61	長溜池	浪岡町	29014
16	HK4号窯(原子下溜池(4)遺跡)	五所川原市	05039	39	原子溜池(5)	五所川原市	05040	62	羽黒平(1)	浪岡町	29017
17	HK5号窯(紅葉遺跡)	五所川原市		40	原子城	五所川原市	05006	63	源常平	浪岡町	29027
18	SM1号窯(桜ヶ峰(1)遺跡)	五所川原市	05009	41	原子溜池(1)	五所川原市	05003	64	杉ノ沢	浪岡町	29038
19	SM2号窯(桜ヶ峰(1)遺跡)	五所川原市	05009	42	実吉	五所川原市	05090	65	松元	浪岡町	29044
20	MD1号窯(砂田B-1号窯)	五所川原市	05011	43	隈無(2)	五所川原市	05074	66	平野	浪岡町	29057
21	MD2号窯(砂田B-2号窯)	五所川原市	05012	44	隈無(4)	五所川原市	05076	67	松山	浪岡町	29026
22	MD3号窯(砂田C号窯)	五所川原市	05013	45	隈無(1)	五所川原市	05073	68	羽黒平(3)	浪岡町	29019
23	MD4号窯(砂田D-1号窯)	五所川原市	05014	46	隈無(6)	五所川原市	05078				

図１　遺跡の位置と周辺の主な遺跡

第２章　調査方法と調査経過

第１節　調査方法

１　調査区域の設定

今回調査した野尻⑴遺跡は、通算で６次目の調査となる。調査区は第５次調査までのグリッドを踏襲し呼称も北東隅としている。標高原点は、平成13年度に使用した原点からレベル移動を行い、調査区域内に適宜設置した。

野尻⑵遺跡は通算３次目の調査にあたり、平成６年度に調査した地点の西側に位置している。調査区は本遺跡の南側に位置する山元⑴遺跡や高屋敷館遺跡を含めたグリッドを使い、呼称は南東隅としている。標高原点は、道路建設用地内にある工事用測量原点からレベル移動を行い、調査区域内に適宜設置した。

２　発掘調査

１）グリッド及びトレンチ単位で発掘区を拡張する方法を採った。

２）野尻⑴遺跡の粗掘りは層位的に進め、遺物・遺構を確認してから下層の掘り下げについて判断した。また、一部重機による表土除去を行った。野尻⑵遺跡はほとんどが２メートルを超える盛り土に覆われており、すべてを重機によって除去した。

３　実測図の作成

１）遺構については、大きさによって４分法、或いは２分法によって土層観察用のベルトを設定し、精査した。

２）遺構の実測図（平面図・断面図）の縮尺は20分の１ないし10分の１で作成した。

３）遺構外出土遺物については、グリッド単位で層位、種類別に一括して取り上げた。

４　写真撮影

１）遺構については、確認状況・土層断面・遺物出土状況・完掘状況等を中心に撮影した。

２）その他必要に応じて、遺跡の状況・調査状況についても記録した。

３）使用カメラは35ミリカメラで、フィルムはモノクロームとカラーリバーサル（スライド）及びネガカラーの３種類のフィルムを使用した。

(笹森一朗)

第２節　調査経過

１　野尻⑴遺跡

平成14年４月18日調査器材を搬入するとともに、野尻⑴遺跡の調査を開始する。調査区は平成９・10年度の調査区に挟まれた部分にあたり、基準杭もそのまま延長して設定することとした。粗掘りは比較的平坦な58ラインより東側の調査区に南北方向に４メートル幅のトレンチを４メートルおきに設定して掘り始めた。

４月下旬、平成10年度の調査で検出されている遺構の延長部分の粗掘り・遺構確認が終了し精査を開始した。遺構番号は前回の番号を踏襲した。

５月中旬、トレンチによる粗掘りが終了し、重機による表土除去を行い遺構確認を行った。新規の遺構は建物跡５軒、土坑３基、溝跡２条が検出された。

５月下旬、調査区西側の丘陵部の粗掘りを開始した。遺物の出土は散漫に見られるものの遺構はほとんど検出されなかった。

６月上旬、引き続き遺構精査を行った。第602号溝跡の端部から比較的多量の遺物が出土し始め、実測・取り上げを行った。

６月中旬、現道部分の遺構確認を行ったが撹乱が著しく、新規の遺構を検出することはできなかった。

７月上旬、引き続き遺構精査を行った。比較的天候にも恵まれ調査は順調に進んだ。

７月中旬、調査区全体図の作成、等高線の作成を行い、７月19日、野尻⑴遺跡の調査を終了した。

２　野尻⑵遺跡

平成14年７月23日調査器材を搬入するとともに、野尻⑵遺跡の調査を開始する。調査区は平成６年度の調査区の西側部分にあたる。基準杭は山元⑴遺跡や高屋敷館遺跡を含め公共座標を用いたものを使うこととし、グリッドの呼称は南東隅の杭とした。標高原点は、道路建設用地内にある工事用測量原点からレベル移動を行い、調査区域内に適宜設置した。高屋敷館遺跡を含めた調査ということで並行して行うこととなった。

７月下旬、野尻⑵遺跡はそのほとんどが２メートルを超える盛り土で覆われていた。また盛り土の中にはコンクリートブロックや廃材が含まれており、人力で排除し遺構確認することは困難であった。

８月上旬、重機による表土除去を行い遺構確認を行った。新規の遺構は竪穴住居跡が１軒、土坑１基が検出された。また、平成６年度に検出された第108号円形周溝は検出されたが、第105号円形周溝は検出することは出来なかった。本調査区は盛り土される前に部分的に黒土の採取が行われたものと思われ、その際に遺構が削られてしまったものと考えられた。

８月下旬、遺構確認・遺物取り上げ・遺構の精査を行った。

９月上旬、引き続き遺構精査を行った。降雨時には埋没沢部を中心に水が溜まるためポンプを使っての精査となった。

９月中旬、引き続き遺構の精査を行った。新たに検出された竪穴住居跡は約２／３が西側の調査区域外に存在していた。確認された範囲からカマドは検出されなかった。カマドは西側調査区域外に存在するものと思われた。

９月下旬、引き続き遺構精査を行った。比較的天候にも恵まれ調査は順調に進んだ。

10月上旬、調査区全体図及び等高線の作成を行い、10月18日、野尻⑵遺跡の調査を終了した。

(笹森)

第３章　遺跡周辺の環境

第１節　基本層序

１　野尻⑴遺跡

野尻⑴遺跡の基本層序は、本調査区が平成９(第２次)・10(第３次)年度の調査区の間に位置することもあり、基本的な層序は踏襲した。概要は『野尻⑴遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第277集より転載する。

第Ⅰａ層	黒褐色土	耕作土である。しまりに欠けもろい。乾くとクラックが発達し、格子状に割れやすい。黒灰色に変色しやすい。
第Ⅰｂ層	黒色土	表土。粘性・湿性多少あり。非常にかたさはあるが、しまりに欠け脆い感じ。
第Ⅱ層	黒褐色土	粘性・湿性ややあり。しまりはあるが、全体的にソフトである。苫小牧火山（白頭山火山灰）がブロック状に混入する。(やや上部に位置する)。全体的に細粒砂質。また、軽石粒の混入も多少みられる。
第Ⅲａ層	黒色腐植質土	粘性・湿性あり。かたさ、しまりはあるが、全体的にソフトな感じ。乾くとクラックが発達し、格子状の割れが目立つ。全体的に粘土質で、低地に堆積する。
第Ⅲｂ層	黒色腐植質土	粘性・湿性あり。かたさ、しまりはあるが、全体的にソフトな感じ。クラックは発達しない。全体的に粘土質で、低地に堆積する。
第Ⅳａ層	黒褐色土	漸移層。腐植質で軽石粒がより混入。かたさ、しまりややあり。粘性・湿性あり。全体的にソフトである。
第Ⅳｂ層	暗褐色土	多少腐植質。軽石粒・ブロックの混入が多く、ややしまりに欠ける。

２　野尻⑵遺跡

野尻⑵遺跡の基本層序についても前回の調査区の層序を踏襲した。概要は『野尻⑵遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第186集より転載する。

第Ⅰ層	黒褐色土10ＹＲ２／２（厚さ約20㎝）耕作土である。粘性・湿性が多少あって、かたく締まる。乾くと格子状の割れが目立つ。粘土の粒子及びブロックの混入が多い。谷地形内では粘性・湿性の低いソフトな感じである。
第Ⅱ層	黒色土10ＹＲ1.7／１（厚さ約10～20㎝）腐植質で粘性・湿性がある。乾くと格子状の割れが目立ち脆い感じがする。粘土粒の混入が少ない。上位の耕作土とはシャープな面で接しほとんど削平されている。
第Ⅲ層	暗褐色土10ＹＲ３／４（厚さ約10㎝）漸移層である。軽石粒及び径10～50㎜大の粘土ブロックが多量に混入して締まりなく脆い。谷地形では２～６層に細分する。黒褐色（10ＹＲ３／１）～暗褐色（10ＹＲ３／４）と色調が変化し、粒径の大きい粘土ブロックや細砂粒～粗砂粒の混入物が目立ち酸化の染みもみられる。全体として下部ほど砂及び粘土粒の混入が目立つ。厚さは40～60㎝程である。
第Ⅳ層	黄灰色軽石混じりの細粒砂質粘土（厚さ60～80㎝）層相から５層に細分される。上部のⅣａ層は軽石混じりの細粒～中粒砂質粘土で厚さ20㎝と平均的に堆積する。Ⅳｂ層は軽石質粘土で薄いレンズ状の堆積を示す。Ⅳｃ層～Ⅳｅ層は中粒砂（Ⅳｄ層）を挟む軽石混じりの細砂粒質粘土で縞模様を成す。野尻⑷遺跡の基本層序第Ⅲ層ほど粘土化していないが、水成堆積の特徴をもつ。羽黒平⑴遺跡の第Ⅳ層及び第Ⅴ層に対比される。上北地方の千曳浮石（東北地方第四紀研究グループ、1969)、大鰐及び碇ヶ関付近の碇ヶ関浮石（山口、1993）に相当し、およそ11,000～12,000年前に降下した火砕物と推定される。遺構の確認調査では地山確認の指標となる。
第Ⅴａ層	黒褐色酸化帯10ＹＲ２／３(厚さ２～５㎝)クラックの発達した暗色帯で、Ⅳ層との境界面が凹凸をなす。
第Ⅴｂ層	暗灰黄色粘土10ＹＲ５／２(厚さ30㎝以上)灰色粘土で、酸化した表面は黄褐色～暗灰黄色に変色する。

第２節　遺跡周辺の地形及び環境

野尻⑴遺跡・野尻⑵遺跡は浪岡町の北部、その源を梵珠山に発し南流する大釈迦川右岸の河岸段丘上に位置する。周辺には平安時代の遺跡が多数所在しており、一連の開発事業にかかる発掘調査も数多く行われている。

野尻⑴遺跡の今回の調査区は、過去５度にわたって行われた調査の第２次及び第３次の調査区に挟まれた地点にあたる。標高は52～65mを測り、57m付近を境にやや急な尾根部（中位段丘面）と緩斜面部（低位段丘面）とに分かれる。大釈迦川を挟んだ東側には水田が開け、遠くに八甲田山の峰々をのぞみ、北側には梵珠山を仰ぎみる環境にある。

本遺跡が立地する梵珠山系の南側に連なる前田野目台地には、多数の遺跡が所在する。国道７号浪岡バイパス建設事業に関連しては北から山本・野尻⑴・野尻⑷・野尻⑵・野尻⑶・高屋敷館（国指定史跡）・山元⑴・山元⑵・山元⑶遺跡の発掘調査が行われている。また、野尻⑷遺跡は浪岡町の工業団地建設事業に関連した調査も行われ、大規模な平安時代の集落であることが判明している。台地の西縁や前田野目川の沿岸にも五所川原須恵器古窯跡群をはじめとして多数の遺跡が立地しており、国道101号浪岡五所川原道路の建設事業にかかる発掘調査も、東から本遺跡・桜ヶ峰⑵・桜ヶ峰⑴・隠川⑶・隠川⑷・隠川⑿・隠川⑾・隈無⑴・隈無⑷・隈無⑹・隈無⑻・実吉遺跡で行われている。

野尻⑵遺跡は野尻⑴遺跡の南方約300m付近、間に野尻⑷遺跡を挟んだ地点に位置している。これまで平成５年度と６年度の２度にわたり発掘調査が行われている。今回の調査区は国指定史跡高屋敷館遺跡の保存に係るバイパスの迂回工事に伴うもので、平成６年度に行われた調査区の西側部分にあたる。標高は42～43mを測り、大釈迦川の右岸縁辺部に位置している。大釈迦川を挟んだ東側の段丘面にはリンゴ畑と水田が開け、遠くに八甲田山をのぞむことができる環境にある。

本遺跡も野尻⑴遺跡同様前田野目台地に立地しており、おそらくこの周辺は平安時代には人々が生活を営む上で適した環境にあったものと思われる。（笹森）

グリッド	杭	X	Y
ＢＫ	45	82620.398	-21043.431
ＢＰ	40	82600.991	-21022.830
ＢＰ	50	82599.787	-21062.808
ＢＰ	56	82599.068	-21086.809
ＢＵ	40	82581.029	-21022.229
ＢＵ	50	82579.794	-21062.207
ＢＵ	60	82578.635	-21102.200
ＡＫ	70	82717.399	-21146.428
ＡＫ	80	82716.204	-21186.411
ＡＫ	90	82715.008	-21226.393
ＡＫ	100	82713.813	-21266.375
ＡＰ	70	82697.408	-21145.831
ＡＰ	80	82696.213	-21185.813
ＡＰ	90	82695.017	-21225.795
ＡＰ	100	82693.822	-21265.777
ＢＷ	10	82576.635	-20902.113
ＢＷ	15	82576.037	-20922.104
ＢＷ	20	82575.440	-20942.095
ＢＷ	25	82574.842	-20962.086
ＢＷ	30	82574.245	-20982.077

座標値は旧日本測地系(Tokyo Datum)に即す

図２　野尻(1)遺跡遺構配置図

図３　野尻(1)遺跡調査区及び遺構配置図

第４章　野尻⑴遺跡から検出された遺構と遺物

第１節　検出遺構と出土遺物

今回、第６次調査で検出された遺構は、建物跡８棟（内、平成10年度調査時に一部精査したもの２棟、大部分を精査したもの１棟)、土坑７基（内、平成10年度調査時に一部精査したもの１基)、溝跡３条、土器埋設遺構１基、焼土遺構４基である。今回の調査で検出された遺構には種別毎に「第601号」から順に番号を付けている。また、平成10年度の調査で検出された遺構の調査区域外であった部分は遺構名を踏襲して精査をしている。平成９年度の調査で検出された第209号溝跡と平成10年度の調査で検出された第305号溝跡と同一の遺構と思われる溝跡については第601号溝跡と呼称して精査を行った。以下各遺構ごとに概要を記述する。

１　建物跡

第320・306号建物跡（図４～８)

［位置・確認］ＢＶ－45グリッド他に位置する。平成10年度に精査された遺構の南側約半分にあたる。

［重複］前回の調査でも確認されたように第320号建物が拡張され第306号建物跡となっている。平成10年度の調査では第308号建物跡の外周溝に近接して第306号建物跡の外周溝が検出されているが、今回のセクションＤ－Ｄ′の土層観察からは明確な重複関係を確認することはできなかった。しかしながら、第307・308・309号建物跡の新旧関係や、同じく第307・306号建物跡の堆積土中の火山灰から、第308号建物跡が第306号建物跡より古い可能性が高いものと思われる。

［概要］竪穴部に外周溝及び掘立柱建物が付随する建物跡と思われる。

［出土遺物］竪穴内及び外周溝の堆積土中から土師器・須恵器・土製品・金属製品等が出土している。図示できた遺物は17点。１～９は第306号竪穴内、10～17は第306号外周溝から出土した。１～４は土師器坏。４は内面に黒色処理が施される。５・６は土師器甕。７は須恵器甕の胴部片。８は土玉。９は磨り石と思われる。10・11は土師器坏。12は須恵器坏。外面に火襷痕が認められる。13～15は土師器甕。非ロクロ成形と思われる。16は須恵器片。17は金属製品と思われるが欠損しているため全体形状は不明。切断面の形状は円形を呈している。

［時期］堆積土中の火山灰より、９世紀代に構築・廃絶された建物跡と考えられる。

第320号竪穴部分

［平面形・規模］壁周溝と思われる溝跡は長方形を呈し長軸500㎝、短軸400㎝を測る。

［堆積土］周溝内は１～２層に分層された。

［床面・壁］第306号建物跡と同化している。

［カマド］拡張前と思われるカマドの痕跡は認められなかった。

［柱穴］壁周溝と思われる溝跡の隅から３基検出されている。南隅は古いカマド構築の際に壊された可能性が高い。

［その他の施設］検出されなかった。

第320号外周溝

［形態・規模］平面形は溝状を呈し上面幅60～100㎝、底面幅24～64㎝、深さは80～120㎝を測る。南側端部は土坑状にやや膨らんでいる。

［堆積土］12～16層に分層された。白頭山火山灰の堆積は認められない。

［底面・壁］底面はほぼ平坦である。壁は底面から開口部に向かい緩やかに立ち上がっている。

［その他の施設］底面数箇所にピットが検出された。

第306号竪穴部分

［平面形・規模］ほぼ方形を呈し長軸700㎝、短軸660㎝、深さは22㎝を測る。

［堆積土］掘り方を含めると22層に分層された。

［床面・壁］床面は第Ⅲ層中に造られている。ほとんどが貼り床である。一部で硬化面を形成している。壁は壁周溝から緩やかに立ち上がっている。

［カマド］南東壁に２基検出された。南側のカマドが壊れた後、北側に作り替えたものと思われる。両カマドとも遺存状態は良くない。

［柱穴］コーナー部に４基存在する。

［その他の施設］ピットが５基検出されている。

第306号外周溝

［形態・規模］平面形は溝状を呈し、上面幅82～126㎝、底面幅32～56㎝、深さは86～120㎝を測る。南側端部は土坑状を呈している。

［堆積土］８～11層に分層された。ほぼ自然堆積の様相を呈し、上層に白頭山火山灰の堆積が認められる。

［底面・壁］底面はほぼ平坦に作られている。一部に三日月状の工具痕を残している。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。

［その他の施設］なし。

掘立部分

［規模］柱穴と考えられるピットは計12基確認できた。その内１基は平成10年度に精査されている。長径28～46㎝、短径24～40㎝、深さは24～46㎝を測る。拡張前の第320号建物跡に伴うものはピット８～12、拡張後の第306号建物跡に伴うものはピット１～７と思われる。

第312号建物跡（図９）

［位置・確認］ＢＹ－61グリッド他に位置する。第Ⅲ層上面で溝の一部を確認した。

［重複］認められない。

［平面形・規模］細長い溝状を呈している。上面幅18～26㎝、底面幅８～20㎝、深さは約26㎝を測る。

確認できた全長は約350㎝。

［堆積土］５層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

［底面・壁］底面は中央部に向かいやや傾斜を持つ。壁は底面から緩やかに立ち上がっていて、断面形状はU字状を呈している。

［出土遺物］遺物は出土していない。

［小結］遺構の検出場所から、平成10年度に調査した第312号建物跡から伸びている外延溝と呼称した溝跡の延長部分である。溝跡北東側にピットが２基検出された。第312号建物跡に付随する掘立柱の可能性が考えられる。（笹森）

第317号建物跡（図10・11）

［位置・確認］ＢＶ－54グリッド他の傾斜地に位置している。竪穴部分の大半及びカマドの一部は平成10年度に精査が行われており、今回はほとんどがカマド部分の精査となった。

［重複］認められない。

［平面形・規模］竪穴部の平面形は長方形を呈する。壁長は北西壁辺300㎝、北東壁辺268㎝、南東壁辺336㎝、南西壁辺288㎝を測る。

［堆積土］全体的に暗褐色～黒褐色土で占められ、ロームブロックの含み具合等から人為堆積が主体と推定される。白頭山火山灰の混入は認められない。

［床面・壁］壁は良好に残存し、北西壁における確認面からの深さは52～88㎝を測る。

［カマド］南東壁の南側から１基検出されている。煙道部は壁から約120㎝程突出している。煙道部は粘土を貼った地下式と思われる。

［柱穴］検出されなかった。

［その他の施設］検出されなかった。

［出土遺物］カマドおよび周辺の堆積土中から土師器・須恵器が出土している。図示できた遺物は４点。１は土師器坏。底部の調整痕は不明瞭。２は小型の土師器甕。３・４は土師器甕の口縁～胴部片。３はロクロ成形。

［小結］白頭山火山灰が降下する以前に廃絶された建物跡と考えられる。（樋口徹典）

第601号建物跡（図12～15）

［位置・確認］尾根地形の平坦面、ＢＹ－57グリッド他に位置する。第Ⅳ層上面で確認した。

［重複］竪穴部分では認められないが、掘立柱の一部(ピット３・６)が第601号溝跡と重複している。新旧関係は掘立柱が古い。

［概要］竪穴部に掘立柱が付随する建物跡である。

［出土遺物］図示できた遺物は７点、すべて竪穴部分から出土している。１は土師器坏。２～７は土師器甕。２はロクロ成形である。３は比較的小型の甕であり、底部は砂敷き。４の内面には刷毛目調整が施される。

［時期］堆積土中の火山灰より、９世紀代に構築・廃棄された建物跡と考えられる。

竪穴部分

［平面形・規模］ほぼ方形を呈し長軸563㎝、短軸534㎝、深さ４～48㎝を測る。

［堆積土］18層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

［床面・壁］床面は地床でほぼ平坦に作られている。壁は床面及び壁周溝からほぼ垂直に立ち上がっている。

［カマド］カマドは南東壁から検出された。両袖が残存している。半地下式と思われるが、煙道部は壁外へ延びない。

［柱穴］東コーナーを除く各コーナーから３基検出された。平面形は円形を呈し長径22～34㎝、短径16～22㎝、深さは14～25㎝を測る。

［その他の施設］なし。

掘立部分

［規模］竪穴部分の南東側に柱穴を７基確認できた。その内ピット３・６は第601号溝跡と重複していて、前述したように本遺構が古い。各柱穴の平面形は円形を呈し長径41～72㎝、短径35～48㎝、深さは44～64㎝を測る。

［柱穴］ピット１は長径41㎝、短径38㎝、深さ52㎝。ピット２は長径56㎝、短径45㎝、深さ46㎝。ピット４は長径72㎝、短径35㎝、深さ64㎝。ピット５は長径48㎝、短径40㎝、深さ44㎝。ピット７は長径52㎝、短径48㎝、深さ54㎝を測る。

［柱間寸法］ピット１・２間が240㎝、ピット２・３間が245㎝、ピット３・４間が198㎝、ピット４・５間が216㎝、ピット５・６間が229㎝、ピット６・７間が226㎝、ビット１・７間が412㎝、ピット２・６間が411㎝を測る。（小林雅人）

第602号建物跡（図16）

［位置・確認］ＢＸ－52グリッド他に位置する。第Ⅳ層上面で確認できた。

［重複］認められない。

［平面形・規模］方形を呈し長軸484㎝、短軸476㎝、深さは52㎝を測る。

［堆積土］44層に分層された。人為堆積の様相を呈する。火山灰の混入は認められない。

［床面・壁］床面は一部を除き地床でほぼ平坦に作られている。壁は床面からやや急に立ち上がっている。

［カマド］カマドは検出されなかった。袖の残存部や床面から被熱した部分も確認できなかった。カマドを有しない建物であった可能性が高い。

［柱穴］柱穴は各コーナー及び南東壁を除く壁際の中間から検出されている。

［その他の施設］確認できなかった。

［出土遺物］堆積土中から土師器片や石製品が出土している。図示し得たのは３点。１は土師器坏の底部片。２は土師器甕の底部片。外面はヘラ削り、内面は刷毛目調整が施される。３は砥石状の石製品。

［小結］遺物のほとんどは流れ込みによるものと考えられる。カマドが検出されなかったことから、

居住施設以外の建物であった可能性が考えられる。　(笹森)

第603号建物跡（図17～23）

［位置・確認］ＣＢ－48グリッド他に位置する。第Ⅲ層中で確認した。

［重複］一部第604号建物跡に付随する外周溝と重複している。土層の観察からは本遺構が古いことが確認できた。

［概要］竪穴住居跡に外周溝が付随する。掘立柱建物が付随する可能性が高かったが、風倒木や撹乱が多く、検出することは出来なかった。

［出土遺物］多量の土師器・須恵器が出土している。図示し得たのは38点。１・２は須恵器坏。２は赤焼き須恵器である。３～10・33は土師器坏。３は口縁部内面の一部にスス状物質の付着が認められ、一部欠損している。５・７・８は内面黒色処理が施されている。９は第602号溝跡出土の個体と接合した。６・10は摩耗が激しく内外面とも整形痕は不明瞭。11～32、34～36は土師器甕。18・22はロクロ成形である。30は第604号建物跡出土の個体と接合。32は内面の剥離が激しく整形痕は不明瞭である。37は須恵器甕の胴部片。38は須恵器甕の頸部片である。

［時期］出土遺物より、９世紀代に構築・廃絶された建物跡と考えられる。カマド内から出土した炭化材の放射性炭素年代測定結果は第６章第３・４節に掲載している。

竪穴部分

［平面形・規模］長方形を呈し430㎝、短軸376㎝、深さは32～56㎝を測る。

［堆積土］53層に分層された。人為堆積の様相を呈する。第２層中にだけ白頭山火山灰が少量、ブロック状に混入する。第29・30・40層は一部同化しているものの第604号建物跡外周溝の堆積土と思われる。

［カマド］カマドは南東壁に２基検出された。南側のカマドが壊れた後、北側に作り替えたものと思われる。北側のカマドは袖が残存しているが火床面は不明瞭。南側は火床面のみの検出である。

［柱穴］壁内側に４基検出されている。ほぼ円形を呈し、長径18～30㎝、短径18～26㎝、深さ４～７㎝を測る。

［その他の施設］なし。

外周溝

［形態・規模］平面形は溝状を呈し上面幅70～116㎝、底面幅26～70㎝、深さは46～70㎝を測る。

［堆積土］10～16層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

［その他の施設］なし。

第604号建物跡（図24～30）

［位置・確認］ＣＤ－48グリッド他に位置する。第Ⅲ層中で確認した。

［重複］付随する外周溝が第603号建物跡及び第602号溝跡と重複している。土層の観察から本遺構がすべてにおいて新しいことが確認できた。

［概要］竪穴住居跡に外周溝が付随する。掘立柱建物が付随する可能性が高かったが、暗渠や果樹の植え替えによると思われる撹乱が多く、検出することは出来なかった。

［出土遺物］多量の土師器・須恵器の他、土玉・椀型鉄滓が１点ずつ出土している。図示し得たのは20点。１は土師器坏。２～16は土師器甕。６は第603号建物跡出土の個体と接合している。また11は第602号土坑及びＣＥ48・49グリッド出土の個体と接合した。19・20は須恵器甕の胴部片である。

［時期］出土遺物及び堆積土中の火山灰より、９世紀代に構築され、10世紀前葉には廃絶された建物跡と考えられる。

竪穴部分

［平面形・規模］長方形を呈し494㎝、短軸430㎝、深さは40㎝を測る。

［堆積土］26層に分層された。自然堆積の様相を呈する。第２層下部に白頭山火山灰がレンズ状に堆積している。中央部分では一部床面に接している。

［床面・壁］床は地床でほぼ全面が踏み固められている。壁は床面や壁周溝から南壁を除きほぼ垂直に立ち上がっている。

［カマド］カマドは南東壁に１基検出された。袖が一部残存しているが、遺存状態は良くない。堆積土の状況からは、人為的に壊されている様子が窺われる。煙道部は壁から約30㎝程突出する。

［柱穴］コーナーから４基検出されている。長径12～30㎝、短径10～24㎝、深さ10～19㎝を測る。

［その他の施設］なし。

外周溝

［形態・規模］平面形は溝状を呈し上面幅70～116㎝、底面幅26～70㎝、深さは46～70㎝を測る。

［堆積土］10～16層に分層された。自然堆積の様相を呈する。部分的に白頭山火山灰がレンズ状に堆積する。

［その他の施設］なし。 (小林)

第605号建物跡（図31）

［位置・確認］ＣＤ－45グリッド他に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

［重複］認められない。

［平面形・規模］方形を呈し長軸242㎝、短軸240㎝、深さは40㎝を測る。

［堆積土］７層に分層された。自然堆積の様相を呈する。第５・６層中に白頭山火山灰が混入する。

［床面・壁］床面はほぼ平坦に作られている。壁は床面から南西壁を除き緩やかに立ち上がっている。

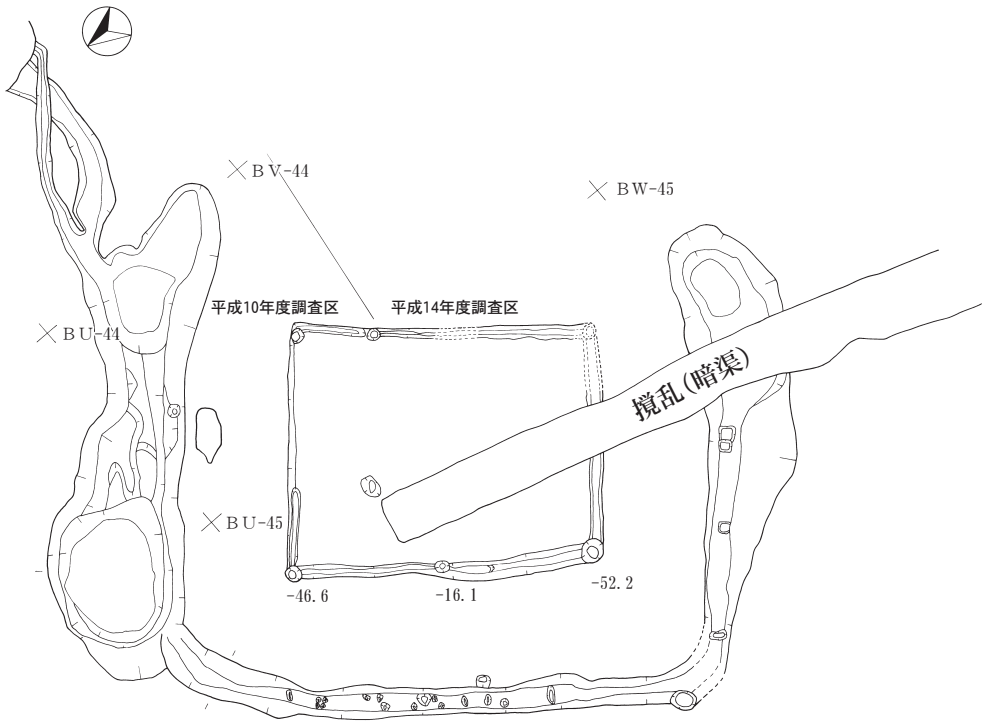
［カマド］南東壁南寄りから１基検出された。遺存状態はあまり良くない。煙道部は壁から約60㎝程突出する。

［柱穴］検出されなかった。

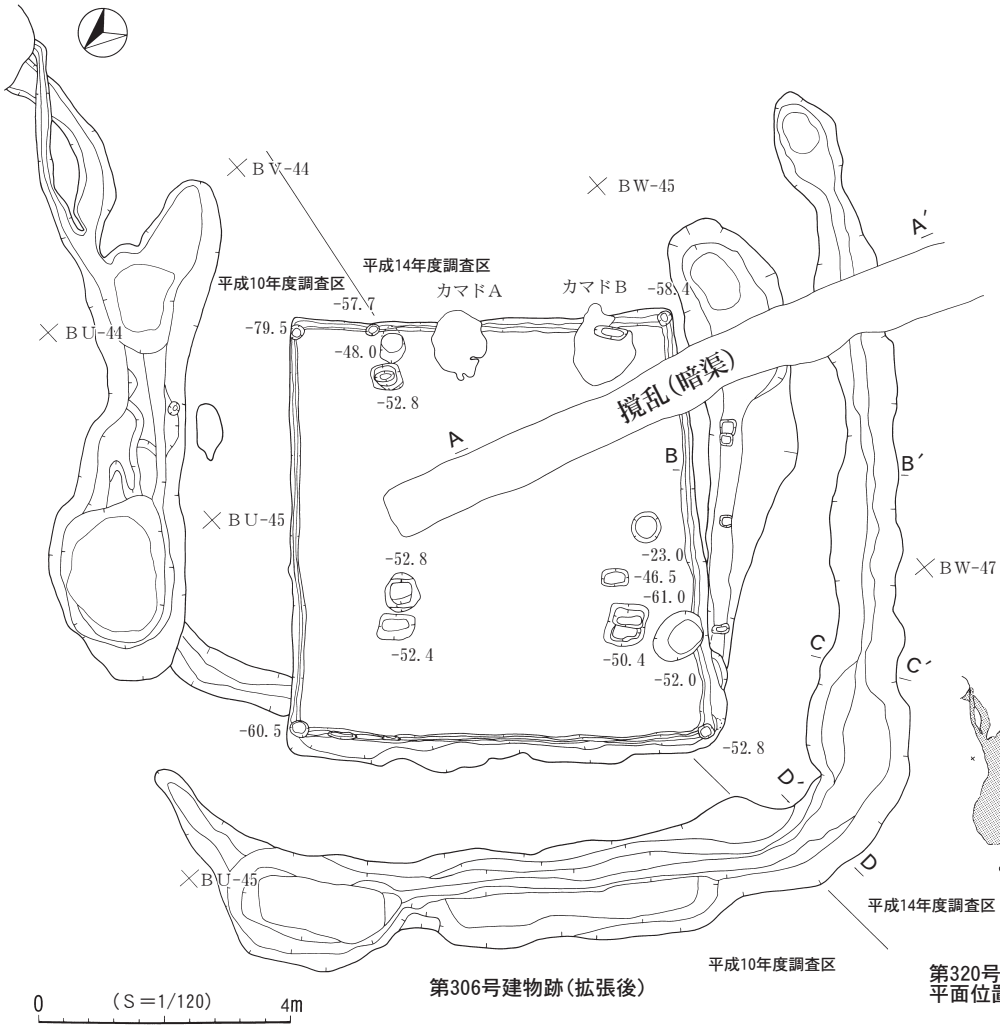
［その他の施設］検出されなかった。

［出土遺物］図示できた遺物は１点。１は須恵器甕の胴部片と思われる。

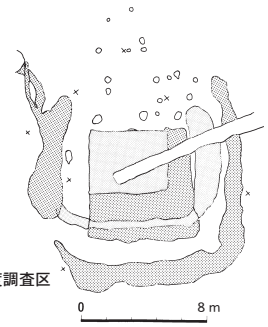
［小結］本調査区の中でも比較的小型の竪穴部だけの建物跡である。堆積土中の火山灰及び出土遺物より平安時代の建物跡と考えられる。堆積土中の火山灰より、10世紀前半には廃絶されたものと考えられる。 (笹森)



第320号建物跡（拡張前）



第306号建物跡（拡張後）



第320号建物跡と第306号建物跡の平面位置関係

図４　第320・306号建物跡１

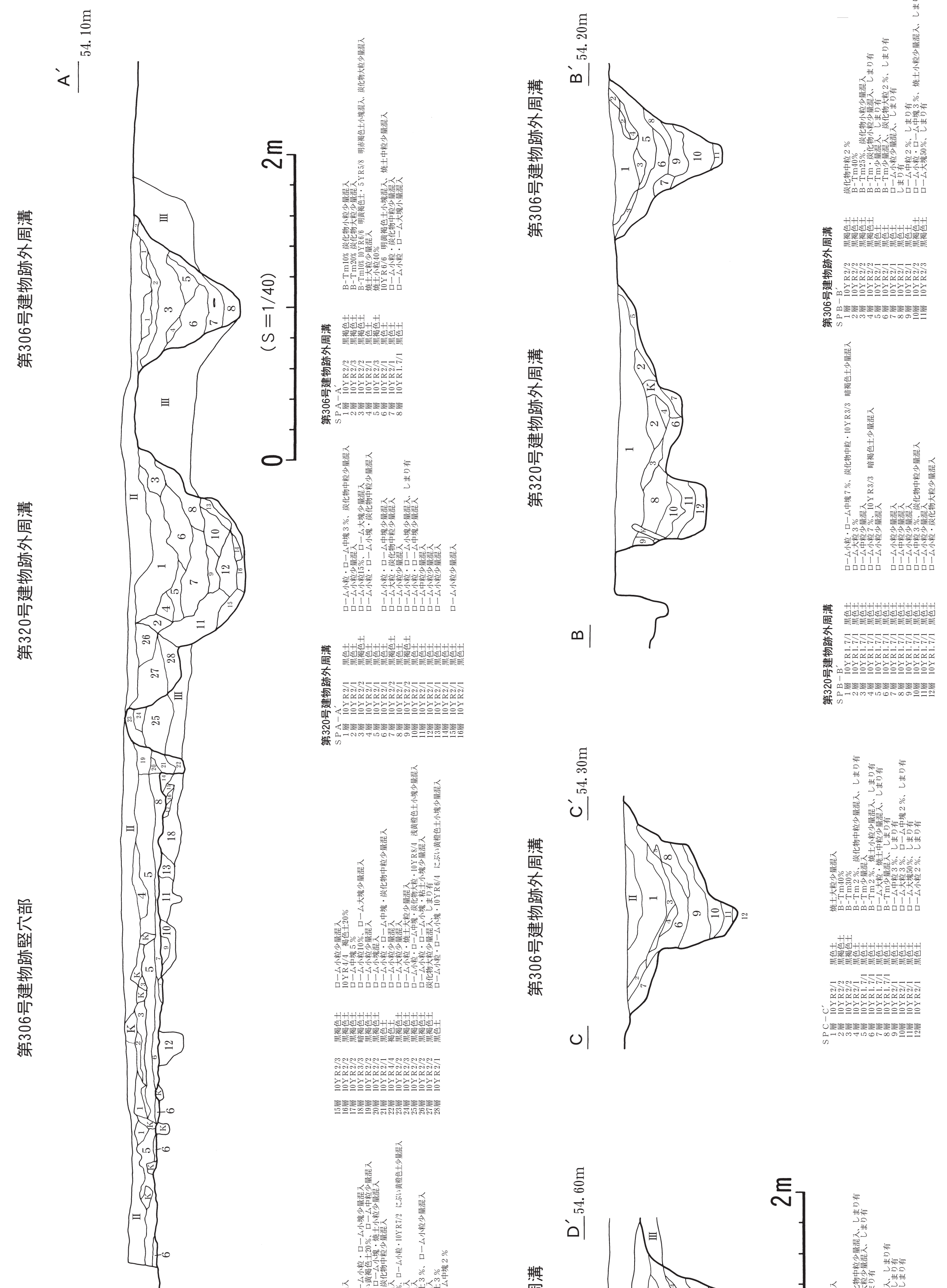
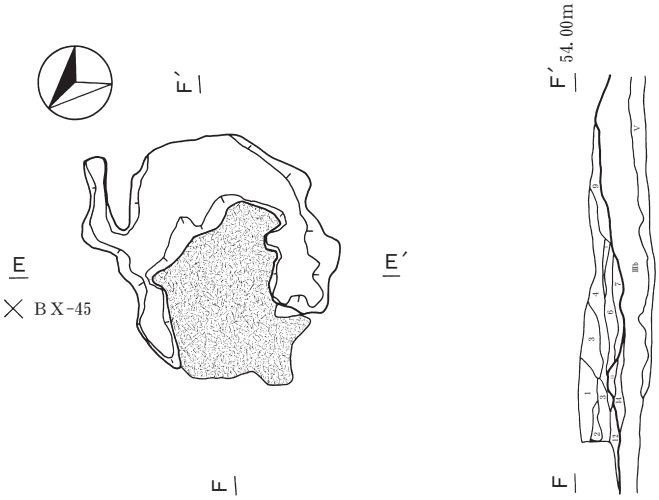
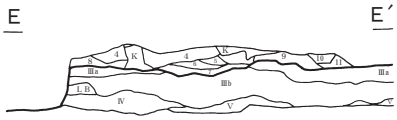


図５　第320・306号建物跡２

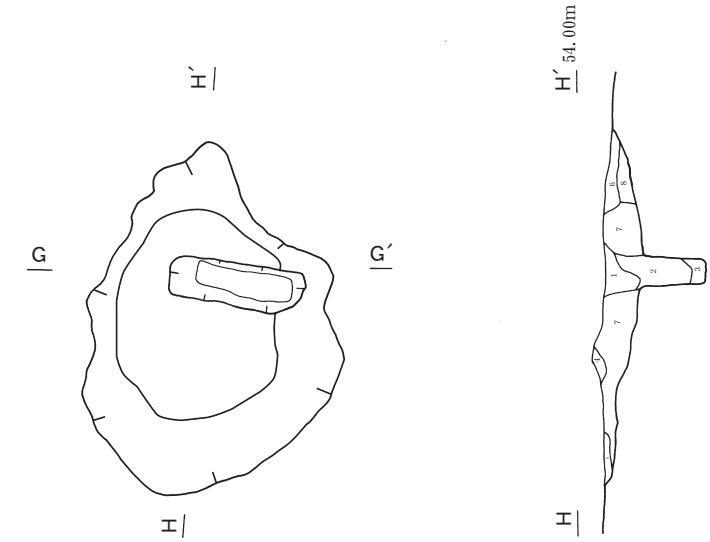


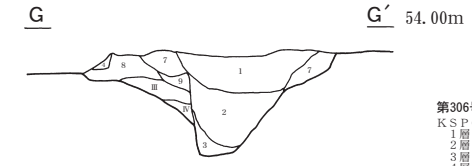


第306号建物跡カマドＡ

ＫＳＰＥ－Ｅ′，ＫＳＰＦ－Ｆ′

１層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム中粒２％、焼土小粒・Ｂ-Ｔｍ少量混入
２層	10ＹＲ4/6	褐色土	Ｂ-Ｔｍ主体、炭化物大粒・焼土中粒２％、しまりやや有
３層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	Ｂ-Ｔｍ３％、焼土小粒２％、炭化物中粒少量混入
４層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	焼土大粒５％、ローム小粒・ローム中塊・炭化物大粒３％、粘土大粒少量混入
５層	7.5ＹＲ3/4	暗褐色土	焼土大粒10％、ローム小粒５％
６層	7.5ＹＲ3/4	暗褐色土	焼土大粒３％、ローム中粒少量混入
７層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊２％、焼土中粒多量混入
８層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム中粒２％、焼土小粒少量混入、粘土中粒多量混入
９層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	焼土小粒少量混入
10層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒・炭化物大粒２％、焼土小粒少量混入
11層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	焼土小粒３％、小レキ少量混入
12層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	粘土大粒10％、焼土大粒３％、小レキ少量混入
13層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム中粒２％、焼土大粒少量混入
14層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒２％、焼土大粒少量混入





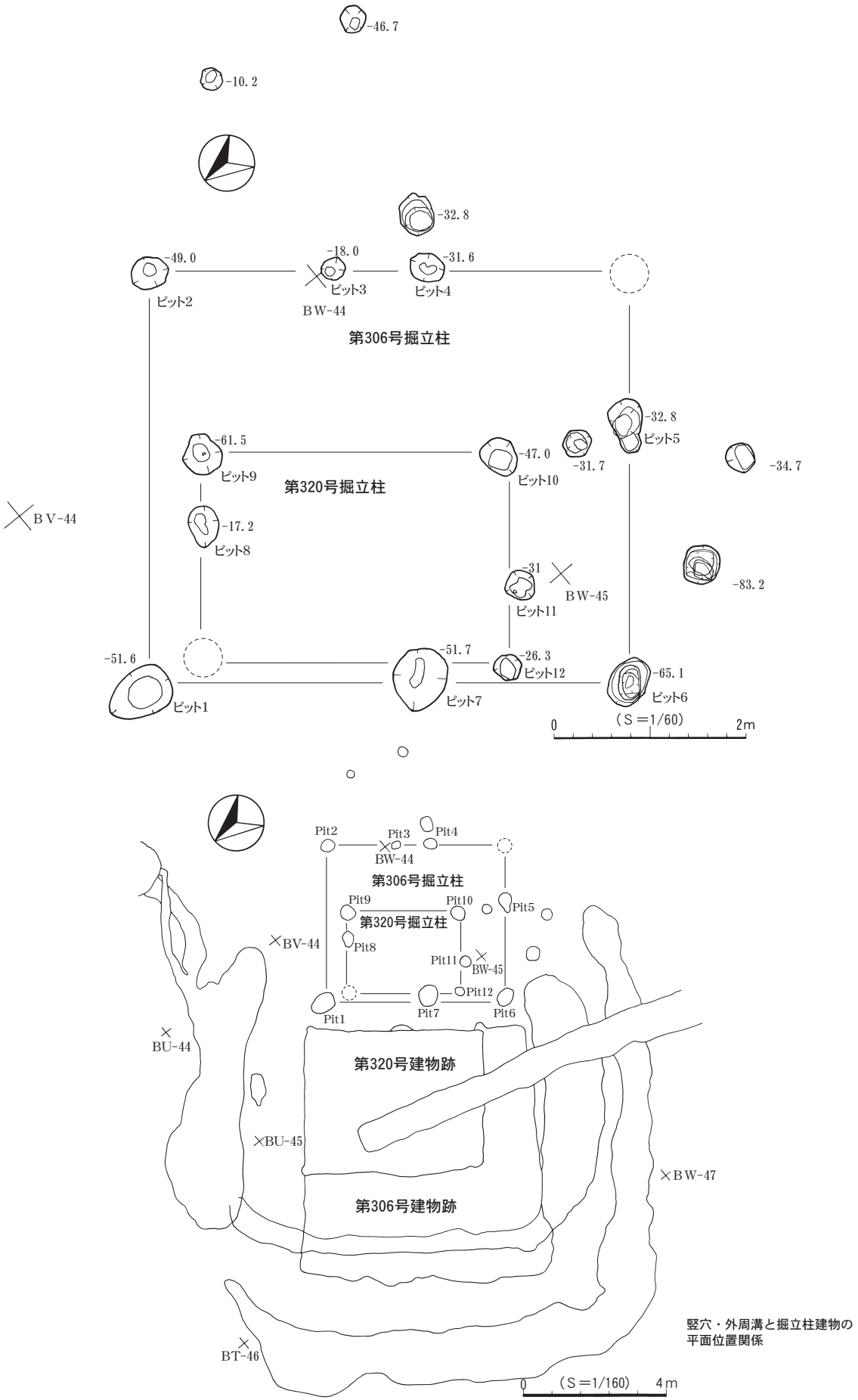
第306号建物跡カマドＢ

ＫＳＰＧ－Ｇ′，ＫＳＰＨ－Ｈ′

１層	10ＹＲ2/1	黒色土	ローム小粒・炭化物小粒・焼土小粒少量混入
２層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム中粒５％、炭化物小粒２％、焼土小粒少量混入
３層	7.5ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム中粒５％、炭化物小粒２％、焼土小粒少量混入
４層	10ＹＲ3/6	黄褐色土	ロームブロック主体
５層	10ＹＲ4/2	灰黄褐色土	粘土大粒主体、焼土小粒５％
６層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中塊10％
７層	10ＹＲ2/1	黒色土	粘土小粒５％、炭化物小粒少量混入
８層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒５％、炭化物小粒３％、焼土小粒少量混入
９層	10ＹＲ3/1	黒褐色土	ローム小粒２％、炭化物小粒少量混入

0　（Ｓ＝1/30）　1m

図６　第320・306号建物跡３



竪穴・外周溝と掘立柱建物の平面位置関係

図７　第320・306号建物跡４

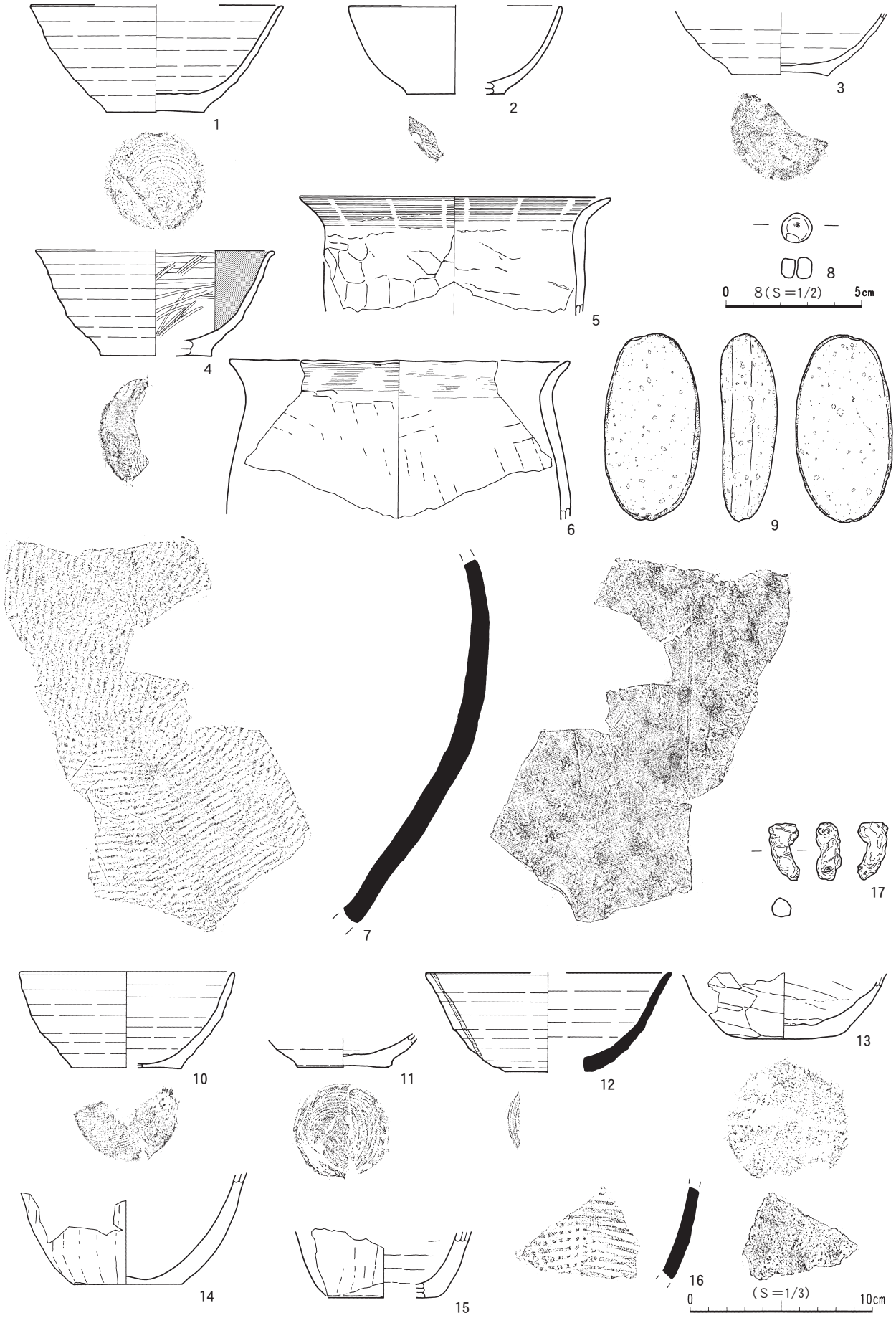


図８　第320・306号建物跡５

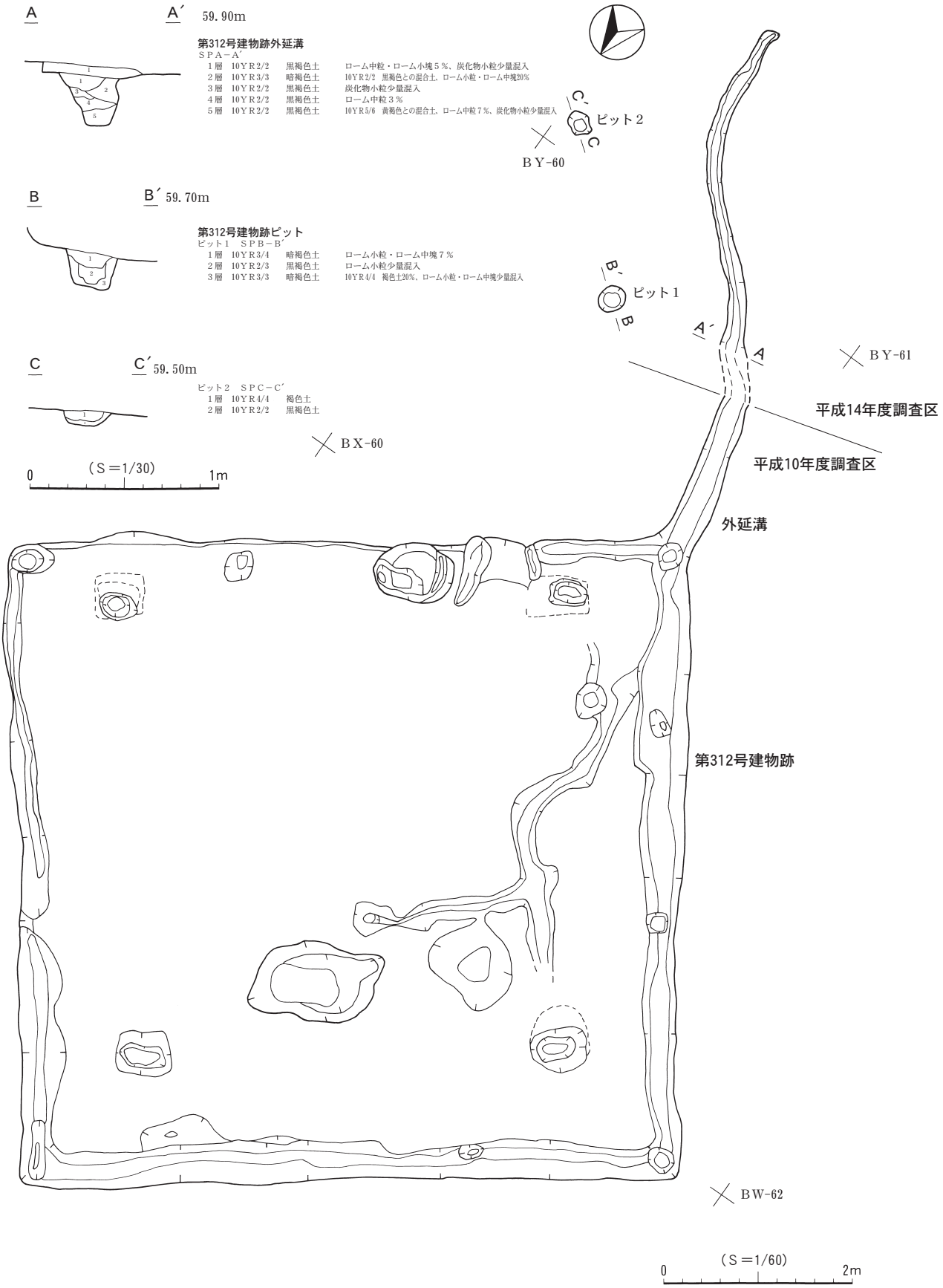
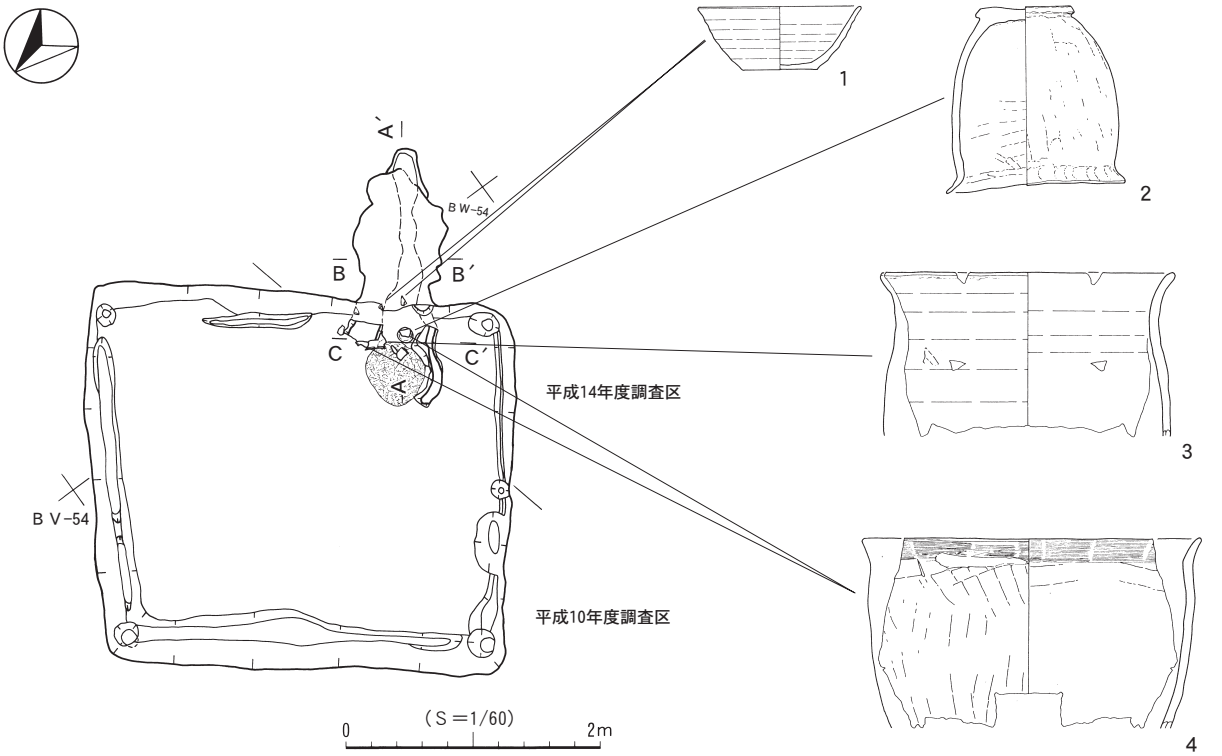

A
A′
59.90m
第312号建物跡外延溝
ＳＰＡ－Ａ′
１層　10ＹＲ2/2　黒褐色土　ローム中粒・ローム小塊５％、炭化物小粒少量混入
２層　10ＹＲ3/3　暗褐色土　10ＹＲ2/2　黒褐色との混合土、ローム小粒・ローム中塊20％
３層　10ＹＲ2/2　黒褐色土　炭化物小粒少量混入
４層　10ＹＲ2/2　黒褐色土　ローム中粒３％
５層　10ＹＲ2/2　黒褐色土　10ＹＲ5/6　黄褐色との混合土、ローム中粒７％、炭化物小粒少量混入
C′
ピット２
C
ＢＹ-60
B
B′
59.70m
第312号建物跡ピット
ピット１　ＳＰＢ－Ｂ′
１層　10ＹＲ3/4　暗褐色土　ローム小粒・ローム中塊７％
２層　10ＹＲ2/3　黒褐色土　ローム小粒少量混入
３層　10ＹＲ3/3　暗褐色土　10ＹＲ4/4　褐色土20％、ローム小粒・ローム中塊少量混入
B′
ピット１
B
A′
A
ＢＹ-61
C
C′
59.50m
ピット２　ＳＰＣ－Ｃ′
１層　10ＹＲ4/4　褐色土
２層　10ＹＲ2/2　黒褐色土
ＢＸ-60
0
（Ｓ＝1/30）
1m
平成14年度調査区
平成10年度調査区
外延溝
第312号建物跡
ＢＷ-62
0
（Ｓ＝1/60）
2m

図９　第312号建物跡



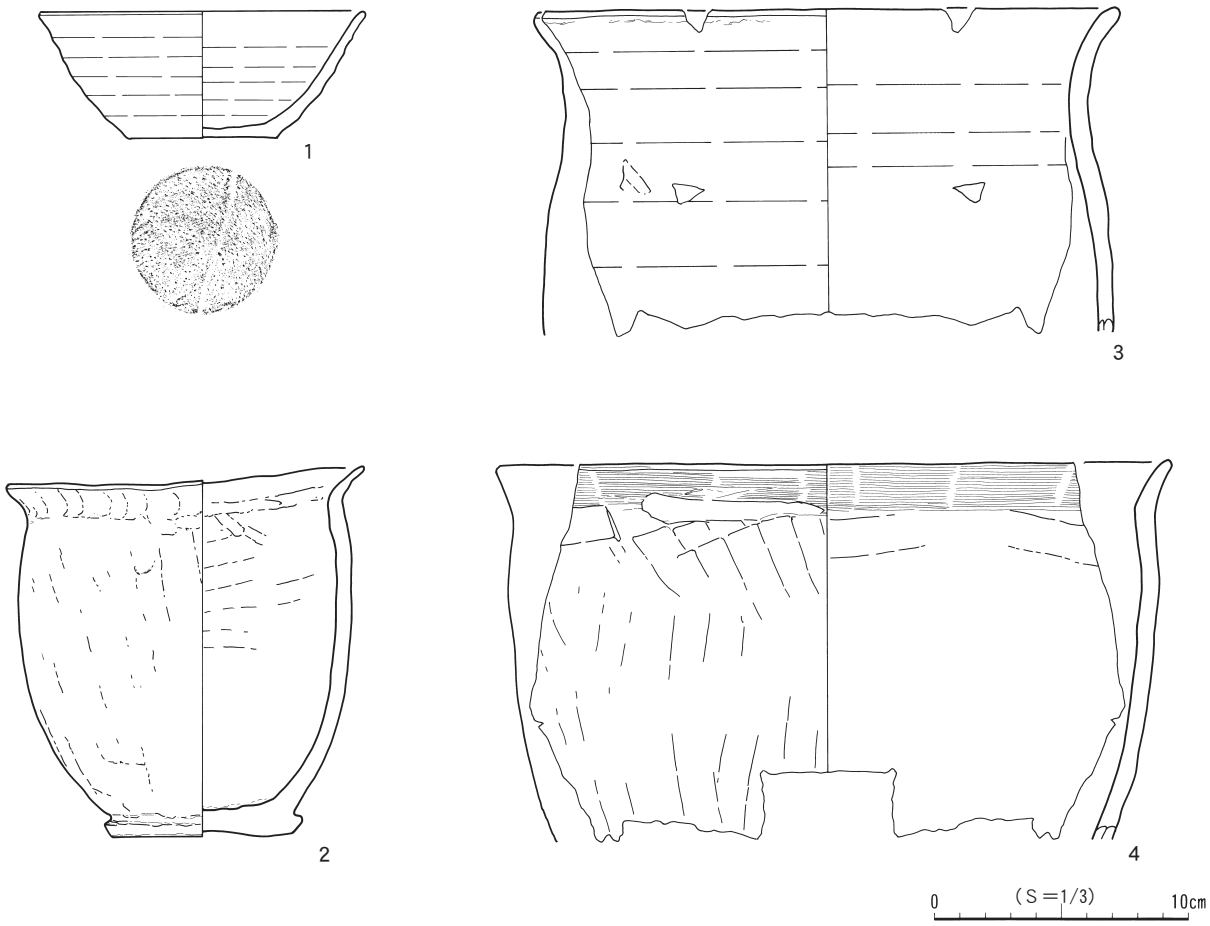
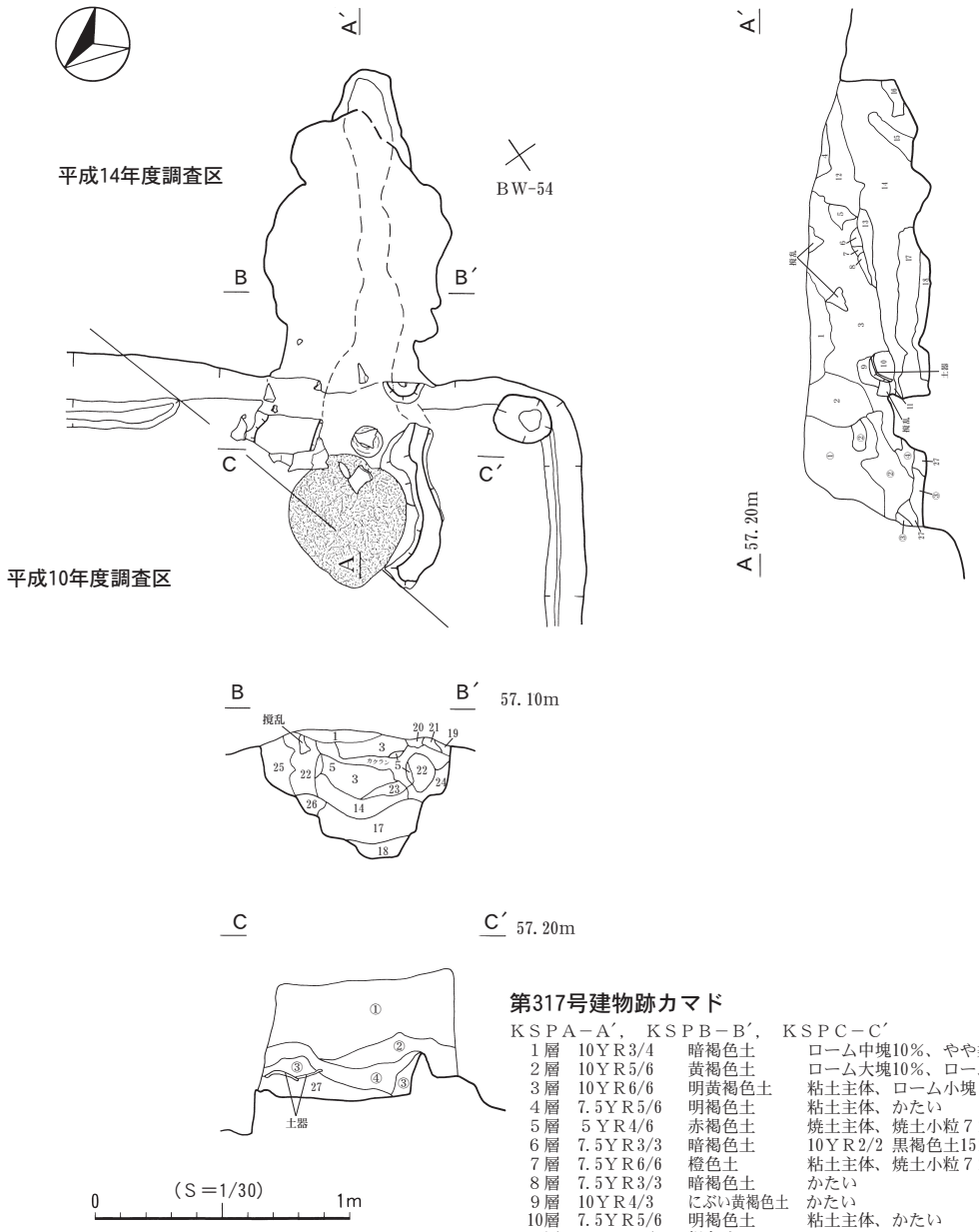


図10　第317号建物跡１



第317号建物跡カマド

ＫＳＰＡ－Ａ′，ＫＳＰＢ－Ｂ′，ＫＳＰＣ－Ｃ′

１層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム中塊10％、やや柔らかい
２層	10ＹＲ5/6	黄褐色土	ローム大塊10％、ローム中粒５％、柔らかい
３層	10ＹＲ6/6	明黄褐色土	粘土主体、ローム小塊７％、かたい
４層	7.5ＹＲ5/6	明褐色土	粘土主体、かたい
５層	５ＹＲ4/6	赤褐色土	焼土主体、焼土小粒７％、かたい、被熱赤化
６層	7.5ＹＲ3/3	暗褐色土	10ＹＲ2/2 黒褐色土15％、かたい
７層	7.5ＹＲ6/6	橙色土	粘土主体、焼土小粒７％、かたい
８層	7.5ＹＲ3/3	暗褐色土	かたい
９層	10ＹＲ4/3	にぶい黄褐色土	かたい
10層	7.5ＹＲ5/6	明褐色土	粘土主体、かたい
11層	7.5ＹＲ4/4	褐色土	ややかたい
12層	7.5ＹＲ5/6	明褐色土	粘土主体、10ＹＲ3/3　暗褐色土３％、焼土小粒２％、かたい
13層	7.5ＹＲ5/6	明褐色土	焼土小粒少量混入、ややかたい
14層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小塊・焼土大粒少量混入、柔らかい
15層	10ＹＲ5/8	黄褐色土	粘土主体、10ＹＲ3/4　暗褐色土少量混入、かたい
16層	10ＹＲ5/8	黄褐色土	粘土主体、かたい
17層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊15％、かたい
18層	10ＹＲ5/8	黄褐色土	ローム主体
19層	10ＹＲ4/4	褐色土	かたい
20層	10ＹＲ4/3	にぶい黄褐色土	ローム小粒2％、かたい
21層	10ＹＲ6/6	明黄褐色土	かたい
22層	10ＹＲ4/6	褐色土	焼土小粒少量混入、かたい
23層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	焼土小粒少量混入
24層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム中粒少量混入、柔い
25層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒２％、柔い
26層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中塊少量混入、柔い
27層	10ＹＲ4/3	にぶい黄褐色土	焼土小粒５％
①層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ロームブロック・粘土ブロック多量含む。炭化物微量含む。
②層	10ＹＲ4/4	褐色土	粘土ブロック含む。
③層	5ＹＲ3/4	暗赤褐色土	全体が被熱している。(焼土)
④層	10ＹＲ4/3	にぶい黄褐色土	φ80㎜の焼土１個含む。

※①～④は平成10年度調査のセクションＢ－Ｂ′に対応

図11　第317号建物跡２

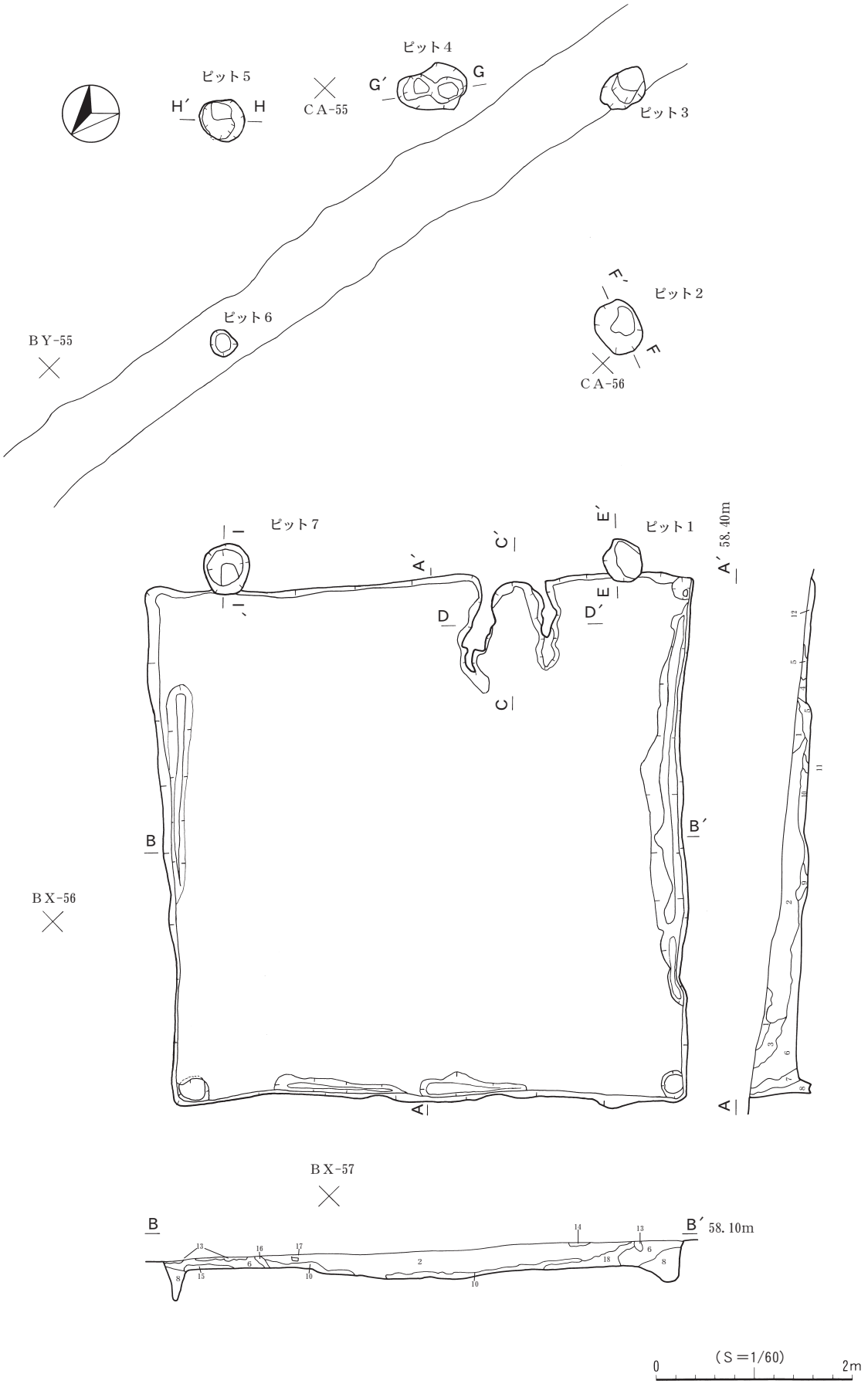


図12　第601号建物跡１

第601号建物跡

ＳＰＡ－Ａ′

１層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	Ｂ－Ｔｍ少量混入
２層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム中粒２％
３層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム中粒２％、ローム小塊少量混入
４層	10ＹＲ2/1	黒色土	ローム小粒２％
５層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム中粒少量混入
６層	10ＹＲ4/4	褐色土	ローム小粒２％、ローム小塊少量混入
７層	10ＹＲ3/3	黒褐色土	10ＹＲ4/6　褐色土７％、ローム小粒５％、しまり有
８層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム小粒３％、ローム中塊少量混入
９層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	10ＹＲ2/2　黒褐色土少量混入
10層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中塊少量混入
11層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム小粒・10ＹＲ3/2 黒褐色土少量混入
12層	10ＹＲ4/4	褐色土	炭化物中粒・焼土小粒少量混入

ＳＰＢ－Ｂ′

13層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒７％
14層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	10ＹＲ2/1　黒色土少量混入
15層	10ＹＲ5/6	黄褐色土	ローム小塊・炭化物小粒少量混入
16層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム小粒少量混入
17層	10ＹＲ4/6	褐色土	10ＹＲ2/1　黒色土少量混入
18層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム大粒・ローム小塊２％、焼土中粒少量混入

第601号建物跡掘立柱

ＳＰＥ－Ｅ′

１層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム小粒・ローム大塊15％、炭化物大粒３％
２層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	10ＹＲ4/4 褐色土15％、ローム小粒10％、炭化物中粒５％
３層	10ＹＲ4/4	褐色土	ローム小粒・ローム中塊５％、炭化物中粒２％
４層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊７％、炭化物中粒３％
５層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	ローム大粒３％、炭化物中粒２％
６層	10ＹＲ6/6	明黄褐色土	ローム主体

ＳＰＦ－Ｆ′

１層	10ＹＲ4/4	褐色土	ローム小粒・ローム中塊５％、炭化物中粒２％
２層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊７％
３層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム大粒２％
４層	10ＹＲ5/6	黄褐色土	炭化物小粒少量混入
５層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム大塊15％

ＳＰＧ－Ｇ′

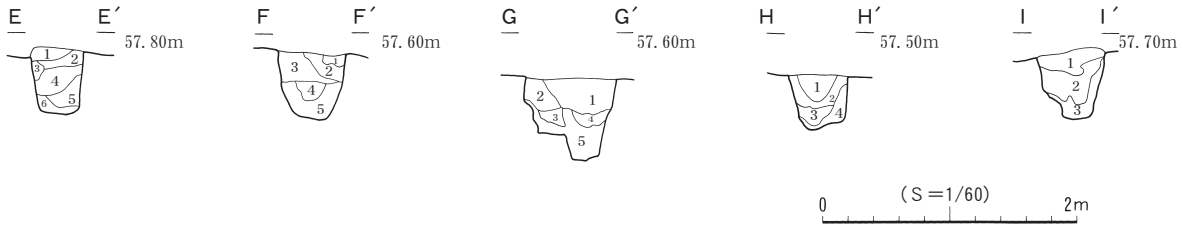
１層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム小粒・ローム大塊10％、炭化物大粒３％
２層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム小粒・ローム大塊５％、炭化物中粒２％
３層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大粒７％
４層	10ＹＲ4/6	褐色土	ローム大塊30％
５層	10ＹＲ6/6	明黄褐色土	ローム主体

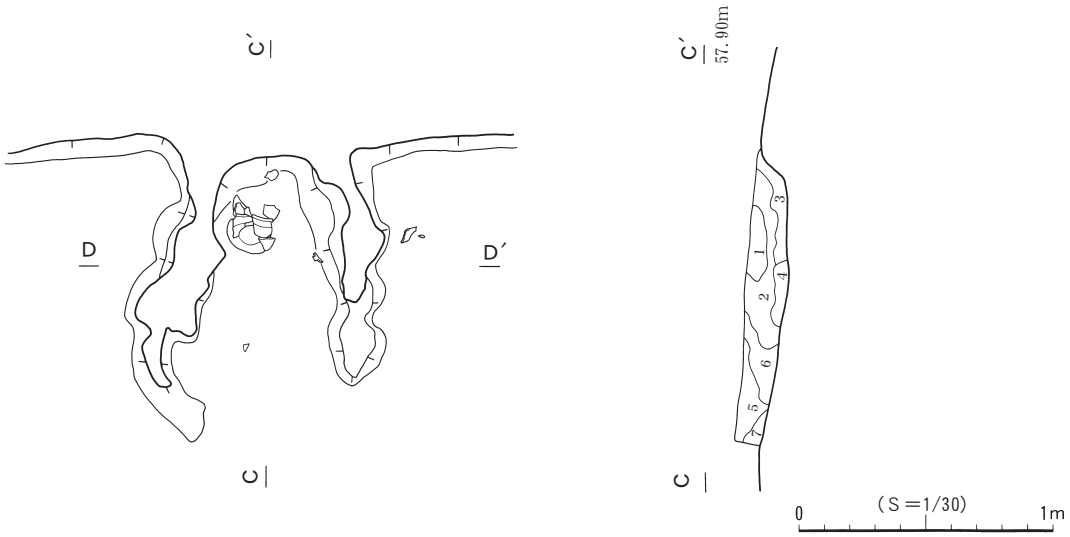
ＳＰＨ－Ｈ′

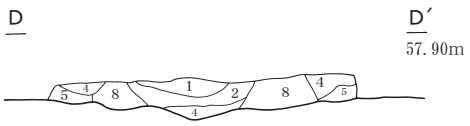
１層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊５％、炭化物中粒２％
２層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊３％、炭化物中粒２％
３層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊７％
４層	10ＹＲ4/6	褐色土	ローム小粒・ローム中塊20％

ＳＰＩ－Ｉ′

１層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊10％、焼土中粒５％、炭化物中粒３％
２層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム小粒・ローム大塊15％、炭化物中粒２％
３層	10ＹＲ4/6	褐色土	ローム大粒・ローム大塊７％







第601号建物跡カマド

ＫＳＰＣ－Ｃ′，ＫＳＰＤ－Ｄ′

１層	10ＹＲ4/6	褐色土	焼土大粒少量混入
２層	10ＹＲ4/6	褐色土	10ＹＲ5/6 黄褐色との混合土、炭化物小粒３％、焼土大粒少量混入
３層	10ＹＲ4/6	褐色土	ローム小塊少量混入
４層	５ＹＲ5/8	明赤褐色土	焼土主体
５層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒・焼土中粒少量混入
６層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	焼土大粒少量混入
７層	2.5ＹＲ4/4	オリーブ褐色	土　粘土粒40％、焼土大粒少量混入
８層	10ＹＲ5/6	黄褐色土	ローム大粒少量混入

図13　第601号建物跡２

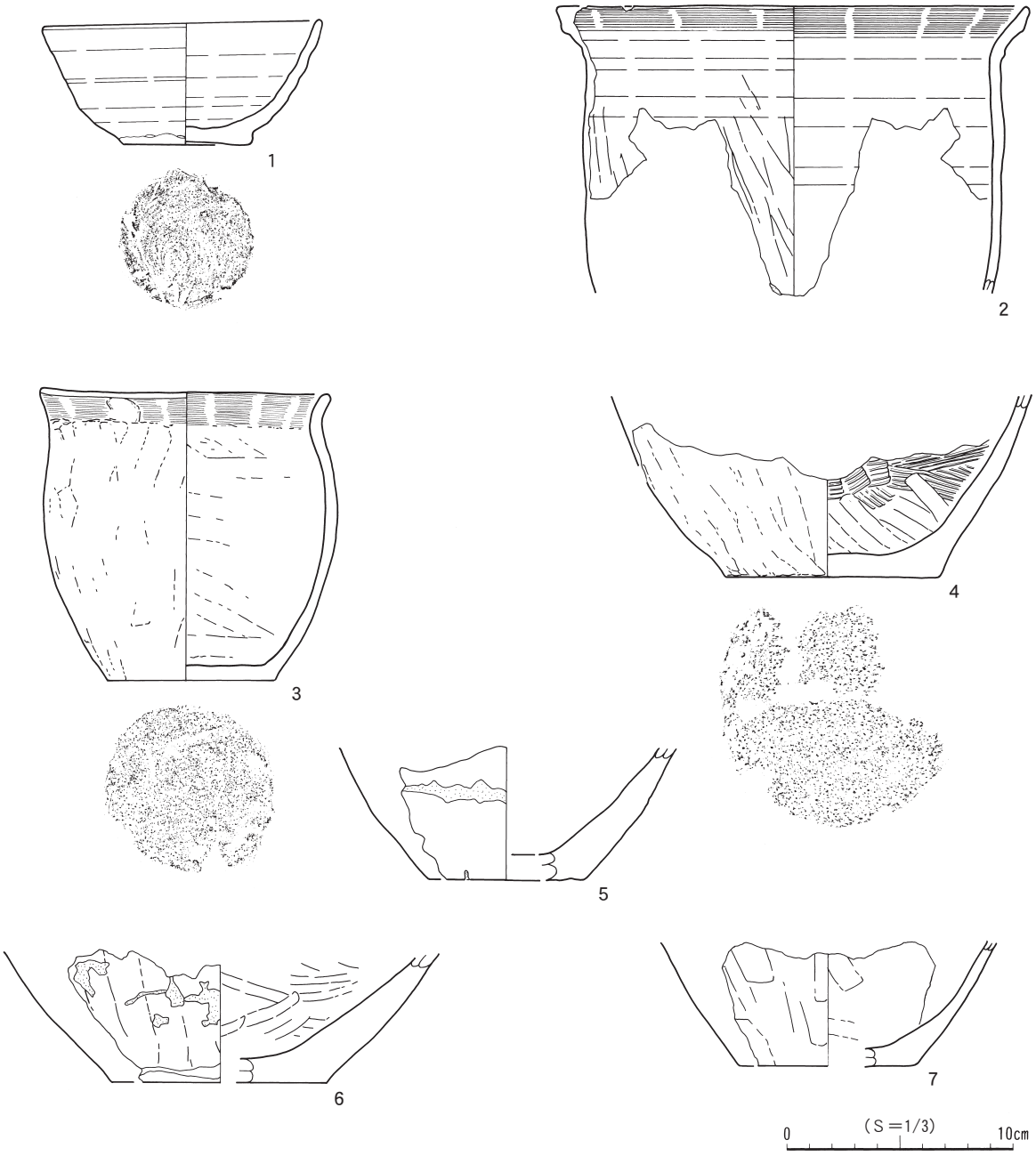


図14　第601号建物跡３

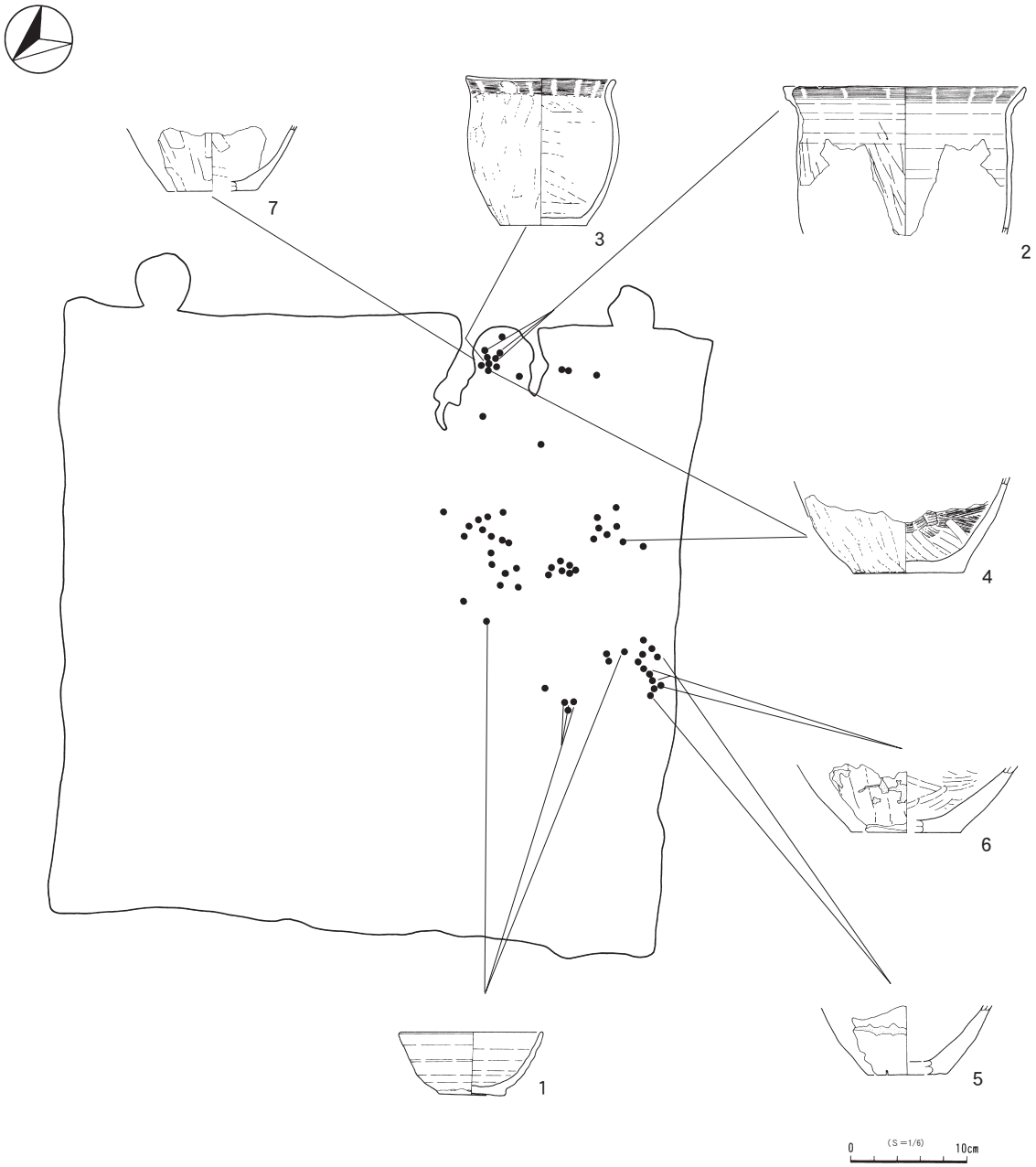
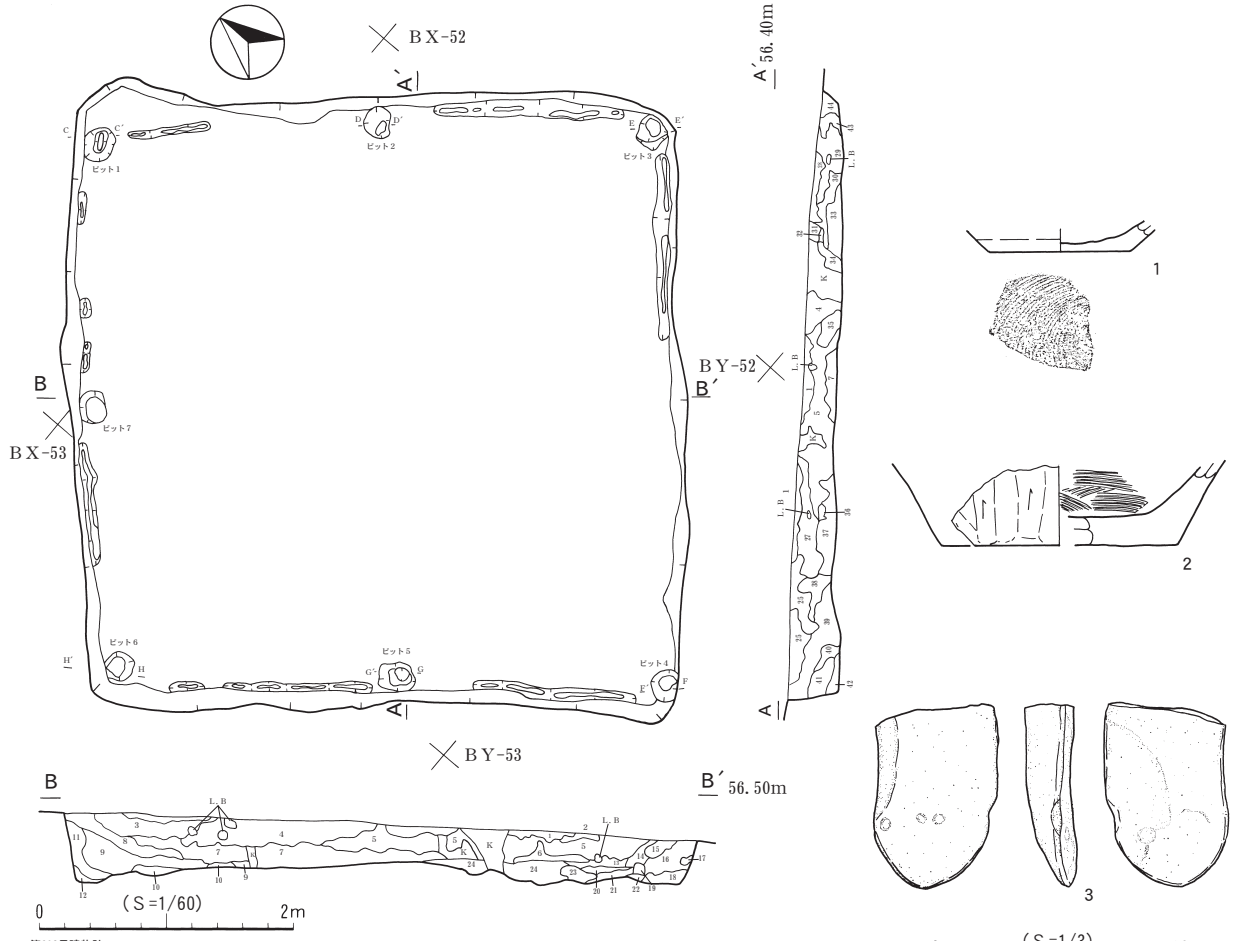


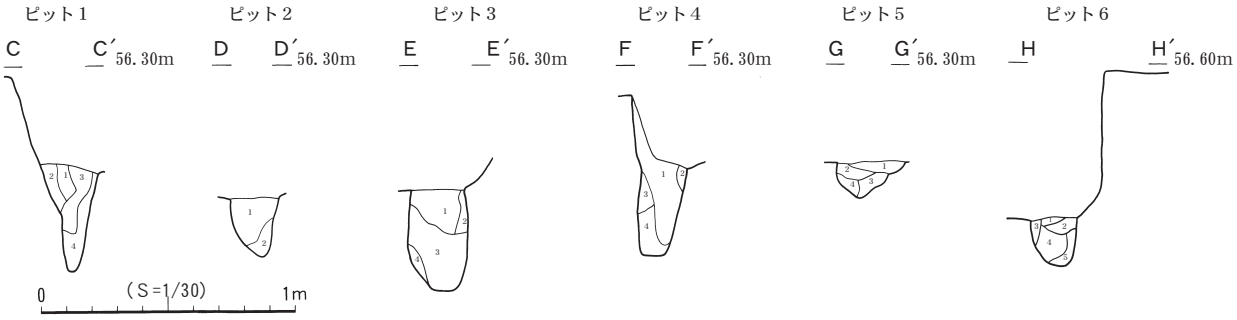
図15　第601号建物跡４



第602号建物跡

ＳＰＡ－Ａ′，ＳＰＢ－Ｂ′

1層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大粒７％、炭化物大粒３％
2層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒・ローム大塊・炭化物中粒２％
3層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒５％、炭化物中粒２％、ローム大塊少量混入
4層	10ＹＲ4/4	褐色土	ローム大粒・炭化物中粒３％、ローム大塊少量混入
5層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム大粒・炭化物中粒３％
6層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	しまり有
7層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム大粒・炭化物中粒３％
8層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊３％
9層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊５％
10層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム大粒２％
11層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム中粒２％
12層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム中粒少量混入
13層	10ＹＲ4/6	褐色土	ローム大塊30％
14層	10ＹＲ4/6	褐色土	ローム大粒３％
15層	10ＹＲ4/6	褐色土	ローム大塊15％
16層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム大粒３％
17層	10ＹＲ4/4	褐色土	しまり有
18層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム大塊50％
19層	10ＹＲ4/4	褐色土	ローム大粒３％
20層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム中塊３％
21層	10ＹＲ4/6	褐色土	ローム中粒・ローム中塊10％
22層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム中粒５％
23層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	
24層	10ＹＲ4/4	褐色土	ローム大粒・ローム大塊７％
25層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム中粒・ローム大塊３％
26層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒２％
27層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム中粒・ローム中塊７％、炭化物中粒３％
28層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒５％、炭化物中粒２％、しまり有
29層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム中粒３％、炭化物小粒２％
30層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒２％、炭化物小粒少量混入
31層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒２％、しまり有
32層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム中粒２％
33層	10ＹＲ4/3	にぶい黄褐色土	ローム中粒５％
34層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	炭化物中粒少量混入
35層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒３％、炭化物中粒２％、しまり有
36層	10ＹＲ5/6	黄褐色土	ローム大粒５％
37層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム大粒５％、炭化物中粒２％
38層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大粒３％、ローム大塊２％
39層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	ローム中粒３％
40層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	ローム大粒２％
41層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	
42層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	炭化物中粒３％
43層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小塊少量混入
44層	10ＹＲ4/4	褐色土	ローム大粒３％



第602号建物跡ピット

ピット１　ＳＰＣ－Ｃ′

1層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム中粒７％、炭化物中粒３％
2層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊３％
3層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム大粒３％
4層	10ＹＲ4/6	褐色土	しまり有

ピット２　ＳＰＤ－Ｄ′

1層	10ＹＲ4/6	褐色土	ローム大粒15％
2層	10ＹＲ4/4	褐色土	ローム小粒・ローム大塊30％

ピット３　ＳＰＥ－Ｅ′

1層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大粒少量混入
2層	10ＹＲ5/8	黄褐色土	ローム大塊50％
3層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	
4層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊７％

ピット４　ＳＰＦ－Ｆ′

1層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大粒２％
2層	10ＹＲ4/6	褐色土	ローム大粒３％
3層	10ＹＲ4/6	褐色土	ローム小粒・ローム中塊15％
4層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大粒３％、炭化物小粒２％

ピット５　ＳＰＧ－Ｇ′

1層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	炭化物中粒３％、ローム小粒・ローム中塊２％
2層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒・ローム中塊３％、炭化物小粒２％
3層	10ＹＲ4/4	褐色土	ローム大粒10％、炭化物中粒２％
4層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒少量混入

ピット６　ＳＰＨ－Ｈ′

1層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	炭化物小粒少量混入
2層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム中粒３％
3層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒２％、炭化物中粒３％
4層	10ＹＲ4/6	褐色土	ローム大粒・炭化物中粒５％
5層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒２％

図16　第602号建物跡

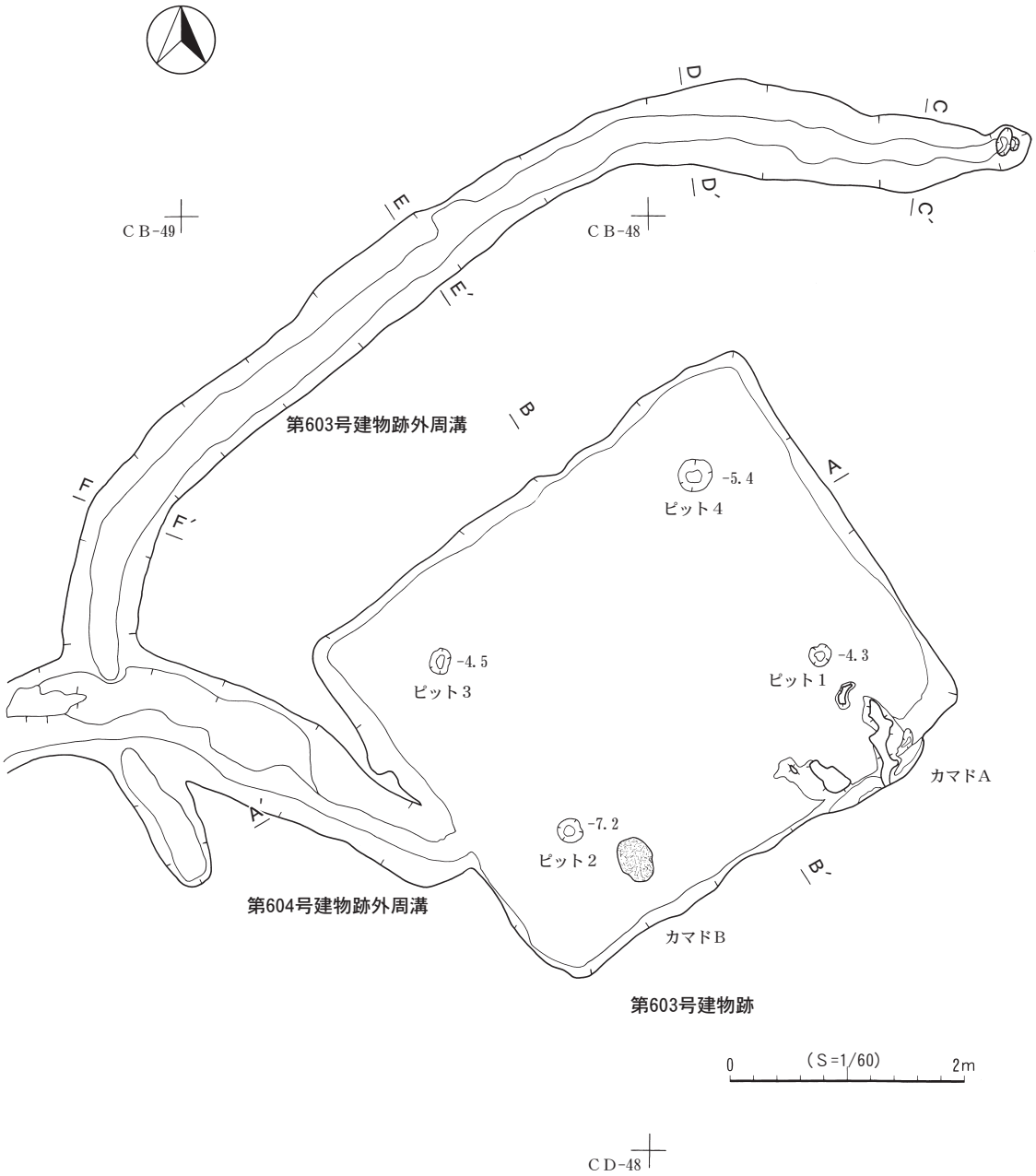
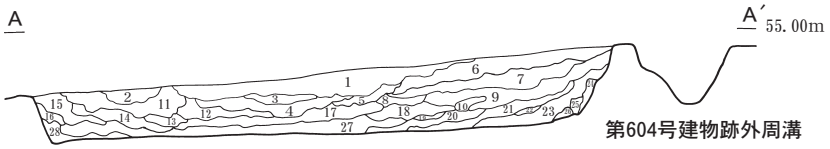
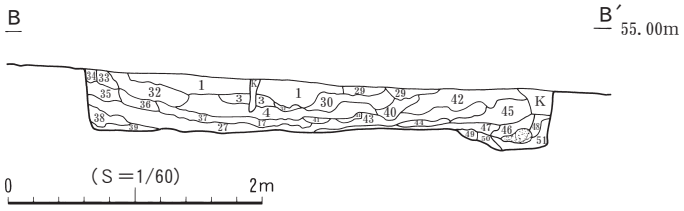


図17　第603号建物跡 1

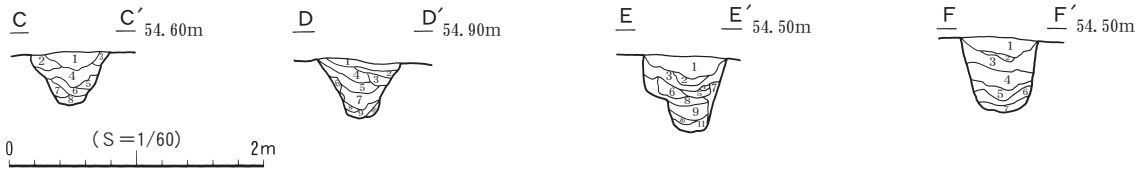




第603号建物跡

ＳＰＡ－Ａ′，ＳＰＢ－Ｂ′

１層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム小粒・ローム大塊10％、炭化物中粒３％
２層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊・炭化物中粒30％、焼土小粒２％
３層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大粒２％
４層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒・ローム大塊５％、炭化物中粒２％、焼土大粒少量混入
５層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊３％、炭化物中粒２％、焼土小粒少量混入
６層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒・ローム大塊10％、炭化物大粒２％
７層	10ＹＲ3/3	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊15％、炭化物中粒・焼土中粒２％
８層	10ＹＲ2/3	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊３％、しまりやや有
９層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊15％、炭化物小粒２％、焼土小粒少量混入、しまりやや有
10層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊３％
11層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊５％、炭化物大粒・焼土大粒２％、しまりやや有
12層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊２％、焼土中粒少量混入
13層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒・ローム大塊５％
14層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊・炭化物中粒３％、焼土大粒２％
15層	10ＹＲ4/4	褐色土	ローム大粒３％、焼土中粒２％
16層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒２％
17層	10ＹＲ4/3	にぶい黄褐色土	ローム小粒・ローム大塊７％、炭化物中粒２％、しまりやや有
18層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒・ローム大塊７％、炭化物中粒２％
19層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム大粒３％、しまり有
20層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大粒３％、炭化物大粒２％、しまりやや有
21層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大粒・ローム大塊７％、しまり有
22層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大粒５％、炭化物中粒２％
23層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒・ローム大塊７％、炭化物中粒３％
24層	10ＹＲ4/6	褐色土	ローム主体
25層	10ＹＲ4/4	褐色土	ローム大粒・ローム大塊１５％、焼土小粒少量混入
26層	10ＹＲ4/4	褐色土	ローム大塊25％、炭化物中粒・焼土大粒２％
27層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊７％、炭化物大粒５％、焼土大粒３％、しまりやや有
28層	10ＹＲ4/4	褐色土	ローム小粒・ローム中塊10％、炭化物小粒２％、しまりやや有
29層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	ローム小粒５％、炭化物大粒３％、焼土大粒少量混入、しまりやや有
30層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム大粒７％
31層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム小粒・ローム大塊３％
32層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊７％、炭化物中粒２％、焼土小粒少量混入
33層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム大粒７％、炭化物小粒２％
34層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒・ローム大塊５％、炭化物中粒２％、焼土小粒少量混入
35層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大粒２％、しまりやや有
36層	10ＹＲ4/4	褐色土	ローム中粒２％、しまり有
37層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊３％、焼土大粒２％
38層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊５％、炭化物中粒２％、焼土小粒少量混入
39層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒３％、Ｂ-Ｔｍ２％、炭化物小粒少量混入
40層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム大粒・ローム大塊７％、炭化物大粒５％、焼土中粒２％
41層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊５％、炭化物中粒３％、焼土大粒２％、しまりやや有
42層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム大粒２％、焼土小粒少量混入
43層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大粒・ローム大塊５％
44層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊３％、焼土中粒２％
45層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	焼土中粒２％、しまりやや有
46層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊５％、しまりやや有
47層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊７％、しまりやや有
48層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊５％、焼土小粒少量混入
49層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊３％、炭化物大粒２％、焼土中粒少量混入
50層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊５％
51層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊３％



第603号建物跡外周溝

ＳＰＣ－Ｃ′

１層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊５％、炭化物小粒２％、しまりやや有
２層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒２％、炭化物小粒少量混入、しまりやや有
３層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	炭化物小粒少量混入、しまりやや有
４層	10ＹＲ4/4	褐色土	ローム小粒・ローム中塊７％、炭化物中粒３％、しまりやや有
５層	10ＹＲ5/6	黄褐色土	ローム小粒・ローム中塊３％
６層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	ローム大粒５％
７層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒２％、ローム大塊少量混入
８層	10ＹＲ4/4	褐色土	ローム大塊50％

ＳＰＤ－Ｄ′

１層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	炭化物大粒２％
２層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒２％
３層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒３％、しまり有
４層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒２％、炭化物小粒少量混入、しまりやや有
５層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム大粒３％、しまり有
６層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム大塊10％、しまり有
７層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大粒５％、炭化物中粒３％、しまり有
８層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒２％、しまり有
９層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大粒15％、しまり有
10層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊20％、しまり有

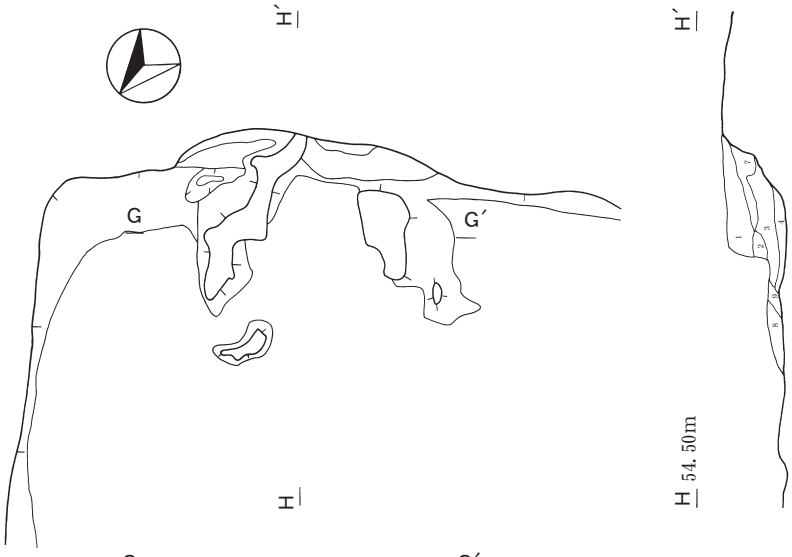
ＳＰＥ－Ｅ′

１層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊５％、炭化物中粒３％
２層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	炭化物中粒少量混入
３層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒・炭化物中粒５％
４層	10ＹＲ4/4	褐色土	ローム小粒７％
５層	10ＹＲ4/3	にぶい黄褐色土	炭化物小粒少量混入
６層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大粒３％、炭化物中粒２％、しまりやや有
７層	10ＹＲ6/6	明黄褐色土	ローム主体
８層	10ＹＲ4/4	褐色土	ローム小粒・ローム大塊５％、炭化物中粒３％
９層	10ＹＲ4/6	褐色土	ローム小粒・ローム中塊７％、炭化物小粒２％
10層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム中粒２％
11層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊５％、炭化物小粒３％、しまりやや有

ＳＰＦ－Ｆ′

１層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊３％、炭化物中粒２％
２層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊７％
３層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム小粒・ローム大塊２％
４層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大塊３％
５層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	しまり有
６層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム大塊10％、しまり有
７層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大塊３％、しまり有

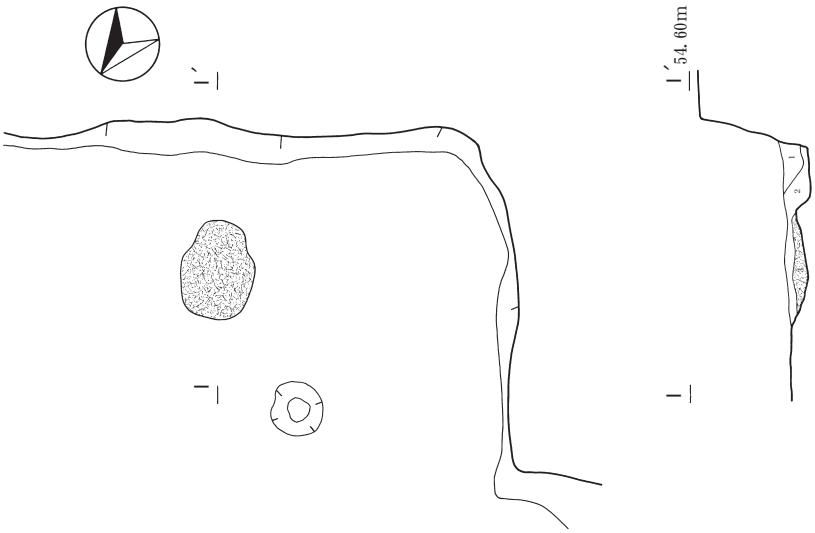
図18　第603号建物跡２



第603号建物跡カマドＡ

ＫＳＰＧ－Ｇ′，ＫＳＰＨ－Ｈ′

１層	10ＹＲ2/1	黒色土	攪乱層
２層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム中粒・ローム大塊15％、焼土大粒２％、かたい
３層	7.5ＹＲ2/3	極暗褐色土	焼土小粒少量混入、かたい
４層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大粒２％、ややかたい
５層	10ＹＲ4/4	褐色土	ややかたい
６層	５ＹＲ3/6	暗赤褐色土	焼土ブロック、とてもかたい
７層	7.5ＹＲ3/4	暗褐色土	焼土ブロックが層状に混入、かたい
８層	7.5ＹＲ3/4	暗褐色土	焼土小粒少量混入、かたい
９層	7.5ＹＲ3/3	暗褐色土	焼土小粒少量混入、かたい



第603号建物跡カマドＢ

ＫＳＰＩ－Ｉ′

１層	7.5ＹＲ3/4	暗褐色土	焼土ブロックが層状に混入、非常にかたい
２層	7.5ＹＲ3/4	暗褐色土	焼土小粒少量混入、かたい
３層	7.5ＹＲ3/3	暗褐色土	焼土中粒多量混入、かたい

図19　第603号建物跡３

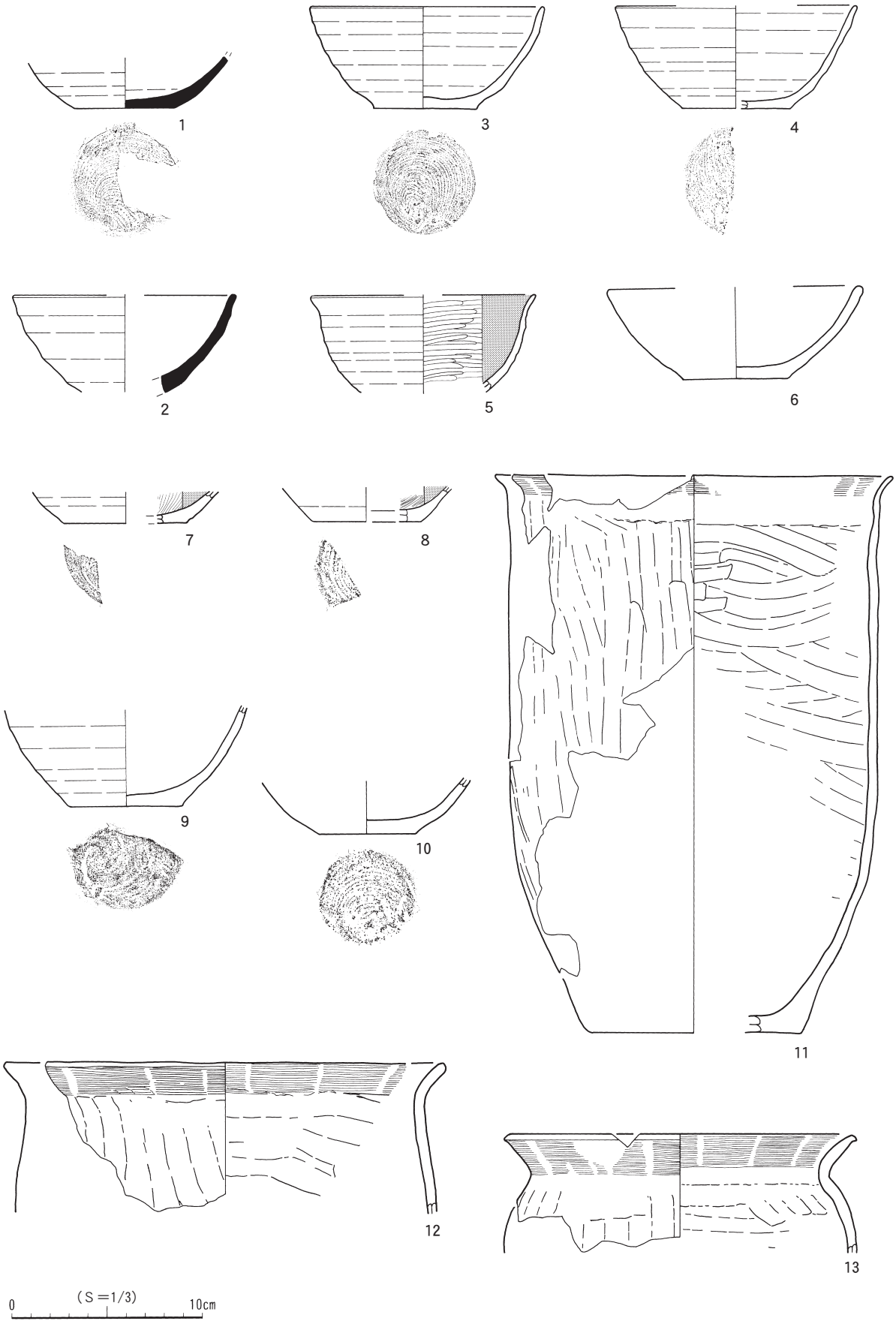


図20　第603号建物跡４

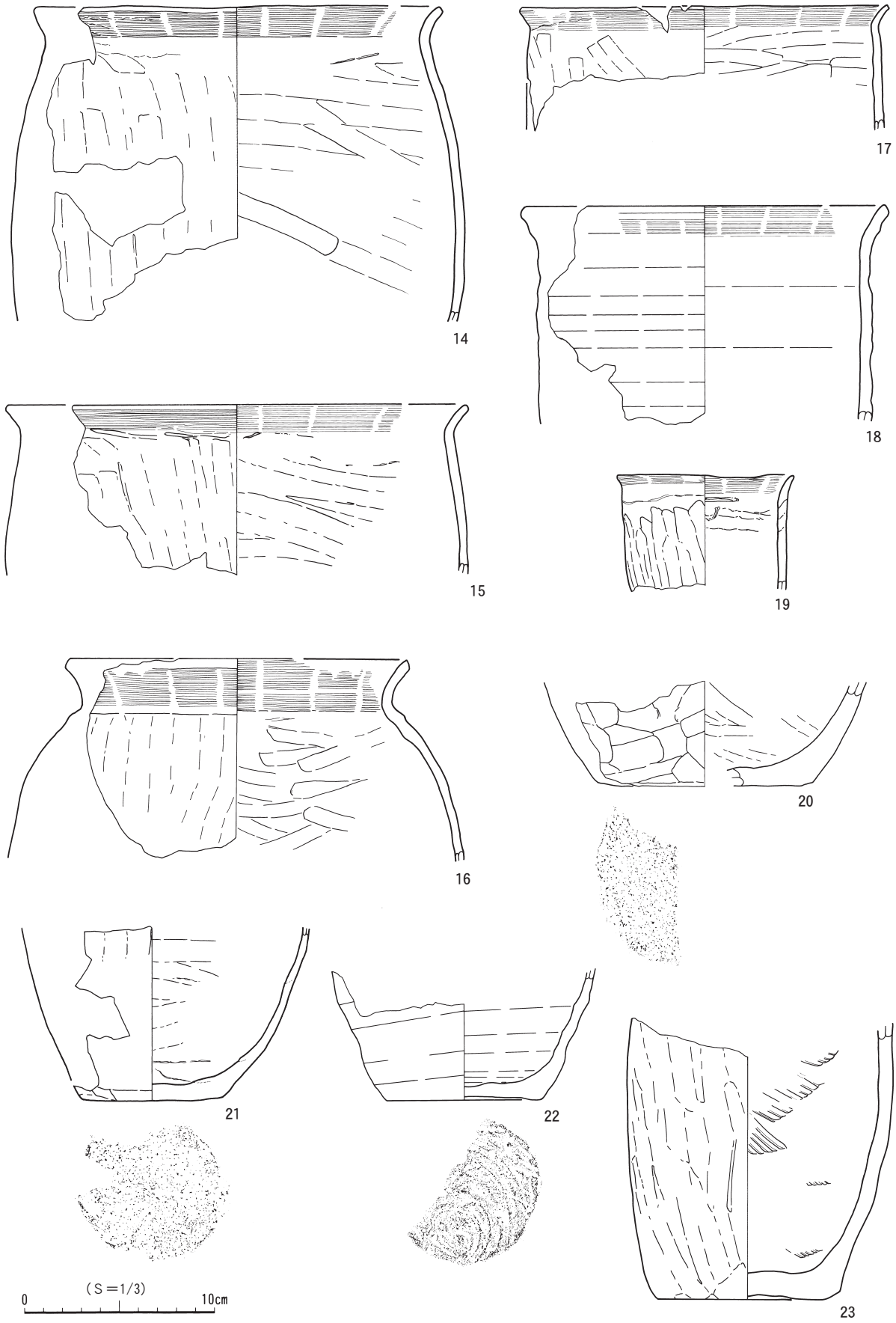


図21　第603号建物跡５

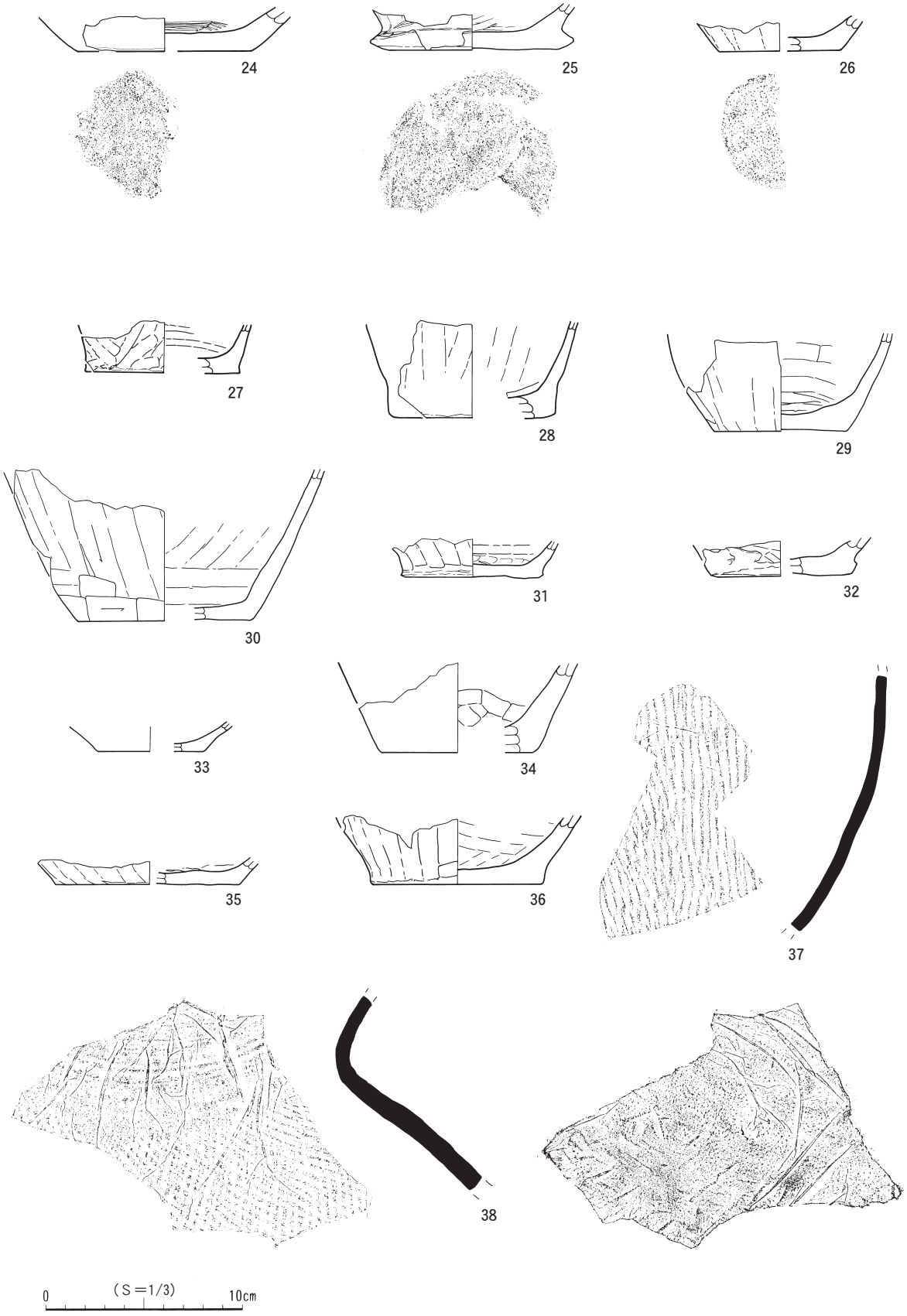


図22　第603号建物跡６

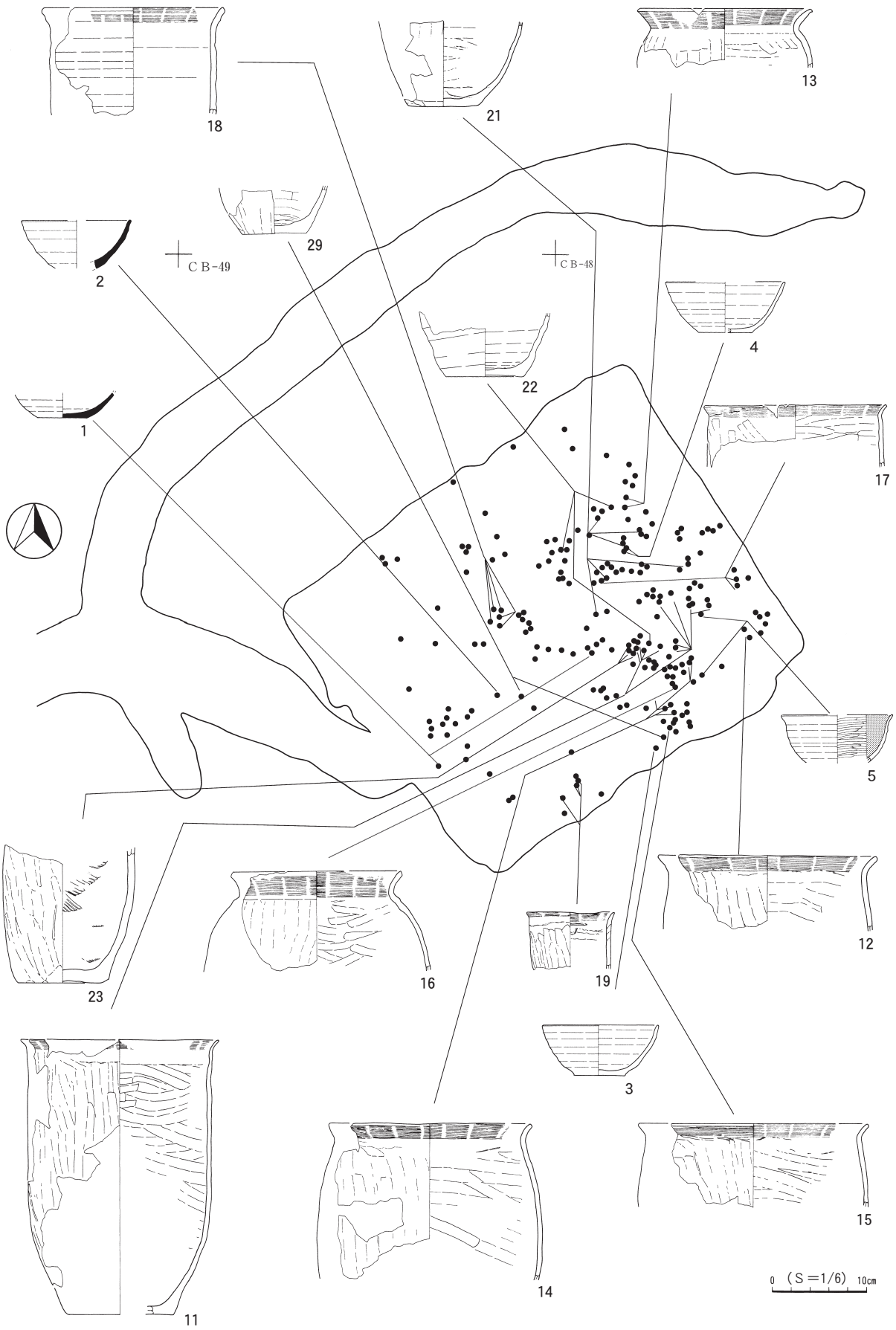


図23　第603号建物跡７

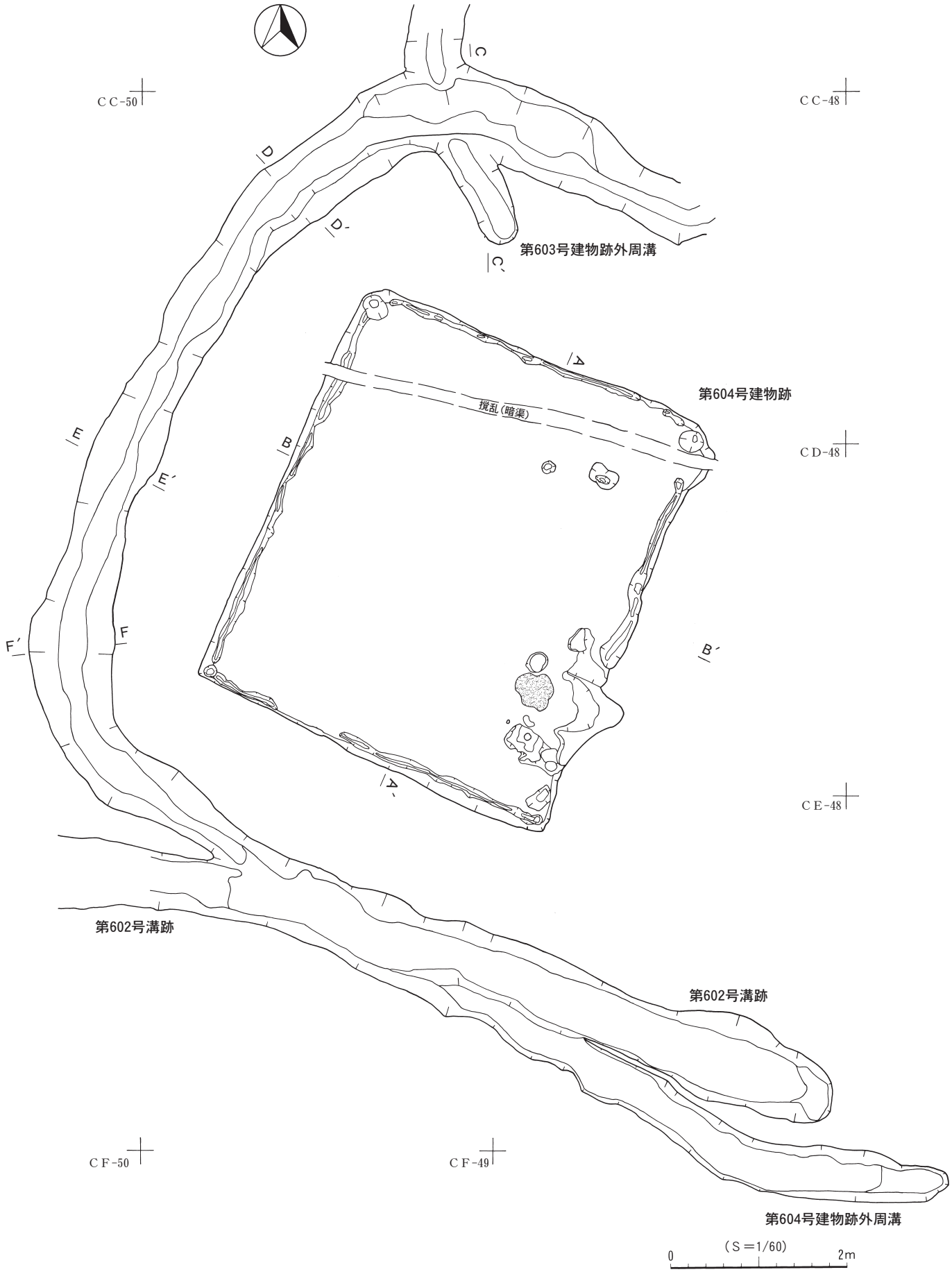
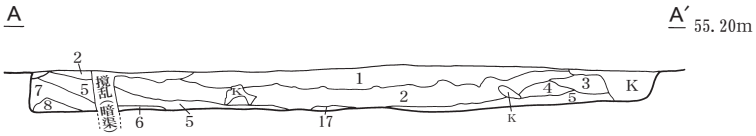
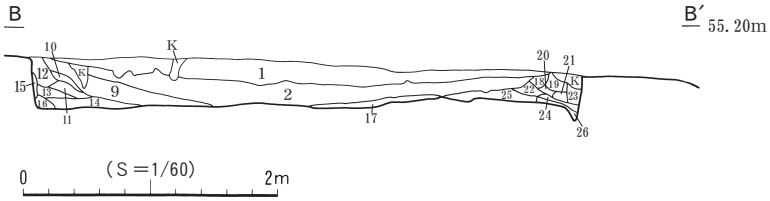


図24　第604号建物跡１

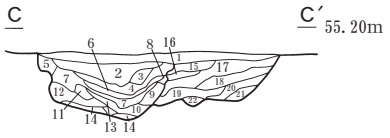




第604号建物跡

ＳＰＡ－Ａ′，ＳＰＢ－Ｂ′

１層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム大粒・ローム大塊２％、焼土中粒少量混入
２層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	Ｂ-Ｔｍ７％、ローム小粒・ローム中塊３％、炭化物中粒２％
３層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム中粒・Ｂ-Ｔｍ２％
４層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒２％
５層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大粒３％、Ｂ-Ｔｍ２％
６層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム大粒・ローム大塊15％、しまり有
７層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊３％、炭化物中粒２％
８層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム大粒・ローム大塊10％
９層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊３％、炭化物小粒少量混入
10層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム大粒２％、小レキ少量混入
11層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大粒・ローム大塊５％
12層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒・小レキ２％混入
13層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊３％
14層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム大粒・ローム中塊７％、炭化物中粒２％
15層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム中粒２％
16層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒５％
17層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム大粒３％
18層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	ローム小粒２％、焼土小粒少量混入、しまり有
19層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム中粒２％、しまり有
20層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム中粒３％
21層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム中粒・炭化物大粒２％
22層	10ＹＲ4/6	褐色土	しまりやや有
23層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大粒３％、炭化物小粒少量混入
24層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊15％、しまり有
25層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊５％、炭化物大粒・焼土中粒２％、しまり有
26層	10ＹＲ4/6	褐色土	ローム小粒３％

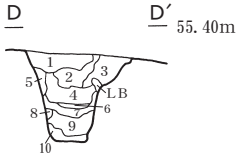


第604号建物跡外周溝

ＳＰＣ－Ｃ′（ＳＩＤ-603含）

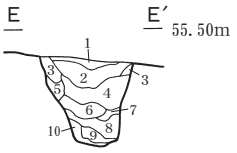
１～14層 ＳＩＤ-604，15～22層 ＳＩＤ-603

１層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	10ＹＲ2/2 黒褐色との混合土、ローム小粒・炭化物大粒少量混入
２層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム大粒・ローム小塊５％
３層	10ＹＲ4/6	褐色土	Ｂ-Ｔｍ３％
４層	10ＹＲ4/6	褐色土	Ｂ-Ｔｍ７％、炭化物大粒少量混入
５層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム中粒少量混入
６層	10ＹＲ6/6	明黄褐色土	Ｂ-Ｔｍ主体、10ＹＲ4/6 褐色土少量混入
７層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	Ｂ-Ｔｍ５％、ローム小粒・ローム中塊２％
８層	10ＹＲ4/6	褐色土	
９層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	炭化物中粒少量混入
10層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	10ＹＲ5/6 黄褐色土・炭化物大粒少量混入
11層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊３％
12層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊７％、炭化物中粒少量混入
13層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム中粒少量混入
14層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊５％、粘土粒少量混入
15層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大粒・ローム小塊２％
16層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊少量混入
17層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大粒・ローム中塊10％
18層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	
19層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒・ローム小塊２％
20層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒少量混入
21層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム大粒３％
22層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒少量混入



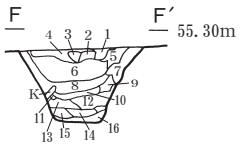
ＳＰＤ－Ｄ′

１層	10ＹＲ4/6	褐色土	炭化物大粒少量混入
２層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊・炭化物中粒少量混入
３層	10ＹＲ3/3	黒褐色土	ローム中粒・ローム小塊３％、炭化物中粒少量混入
４層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	Ｂ-Ｔｍ多量混入、ローム大粒少量混入
５層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒・ローム小塊少量混入
６層	10ＹＲ6/6	明黄褐色土	Ｂ-Ｔｍ主体
７層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	炭化物小粒少量混入
８層	10ＹＲ6/6	明黄褐色土	
９層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	炭化物小粒少量混入
10層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	ローム小粒３％



ＳＰＥ－Ｅ′

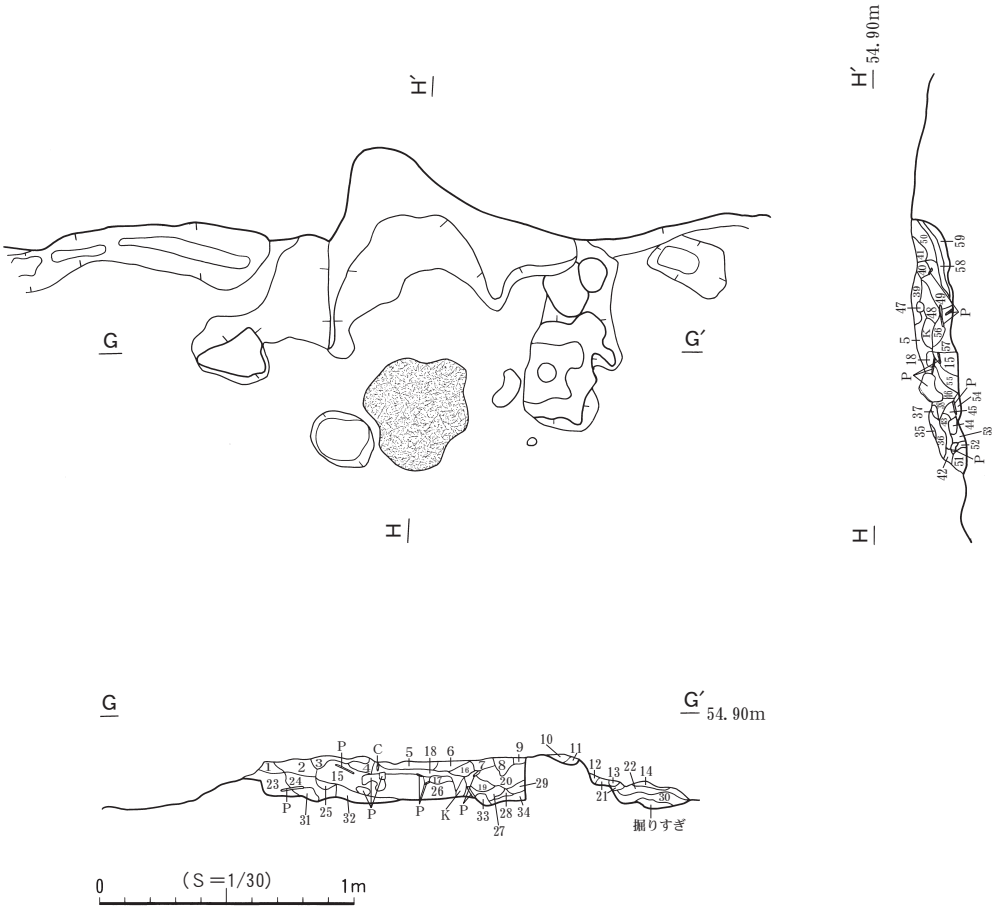
１層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	炭化物小粒少量混入
２層	10ＹＲ4/4	褐色土	ローム小粒・ローム中塊３％
３層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	ローム中粒３％
４層	10ＹＲ4/6	褐色土	ローム小粒・ローム大塊５％
５層	10ＹＲ5/8	黄褐色土	
６層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム中粒・Ｂ-Ｔｍ多量混入
７層	10ＹＲ6/6	明黄褐色土	Ｂ-Ｔｍ主体
８層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	炭化物小粒少量混入
９層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒少量混入
10層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	ローム小粒少量混入



ＳＰＦ－Ｆ′

１層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒少量混入
２層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	ローム小粒３％
３層	10ＹＲ4/4	褐色土	10ＹＲ5/6 黄褐色との混合土、炭化物小粒３％
４層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム小粒２％
５層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	10ＹＲ4/4 褐色との混合土
６層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊５％、Ｂ-Ｔｍ少量混入
７層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒少量混入
８層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	Ｂ-Ｔｍ７％、ローム小粒・ローム小塊２％
９層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒・Ｂ-Ｔｍ少量混入
10層	10ＹＲ6/6	明黄褐色土	Ｂ-Ｔｍ主体
11層	10ＹＲ6/6	明黄褐色土	10ＹＲ2/3 黒褐色土少量混入
12層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	Ｂ-Ｔｍ少量混入
13層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	炭化物小粒少量混入
14層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒少量混入
15層	10ＹＲ2/1	黒色土	ローム小粒少量混入
16層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム中粒少量混入

図25　第604号建物跡２



第604号建物跡カマド

ＫＳＰＧ－Ｇ′，ＫＳＰＨ－Ｈ′

１層	10ＹＲ5/6	黄褐色土	かたい
２層	10ＹＲ5/6	黄褐色土	10ＹＲ1.7/1　黒色土・焼土小粒少量混入、やや柔らかい
３層	10ＹＲ4/6	褐色土	7.5ＹＲ5/8　明褐色土ブロック状に少量混入、やや柔らかい
４層	10ＹＲ4/6	褐色土	焼土小粒少量混入、柔らかい
５層	10ＹＲ4/6	褐色土	10ＹＲ3/3　暗褐色土少量混入、やや柔らかい
６層	10ＹＲ4/4	褐色土	7.5ＹＲ6/8　橙色土少量混入、やや柔らかい
７層	10ＹＲ4/4	褐色土	10ＹＲ5/8　明黄褐色との混合土、ややかたい
８層	10ＹＲ6/6	明黄褐色土	粘性有、かたい
９層	５ＹＲ5/8	明赤褐色土	焼土小粒少量混入、かたい
10層	7.5ＹＲ4/4	褐色土	焼土小粒30％、かたい
11層	10ＹＲ4/6	褐色土	かたい
12層	10ＹＲ4/4	褐色土	やや柔らかい
13層	10ＹＲ4/4	褐色土	粘土粒20％、焼土小粒７％、炭化物小粒少量混入、かたい
14層	10ＹＲ4/4	褐色土	やや柔らかい
15層	7.5ＹＲ5/6	明褐色土	焼土中粒５％、やや柔らかい
16層	7.5ＹＲ5/6	赤褐色土	粘土粒20％、粘性有
17層	7.5ＹＲ5/8	明褐色土	かたい
18層	10ＹＲ4/6	褐色土	焼土中粒少量混入、かたい
19層	10ＹＲ4/6	褐色土	焼土小粒少量混入、やや柔らかい
20層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	焼土小粒少量混入、かたい
21層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	焼土小粒少量混入、かたい
22層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	10ＹＲ6/8　明黄褐色との混合土、かたい
23層	10ＹＲ4/6	褐色土	焼土小粒少量混入、柔らかい
24層	10ＹＲ4/6	褐色土	焼土小粒少量混入、柔らかい
25層	10ＹＲ4/6	褐色土	やや柔らかい
26層	7.5ＹＲ5/6	赤褐色土	焼土小粒少量混入、柔らかい
27層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	炭化物小粒少量混入、かたい
28層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム小粒少量混入、かたい
29層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	焼土小粒少量混入、かたい
30層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒５％、かたい
31層	10ＹＲ4/6	褐色土	ローム小粒少量混入、柔らかい
32層	7.5ＹＲ5/6	赤褐色土	焼土小粒５％、かたい
33層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	やや柔らかい
34層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒少量混入、かたい
35層	10ＹＲ4/6	褐色土	Ｂ-Ｔｍ30％、かたい
36層	10ＹＲ4/6	褐色土	ローム小塊５％、Ｂ-Ｔｍ３％、かたくざらざらしている
37層	7.5ＹＲ5/6	明褐色土	焼土主体、弾力性あり
38層	10ＹＲ4/6	褐色土	焼土小粒少量混入、柔らかい
39層	10ＹＲ4/6	褐色土	焼土小粒少量混入、やや柔らかい
40層	7.5ＹＲ4/6	褐色土	焼土小粒３％、かたい
41層	7.5ＹＲ4/6	褐色土	やや柔らかい
42層	10ＹＲ4/4	褐色土	やや柔らかい
43層	2.5ＹＲ4/8	赤褐色土	焼土主体、かたい
44層	10ＹＲ5/6	黄褐色土	10ＹＲ1.7/1　黒色土・焼土小粒少量混入、やや柔らかい
45層	10ＹＲ4/6	褐色土	焼土小粒少量混入、やや柔らかい
46層	10ＹＲ4/6	褐色土	かたい
47層	7.5ＹＲ5/8	明褐色土	焼土主体、かたい
48層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	柔らかい
49層	10ＹＲ4/6	褐色土	焼土小粒・2.5ＹＲ3/6　暗赤褐色土少量混入、ややかたい
50層	7.5ＹＲ4/6	褐色土	ローム小粒10％、焼土小粒３％、やや柔らかい
51層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	焼土小粒少量混入、かたい
52層	7.5ＹＲ5/6	明褐色土	やや柔らかい
53層	10ＹＲ4/6	褐色土	7.5ＹＲ5/8　明褐色土少量混入、やや柔らかい
54層	7.5ＹＲ5/6	明褐色土	かたい
55層	7.5ＹＲ4/6	褐色土	炭化物小粒少量混入、かたい
56層	10ＹＲ4/6	褐色土	かたい
57層	7.5ＹＲ4/6	褐色土	炭が線状に２％、焼土小粒少量混入、やや柔らかい
58層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム中粒・焼土小粒少量混入、ややかたい
59層	10ＹＲ4/6	褐色土	炭化物小粒少量混入、かたい

図26　第604号建物跡３

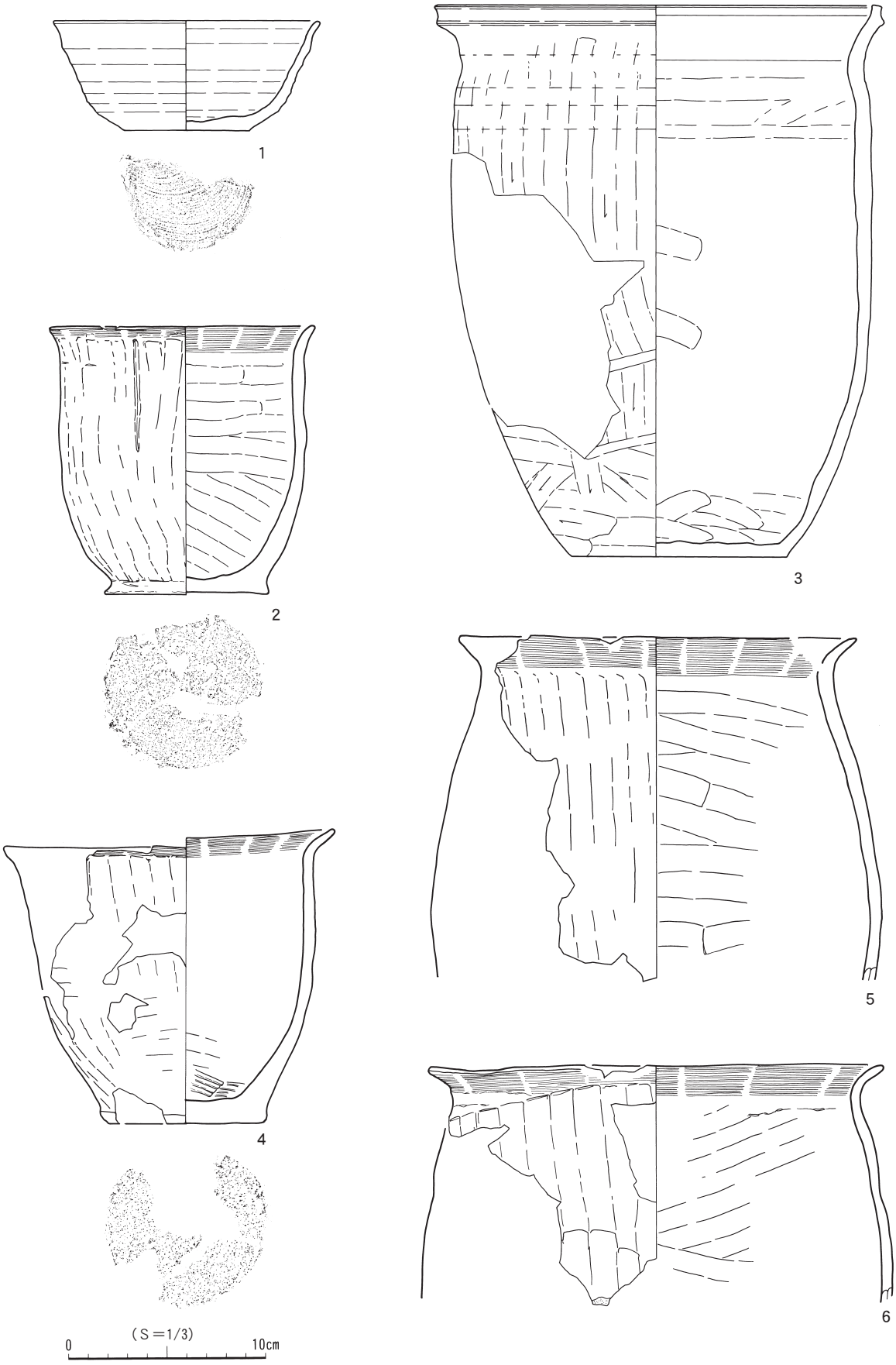


図27　第604号建物跡４

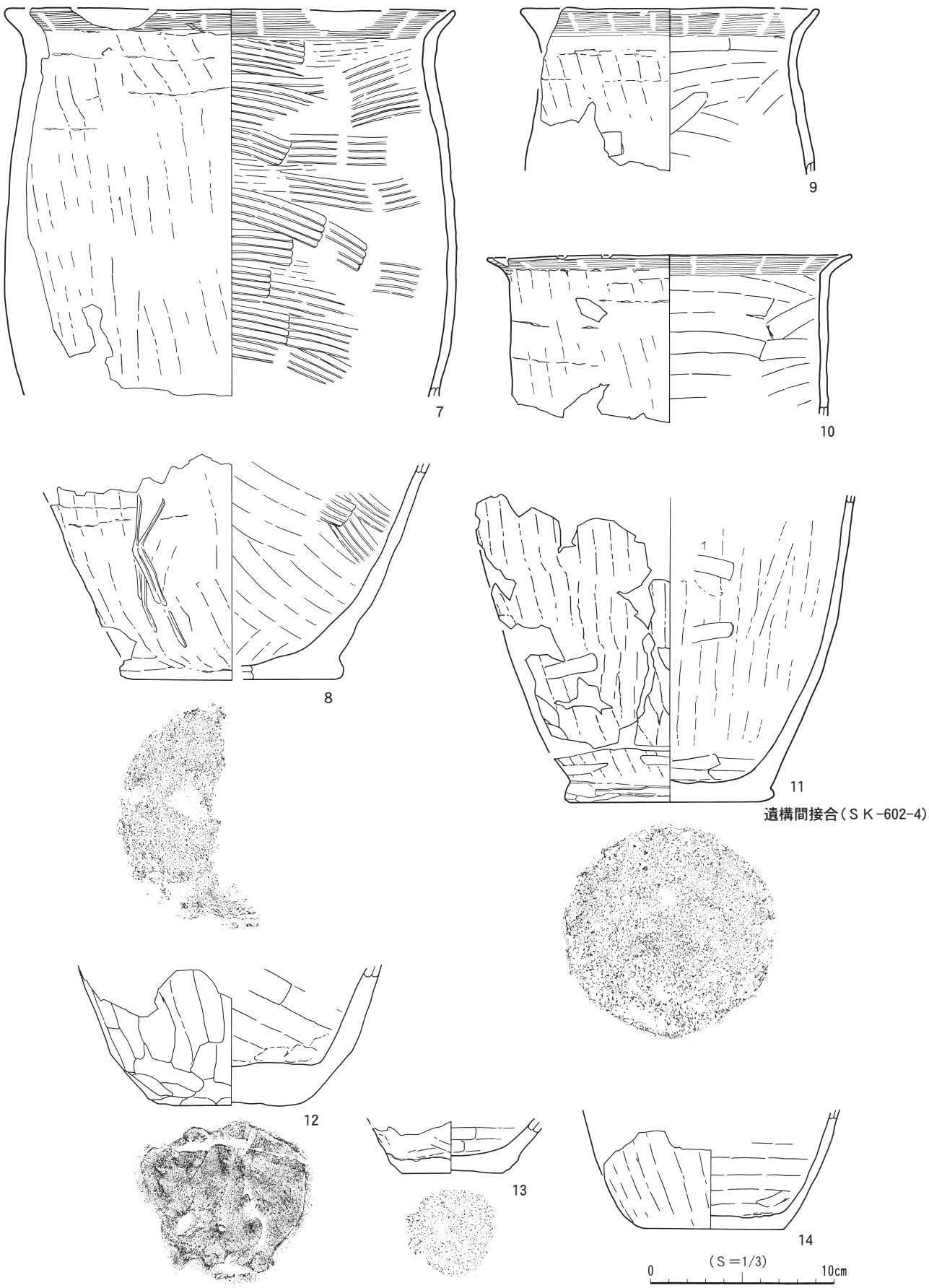


図28　第604号建物跡５

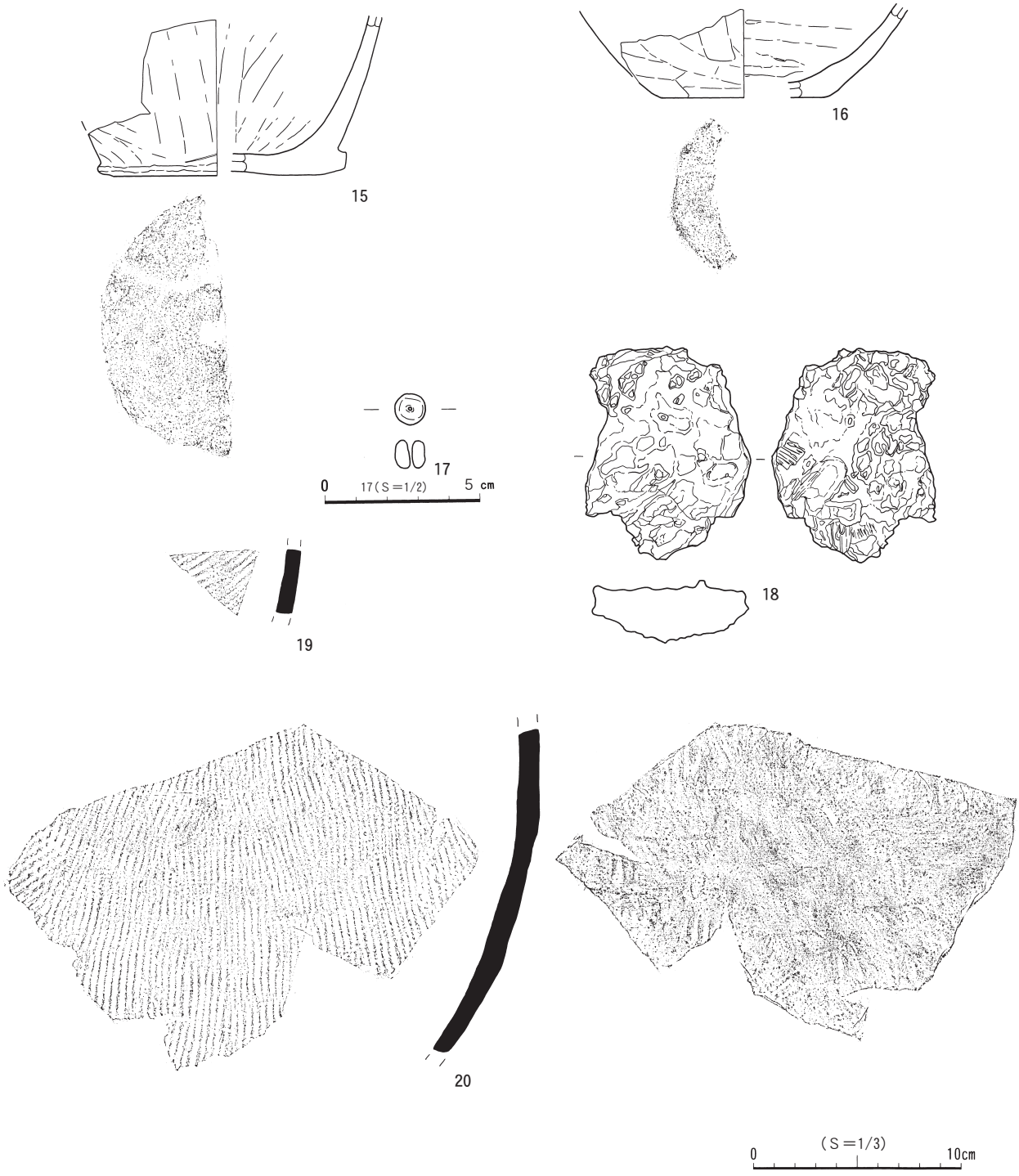


図29　第604号建物跡 6

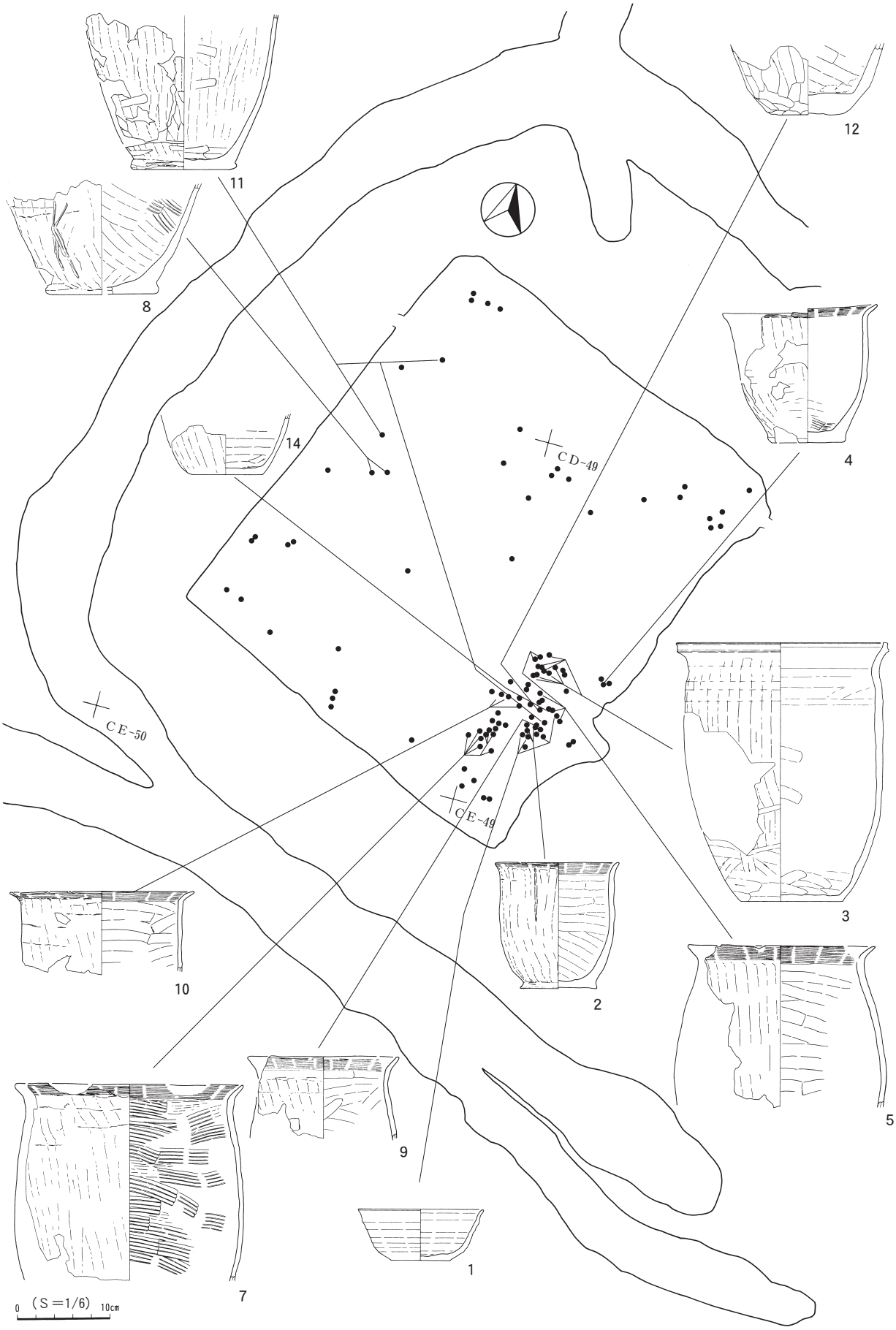
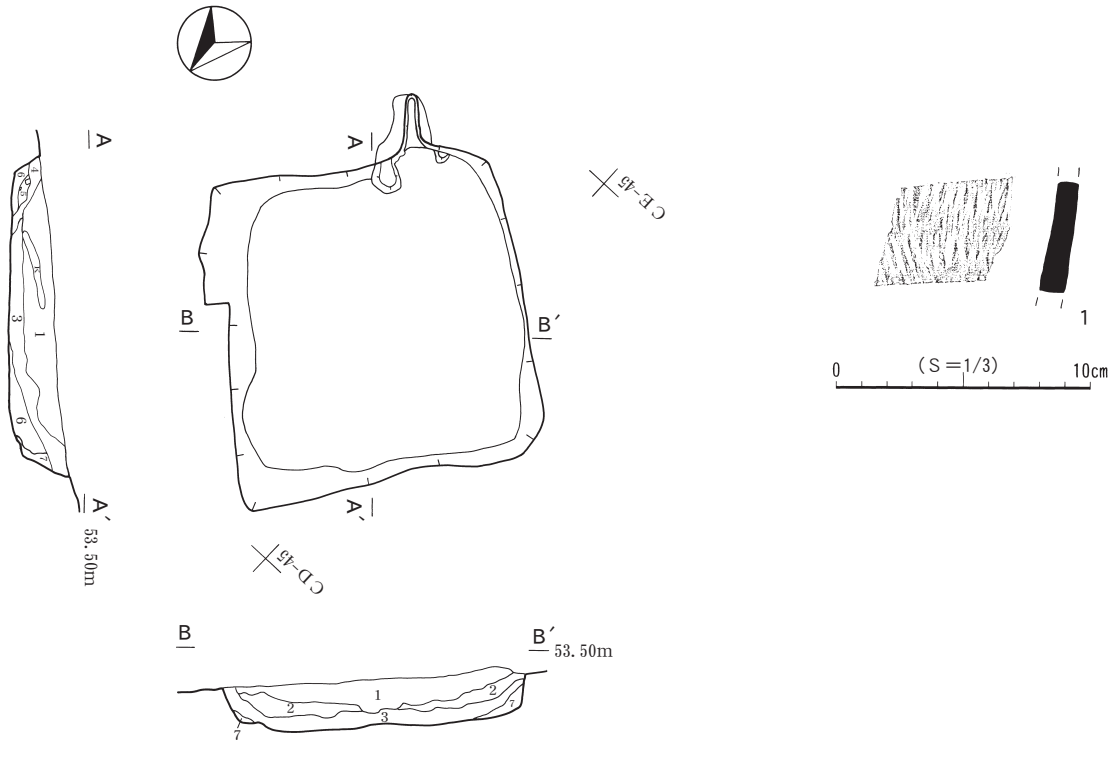


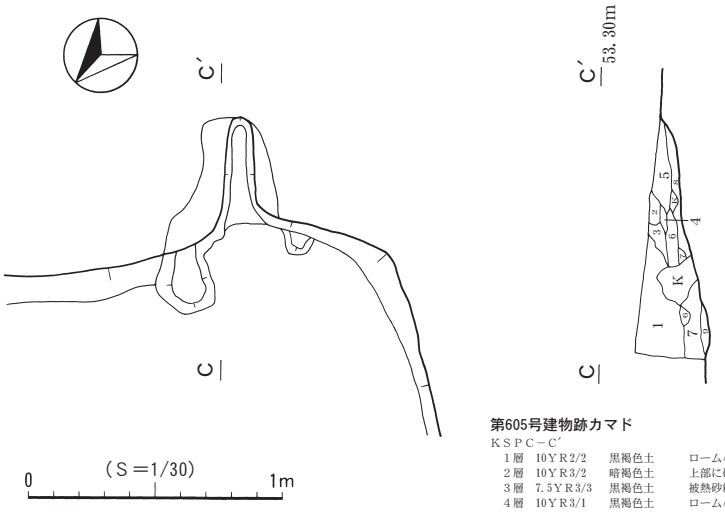
図30　第604号建物跡７



第605号建物跡

ＳＰＡ－Ａ′，ＳＰＢ－Ｂ′

１層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊・炭化物大粒２％、焼土大粒少量混入、しまり有
２層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒・ローム大塊３％、しまり有
３層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム大粒２％、焼土小粒少量混入、しまり有
４層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム大粒２％、しまりやや有
５層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム小粒・Ｂ-Ｔｍ３％、炭化物小粒２％、焼土中粒少量混入、しまり有
６層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒３％、炭化物大粒２％、Ｂ-Ｔｍ・焼土小粒少量混入、しまり有
７層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム中粒５％、焼土小粒少量混入



第605号建物跡カマド

ＫＳＰＣ－Ｃ′

１層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊・炭化物大粒２％、焼土大粒少量混入、しまり有
２層	10ＹＲ3/2	暗褐色土	上部に砂・粘土粒を50％混入、粘性やや有、しまり有
３層	7.5ＹＲ3/3	黒褐色土	被熱砂粒主体、しまり有
４層	10ＹＲ3/1	黒褐色土	ローム小粒・粘土粒10％、炭化小粒５％、粘性やや有、しまり有
５層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	焼土小粒５％、炭化小粒２％、粘性やや有、しまり有
６層	7.5ＹＲ4/3	褐色土	被熱ローム小粒50％
７層	7.5ＹＲ1.7/1	黒色土	焼土大粒５％、粘性やや有、しまり有
８層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒主体、粘性有、しまり有
９層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒50％、粘性やや有、しまり有

図31　第605号建物跡

２　土坑

第306号土坑（図32・34）

［位置・確認］ＢＷ－43グリッド他に位置する。平成10年度に検出され、北側の一部が精査されている。

［重複］認められない。

［平面形・規模］長方形を呈し長軸200㎝、短軸170㎝、深さは38㎝を測る。

［堆積土］11層に分層された。ほぼ自然堆積の様相を呈する。上層に白頭山火山灰が混入する。

［底面・壁］底面はほぼ平坦である。壁は底面から南東壁はやや緩やかに、他はやや急に立ち上がっている。

［出土遺物］図示できた遺物は１点。１は須恵器壺の底部片と思われる。

［小結］堆積土中の火山灰及び出土遺物から平安時代の土坑と考えられる。

第601号土坑（図32）

［位置・確認］ＣＢ－52グリッド他に位置する。

［重複］認められない。

［平面形・規模］楕円形を呈し長径106㎝、短径80㎝、深さは22㎝を測る。

［堆積土］８層に分層された。人為堆積の様相を呈する。

［底面・壁］底面はかなり凸凹している。壁は底面からやや急に立ち上がっている。

［出土遺物］遺物は出土していない。

［小結］詳細な時期・性格は不明。

第602号土坑（図32・34）

［位置・確認］ＣＥ－48グリッド他に位置する。

［重複］認められない。

［平面形・規模］方形を呈し長軸192㎝、短軸168㎝、深さは34㎝を測る。

［堆積土］11層に分層された。白頭山火山灰がレンズ状に堆積している。

［底面・壁］底面は多少起伏がある。壁は底面からやや急に立ち上がっている。

［出土遺物］堆積土中から土師器・須恵器片が出土している。図示し得た遺物は５点。２・３は土師器甕の口縁～胴部片。４・５は土師器甕の胴～底部片。底部は２点とも砂敷き。６は須恵器片。

［小結］堆積土中の火山灰及び出土遺物より、平安時代の土坑と考えられる。白頭山火山灰の下部堆積土中から出土した炭化材の放射性炭素年代測定の結果は第６章第４節に掲載している。

第603号土坑（図32）

［位置・確認］ＣＡ－54グリッドに位置する。

［重複］認められない。

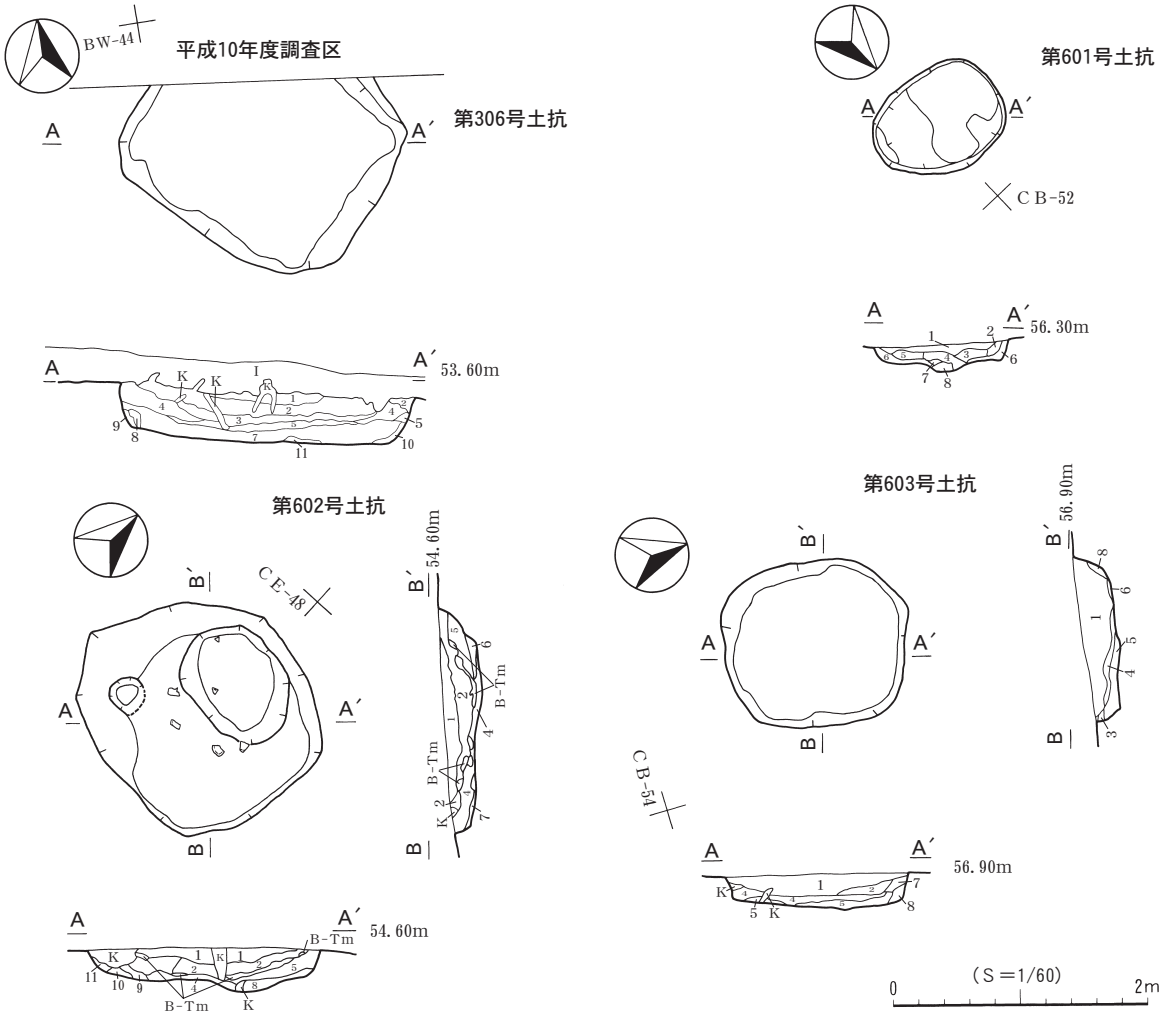
［平面形・規模］方形を呈し長軸140㎝、短軸130㎝、深さは30㎝を測る。

[堆積土] ８層に分層された。
[底面・壁] 底面は多少起伏がある。壁は底面から急に立ち上がっている。
[出土遺物] 遺物は出土していない。
[小結] 詳細な時期・性格は不明。

第604号土坑（図33）
[位置・確認] ＢＹ－48グリッド他に位置する。
[重複] 認められない。
[平面形・規模] 長方形を呈し長軸180㎝、短軸144㎝、深さは44㎝を測る。
[堆積土] 22層に分層された。人為堆積の様相を呈する。
[底面・壁] 底面はかなり起伏がある。壁は底面から急に立ち上がっている。
[出土遺物] 遺物は出土していない。
[小結] 詳細な時期・性格は不明。

第605号土坑（図33・34）
[位置・確認] ＣＥ－48グリッド他に位置する。
[重複] 認められない。
[平面形・規模] 長方形を呈し長軸122㎝、短軸86㎝、深さは40㎝を測る。
[堆積土] 14層に分層された。
[底面・壁] 底面はほぼ平坦である。壁は底面からやや急に立ち上がっている。
[出土遺物] 堆積土中より擦文土器と思われる破片が１点出土している。７は口縁部片。波状を呈するものと思われる。細めの沈線が一部斜格子状に施される。
[小結] 出土遺物より平安時代の土坑と考えられる。

第606号土坑（図33）
[位置・確認] ＣＤ－48グリッドに位置する。
[重複] 認められないが、第604建物跡に近接する。
[平面形・規模] 不整な円形を呈し長径66㎝、短径53㎝、深さは17㎝を測る。
[堆積土] ３層に分層された。自然堆積の様相を呈する。
[底面・壁] 底面はほぼ平坦である。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。
[出土遺物] 遺物は出土していない。
[小結] 詳細な時期・性格は不明。 （笹森）



第306号土坑

ＳＰＡ－Ａ′

１層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	B-Tmブロック状に10%、粘性やや有、しまり有
２層	10ＹＲ2/1	黒色土	ローム小粒・橙色粒子２%、B-Tm少量混入、粘性有、しまり有
３層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	ローム小塊を斑文状に混入、粘性やや有、しまり有
４層	10ＹＲ3/1	黒褐色土	ローム小粒５%、粘性有、しまり有
５層	10ＹＲ2/1	黒色土	細砂粒20%、粘性やや有、しまり有
６層	10ＹＲ3/1	黒褐色土	粘性やや有、しまり有
７層	10ＹＲ2/1	黒色土	細砂粒10%、粘性有、しまり有
８層	10ＹＲ2/1	黒色土	細砂粒５%、粘性有、しまり有
９層	10ＹＲ2/1	黒色土	ローム小粒２%、粘性有、しまり有
10層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	砂粒２%、粘性有、しまり有
11層	10ＹＲ3/1	黒褐色土	ローム小粒10%、粘性やや有、しまり有

第601号土坑

ＳＰＡ－Ａ′

１層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊３%、炭化物小粒２%
２層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム小粒・炭化物小粒２%
３層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム中粒３%、炭化物小粒２%
４層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊３%、炭化物小粒２%
５層	10ＹＲ4/4	褐色土	ローム小粒・ローム中塊５%
６層	10ＹＲ4/4	褐色土	ローム中粒２%
７層	10ＹＲ4/3	にぶい黄褐色土	ローム中粒・炭化物小粒２%
８層	10ＹＲ4/3	にぶい黄褐色土	ローム大粒５%、炭化物小粒３%

第602号土坑

ＳＰＡ－Ａ′，ＳＰＢ－Ｂ′

１層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊・炭化物大粒３%、焼土中粒２%
２層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	B-Tm５%、ローム中粒２%、炭化物小粒３%
３層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	B-Tm15%、炭化物小粒２%、焼土小粒少量混入
４層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大粒・B-Tm３%、炭化物中粒２%、焼土小粒少量混入、しまりやや有
５層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒３%、炭化物大粒２%、焼土小粒・B-Tm少量混入
６層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム中粒５%、炭化物大粒・焼土中粒３%
７層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊７%、炭化物大粒２%、しまり有
８層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	焼土大粒７%、ローム中粒５%、炭化物中粒２%、しまりやや有
９層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	炭化物中粒少量混入
10層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	炭化物大粒・焼土中粒少量混入
11層	10ＹＲ4/4	褐色土	ローム大粒２%、焼土中粒少量混入

第603号土坑

ＳＰＡ－Ａ′，ＳＰＢ－Ｂ′

１層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	炭化大粒10%、ローム中粒５%、粘性有、しまり有
２層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	ローム小粒50%、炭化物中粒３%、粘性やや有、しまり有
３層	10ＹＲ2/1	黒色土	
４層	10ＹＲ3/1	黒褐色土	炭化物中粒５%、粘性有、しまり有
５層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	炭化物大粒30%、しまり有
６層	10ＹＲ2/1	黒色土	炭化物中粒20%、ローム小粒３%、粘性やや有、しまり有
７層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒主体、炭化物小粒５%、粘性やや有、しまり有
８層	10ＹＲ3/3	褐色土	ローム中粒主体、粘性やや有、しまり有

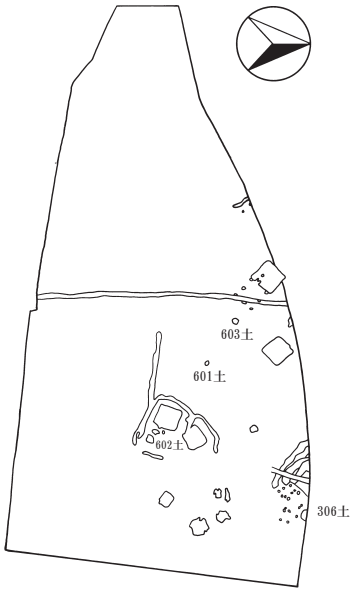
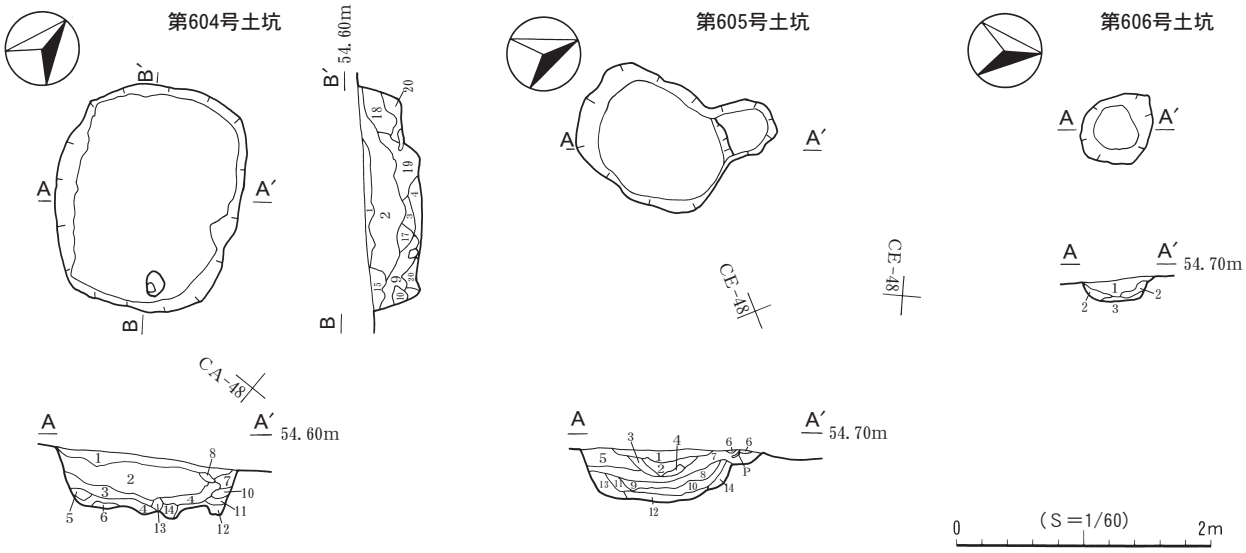


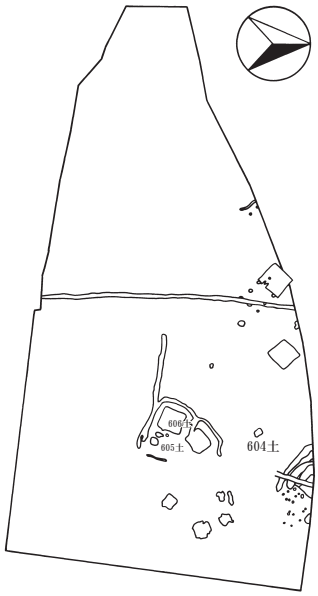
図32　第306・601～603号土坑



第604号土坑

ＳＰＡ－Ａ′，　ＳＰＢ－Ｂ′

１層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム中粒２％、炭化物中粒少量混入、かたい
２層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム大粒10％、炭化物中粒少量混入、ややかたい
３層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊25％、やや柔らかい
４層	10ＹＲ2/1	黒色土	ローム大粒15％、ややかたい
５層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊20％、かたい
６層	10ＹＲ6/6	明黄褐色土	ローム主体、硬い
７層	10ＹＲ2/1	黒色土	やや柔らかい
８層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	とても柔らかい
９層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム大粒10％、ややかたい
10層	10ＹＲ4/4	褐色土	10ＹＲ5/6　黄褐色との混合土、かたい
11層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大粒５％、柔らかい
12層	10ＹＲ6/6	明黄褐色土	10ＹＲ4/3　にぶい黄褐色との混合土、柔らかい
13層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	ローム中粒20％、ややかたい
14層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム中粒・ローム大塊30％、ややかたい
15層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	やや柔らかい
16層	10ＹＲ4/6	褐色土	ローム中粒３％、やや柔らかい
17層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊20％、ややかたい
18層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	柔らかい
19層	10ＹＲ2/1	黒色土	ローム大粒３％、やや柔らかい
20層	10ＹＲ6/8	明黄褐色土	ローム主体、柔らかい
21層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム中粒２％、柔らかい
22層	10ＹＲ1.7/1	黒褐色土	炭化物小粒少量混入、柔らかい



第605号土坑

ＳＰＡ－Ａ′

１層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム大粒15％、ローム中塊３％、
２層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊10％
３層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小塊少量混入
４層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム中粒５％
５層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム大粒15％
６層	10ＹＲ7/4	にぶい黄褐色土	粘土主体
７層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム大粒７％、炭化物大粒２％
８層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム大粒２％
９層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム中粒３％、焼土小粒少量混入
10層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム中粒３％、焼土小粒少量混入
11層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒３％、炭化物小粒少量混入
12層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム中粒５％、ローム中塊少量混入
13層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大粒３％
14層	10ＹＲ2/1	黒色土	

第606号土坑

ＳＰＡ－Ａ′

１層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大粒15％
２層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム大粒・ローム大塊７％
３層	10ＹＲ4/6	褐色土	ローム小粒・ローム中塊30％、炭化物小粒少量混入

図33　第604～606号土坑

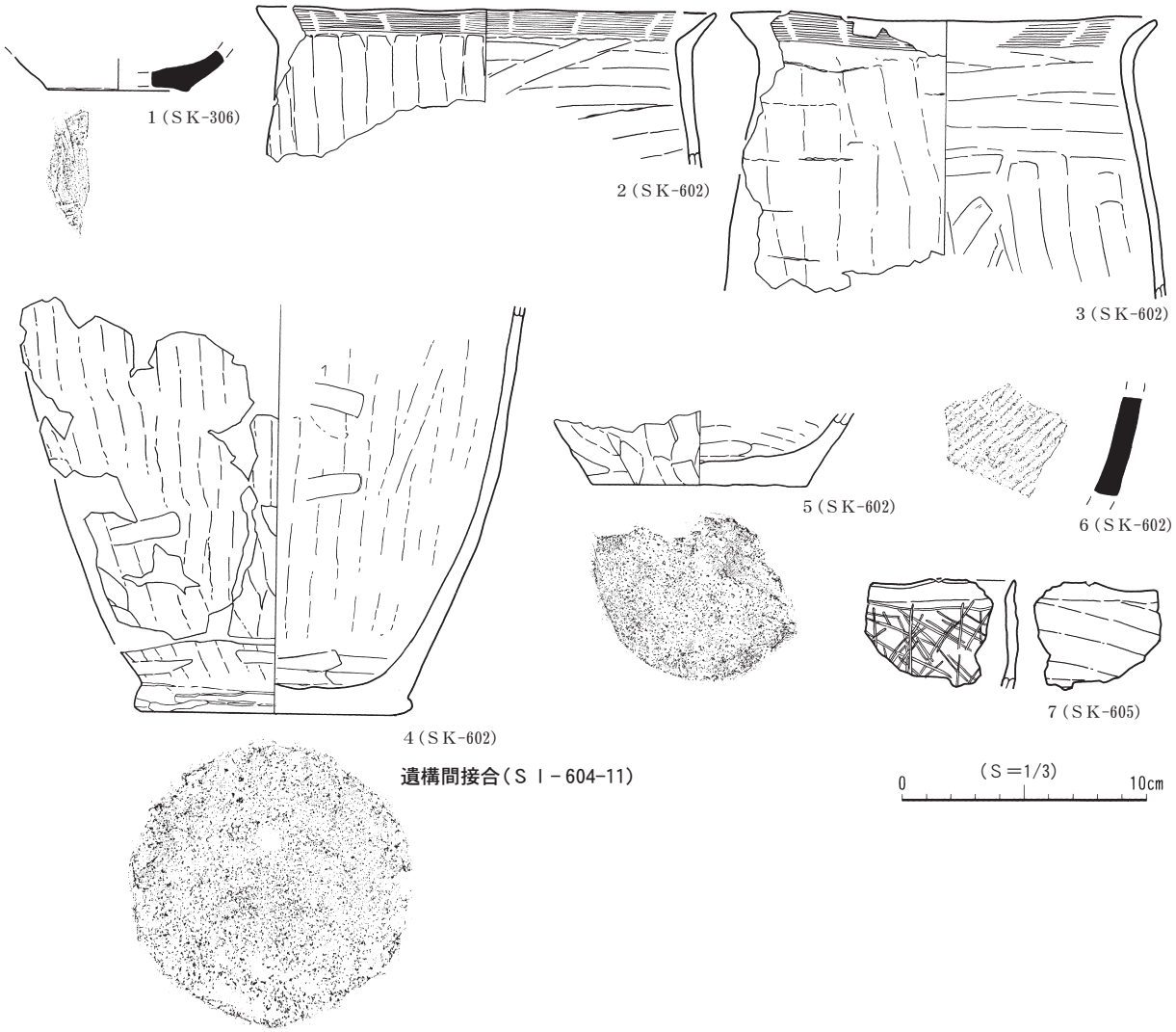

1（ＳＫ-306）
2（ＳＫ-602）
3（ＳＫ-602）
4（ＳＫ-602）
5（ＳＫ-602）
6（ＳＫ-602）
7（ＳＫ-605）
遺構間接合（ＳＩ－604-11）
（Ｓ＝1/3）
0
10cm

図34　土坑内出土遺物

3　溝跡

第601号溝跡（図35・36）

［位置・確認］ほぼ55ラインに沿って位置する。第Ⅲ層上面で確認した。平成９年度調査の第209号溝跡、平成10年度調査の第305号溝跡と同一の遺構と考えられる。

［重複］第601号建物跡に付随すると思われる掘立柱（ピット３・６）と重複しており、新旧関係は本遺構が新しい。

［平面形・規模］上面幅56～90㎝、底面幅26～46㎝、深さは70～90㎝を測る。調査区北端から南端まで長さ約53mに渡って検出された。

［堆積土］６～10層に分層された。ほぼ自然堆積の様相を呈する。

［底面・壁］底面は多少凸凹が認められる。壁は底面からやや急に立ち上がっている。断面形状は逆台形状を呈している。

［出土遺物］流れ込んだと思われる縄文土器片と図化不能の土師器・須恵器の細片が出土している。

［小結］平安時代以降の溝跡と考えられる。ほぼ現在の地境に沿って検出されていることが地籍図からもうかがえる。

第602号溝跡（図37～39）

［位置・確認］ＣＦ－47～ＣＤ－53ラインにかけて位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

［重複］第604号建物跡に付随する外周溝と重複している。土層観察から本遺構が古いことが確認できた。

［平面形・規模］全長11.5m、上面幅40～50㎝、底面幅26～32㎝、深さは20～50㎝を測る。

［堆積土］３～12層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

［底面・壁］底面はほぼ平坦に作られている。壁は底面からやや急に立ち上がっている。

［出土遺物］遺物は東側の端部を中心に検出されている。ほとんどが上層の堆積土中から出土している。図示できた遺物は15点。１～５は土師器坏。３・４は内面に黒色処理が施される。６はロクロ成形の土師器甕。胴部下半にヘラ削り調整が施される。７～13は非ロクロ成形の土師器甕。14は小型の土師器鉢。15は須恵器甕の肩部片と思われる。

［小結］重複関係にある第604号建物跡外周溝の白頭山火山灰の堆積状況から、９世紀代に構築された溝跡と考えられる。出土した遺物のほとんどは白頭山火山灰降下以前に廃棄されたものと考えられる。

第603号溝跡（図40）

［位置・確認］ＣＥ－47グリッド他に位置する。第Ⅳ層上面で確認した。

［重複］認められない。

［平面形・規模］平面形は細長い溝状を呈し、長さ446㎝、上面幅18～26㎝、底面幅８～20㎝、深さは18～33㎝を測る。

［堆積土］４層に分層された。

［底面・壁］底面はほぼ平坦である。壁は底面から急に立ち上がっている。断面形状は箱型を呈する。

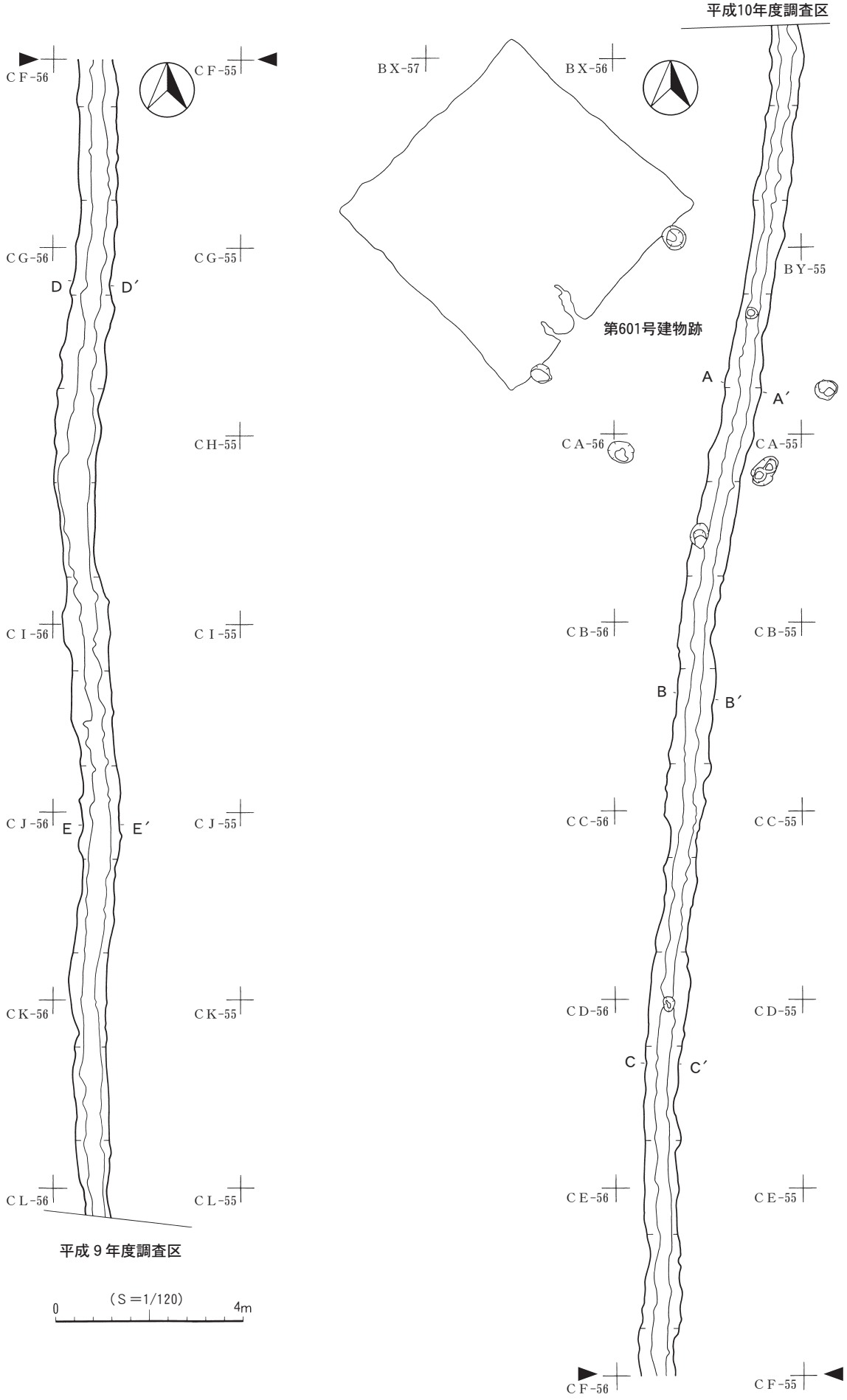
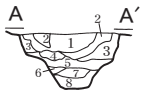
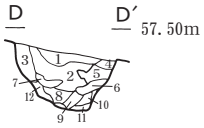


図35　第601号溝跡１





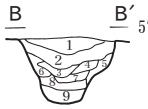
第601号溝跡

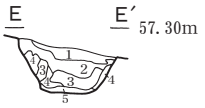
ＳＰＡ－Ａ′

1層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム小粒少量混入
2層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒少量混入
3層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	ローム中粒・ローム小塊少量混入
4層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒５％
5層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒少量混入
6層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒15％
7層	10ＹＲ2/1	黒色土	ローム小粒・ローム小塊３％、炭化物中粒少量混入
8層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒・ローム中塊20％

ＳＰＤ－Ｄ′

1層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム小粒・ローム小塊少量混入
2層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒少量混入
3層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム中粒10％
4層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム小粒２％
5層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム大粒10％
6層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム大粒10％
7層	10ＹＲ2/1	黒色土	ローム中粒５％
8層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム中粒２％
9層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム小粒少量混入
10層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム中粒10％
11層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒３％
12層	10ＹＲ4/6	褐色土	ローム主体



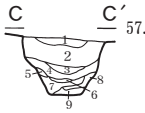


ＳＰＢ－Ｂ′

1層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム小粒少量混入
2層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム中粒少量混入
3層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム中粒少量混入
4層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム中粒10％
5層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム大粒・ローム小塊15％
6層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム中粒10％
7層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム中粒少量混入
8層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム小粒少量混入
9層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム中粒少量混入

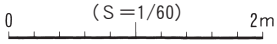
ＳＰＥ－Ｅ′

1層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム中粒少量混入
2層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒少量混入
3層	10ＹＲ2/1	黒色土	ローム中粒少量混入
4層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム中粒・ローム中塊３％
5層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム大粒・ローム大塊５％



ＳＰＣ－Ｃ′

1層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	
2層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	
3層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	
4層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム小粒少量混入
5層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム小粒少量混入
6層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	10ＹＲ6/8　明黄褐色土少量混入
7層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	粘土大粒少量混入
8層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	堅ち
9層	10ＹＲ2/1	黒色土	堅ち



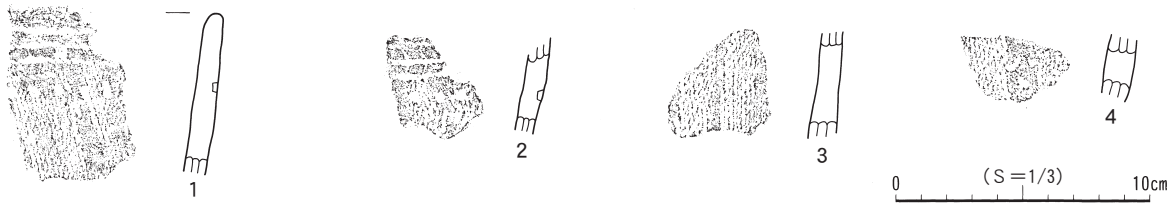
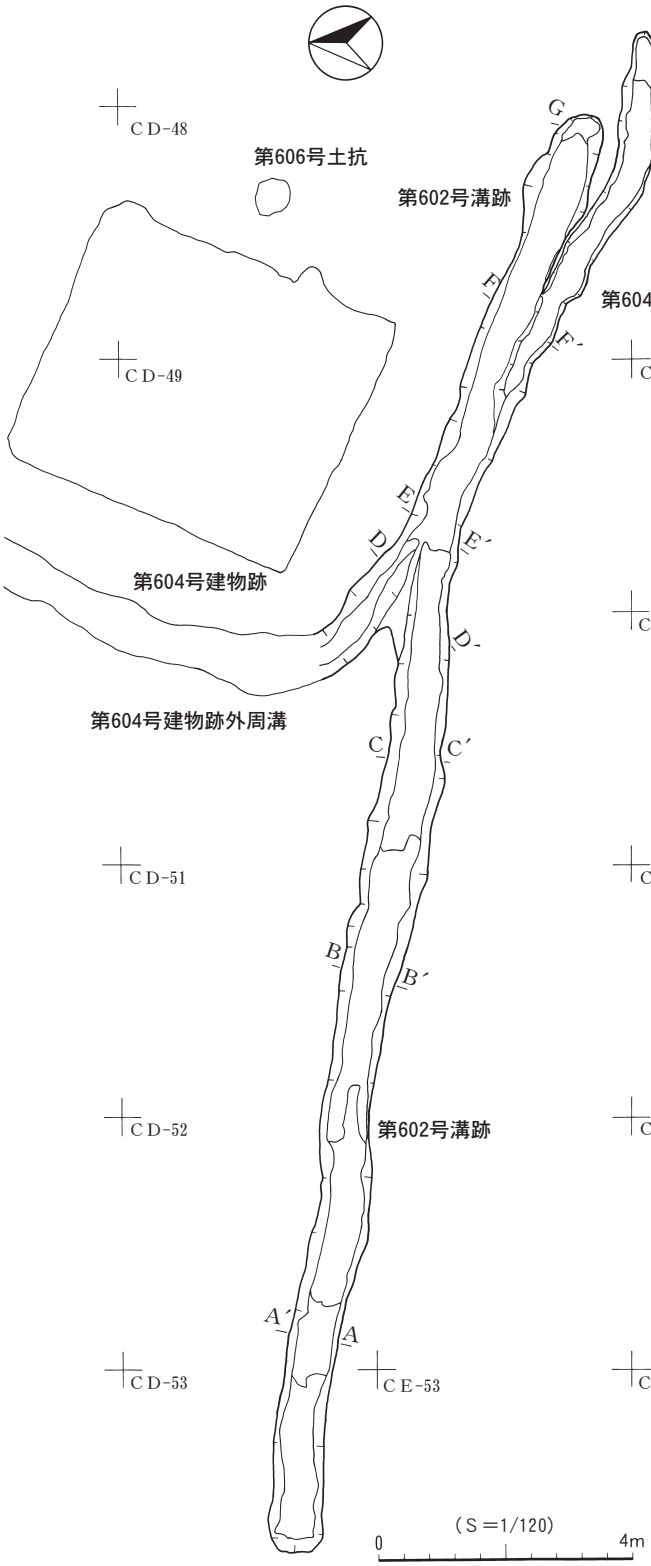
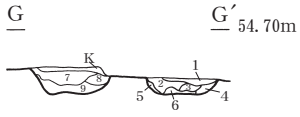


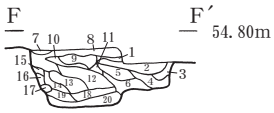
図36　第601号溝跡２





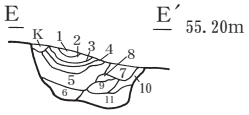
ＳＰＧ－Ｇ′（ＳＩＤ－604含）
１～６層　ＳＩＤ－604，７～９層　ＳＤ－602

１層	10YR3/3	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊10%、焼土大粒少量混入、しまりやや有
２層	10YR3/3	暗褐色土	ローム中塊15%、炭化物中粒少量混入、しまり有
３層	10YR3/3	暗褐色土	ローム大塊40%、しまり有
４層	10YR3/3	暗褐色土	ローム中粒５%、しまり有
５層	10YR3/2	黒褐色土	ローム大塊40%、しまりやや有
６層	10YR3/4	暗褐色土	ローム大塊50%、しまり有
７層	10YR2/3	黒褐色土	ローム大粒５%、焼土小粒少量混入、しまり有
８層	10YR3/4	暗褐色土	ローム大粒７%、しまり有
９層	10YR4/4	褐色土	ローム大粒７%、炭化物大粒２%、ローム大塊少量混入、しまり有



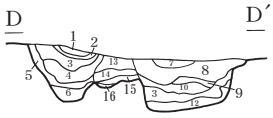
ＳＰＦ－Ｆ′（ＳＩＤ－604含）
１～６層　ＳＩＤ－604，７～20層　ＳＤ－602

１層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム中粒３%、焼土小粒少量混入
２層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム大塊10%、ローム大粒５%、炭化物大粒・焼土大粒少量混入
３層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大粒３%、炭化物中粒少量混入
４層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大粒２%、ローム大塊少量混入
５層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム大粒15%、ローム中塊少量混入
６層	10ＹＲ4/4	褐色土	ローム大塊40%
７層	10ＹＲ4/6	褐色土	ローム中粒５%
８層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム大粒３%、焼土小粒少量混入
９層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム中粒２%、ローム大塊少量混入
10層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム大塊３%
11層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム大塊10%
12層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム大塊３%、炭化物中粒少量混入
13層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム大塊10%、ローム大粒５%
14層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム中粒少量混入
15層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム中粒少量混入
16層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム中粒少量混入、しまり有
17層	10ＹＲ2/1	黒色土	焼土中粒少量混入
18層	10ＹＲ2/1	黒色土	ローム中粒少量混入、しまり有
19層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム小塊少量混入
20層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒５%



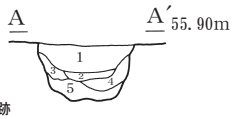
ＳＰＥ－Ｅ′（ＳＩＤ－604含）
１～６層　ＳＩＤ－604，７～11層　ＳＤ－602

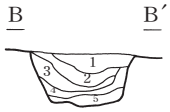
１層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒２%
２層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊２%、Ｂ-Ｔｍ少量混入
３層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム小粒２%、Ｂ-Ｔｍ少量混入
４層	10ＹＲ5/6	黄褐色土	Ｂ-Ｔｍ主体、10ＹＲ2/2　黒褐色との混合土
５層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム中粒２%、炭化物中粒・Ｂ-Ｔｍ少量混入
６層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム中粒７%
７層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム小粒少量混入
８層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒少量混入
９層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム小粒少量混入
10層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム中粒２%
11層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム小粒５%、10ＹＲ4/6　褐色土少量混入

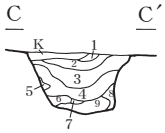


ＳＰＤ－Ｄ′（ＳＩＤ－604含）
１～６層　ＳＩＤ－604，７～12層　ＳＤ－602，13～16　層不明

１層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	Ｂ-Ｔｍ５%、ローム中粒少量混入
２層	10ＹＲ6/8	明黄褐色土	Ｂ-Ｔｍ主体、10ＹＲ3/3　暗褐色土少量混入
３層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム大粒少量混入
４層	10ＹＲ2/1	黒色土	ローム小粒少量混入
５層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	10ＹＲ2/3　黒褐色との混合土、ローム大粒15%
６層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大粒７%
７層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	
８層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒少量混入
９層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒２%
10層	10ＹＲ2/1	黒色土	ローム中粒３%
11層	10ＹＲ2/1	黒色土	ローム大粒５%、粘土小粒少量混入
12層	10ＹＲ5/6	黄褐色土	10ＹＲ2/1　黒色土・粘土中粒少量混入
13層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊５%
14層	10ＹＲ5/8	黄褐色土	10ＹＲ2/2　黒褐色との混合土、粘土大粒少量混入
15層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム大粒３%
16層	10ＹＲ4/6	褐色土	10ＹＲ2/2　黒褐色との混合土







第602号溝跡

ＳＰＡ－Ａ′

１層	10ＹＲ2/1	黒色土	炭化物小粒少量混入
２層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム小塊少量混入
３層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム小粒・ローム小塊少量混入
４層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム大粒２%
５層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	10ＹＲ1.7/1　黒色土との混合土、ローム中粒３%

(S＝1/60)　0　2m

ＳＰＢ－Ｂ′

１層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム小粒少量混入
２層	10ＹＲ2/1	黒色土	ローム小粒少量混入
３層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	炭化物小粒少量混入
４層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム中粒２%
５層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム大粒３%

ＳＰＣ－Ｃ′

１層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	炭化物小粒少量混入
２層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム中粒・炭化物中粒少量混入
３層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム小粒・炭化物中粒少量混入
４層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム小粒・ローム小塊少量混入
５層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒３%
６層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム大粒５%
７層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム小粒２%
８層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム中粒・ローム小塊３%
９層	10ＹＲ4/6	褐色土	10ＹＲ1.7/1　黒色土との混合土、ローム中粒５%

図37　第602号溝跡１

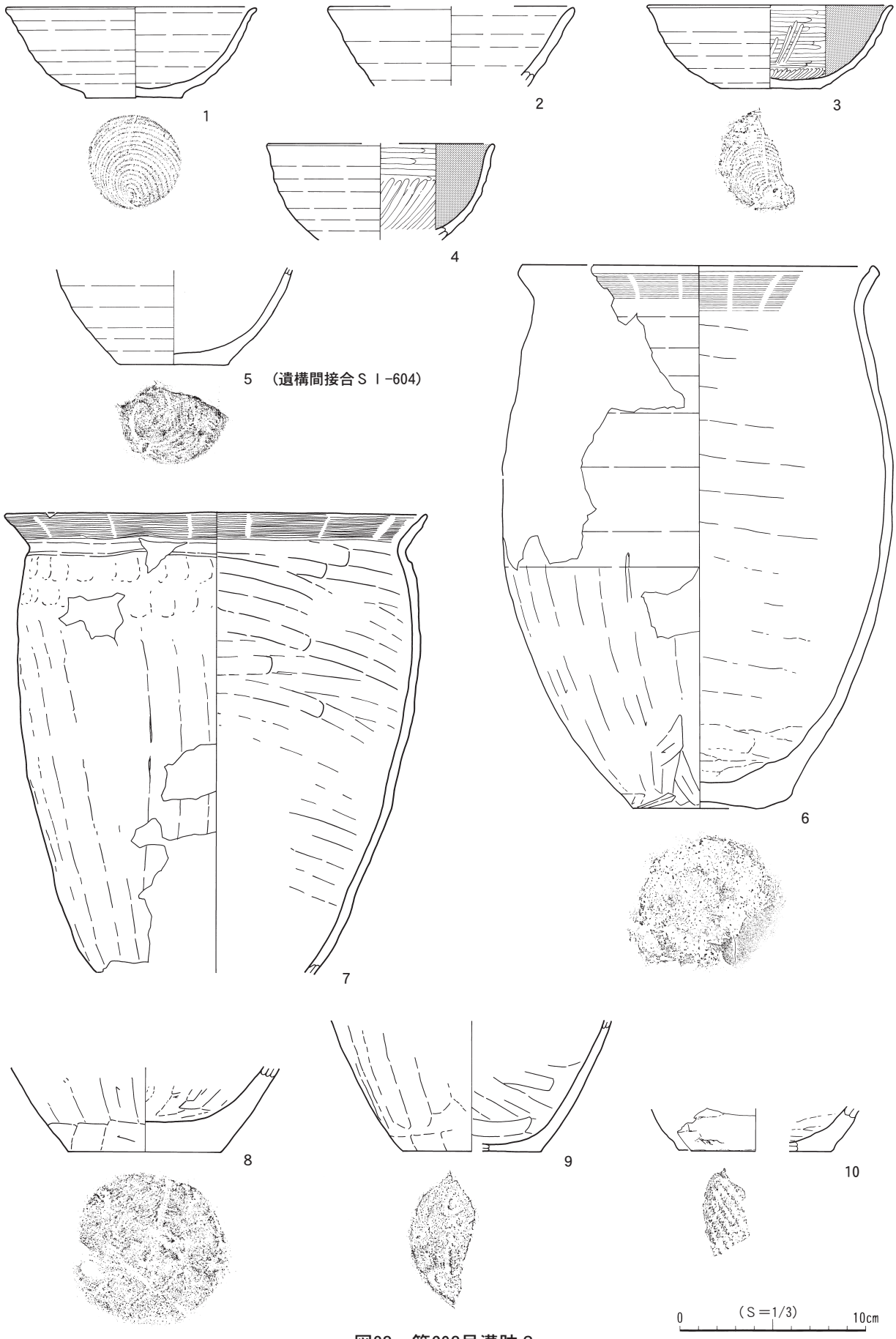


図38　第602号溝跡２

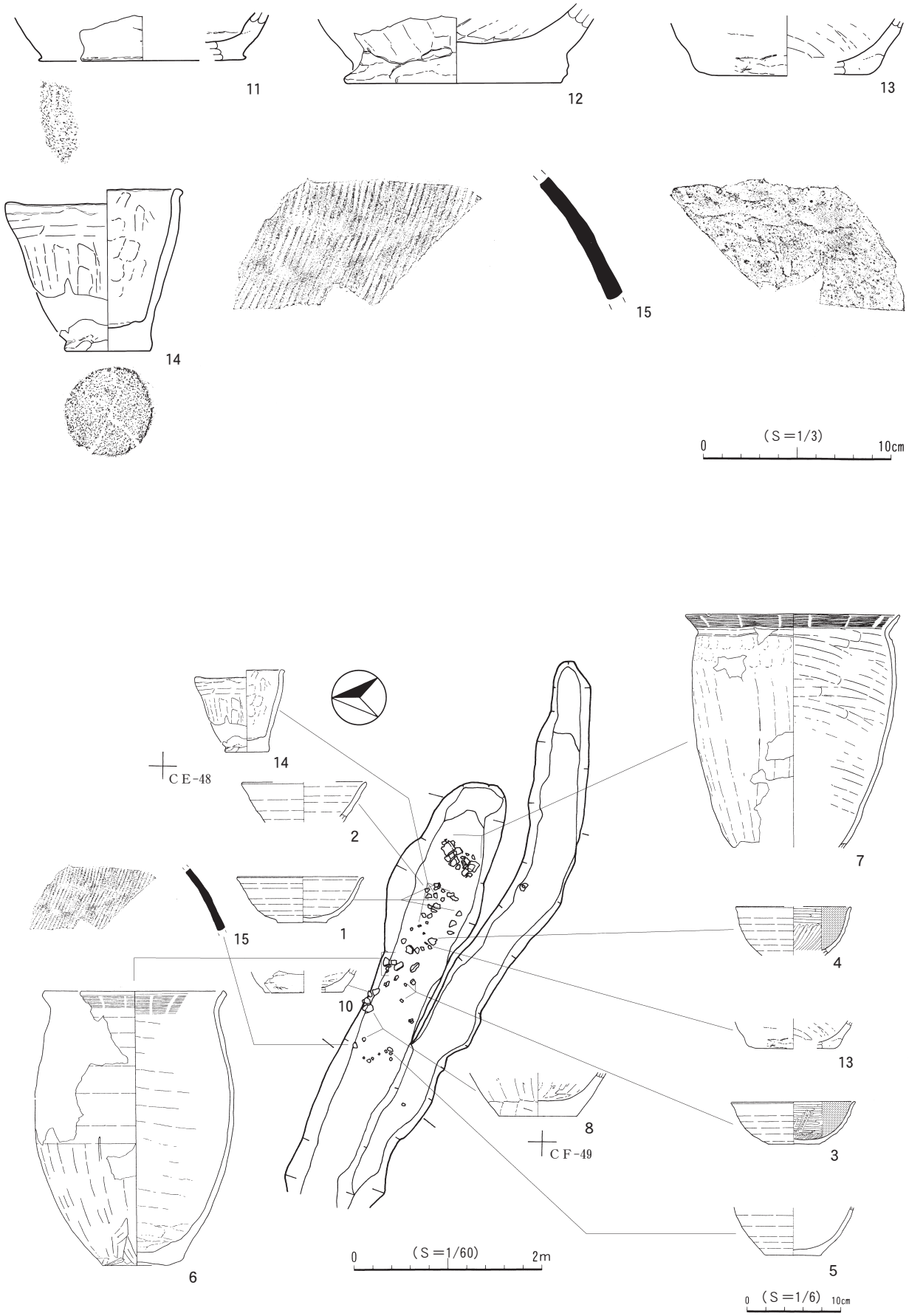
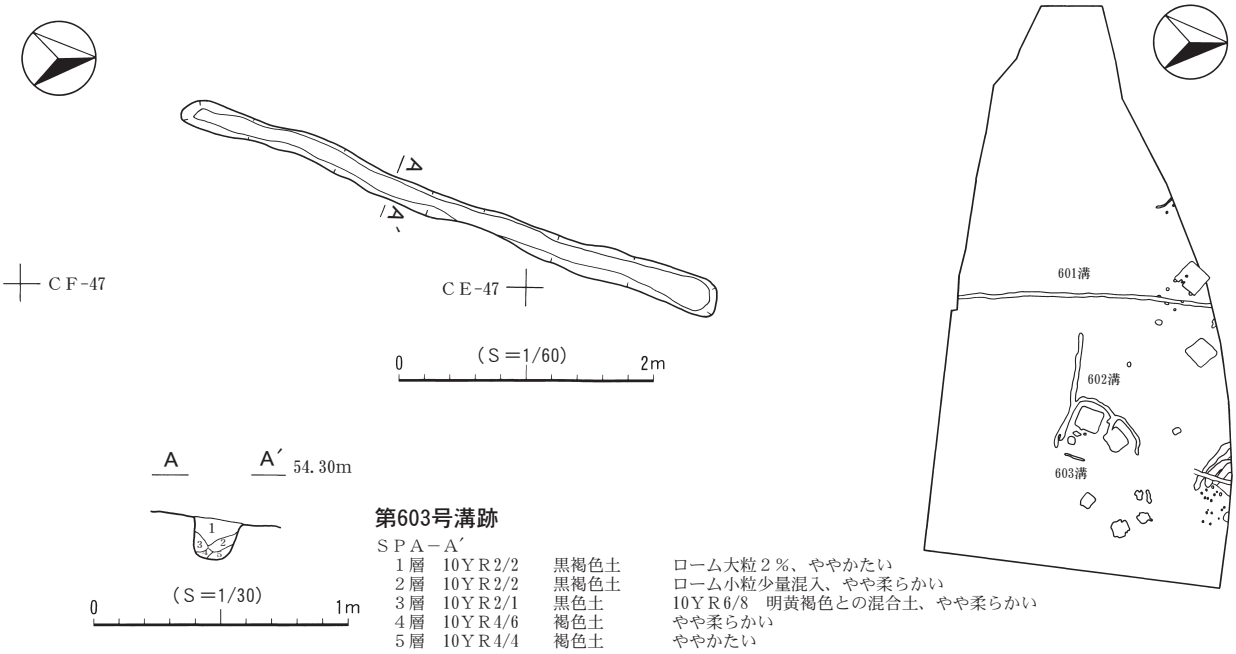


図39　第602号溝跡３

［出土遺物］土師器の細片が６点出土しているが胴部片のみで、図示できるような遺物ではない。

［小結］第604号建物跡の南東壁から約６m程離れた場所にほぼ平行して検出されている。第604号建物跡の一部であった可能性も考えられる。 (笹森)



第603号溝跡

ＳＰＡ－Ａ′

１層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム大粒２％、ややかたい
２層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒少量混入、やや柔らかい
３層	10ＹＲ2/1	黒色土	10ＹＲ6/8　明黄褐色との混合土、やや柔らかい
４層	10ＹＲ4/6	褐色土	やや柔らかい
５層	10ＹＲ4/4	褐色土	ややかたい

図40　第603号溝跡

４　土器埋設遺構

第601号土器埋設遺構（図41）

［位置・確認］ＢＷ－54グリッドに位置する。第317号建物跡のカマド煙道部に近接する。暗褐色土層中で割れた土器の輪郭として確認した。

［重複］認められないが、風倒木痕内に構築されている。

［平面形・規模］掘り方は確認面では円形を呈し、径26～28㎝、深さは19㎝を測る。

［堆積土］掘り方は１層、土器内は２層に分層された。

［出土土器］出土した土器は土師器甕の胴部下半から底部にかけての破片である。外面は粗いヘラ削り調整が施される。底部はヘラ削り後ヘラナデ調整が施される。

［小結］人為的に埋設された土器と思われるが、詳細な性格等は不明。土器の検出状況からは正位に埋設されていた可能性が高い。　（笹森）

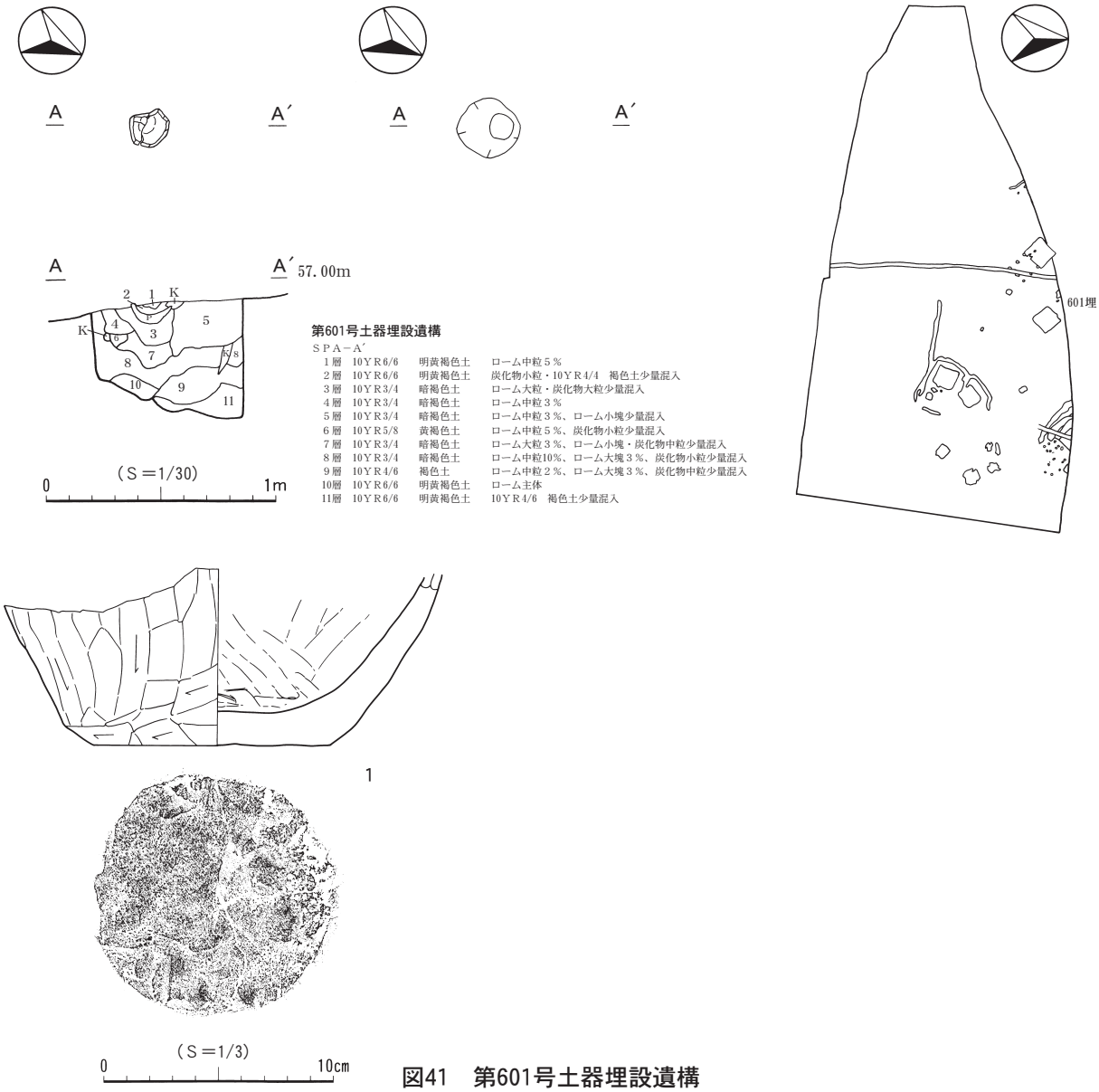


図41　第601号土器埋設遺構

5　焼土遺構

第601号焼土遺構（図42）

[位置・確認] ＣＡ－45グリッド他に位置する。

[重複] 認められないが第602号焼土遺構と同一遺構になるものと思われる。

[平面形・規模] 不整形を呈し、確認面での規模は130～200㎝を測る。

[堆積土] 10層に分層された。風倒木によって攪拌されている可能性が高い。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

[時期] 不明である。

第602号焼土遺構（図42）

[位置・確認] ＣＡ－45グリッド他に位置する。

[重複] 認められないが第601号焼土遺構と同一遺構になるものと思われる。

[平面形・規模] 不整形を呈し、確認面での規模は60～310㎝を測る。

[堆積土] 10層に分層された。第601号焼土遺構同様、風倒木によって攪拌されている可能性が高い。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

[時期] 不明である。

第603号焼土遺構（図42）

[位置・確認] ＣＢ－43グリッド他に位置する。

[重複] 認められない。

[平面形・規模] 不整な円形を呈し、400～410㎝の範囲内に収まる。

[堆積土] 比較的硬い焼土の単層と思われる。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

[時期] 不明である。

第604号焼土遺構（図42）

[位置・確認] ＣＡ－44グリッド他に位置する。

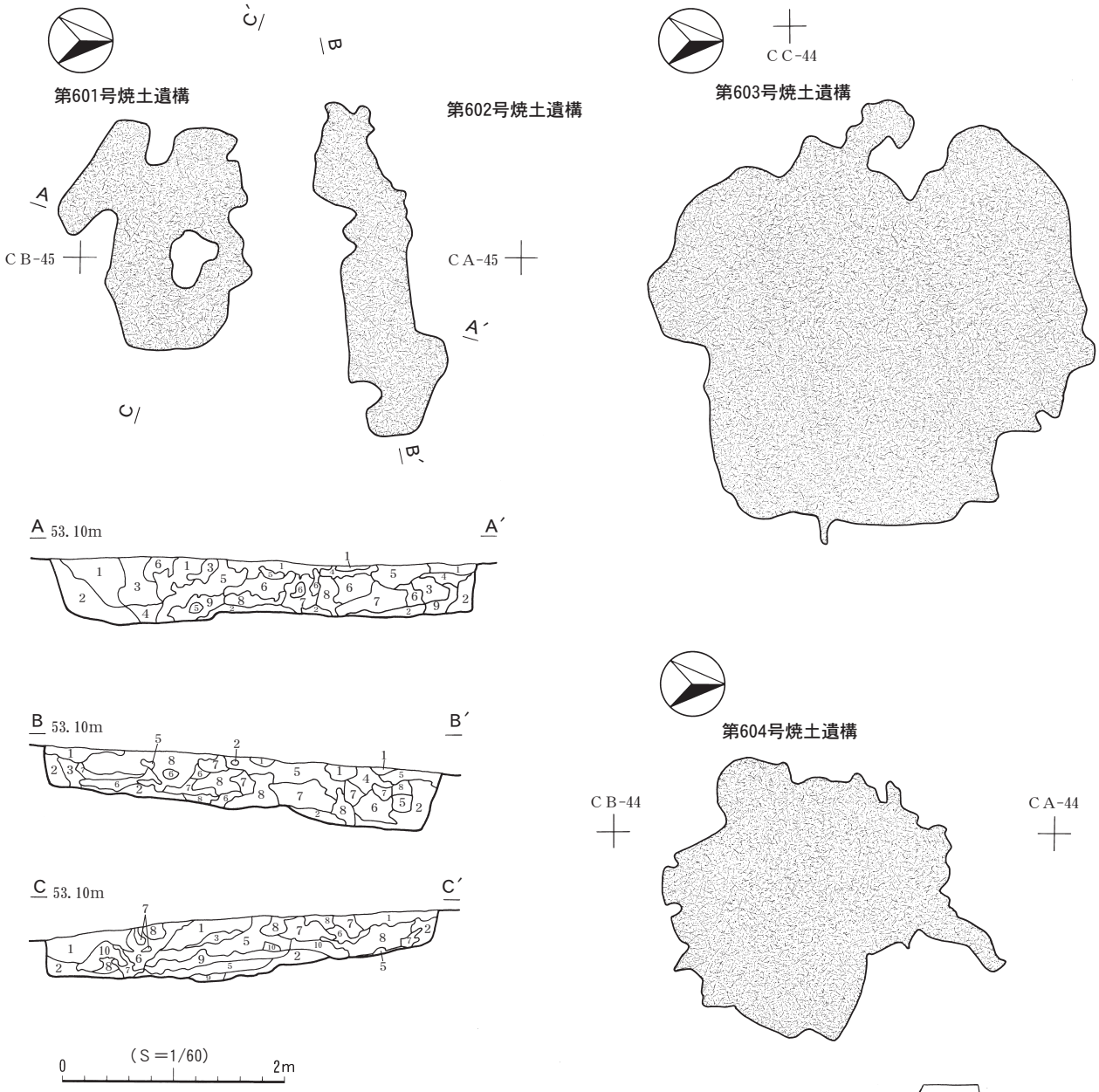
[重複] 認められない。

[平面形・規模] 不整な円形を呈し、250～320㎝の範囲内に収まる。

[堆積土] 焼土の単層と思われる。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

[時期] 不明である。　（笹森）



第601・602号焼土遺構

ＳＰＡ－Ａ′，ＳＰＢ－Ｂ′，ＳＰＣ－Ｃ′

１層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒２％
２層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム小粒２％
３層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	
４層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム中粒10％
５層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム中粒15％、焼土中粒７％
６層	7.5ＹＲ5/8	明褐色土	焼土主体
７層	7.5ＹＲ5/6	明褐色土	焼土主体
８層	7.5ＹＲ4/6	褐色土	焼土主体
９層	10ＹＲ2/1	黒色土	ローム小粒５％、焼土小粒２％
10層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	焼土大粒15％

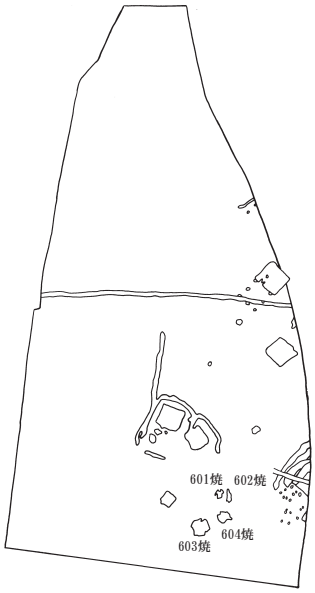


図42　第601～604号焼土遺構

第２節　出土遺物

１縄文土器（図43）

縄文時代の土器が出土している。出土した土器の時期は前期・中期・後期・晩期であり、時期別にⅣ群に分類した。

第Ⅰ群土器　前期の土器（１～23）

口縁部片２点、胴部片21点を図示した。すべて円筒下層ｄ式に比定されると思われる。胴部施文には単軸絡条体及び多軸絡条体がみられる。

第Ⅱ群土器　中期の土器（24）

口縁部片１点だけ図示した。中期末葉の土器と思われる。

第Ⅲ群土器　後期の土器（25～31）

地文無文に沈線が施されるもの（25・26）。２点図示した。十腰内Ⅰ式に比定される。

地文縄文に直線的な沈線が施されるもの（27～30）。磨消帯も有する。十腰内Ⅱ式に比定できるものと思われる。

地文縄文に幾何学的な沈線が施されるもの（31）。北海道南部の大津第７群式に比定できるものと思われる。

第Ⅳ群土器　晩期の土器（32～35）

口唇部に刻み、直下に２条の横位の平行沈線が施されるもの。34・35は同一個体と思われる胴部片。

（笹森）

２石器（図44）

石器は石鏃３点、磨製石斧１点、敲磨器類が４点出土している。

１は凹基の石鏃である。２は凸基の有茎石鏃。基部にはアスファルト状の付着物が認められる。３は柳葉型の石鏃である。１・３は尖端部を欠失する。４は磨製石斧。刃部の刃こぼれが著しい。５～８は磨り石。７・８は一部に窪みを有する。（小林）

３土師器・須恵器（図45～47）

土師器・須恵器は遺構内外から多量に出土している。土師器の器種には坏・甕・鉢・台付き甕・ミニチュア等がみられ、坏には内面黒色処理が施されるものや、内外面に処理が施されるものも認められる。甕にはロクロ成形のものと非ロクロ成形のものがみられる。須恵器には坏・甕・壺等がみられ、刻書が施される長頸壺も１点出土している。

４土製品（図８－３・図29－17・図48－１～５）

土製品は筒形土製品・碁石状土製品・土玉が出土している。すべて平安時代のものと思われる。

１は筒形土製品である。表面観察から平成10年度調査時に第318号建物跡から出土した遺物と同一個体と思われる。内面には指ナデ、外面には繊維状のものを巻いた工具によると思われる調整痕を明

瞭に残している。

２は碁石状土製品で１点出土している。直径18㎜で厚さは７㎜を計測する。表面には黒色部分が残存している。黒碁石として使用されていた可能性が高い。碁石状土製品は五所川原市の隠川⑾遺跡でも３点出土している。

３～５は土玉である。第306・604号建物跡から１点ずつ、その他、遺構外から３点の計５点、貫通孔のある土製の玉が出土している。直径・厚さは9～17㎜程のもので、中でも10㎜前後のものが３点出土している。色調は黒色を呈するものと肌色を呈するものとに分かれる。

５石製品（図48－６・７）

砥石が２点、遺構外から出土している。２点とも石質は泥岩で４面に使用痕が認められる。

６金属製品（図８－17・図29－18・図48－８～20）

図示できた金属製品は遺構内外を含め15点。板状のものが３点、環状のものが２点、釣り手状のものが１点、釘状のものが３点、薄い板状のものが１点、金属塊状のものが３点、遺構外から出土している。その他、形状不明の金属製品が第306号建物跡外周溝から１点、椀型滓が第604号建物跡の竪穴内から１点出土している。

７その他（図48－21～24）

近世のものとして、古銭が３点出土している。また、近代のアルミ銭貨が１点出土している。

古銭は遺構外から３点出土している。21は寛永通宝。無背の古寛永と思われる。22も寛永通宝。無背の新寛永と思われる。23は文久永宝で、背面には11波が見られる。24は昭和18年の銘があるアルミ製の１銭貨である。腹面には菊の御紋と富士山が見られる。（笹森）

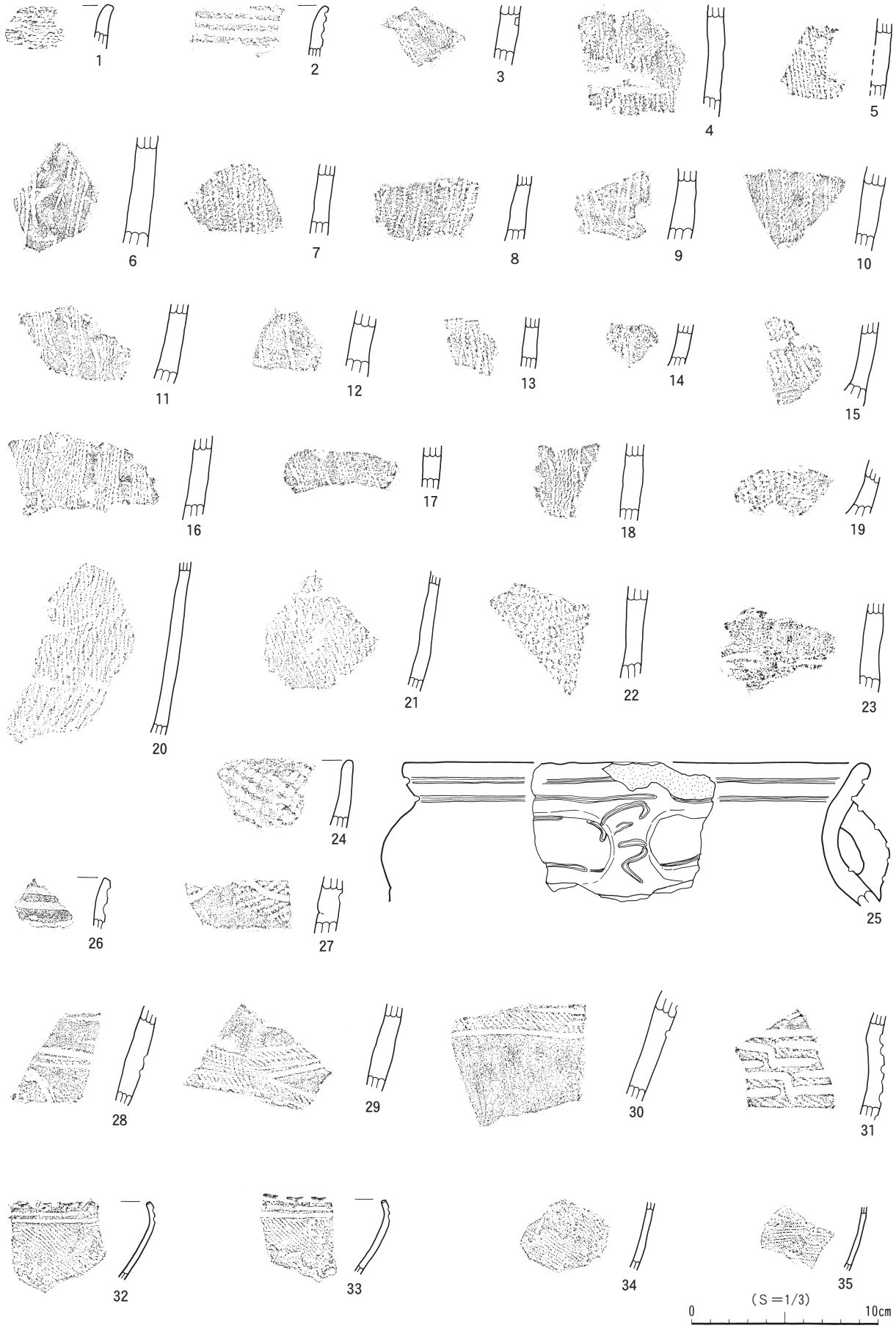


図43　遺構外出土遺物 1

図44　遺構外出土遺物２

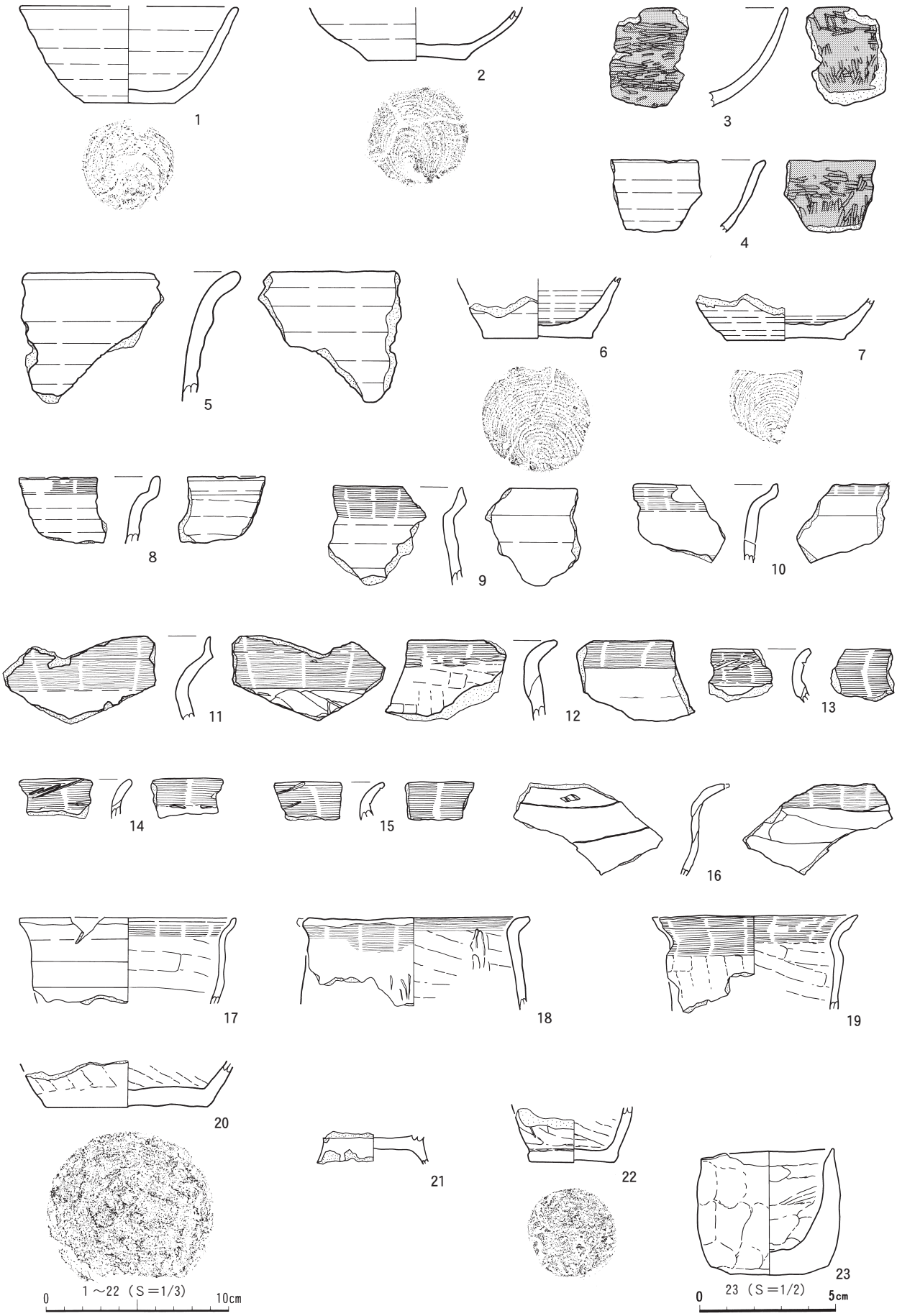


図45　遺構外出土遺物３

図46　遺構外出土遺物４

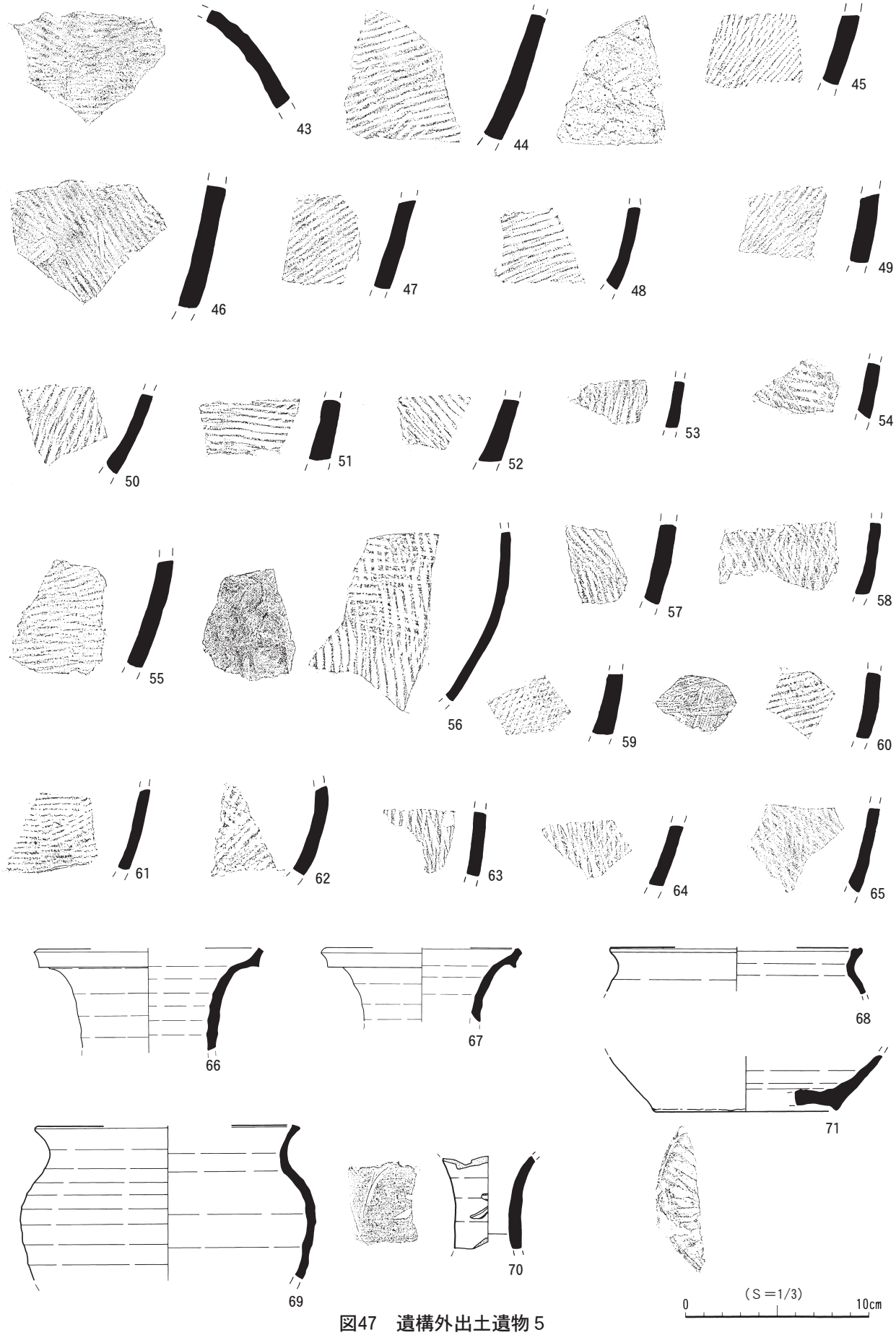


図47　遺構外出土遺物５

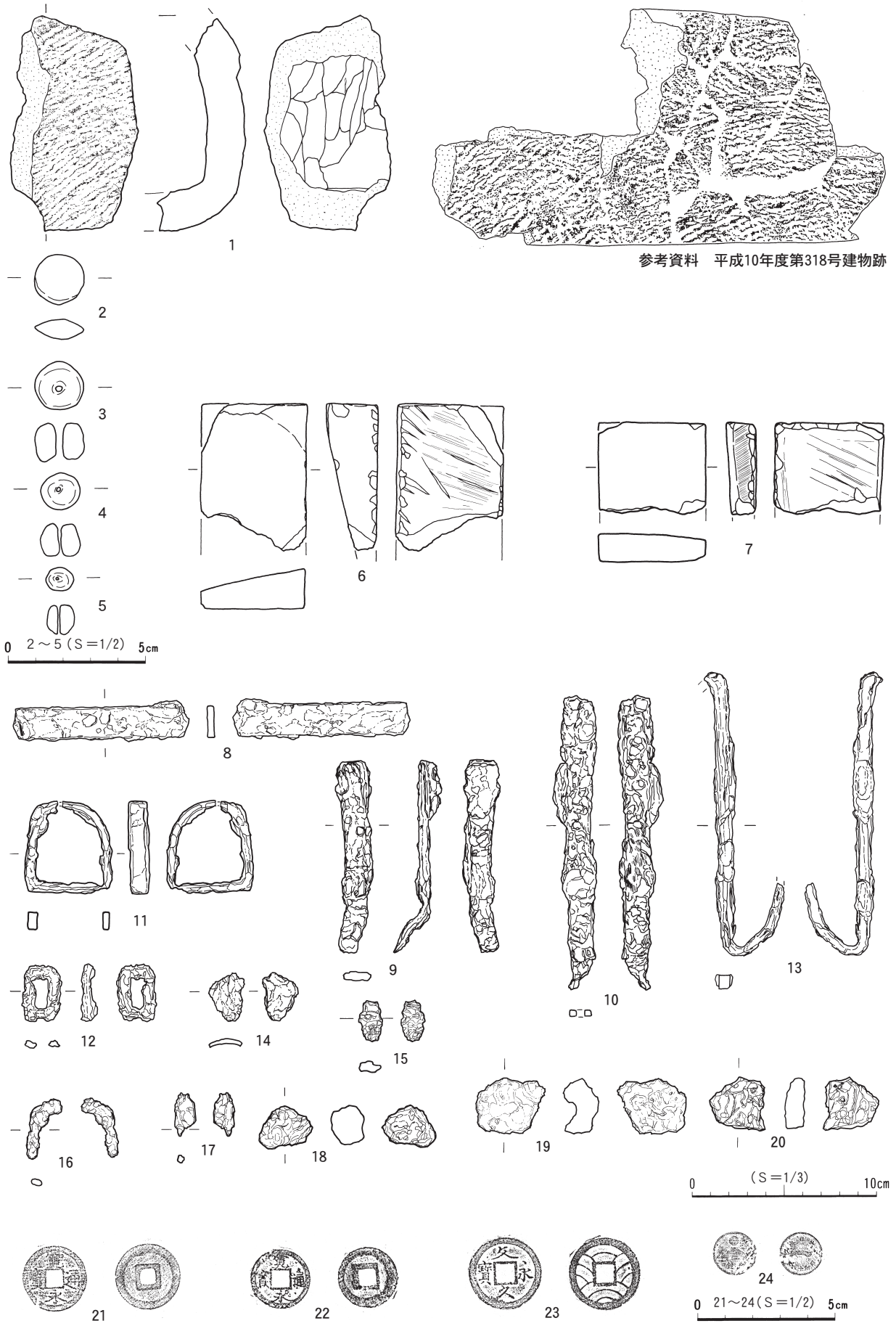


図48　遺構外出土遺物６

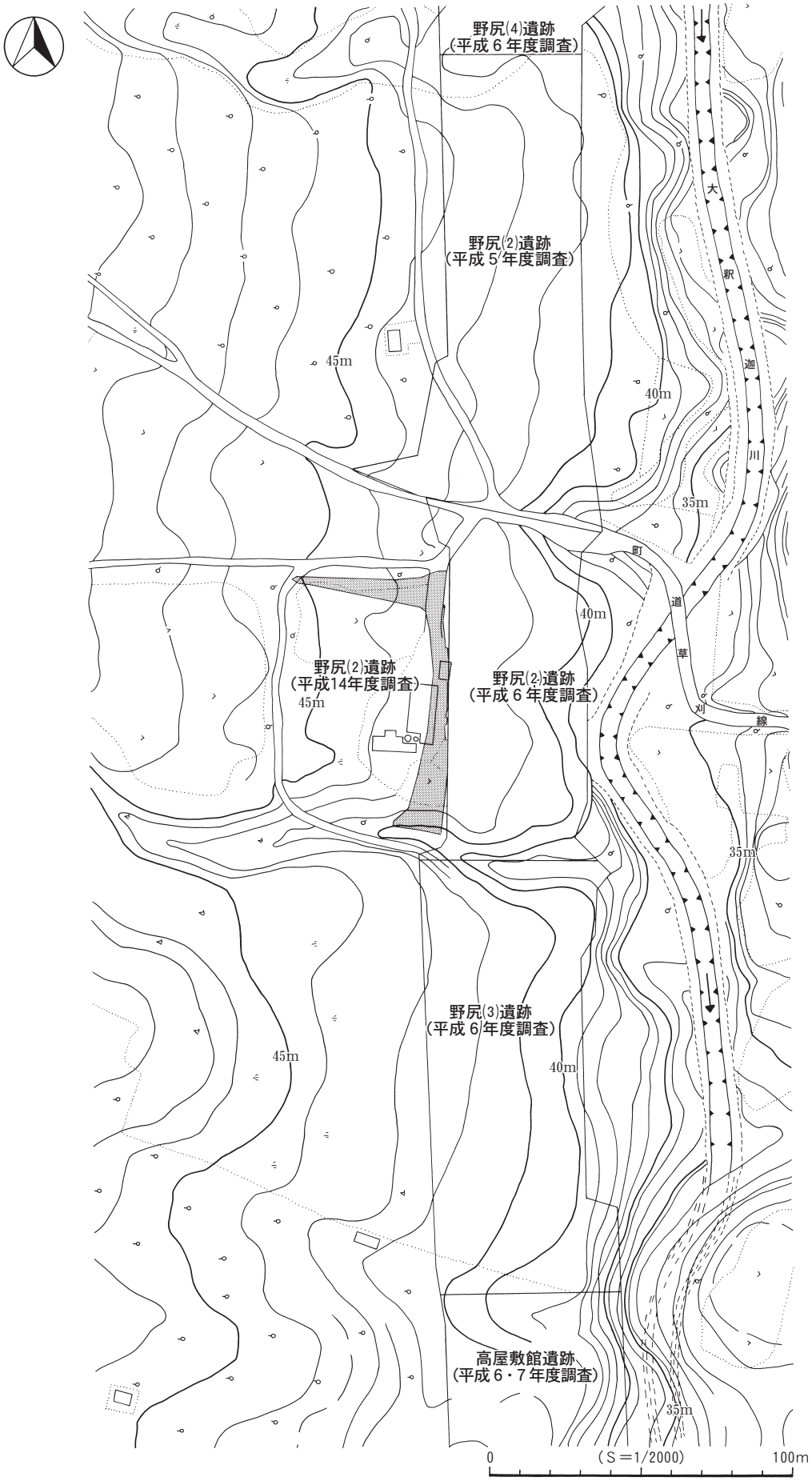


図49　野尻(2)遺跡調査区及び周辺地形図

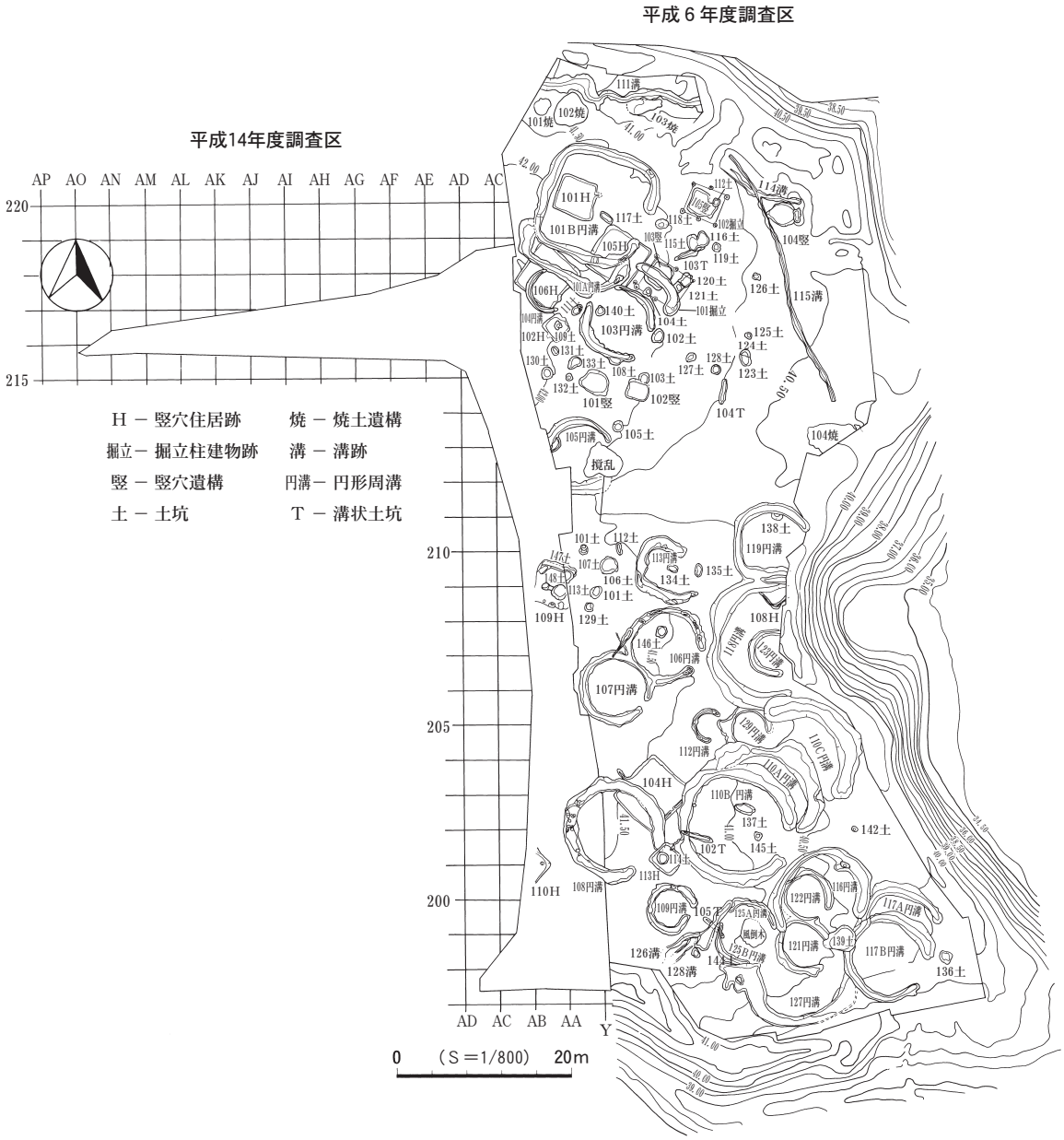


図50　野尻(2)遺跡遺構配置図

第５章　野尻(2)遺跡から検出された遺構と遺物

第１節　検出された遺構と出土遺物

今回の調査で検出された遺構は、竪穴住居跡２軒、土坑１基、円形周溝１基である。平成６年度の調査で検出された遺構の延長部分は遺構名を踏襲して精査を行った。また、新規の遺構は調査時には種別毎に「第201号」から順に番号を付したが、本報告書では前回報告の遺構番号の続きで記載した。したがって、竪穴住居跡は「第109号」、土坑は「第148号」からとなっている。以下各遺構ごとに概要を記述する。

１　竪穴住居跡

第109号竪穴住居跡（図51・52）

［位置・確認］ＡＡ－208グリッド他に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。東西の一部が調査区域外にかかっている。

［重複］第148号土坑と重複している。新旧関係は不明であるが、前回の調査事例から、本遺構が古い可能性が高い。

［平面形・規模］方形を呈するものと思われる。推定長軸474㎝、推定短軸434㎝を測る。

［堆積土］２層に分層された。

［床面・壁］かなり削平を受けているため、床面或いは掘り方での検出である。壁はほとんど検出できなかった。

［カマド］南東壁やや東寄りで検出された。遺存状態は悪く袖部はほとんど残存しない。

［柱穴］検出されなかった。

［その他の施設］北西隅から不整形の落ち込みが検出されている。検出面からの深さは約20㎝。

［出土遺物］図示できた遺物は７点。１は土師器坏。体部下半を欠失する。２～４は土師器甕の口縁部片。２は肩部に稜を持つ。３の口縁部はやや緩く、４は急に外反している。５も土師器甕。口縁部外面に指頭圧痕を明瞭に残している。６は土師器甕の胴部下半。外面はヘラ削り調整が施される。７は鞴の羽口片。溶着物や被熱赤化した部分は認められない。端部から離れた部分と思われる。

［小結］９世紀代の竪穴住居跡と思われる。前回の調査区からは本遺構の延長部と思われる遺構は検出されていない。グリッドも前回と今回の調査では違うため判然としないが、位置的には平成６年度調査時の第113・147号土坑付近にあたるものと思われ、重複していた可能性が考えられる。第147号土坑と呼称した部分が本遺構の一部であった可能性も考えられる。（笹森）

第110号竪穴住居跡（図53）

［位置・確認］ＡＡ－202グリッド他に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

［重複］確認範囲では認められない。遺構は西側調査区域外にも存在しているため不明である。

［平面形・規模］方形を呈するものと思われるが全体の規模は不明。確認面からの深さは約30㎝を測

る。

［堆積土］15層に分層された。人為堆積の様相を呈している。

［床面・壁］床はほぼ平坦で、一部が硬くしまっている。壁は壁周溝からやや急に立ち上がっている。

［カマド］検出されなかった。調査区域外に存在するものと思われる。

［柱穴］検出されなかった。

［その他の施設］浅いピットが１基床面から検出されている。

［出土遺物］床面から小型の壺型土器を始め土師器が出土している。図示し得たのは４点。１は土師器甕の口縁部片。焼成前の穿孔痕が認められる。２は土師器鉢。内外面ともヘラナデ調整が施される。３は小型の土師器壺。器高は７㎝で、最大径は肩部にもっている。口縁部はやや外反気味に立ち上がっている。内外面に煤状の付着物が認められる。外面の一部に被熱によると思われるハジケ痕が認められる。付着物の様子から灯明用に使用されていた可能性も考えられる。４はミニチュア土器。底部は高台気味に作られている。その他、堆積土中及び床面からは炭化材が数点出土している。

［小結］焼失家屋である。出土遺物から９世紀代中～後葉に構築・焼失した竪穴住居跡と考えられる。床面から出土した炭化材の放射性炭素年代測定の結果は第６章第３節に掲載している。　(樋口)

２　土坑

第148号土坑（図51・52）

［位置・確認］ＡＡ－208グリッドに位置する。

［重複］第109号竪穴住居跡と重複している。新旧関係は不明。位置的には平成６年度調査時の第113・147号土坑に近接するものと思われる。

［平面形・規模］円形を呈し長径168㎝、短径160㎝、深さは70㎝を測る。

［堆積土］12層に分層された。

［底面・壁］底面はほぼ平坦である。壁は北東部で一部オーバーハングする他は底面からほぼ垂直に立ち上がっている。

［出土遺物］底面から土師器片が出土している。図示し得たのは３点。８は土師器坏。器厚は比較的薄い。９は土師器甕。胴部下半を欠失する。幅が比較的細めの削り調整が施される。10は土師器甕の胴～底部片。ヘラ削り調整が施される。底部は砂敷き。

［小結］出土遺物より平安時代の土坑と考えられる。平成６年度の調査事例から、第109号竪穴住居跡より新しい可能性がある。　(笹森)

３　円形周溝

第108号円形周溝（図54・55）

［位置・確認］Ｙ－201グリッド他に位置する。第Ⅲ層中で確認した。平成６年度の調査で東側部分が精査されている。

［重複］今回の調査部分では認められなかった。

［平面形・規模］南東方向に開口部を持ち、馬蹄形を呈している。開口部の幅は３m程である。前回調査部分を含めた全体の規模は外径で約11.5m内径で約8.5mを測る。周溝の幅は上面幅で104～182㎝、底面幅で27～155㎝を測る。

［堆積土］５～８層に分層された。最下層の埋め戻し部分を除き自然堆積の様相を呈している。白頭山火山灰が部分的にレンズ状に堆積している。

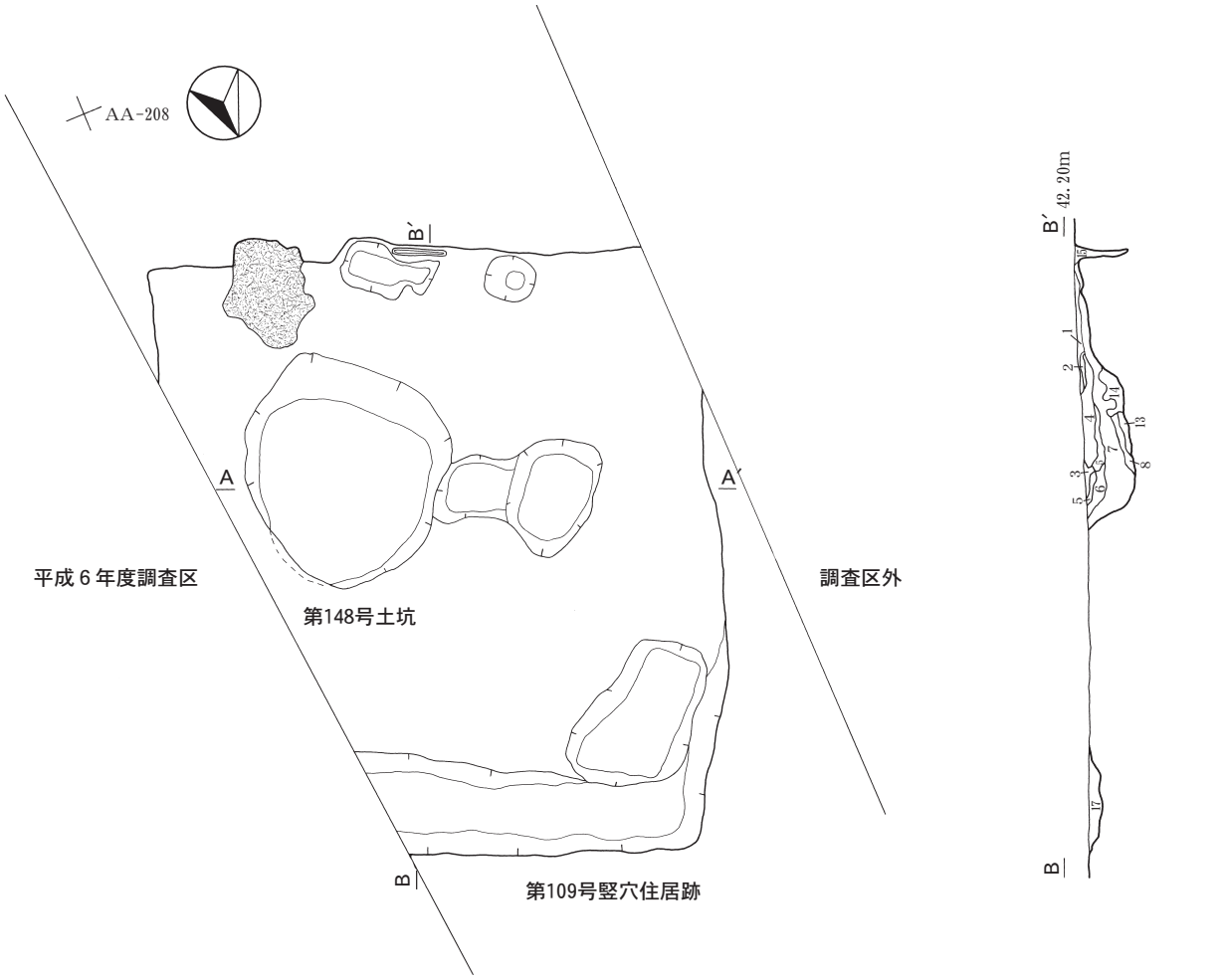
［底面・壁］底面は粗掘り後にロームと黒土を使って埋め戻され、ほぼ平滑に作られている。壁は底面から内径方向にはやや急に、外径方向には緩やかに立ち上がっている。深さは28～66㎝を測る。

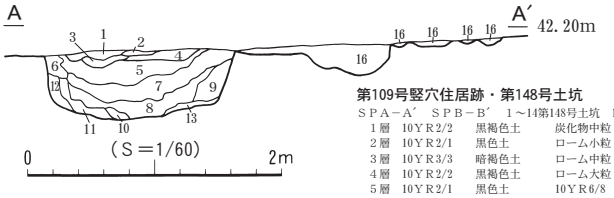
［出土遺物］堆積土中から土師器・須恵器片が出土している。図示し得たのは６点。１～３は土師器坏。４は土師器甕の口縁部片。粘土紐の接合痕が認められる。５はミニチュア土器の底部。６は須恵器甕の胴部片。７～17は前回調査時に出土した遺物で、参考資料として再トレースして提示した。７・８は土師器坏。９～17は釘状鉄製品で底面直上から８点が連なって出土している。

［時期］堆積土中の火山灰から９世紀後半に構築されたものと考えられる。（樋口）

第２節　遺構外出土遺物（図55　18～21）

遺構外からは土師器・須恵器片が出土している。遺物の量は包含層が削平を受けていたためか総じて少ない。図示できた遺物は４点である。４点共に土師器坏。20・21は内面に黒色処理が施されている。（笹森）





第109号竪穴住居跡・第148号土坑

ＳＰＡ－Ａ′　ＳＰＢ－Ｂ′　１～14第148号土坑　15・16・17第109号竪穴住居跡

１層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	炭化物中粒・５ＹＲ3/4　明赤褐色土少量混入、しまり有
２層	10ＹＲ2/1	黒色土	ローム小粒２％、焼土中粒・５ＹＲ3/4　明赤褐色土少量混入、しまり有
３層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒３％、しまり有
４層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム大粒３％、しまり有
５層	10ＹＲ2/1	黒色土	10ＹＲ6/8　明黄褐色との混合土、しまりやや有
６層	10ＹＲ4/6	褐色土	10ＹＲ1.7/1　黒色との混合土、しまり有
７層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒・ローム大塊３％、炭化物中粒２％、焼土小粒少量混入、しまり有
８層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒・ローム大塊５％、炭化物中粒２％、焼土中粒少量混入、しまり有
９層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒３％、炭化物中粒２％、焼土小粒少量混入、しまりやや有
10層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム大粒３％、10ＹＲ5/6　黄褐色土少量混入、しまりやや有
11層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒・ローム大塊５％、炭化物中粒２％、焼土小粒少量混入、しまり有
12層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊７％、炭化物小粒２％、焼土小粒少量混入、しまり有
13層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒５％、10ＹＲ1.7/1　黒色土・10ＹＲ6/8　明黄褐色土少量混入、しまりやや有
14層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム中粒10％
15層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム中粒５％、10ＹＲ6/6　明黄褐色土少量混入
16層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム中粒５％、しまり有
17層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム中粒20％、しまり有

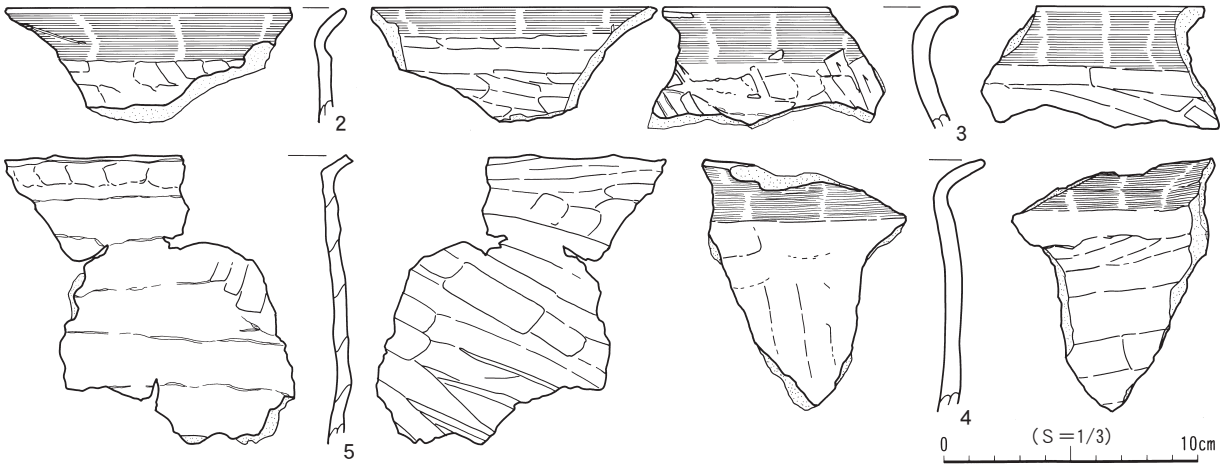
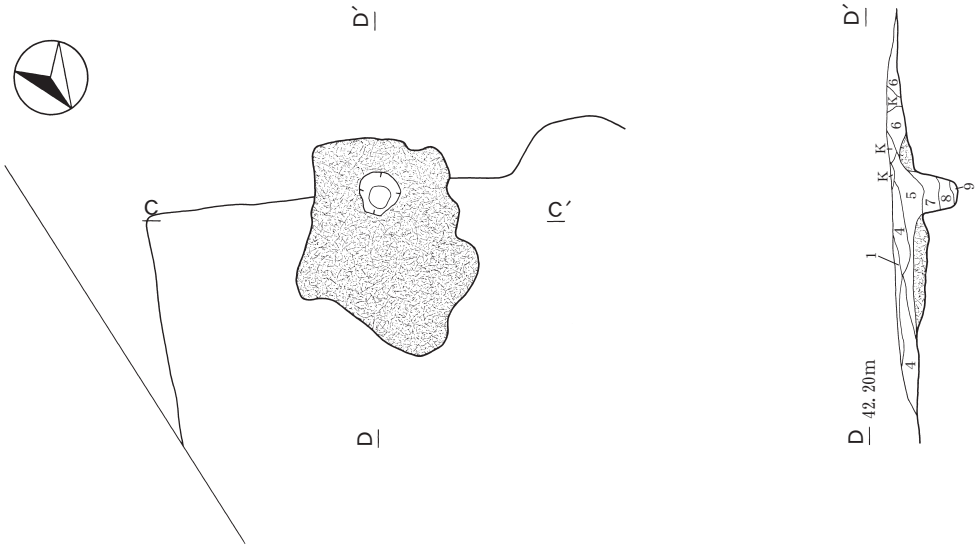
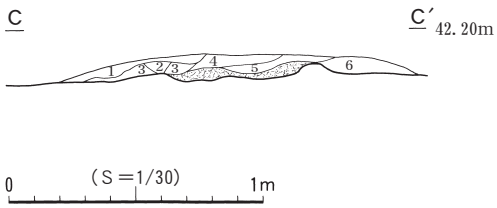
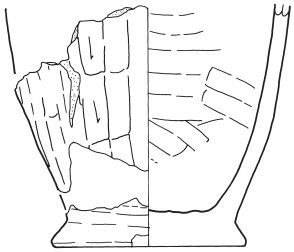


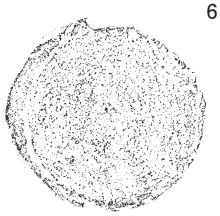
図51　第109号竪穴住居跡・第148号土坑１







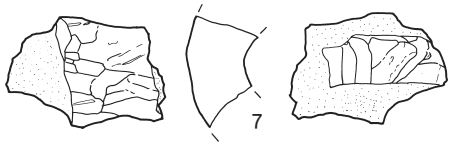
6



第109号竪穴住居跡カマド

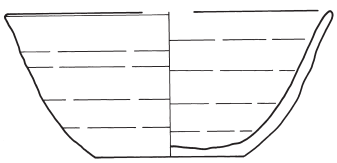
ＫＳＰＣ－Ｃ′　ＫＳＰＤ－Ｄ′

１層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	橙色小粒２％、粘性有、しまり有
２層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	橙色中粒５％、粘性やや有、しまり有
３層	10ＹＲ5/6	黄褐色土	炭化物大粒10％、橙色中粒２％、粘性やや有、しまり有
４層	10ＹＲ4/4	褐色土	炭化物大粒５％、橙色粒子２％、砂質、粘性やや有、しまり有
５層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	橙色小塊２％、しまり有
６層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	10ＹＲ4/6　褐色ロームとの混合土、粘性有、しまり有
７層	10ＹＲ5/6	黄褐色土	同色ローム小塊主体、粘性有、しまり有
８層	10ＹＲ5/8	黄褐色土	同色ローム中塊主体、砂質、粘性有、しまり有
９層	10ＹＲ5/8	黄褐色土	同色ローム主体、粘性有、しまり有

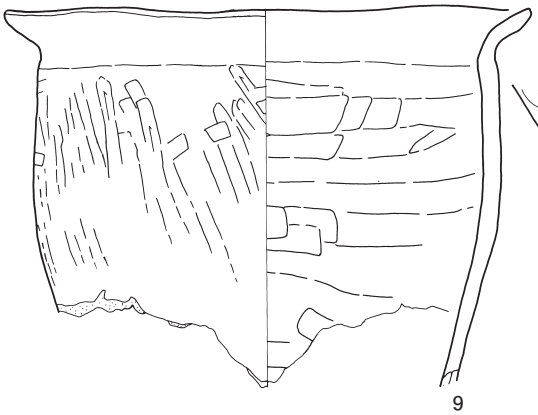


7

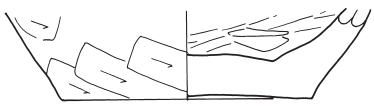
※６・７　第109号竪穴住居跡



8



9

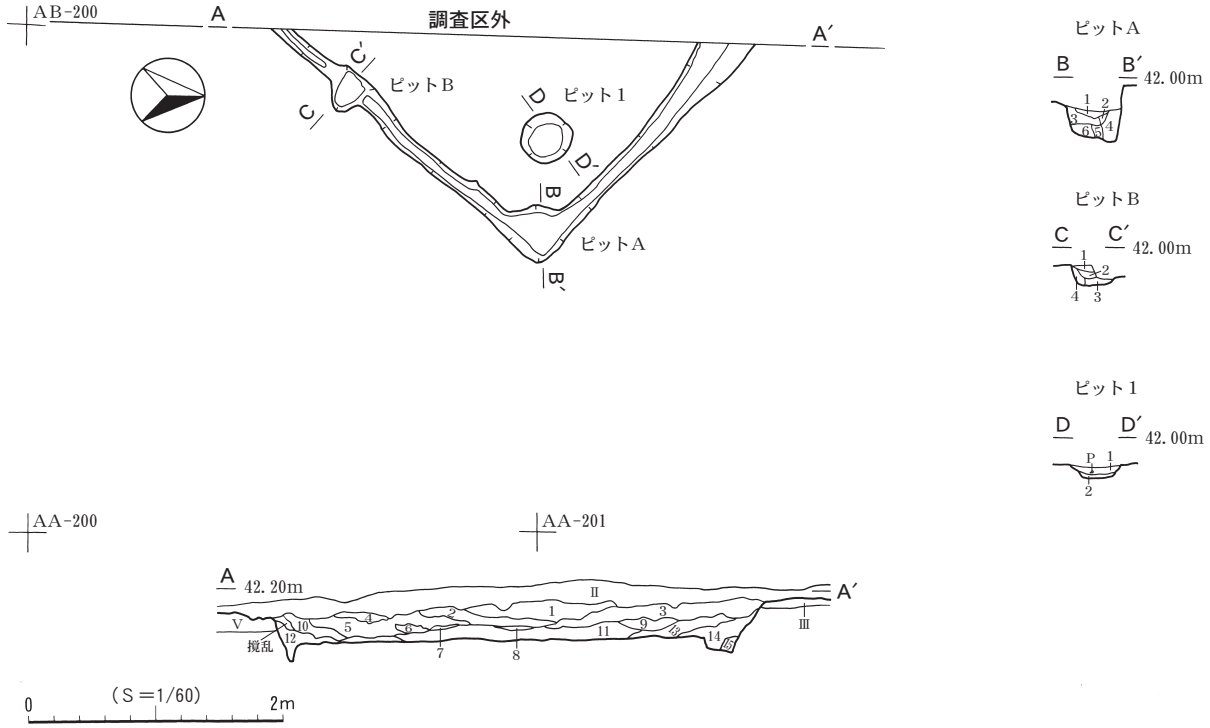


10

※８～10　第148号土坑

0　(S＝1/3)　10cm

図52　第109号竪穴住居跡・第148号土坑２



第110号竪穴住居跡

ＳＰＡ－Ａ′

１層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒・ローム大塊７％、ややかたい土
２層	10ＹＲ4/3	にぶい黄褐色土	ローム小粒・ローム大塊３％、炭化物小粒少量混入、やや柔らかい
３層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊10％、炭化物小粒少量混入、かたい土
４層	10ＹＲ4/3	にぶい黄褐色土	ローム小粒・ローム中塊５％、かたい土
５層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒少量混入、やや柔らかい
６層	10ＹＲ4/3	にぶい黄褐色土	ローム中粒３％、やや柔らかい土
７層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム中粒５％、柔らかい土
８層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒・炭化物小粒少量混入、柔らかい土
９層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム中粒３％、やや柔らかい土
10層	10ＹＲ4/3	にぶい黄褐色土	ローム小粒・ローム大塊20％、柔らかい土
11層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム小粒・ローム大塊・炭化物小粒少量混入、柔らかい土
12層	10ＹＲ5/4	にぶい黄褐色土	ローム小粒・ローム大塊25％、柔らかい土
13層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒・ローム大塊５％、柔らかい土
14層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム小粒・ローム中塊15％、柔らかい土
15層	10ＹＲ2/1	黒色土	ローム小粒・ローム大塊50％、柔らかい土

第110号竪穴住居跡周溝内　ピットＡ

ＳＰＢ－Ｂ′

１層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	ローム小粒・ローム小塊５％
２層	10ＹＲ4/4	褐色土	ローム小粒７％、粘土少量混入
３層	10ＹＲ4/4	褐色土	ローム小粒７％、焼土中粒少量混入、しまりやや有
４層	10ＹＲ3/4	暗褐色土	ローム小粒・ローム小塊10％
５層	10ＹＲ4/6	褐色土	ローム中粒５％、しまり有
６層	10ＹＲ5/4	にぶい黄褐色土	ローム中粒３％、粘土少量混入、しまり有

第110号竪穴住居跡周溝内　ピットＢ

ＳＰＣ－Ｃ′

１層	10ＹＲ4/4	褐色土	ローム小粒・ローム小塊10％、焼土中粒５％、炭化物中粒少量混入
２層	10ＹＲ4/3	にぶい黄褐色土	ローム中粒・焼土大粒３％、炭化物中粒２％
３層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	焼土中粒５％、ローム中粒２％、炭化物中粒少量混入
４層	10ＹＲ4/4	褐色土	ローム小粒・焼土小粒３％

ピット1

ＳＰＤ－Ｄ′

１層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	炭化物中粒・焼土中粒３％
２層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	10ＹＲ6/8　明黄褐色との混合土、焼土中粒少量混入

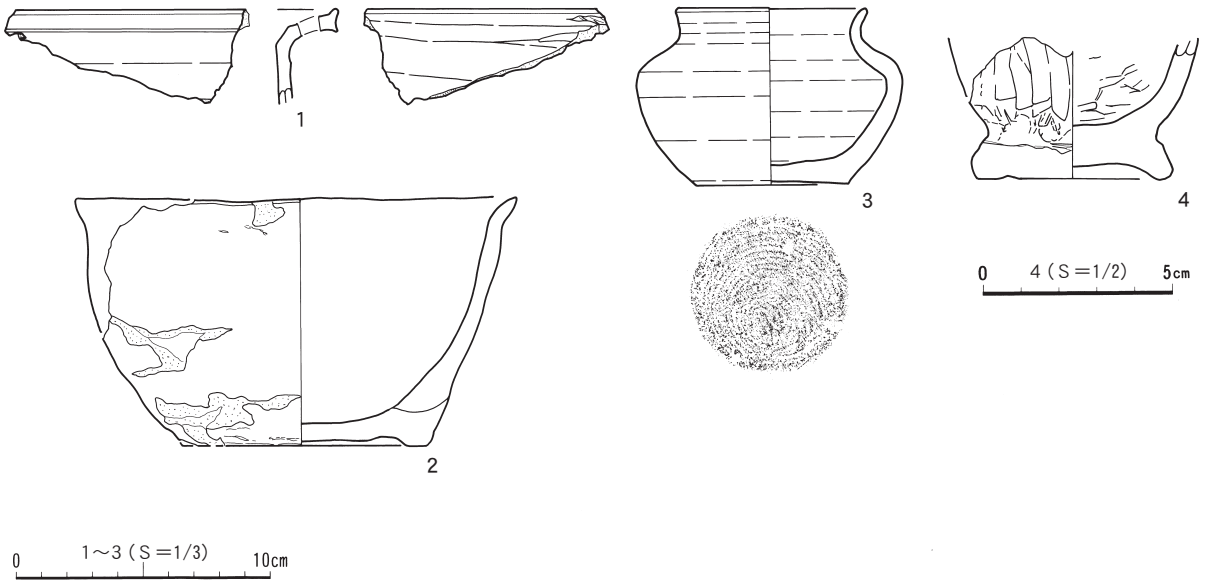
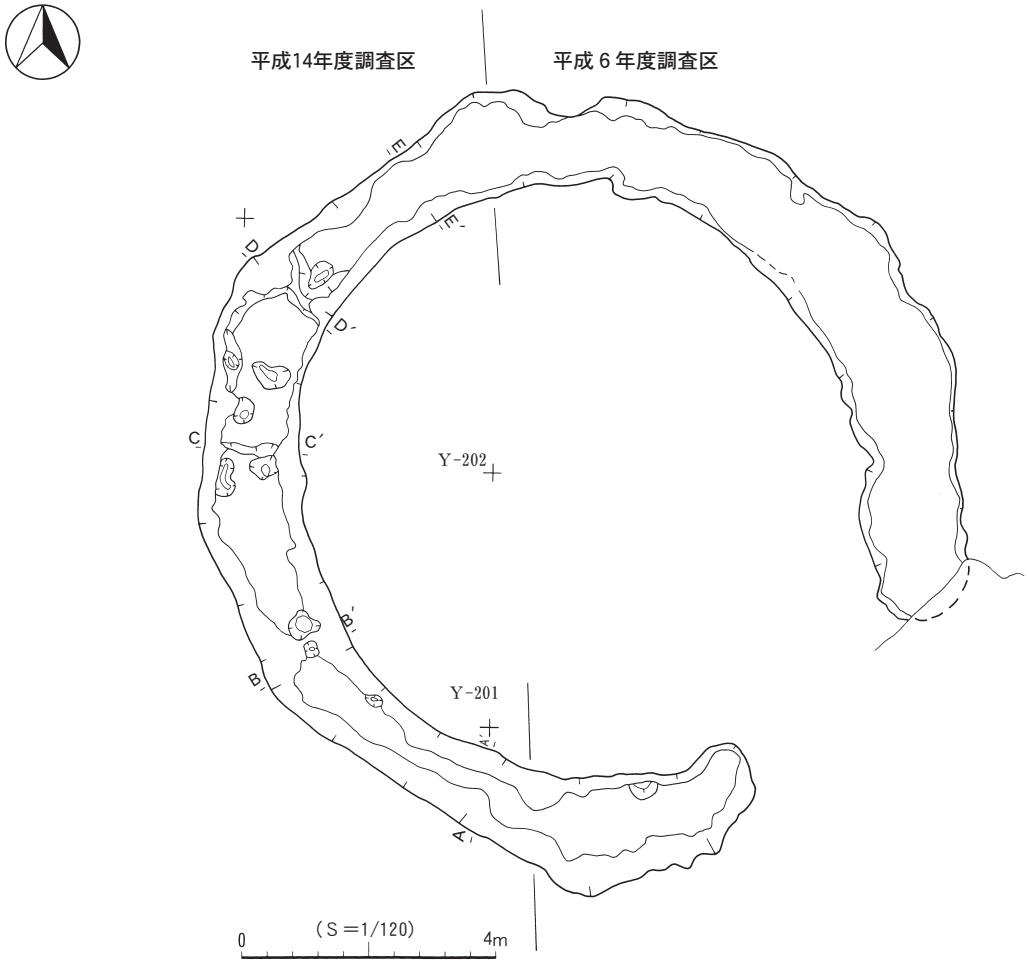
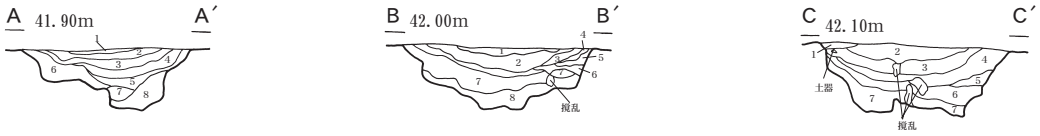


図53　第110号竪穴住居跡





第108号円形周溝

ＳＰＡ－Ａ′

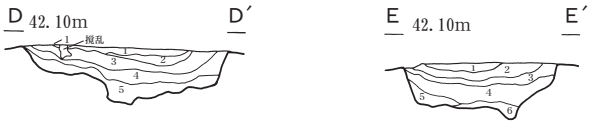
１層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	柔らかい土
２層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	10ＹＲ2/2　黒褐色との混合土、ローム小粒少量混入、柔らかい土
３層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	Ｂ－Ｔｍ多量混入、ローム小粒少量混入、柔らかい土
４層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊20％、ややかたい
５層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒・ローム小塊５％、柔らかい土
６層	10ＹＲ2/3	黒褐色土	ローム小粒・ローム大塊45％、柔らかい土
７層	10ＹＲ2/1	黒色土	ローム大粒少量混入、ややかたい土
８層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒25％、柔らかい土

ＳＰＢ－Ｂ′

１層	10ＹＲ2/1	黒色土	柔らかい土
２層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム大粒少量混入、柔らかい土
３層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	Ｂ－Ｔｍ多量混入、柔らかい土
４層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒少量混入、柔らかい土
５層	10ＹＲ3/3	暗褐色土	ローム中粒３％、柔らかい土
６層	10ＹＲ3/1	黒褐色土	ローム小粒少量混入、柔らかい土
７層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒・ローム中塊５％、柔らかい土
８層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	ローム小粒・ローム大塊45％、柔らかい土

ＳＰＣ－Ｃ′

１層	10ＹＲ2/1	黒色土	ローム小粒少量混入、かたい土
２層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	かたい土
３層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	かたい土
４層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	10ＹＲ3/3　暗褐色との混合土、Ｂ－Ｔｍ多量混入、柔らかい土
５層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム中粒５％、柔らかい土
６層	10ＹＲ2/2	黒褐色土	ローム小粒・ローム大塊３％、柔らかい土
７層	10ＹＲ3/2	黒褐色土	ローム小粒・ローム大塊20％、柔らかい土



ＳＰＤ－Ｄ′

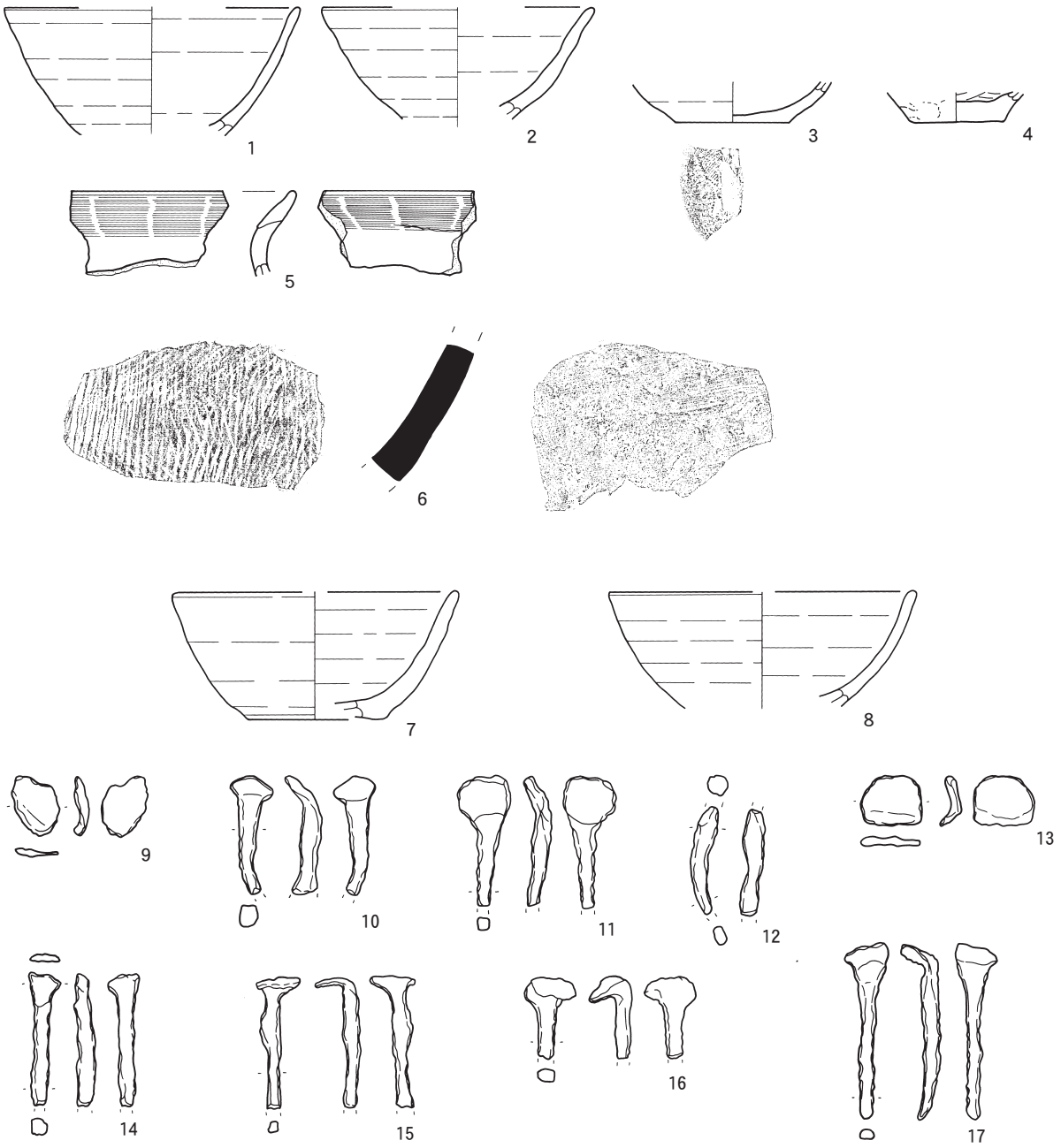
１層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ややかたい
２層	10ＹＲ2/1	黒色土	柔らかい
３層	10ＹＲ2/1	黒色土	10ＹＲ2/2　黒褐色との混合土、Ｂ－Ｔｍ多量混入、やや柔らかい
４層	10ＹＲ2/1	黒色土	ローム中粒３％、柔らかい
５層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム小粒・ローム中塊15％、柔らかい

ＳＰＥ－Ｅ′

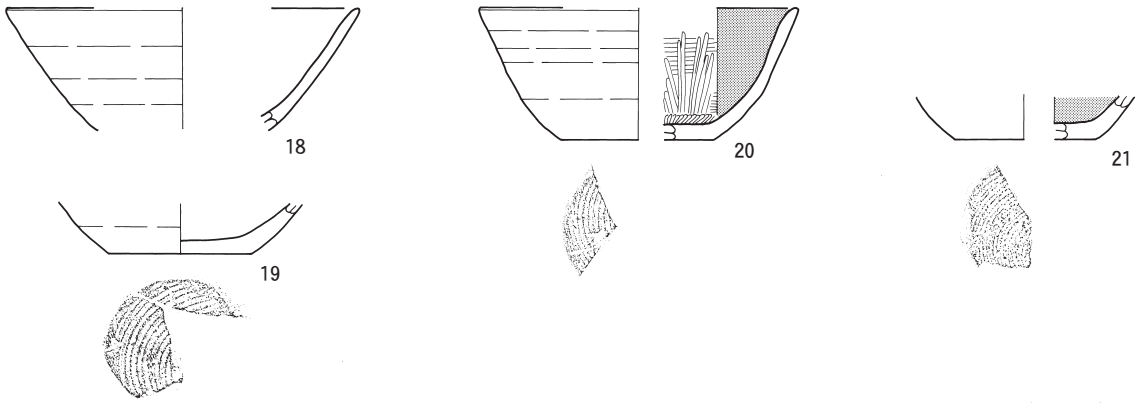
１層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	柔らかい土
２層	10ＹＲ2/1	黒色土	10ＹＲ2/2　黒褐色との混合土、Ｂ－Ｔｍ少量混入、柔らかい
３層	10ＹＲ2/1	黒色土	炭化物粒少量混入、柔らかい
４層	10ＹＲ2/1	黒色土	ローム小粒少量混入、柔らかい土
５層	10ＹＲ1.7/1	黒色土	ローム小粒少量混入、柔らかい土
６層	10ＹＲ2/1	黒色土	ローム小粒・ローム小塊15％、柔らかい土

0　(S＝1/60)　2m

図54　第108号円形周溝１



※１～17　第108号円形周溝（１～６　平成14年度・７～17　平成６年度）



※18～21　遺構外

（S＝1/3）
0　10cm

図55　第108号円形周溝２・遺構外出土遺物

野尻(1)遺跡出土遺物観察表

図	番号	出土地点	種類	器種	部位	出土位置・層位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面	内面	底部	備考
8	1	ＳＩ-320・306	土師器	坏	口縁～底部	竪穴堆積土	(14.0)	5.6	5.9	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	
8	2	ＳＩ-320・306	土師器	坏	口縁～底部	竪穴堆積土	(11.6)	(5.4)	4.9	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	
8	3	ＳＩ-320・306	土師器	坏	体～底部	竪穴堆積土	－	5.4	(3.4)	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	
8	4	ＳＩ-320・306	土師器	坏	口縁～底部	竪穴堆積土	(13.2)	(6.0)	5.8	ロクロ	黒色処理・ミガキ	回転糸切り	
8	5	ＳＩ-320・306	土師器	甕	口縁～胴部	竪穴堆積土	(17.0)	－	(6.3)	ヘラナデ	ヘラナデ	－	
8	6	ＳＩ-320・306	土師器	甕	口縁～胴部	竪穴堆積土	(18.8)	－	(8.4)	ヘラナデ	ヘラナデ	－	
8	7	ＳＩ-320・306	須恵器	甕	胴部	竪穴堆積土	－	－	－	敲き目	当て具痕	－	
図	番号	出土地点	種類	器種	部位	出土位置・層位	直径(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	表面色調	穿孔	胎土	備考
8	8	ＳＩ-320・306	土製品	土玉	完形	竪穴堆積土	11	11	7	黒色	有	緻密	
図	番号	出土地点	種類	器種	遺存度	出土位置・層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質		備考
8	9	ＳＩ-320・306	石器	敲磨器	1	竪穴堆積土	102	54	31	222.9	流紋岩		
図	番号	出土地点	種類	器種	部位	出土位置・層位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面	内面	底部	備考
8	10	ＳＩＤ-306	土師器	坏	口縁～底部	外周溝堆積土	11.6	(6.0)	5.3	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	
8	11	ＳＩＤ-306	土師器	坏	底部	外周溝堆積土	－	5.2	(1.6)	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	
8	12	ＳＩＤ-306	須恵器	坏	口縁～底部	外周溝堆積土	13.6	(4.8)	5.4	ロクロ・火襷	ロクロ	回転糸切り	
8	13	ＳＩＤ-306	土師器	甕	胴～底部	外周溝堆積土	－	6.6	(3.6)	ヘラナデ	ヘラナデ	砂敷	
8	14	ＳＩＤ-306	土師器	甕	胴～底部	外周溝堆積土	－	6.0	(6.1)	ヘラナデ	不明瞭	砂敷	
8	15	ＳＩＤ-306	土師器	甕	胴～底部	外周溝堆積土	－	(6.0)	(3.6)	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラケズリ	
8	16	ＳＩＤ-306	須恵器	甕	胴部	外周溝堆積土	－	－	－	敲き目	当て具痕	－	
図	番号	出土地点	種類	器種	遺存度	出土位置・層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)			備考
8	17	ＳＩＤ-306	金属製品	不明	2	外周溝堆積土	(3.2)	1.7	1.1	(5.5)			
図	番号	出土地点	種類	器種	部位	出土位置・層位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面	内面	底部	備考
10	1	ＳＩ-317	土師器	坏	略完形	カマド堆積土	13.0	5.8	5.0	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	
10	2	ＳＩ-317	土師器	小型甕	完形	カマド火床面	14.8	7.0	14.5	ヘラナデ	ヘラナデ	砂敷	カマド支脚
10	3	ＳＩ-317	土師器	甕	口縁～胴部	カマド堆積土	(23.2)	－	(12.7)	ロクロ	ロクロ	－	
10	4	ＳＩ-317	土師器	甕	口縁～胴部	カマド堆積土	(27.2)	－	(14.7)	ヘラナデ	ヘラナデ	－	
図	番号	出土地点	種類	器種	部位	出土位置・層位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面	内面	底部	備考
14	1	ＳＩ-601	土師器	坏	完形	堆積土	12.4	5.6	5.2～5.6	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	
14	2	ＳＩ-601	土師器	甕	口縁～胴部	カマド堆積土	(20.8)	－	(13.0)	ロクロ・ヘラケズリ	ロクロ	－	
14	3	ＳＩ-601	土師器	小型甕	略完形	カマド堆積土	12.8	7.4	12.8	ヘラナデ	ヘラナデ	砂敷	
14	4	ＳＩ-601	土師器	甕	胴～底部	カマド堆積土	－	9.6	(8.1)	ヘラケズリ	刷毛目・ヘラナデ	砂敷	
14	5	ＳＩ-601	土師器	甕	胴～底部	堆積土	－	(7.0)	(5.9)	摩耗	摩耗	－	
14	6	ＳＩ-601	土師器	甕	胴～底部	堆積土	－	(9.4)	(5.8)	ヘラナデ	ヘラナデ(細)	－	
14	7	ＳＩ-601	土師器	甕	胴～底部	カマド堆積土	－	(7.8)	(5.5)	ヘラナデ	ヘラナデ	－	
図	番号	出土地点	種類	器種	部位	出土位置・層位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面	内面	底部	備考
16	1	ＳＩ-602	土師器	坏	底部	堆積土	－	5.6	(0.9)	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	
16	2	ＳＩ-602	土師器	甕	胴～底部	堆積土	－	(9.4)	(3.3)	ヘラケズリ	刷毛目	砂敷	
図	番号	出土地点	種類	器種	遺存度	出土位置・層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	使用面	備考
16	3	ＳＩ-602	石製品	砥石状	2	堆積土	(72)	48	20	(50.0)	泥岩	2	
図	番号	出土地点	種類	器種	部位	出土位置・層位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面	内面	底部	備考
20	1	ＳＩ-603	須恵器	坏	体～底部	堆積土	－	5.2	(2.7)	ロクロ・火襷	ロクロ・火襷	回転糸切り	十字火襷
20	2	ＳＩ-603	須恵器	坏	口縁～体部	堆積土	(11.8)	－	(5.1)	ロクロ	ロクロ	－	
20	3	ＳＩ-603	土師器	坏	完形	カマド堆積土	12.4	5.4	5.4	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	煤状付着物
20	4	ＳＩ-603	土師器	坏	口縁～底部	堆積土	(12.8)	5.6	5.4	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	
20	5	ＳＩ-603	土師器	坏	口縁～体部	堆積土	(11.8)	－	(5.1)	ロクロ	黒色処理・ミガキ	－	
20	6	ＳＩ-603	土師器	坏	口縁～底部	堆積土	(13.4)	5.5	4.8	摩耗	摩耗	回転糸切り	
20	7	ＳＩ-603	土師器	坏	体～底部	堆積土	－	(6.6)	(1.3)	ロクロ	黒色処理・ミガキ	回転糸切り	
20	8	ＳＩ-603	土師器	坏	体～底部	堆積土	－	(5.6)	(1.8)	ロクロ	黒色処理・ミガキ	回転糸切り	
20	9	ＳＩ-603	土師器	坏	体～底部	堆積土	－	6.0	(5.2)	ロクロ	摩耗	回転糸切り	
20	10	ＳＩ-603	土師器	坏	体～底部	カマド堆積土	－	5.0	(2.8)	摩耗	摩耗	回転糸切り	
20	11	ＳＩ-603	土師器	甕	口縁～底部	堆積土	(20.8)	(11.0)	29.4	ヘラナデ	ヘラナデ		
20	12	ＳＩ-603	土師器	甕	口縁～胴部	堆積土	(22.2)	－	(7.3)	ヘラナデ	ヘラナデ	－	
20	13	ＳＩ-603	土師器	甕	口縁～胴部	堆積土	(18.0)	－	(5.9)	捲上痕・ヘラナデ	捲上痕・ヘラナデ	－	
21	14	ＳＩ-603	土師器	甕	口縁～胴部	堆積土	(20.4)	－	(15.3)	ヘラナデ	ヘラナデ	－	
21	15	ＳＩ-603	土師器	甕	口縁～胴部	カマド堆積土	(24.4)	－	(8.9)	ヘラナデ	ヘラナデ	－	
21	16	ＳＩ-603	土師器	甕	口縁～胴部	カマド堆積土	(17.8)	－	(10.5)	ヘラナデ	ヘラナデ	－	
21	17	ＳＩ-603	土師器	甕	口縁～胴部	堆積土	(19.4)	－	(6.4)	ヘラナデ	ヘラナデ	－	
21	18	ＳＩ-603	土師器	甕	口縁～胴部	堆積土	(19.0)	－	(16.4)	ロクロ	ロクロ	－	
21	19	ＳＩ-603	土師器	小型甕	口縁～胴部	カマド堆積土	(9.2)	－	(6.0)	ヘラナデ	ヘラナデ	－	
21	20	ＳＩ-603	土師器	甕	体～底部	堆積土	－	(11.2)	(5.6)	ヘラケズリ	ヘラナデ	砂敷	
21	21	ＳＩ-603	土師器	甕	体～底部	堆積土	－	7.6	(9.1)	ヘラナデ	ヘラナデ	砂敷	
21	22	ＳＩ-603	土師器	甕	体～底部	堆積土	－	8.2	(6.9)	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	
21	23	ＳＩ-603	土師器	甕	胴～底部	カマド堆積土	－	10.0	(14.6)	ヘラナデ	刷毛目	摩耗	
22	24	ＳＩ-603	土師器	甕	体～底部	堆積土	－	(9.2)	(1.7)	摩耗	刷毛目	砂敷	
22	25	ＳＩ-603	土師器	甕	体～底部	堆積土	－	10.4	(1.7)	ヘラナデ	ヘラナデ	砂敷	
22	26	ＳＩ-603	土師器	甕	体～底部	堆積土	－	(6.2)	(1.5)	ヘラナデ	摩耗	砂敷	
22	27	ＳＩ-603	土師器	甕	体～底部	カマド堆積土	－	(7.8)	(2.5)	ヘラナデ	ヘラナデ	砂敷	
22	28	ＳＩ-603	土師器	甕	体～底部	カマド堆積土	－	(8.4)	(4.7)	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラケズリ	
22	29	ＳＩ-603	土師器	甕	体～底部	カマド堆積土	－	6.6	(4.9)	ヘラナデ	ヘラナデ	砂敷	
22	30	ＳＩ-603	土師器	甕	体～底部	堆積土	－	(9.0)	(7.6)	ヘラケズリ	ヘラナデ	ヘラケズリ	
22	31	ＳＩ-603	土師器	甕	体～底部	堆積土	－	7.0	(1.8)	ヘラナデ	ヘラナデ	砂敷	
22	32	ＳＩ-603	土師器	甕	体～底部	貼り床	－	(7.2)	(1.8)	ヘラナデ	ヘラナデ	砂敷	
22	33	ＳＩ-603	土師器	坏	体～底部	堆積土	－	(5.4)	(1.3)	ロクロ	ロクロ	摩耗	
22	34	ＳＩ-603	土師器	甕	体～底部	カマド堆積土	－	(7.8)	(4.5)	摩耗	ヘラナデ	摩耗	
22	35	ＳＩ-603	土師器	甕	体～底部	貼り床	－	(9.4)	(1.1)	ヘラナデ	ヘラナデ	摩耗	
22	36	ＳＩ-603	土師器	甕	体～底部	カマド堆積土	－	8.8	(3.5)	ヘラナデ	ヘラナデ	砂敷	
22	37	ＳＩ-603	須恵器	甕	胴部	堆積土	－	－	－	敲き目	不明	－	
22	38	ＳＩ-603	須恵器	甕	頸～肩部	堆積土	－	－	－	格子敲き目	当て具痕	－	

野尻⑴遺跡出土遺物観察表

図	番号	出土地点	種類	器種	部位	出土位置・層位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面	内面	底部	備考
27	1	ＳＩ-604	土師器	坏	略完形	カマド堆積土	13.6	6.4	5.6	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	
27	2	ＳＩ-604	土師器	甕	略完形	カマド堆積土	13.6	7.4	13.6	ヘラナデ	ヘラナデ	砂敷	
27	3	ＳＩ-604	土師器	甕	略完形	カマド堆積土	22.8	11.2	28.0	ロクロ・ヘラナデ	ロクロ・ヘラナデ	砂敷	
27	4	ＳＩ-604	土師器	甕	略完形	堆積土	16.8	8.2	15.0	ヘラナデ	刷毛目・ヘラナデ	砂敷	
27	5	ＳＩ-604	土師器	甕	口縁～胴部	堆積土	(19.4)	－	(16.4)	ヘラナデ	ヘラナデ	－	
27	6	ＳＩ-604	土師器	甕	口縁～胴部	堆積土	(23.0)	－	(11.7)	ヘラナデ	ヘラナデ	－	
28	7	ＳＩ-604	土師器	甕	口縁～胴部	堆積土	(24.4)	－	(21.1)	捲上痕・ヘラナデ	刷毛目	－	8と同一個体？
28	8	ＳＩ-604	土師器	甕	胴～底部	堆積土	－	(12.2)	(11.8)	捲上痕・ヘラナデ	刷毛目・ヘラナデ	砂敷	7と同一個体？
28	9	ＳＩ-604	土師器	甕	口縁～胴部	カマド堆積土	(16.0)	－	(8.8)	捲上痕・ヘラナデ	ヘラナデ	－	
28	10	ＳＩ-604	土師器	甕	口縁～胴部	カマド堆積土	(20.0)	－	(8.9)	捲上痕・ヘラナデ	ヘラナデ	－	
28	11	ＳＩ-604	土師器	甕	胴～底部	カマド堆積土	－	(11.4)	(15.0)	ヘラナデ	ヘラナデ	砂敷	
28	12	ＳＩ-604	土師器	甕	胴～底部	カマド堆積土	－	(9.0)	(7.7)	ヘラケズリ	ヘラナデ	ヘラケズリ	
28	13	ＳＩ-604	土師器	甕	胴～底部	堆積土	－	(5.4)	(2.8)	ヘラナデ	ヘラナデ	砂敷	
28	14	ＳＩ-604	土師器	甕	胴～底部	カマド堆積土	－	(8.0)	(6.5)	ヘラナデ	ヘラナデ	－	
29	15	ＳＩ-604	土師器	甕	胴～底部	カマド堆積土	－	(12.4)	(7.5)	ヘラナデ	ヘラナデ	砂敷	
29	16	ＳＩ-604	土師器	甕	胴～底部	外周溝堆積土	－	(8.0)	(4.2)	ヘラナデ	ヘラナデ	砂敷	
図	番号	出土地点	種類	器種	遺存度	出土位置・層位	直径(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	表面色調	穿孔	胎土	備考
29	17	ＳＩ-604	土製品	土玉	1	堆積土	10	10	9	黒色	有	緻密	
図	番号	出土地点	種類	器種	遺存度	出土位置・層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)			備考
29	18	ＳＩ-604	金属製品	鉄滓	2	堆積土	(10.2)	(8.0)	3.0	(268.8)			
図	番号	出土地点	種類	器種	部位	出土位置・層位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面	内面	底部	備考
29	19	ＳＩ-604	須恵器	甕	胴部	堆積土	－	－	－	敲き目	不明瞭	－	
29	20	ＳＩ-604	須恵器	甕	胴部	堆積土	－	－	－	敲き目	当て具痕	－	
図	番号	出土地点	種類	器種	部位	出土位置・層位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面	内面	底部	備考
31	1	ＳＩ-605	須恵器	甕	胴部	堆積土	－	－	－	敲き目	不明瞭	－	
図	番号	出土地点	種類	器種	部位	出土位置・層位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面	内面	底部	備考
34	1	ＳＫ-306	須恵器	壺	底部	堆積土	－	(5.6)	－	敲き目	不明瞭	菊花状	
34	2	ＳＫ-602	土師器	甕	口縁～胴部	火山灰の下層	(18.8)	－	(6.4)	ヘラナデ	ヘラナデ	－	
34	3	ＳＫ-602	土師器	甕	口縁～胴部	火山灰の下層	(17.4)	－	(11.2)	捲上痕・ヘラナデ	ヘラナデ	－	
34	4	ＳＫ-602	土師器	甕	胴～底部	火山灰の下層	－	(11.4)	(16.6)	ヘラナデ	ヘラナデ	砂敷	
34	5	ＳＫ-602	土師器	甕	底部	火山灰の下層	－	(8.8)	(3.0)	ヘラナデ	ヘラナデ	砂敷	
34	6	ＳＫ-602	須恵器	甕	胴部	火山灰の下層	－	－	－	敲き目	－	－	
34	7	ＳＫ-605	擦文	甕	口縁～胴部	堆積土	－	－	－	斜格子状沈線	ヘラナデ	－	
図	番号	出土地点	種類	器種	部位	出土位置・層位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面	内面	底部	群
36	1	ＳＤ-601	縄文	深鉢	口縁部	堆積土	－	－	－	側圧・刺突・縦単軸	ミガキ	－	Ⅰ
36	2	ＳＤ-601	縄文	深鉢	胴部	堆積土	－	－	－	側圧・刺突・単軸	ミガキ	－	Ⅰ
36	3	ＳＤ-601	縄文	深鉢	胴部	堆積土	－	－	－	縦単軸	ミガキ	－	Ⅰ
36	4	ＳＤ-601	縄文	深鉢	胴部	堆積土	－	－	－	縦単軸	ミガキ	－	Ⅰ
図	番号	出土地点	種類	器種	部位	出土位置・層位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面	内面	底部	備考
38	1	ＳＤ-602	土師器	坏	略完形	堆積土	13.4	5.2	4.8	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	
38	2	ＳＤ-602	土師器	坏	口縁～体部	堆積土	(13.4)	－	(4.2)	ロクロ	ロクロ	－	
38	3	ＳＤ-602	土師器	坏	略完形	堆積土	13.4	5.6	4.4	ロクロ	黒色処理・ミガキ	回転糸切り	
38	4	ＳＤ-602	土師器	坏	口縁～体部	堆積土	(12.4)	－	(5.2)	ロクロ	黒色処理・ミガキ	－	
38	5	ＳＤ-602	土師器	坏	体～底部	堆積土	－	5.8	(5.0)	ロクロ	不明瞭	回転糸切り	
38	6	ＳＤ-602	土師器	甕	略完形	堆積土	(19.0)	6.8	29.2	ロクロ・ヘラケズリ	ロクロ・ヘラナデ	ヘラケズリ	
38	7	ＳＤ-602	土師器	甕	底部欠失	堆積土	22.8	－	(24.8)	ヘラナデ・指頭圧痕	ヘラナデ	－	
38	8	ＳＤ-602	土師器	甕	底部	堆積土	－	8.2	(4.6)	ヘラケズリ	ヘラナデ	砂敷	
38	9	ＳＤ-602	土師器	甕	胴～底部	堆積土	－	(7.4)	(7.0)	ヘラナデ	ヘラナデ	砂敷	
38	10	ＳＤ-602	土師器	甕	底部	堆積土	－	(8.2)	(3.4)	ヘラナデ	ヘラナデ	網代	
39	11	ＳＤ-602	土師器	甕	底部	堆積土	－	(11.0)	(3.2)	ヘラナデ	捲上痕	－	
39	12	ＳＤ-602	土師器	甕	底部	堆積土	－	(11.6)	(3.4)	ヘラナデ	ヘラナデ	－	
39	13	ＳＤ-602	土師器	甕	底部	堆積土	－	(8.6)	(3.2)	ヘラナデ	ヘラナデ	－	
39	14	ＳＤ-602	土師器	鉢	略完形	堆積土	9.6	4.6	8.6	ヘラナデ	ヘラナデ	砂敷	
39	15	ＳＤ-602	須恵器	甕	胴部	堆積土	－	－	－	敲き目	当て具痕	－	
図	番号	出土地点	種類	器種	部位	出土位置・層位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面	内面	底部	備考
41	1	ＳＲ-601	土師器	甕	胴～底部	掘方内	－	10.4	(7.8)	ヘラケズリ	ヘラナデ	ヘラケズリ・ヘラナデ	埋設土器
図	番号	出土地点	種類	器種	部位	出土位置・層位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面	内面	底部	群
43	1	ＣＡ-53	縄文	深鉢	口縁部	Ⅲ層	－	－	－	横単軸	ミガキ	－	Ⅰ
43	2	ＣＩ-59	縄文	深鉢	口縁部	Ⅲ層	－	－	－	横側圧	ミガキ	－	Ⅰ
43	3	ＣＡ-56	縄文	深鉢	胴部	Ⅲ層	－	－	－	斜単軸・刺突	ミガキ	－	Ⅰ
43	4	ＢＹ-54	縄文	深鉢	胴部	Ⅲ層	－	－	－	縦単軸	摩耗	－	Ⅰ
43	5	ＣＫ-49	縄文	深鉢	胴部	Ⅲ層	－	－	－	縦単軸	ミガキ	－	Ⅰ
43	6	ＣＩ-53	縄文	深鉢	胴部	Ⅲ層	－	－	－	縦単軸	摩耗	－	Ⅰ
43	7	ＣＡ-56	縄文	深鉢	胴部	Ⅲ層	－	－	－	縦単軸	ミガキ	－	Ⅰ
43	8	ＢＶ-52	縄文	深鉢	胴部	Ⅲ層	－	－	－	縦単軸	ミガキ	－	Ⅰ
43	9	ＣＡ-55	縄文	深鉢	胴部	Ⅰ層	－	－	－	縦単軸	摩耗	－	Ⅰ
43	10	ＣＡ-56	縄文	深鉢	胴部	Ⅲ層	－	－	－	縦単軸	ミガキ	－	Ⅰ
43	11	ＣＡ-55	縄文	深鉢	胴部	Ⅰ層	－	－	－	縦単軸	摩耗	－	Ⅰ
43	12	ＣＩ-54	縄文	深鉢	胴部	Ⅲ層	－	－	－	縦単軸	ミガキ	－	Ⅰ
43	13	ＣＨ-54	縄文	深鉢	胴部	Ⅰ層	－	－	－	縦単軸	摩耗	－	Ⅰ
43	14	ＣＡ-60	縄文	深鉢	胴部	Ⅲ層	－	－	－	縦単軸	摩耗	－	Ⅰ
43	15	ＣＡ-60	縄文	深鉢	胴部	Ⅲ層	－	－	－	縦単軸	ミガキ	－	Ⅰ
43	16	ＣＢ-56	縄文	深鉢	胴部	Ⅲ層	－	－	－	縦単軸	ミガキ	－	Ⅰ
43	17	ＣＡ-56	縄文	深鉢	胴部	Ⅲ層	－	－	－	縦単軸	摩耗	－	Ⅰ
43	18	ＣＢ-44	縄文	深鉢	胴部	Ⅲ層	－	－	－	縦単軸	ミガキ	－	Ⅰ
43	19	ＣＣ-61	縄文	深鉢	胴部	Ⅲ層	－	－	－	多軸	ミガキ	－	Ⅰ
43	20	ＣＩ-59	縄文	深鉢	胴部	Ⅲ層	－	－	－	多軸	ミガキ	－	Ⅰ

野尻(1)遺跡出土遺物観察表

図	番号	出土地点	種類	器種	部位	出土位置・層位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面	内面	底部	群
43	21	ＣＩ-59	縄文	深鉢	胴部	Ⅲ層	－	－	－	多軸	ミガキ	－	Ⅰ
43	22	ＣＤ-64	縄文	深鉢	胴部	Ⅲ層	－	－	－	多軸	ミガキ	－	Ⅰ
43	23	ＣＡ-54	縄文	深鉢	胴部	Ⅲ層	－	－	－	多軸・摩耗	摩耗	－	Ⅰ
43	24	ＣＣ-52	縄文	深鉢	口縁部	Ⅲ層	－	－	－	斜縄文	摩耗	－	Ⅱ
43	25	ＣＦ-71	縄文	壺	口縁部	Ⅲ層	－	－	－	沈線	摩耗	－	Ⅲ
43	26	ＣＥ-45	縄文	壺	口縁部	Ⅲ層	－	－	－	沈線	ミガキ	－	Ⅲ
43	27	ＢＹ-45	縄文	鉢	胴部	Ⅲ層	－	－	－	斜縄文・沈線	ミガキ	－	Ⅲ
43	28	ＢＹ-45	縄文	鉢	胴部	Ⅲ層	－	－	－	細斜縄文・沈線	ミガキ	－	Ⅲ
43	29	ＣＣ-68	縄文	鉢	胴部	Ⅲ層	－	－	－	斜縄文・沈線・磨り	ミガキ	－	Ⅲ
43	30	ＣＨ-63	縄文	鉢	胴部	Ⅲ層	－	－	－	斜縄文・沈線・磨り	ミガキ	－	Ⅲ
43	31	ＣＦ-70	縄文	鉢	胴部	Ⅲ層	－	－	－	斜縄文・沈線	ミガキ	－	Ⅲ
43	32	ＣＦ-43	縄文	鉢	口縁～胴部	Ⅲ層	－	－	－	刻み・斜縄文・沈線	ミガキ	－	Ⅳ
43	33	ＣＦ-43	縄文	鉢	口縁～胴部	Ⅲ層	－	－	－	刻み・斜縄文・沈線	ミガキ	－	Ⅳ
43	34	ＣＦ-43	縄文	鉢	胴部	Ⅲ層	－	－	－	細斜縄文	ミガキ	－	Ⅳ
43	35	ＣＦ-43	縄文	鉢	胴部	Ⅲ層	－	－	－	細斜縄文	ミガキ	－	Ⅳ

図	番号	出土地点	種類	器種	遺存度	出土位置・層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質		備考
44	1	ＣＡ-62	石器	石鏃	2	Ⅲ層	(31)	20	6.5	(2.8)	珪質頁岩		
44	2	ＣＡ-55	石器	石鏃	1	Ⅲ層	26	9	3.5	0.6	珪質頁岩		基部アスファルト
44	3	ＢＸ-45	石器	石鏃	2	Ⅲ層	(29)	9	3.2	(0.6)	珪質頁岩		
44	4	ＢＸ-46	石器	磨製石斧	2	Ⅰ層	(138)	52	28	(328.9)	緑色細粒凝灰岩		
44	5	ＣＦ-64	石器	敲磨器	1	Ⅲ層	96	83	84	755.7	流紋岩		
44	6	ＣＦ-64	石器	敲磨器	1	Ⅲ層	105	56	44	394.0	流紋岩		
44	7	ＣＡ-59	石器	敲磨器	1	Ⅱ層	138	52	28	225.5	緑色凝灰岩		
44	8	ＣＦ-64	石器	敲磨器	1	Ⅰ層	103	77	42	523.2	凝灰岩		

図	番号	出土地点	種類	器種	部位	出土位置・層位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面	内面	底部	備考
45	1	ＣＣ-62	土師器	坏	略完形	Ⅱ層	(12.0)	5.0	5.3	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	
45	2	ＢＹ-45	土師器	坏	体～底部	Ⅱ層	－	5.6	(2.8)	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	
45	3	ＢＸ-49	土師器	坏	口縁～体部	Ⅱ層	－	－	－	黒色処理・ミガキ	黒色処理・ミガキ	－	
45	4	ＣＢ-43	土師器	坏	口縁～体部	Ⅱ層	－	－	－	ロクロ	黒色処理・ミガキ	－	
45	5	ＣＤ-44	土師器	甕	口縁～胴部	Ⅱ層	－	－	－	ロクロ	ロクロ	－	
45	6	ＣＦ-44	土師器	甕	胴～底部	Ⅱ層	－	6.0	(3.0)	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	
45	7	ＣＣ-48	土師器	甕	胴～底部	Ⅱ層	－	6.6	(2.6)	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	
45	8	ＢＸ-45	土師器	甕	口縁部	Ⅱ層	－	－	－	ロクロ	ロクロ	－	
45	9	ＣＡ-41	土師器	甕	口縁部	Ⅱ層	－	－	－	ロクロ	ロクロ	－	
45	10	ＣＡ-47	土師器	甕	口縁部	Ⅱ層	－	－	－	ロクロ	ロクロ	－	
45	11	ＣＣ-53	土師器	甕	口縁部	Ⅱ層	－	－	－	ロクロ	ヘラナデ	－	
45	12	ＣＣ-68	土師器	甕	口縁部	Ⅱ層	－	－	－	ヘラナデ	ナデ	－	
45	13	ＣＣ-47	土師器	甕	口縁部	Ⅱ層	－	－	－	ナデ・斜行沈線	ナデ	－	
45	14	ＣＦ-45	土師器	甕	口縁部	Ⅱ層	－	－	－	ナデ・斜行沈線	ナデ	－	
45	15	ＣＦ-47	土師器	甕	口縁部	Ⅱ層	－	－	－	ナデ・斜行沈線	ナデ	－	
45	16	ＣＤ-54	土師器	甕	口縁部	Ⅱ層	－	－	－	捲上痕	ヘラナデ	－	
45	17	ＢＹ-41	土師器	甕	口縁～胴部	Ⅱ層	－	－	－	ロクロ	ヘラナデ		
45	18	ＣＡ-43	土師器	甕	口縁～胴部	Ⅱ層	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ	－	
45	19	ＣＡ-45	土師器	甕	口縁～胴部	Ⅱ層	－	－	－	胴部沈線	ヘラナデ	－	
45	20	ＣＡ-56	土師器	甕	口縁～胴部	Ⅱ層	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ	－	
45	21	ＢＸ-54	土師器	台付き甕	底～脚部	Ⅱ層	－	－	(1.6)	摩耗	摩耗	－	
45	22	ＣＫ-55	土師器	ミニチュア	胴～底部	Ⅱ層	－	4.6	(3.0)	ヘラナデ	ヘラナデ	砂敷	
45	23	ＣＡ-46	土師器	ミニチュア	完形	Ⅱ層	4.8	2.8	4.6	手づくね	手づくね	手づくね	

図	番号	出土地点	種類	器種	部位	出土位置・層位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面	内面	底部	備考
46	24	ＣＡ-45他	須恵器	坏	口縁～底部	Ⅱ層	(12.4)	(5.4)	4.7	ロクロ・火襷	ロクロ・火襷	回転糸切り	
46	25	ＣＡ-49他	須恵器	坏	口縁～体部	Ⅱ層	(13.0)	－	(3.8)	ロクロ	ロクロ	－	
46	26	ＣＩ-53	須恵器	坏	口縁～体部	Ⅱ層	(11.6)	－	(3.3)	ロクロ・火襷	ロクロ	－	
46	27	ＣＡ-60	須恵器	坏	体～底部	Ⅱ層	－	(5.2)	(2.5)	ロクロ・火襷	ロクロ・火襷	回転糸切り	
46	28	ＣＦ-70	須恵器	甕	肩～胴部	Ⅱ層	－	－	－	無文	不明瞭	－	
46	29	ＢＸ-46他	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	無文	不明瞭	－	
46	30	ＣＫ-46	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	無文	不明瞭	－	
46	31	ＣＡ-48	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	無文	不明瞭	－	
46	32	ＣＤ-42他	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	敲き目	当て具痕	－	
46	33	ＢＷ-43他	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	敲き目	不明瞭	－	
46	34	ＢＸ-50他	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	敲き目	当て具痕	－	
46	35	ＣＣ-49	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	敲き目	当て具痕	－	
46	36	ＣＨ-53	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	敲き目	不明瞭	－	
46	37	ＣＦ-46	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	敲き目	不明瞭	－	
46	38	ＢＷ-50他	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	敲き目	不明瞭	－	
46	39	ＣＣ-49	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	敲き目	当て具痕	－	
46	40	ＣＡ-43	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	敲き目	不明瞭	－	
46	41	ＣＤ-49	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	敲き目	不明瞭	－	
46	42	ＣＦ-45他	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	敲き目	不明瞭	－	
47	43	ＣＣ-45他	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	敲き目	不明瞭	－	
47	44	ＣＩ-59	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	敲き目	当て具痕	－	
47	45	ＣＦ-44	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	敲き目	不明瞭	－	
47	46	ＣＥ-47	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	敲き目	不明瞭	－	
47	47	ＣＥ-49	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	敲き目	不明瞭	－	
47	48	ＣＡ-61	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	敲き目	不明瞭	－	
47	49	ＣＦ-47	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	敲き目	不明瞭	－	
47	50	ＣＡ-42	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	格子敲き目	不明瞭	－	
47	51	ＣＣ-42	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	格子敲き目	不明瞭	－	
47	52	ＣＩ-61	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	格子敲き目	不明瞭	－	
47	53	ＣＡ-42	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	格子敲き目	不明瞭	－	
47	54	ＣＥ-53	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	格子敲き目	不明瞭	－	

野尻⑴遺跡出土遺物観察表

図	番号	出土地点	種類	器種	部位	出土位置・層位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面	内面	底部	備考
47	55	ＣＢ-47	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	格子敲き目	当て具痕	－	
47	56	ＢＸ-47	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	格子敲き目	不明瞭	－	
47	57	ＣＤ-46	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	格子敲き目	不明瞭	－	
47	58	ＢＹ-42他	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	格子敲き目	不明瞭	－	
47	59	ＣＡ-52	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	格子敲き目	刷毛目	－	
47	60	ＣＢ-47	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	格子敲き目	不明瞭	－	
47	61	ＣＤ-46	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	格子敲き目	不明瞭	－	
47	62	ＢＹ-54	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	格子敲き目	不明瞭	－	
47	63	ＣＤ-43	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	格子敲き目	不明瞭	－	
47	64	ＣＡ-42	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	格子敲き目	不明瞭	－	
47	65	ＣＣ-44	須恵器	甕	胴部	Ⅱ層	－	－	－	格子敲き目	不明瞭	－	
47	66	ＣＣ-61	須恵器	長頸壺	口縁～頸部	Ⅱ層	(12.6)	－	(5.5)	ロクロ	ロクロ	－	
47	67	ＢＹ-41	須恵器	長頸壺	口縁～頸部	Ⅱ層	(11.2)	－	(4.1)	ロクロ	ロクロ	－	
47	68	ＢＸ-47	須恵器	壺	口縁～肩部	Ⅱ層	(13.8)	－	(2.4)	ロクロ	ロクロ	－	
47	69	ＣＤ-44他	須恵器	壺	口縁～胴部	Ⅱ層	(14.6)	－	(8.3)	ロクロ	ロクロ	－	
47	70	ＢＹ-45他	須恵器	長頸壺	頸部	Ⅱ層	－	－	(5.0)	ロクロ	ロクロ	－	「人」刻書
47	71	ＢＷ-52他	須恵器	壺	底部	Ⅰ層	－	(10.0)	(3.0)	ロクロ	ロクロ	菊花状	底部高台気味
図	番号	出土地点	種類	器種	遺存度	出土位置・層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	外面	内面	胎土	備考
48	1	ＣＢ-67	土製品	カマド芯材	2	Ⅱ層	(5.8)	(11.8)	2.0	工具痕	指ナデ	砂粒混入	318号建物跡
図	番号	出土地点	種類	器種	遺存度	出土位置・層位	直径(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	表面色調	断面	胎土	備考
48	2	ＢＸ-47	土製品	碁石	1	Ⅱ層	18	7	1.6	肌色	レンズ状	緻密	黒色付着物
図	番号	出土地点	種類	器種	遺存度	出土位置・層位	直径(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	表面色調	穿孔	胎土	備考
48	3	ＢＸ-49	土製品	土玉	1	Ⅱ層	17	17	13	肌色	有	緻密	
48	4	ＣＡ-45	土製品	土玉	1	Ⅱ層	14	14	11	肌色	有	緻密	
48	5	ＣＡ-41	土製品	土玉	1	Ⅱ層	10	10	10	黒色	有	緻密	
図	番号	出土地点	種類	器種	遺存度	出土位置・層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	使用面	備考
48	6	ＣＡ-46	石製品	砥石	2	Ⅱ層	(80)	58	28	(140.5)	泥岩	4	
48	7	ＣＡ-46	石製品	砥石	2	Ⅱ層	(50)	58	16	(79.8)	泥岩	4	
図	番号	出土地点	種類	器種	遺存度	出土位置・層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)			備考
48	8	ＢＹ-45	金属製品	板状	1	Ⅱ層	9.6	1.6	0.4	23.1			
48	9	ＣＦ-44	金属製品	板状	1	Ⅱ層	10.4	1.4	0.4	27.0			
48	10	ＣＣ-44	金属製品	板状	2	Ⅱ層	(16.0)	1.2	0.4	(47.0)			穿孔
48	11	ＢＸ-46	金属製品	環状	2	Ⅱ層	4.9	4.7	0.5	(25.4)			
48	12	ＣＧ-45	金属製品	環状	1	Ⅱ層	3.0	2.2	0.4	4.5			
48	13	ＣＣ-53	金属製品	釣手状	2	Ⅱ層	(15.3)	4.4	0.5	(35.7)			
48	14	ＣＤ-52	金属製品	薄い板状	2	Ⅱ層	(2.6)	(1.9)	0.2	(1.2)			
48	15	ＣＡ-42	金属製品	釘状	2	Ⅱ層	(2.3)	1.2	0.6	(2.4)			
48	16	ＢＸ-48	金属製品	釘状	2	Ⅱ層	(3.3)	0.6	0.4	(2.4)			
48	17	ＣＤ-46	金属製品	釘状	2	Ⅱ層	(2.4)	(1.2)	0.4	(1.9)			
48	18	ＣＤ-43	金属製品	金属塊状	1	Ⅱ層	2.9	2.3	1.8	14.1			
48	19	ＣＦ-47	金属製品	金属塊状	1	Ⅱ層	3.7	3.0	1.2	23.4			
48	20	ＢＸ-46	金属製品	金属塊状	1	Ⅱ層	3.1	3.0	1.1	16.5			
図	番号	出土地点	種類	銘	遺存度	出土位置・層位	直径(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	腹面	背面	材質	備考
48	21	ＣＣ-47	古銭	寛永通寶	1	Ⅰ層	23	1	3.0	寛永通寶	無	銅	古寛永
48	22	ＢＷ-45	古銭	寛永通寶	1	Ⅰ層	21	1	1.8	寛永通寶	無	銅	新寛永
48	23	ＣＫ-45	古銭	文久永寶	1	Ⅰ層	26	1	3.4	文久永寶	11波	銅	真文
48	24	ＣＣ-52	銭貨	一銭	1	Ⅰ層	15	1	0.5	菊御紋・富士山	一	アルミ	昭和18年

(　　)は残存・推定値　　遺存度１は完形　２は欠損

野尻(2)遺跡出土遺物観察表

図	番号	出土地点	種類	器種	部位	出土位置・層位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面	内面	底部	備考
51	1	ＳⅠ-109	土師器	坏	口縁～体部	床面	(13.2)	－	(2.8)	ロクロ	ロクロ	－	
51	2	ＳⅠ-109	土師器	甕	口縁～胴部	床面	－	－	－	ヘラナデ・指頭圧痕	ヘラナデ	－	
51	3	ＳⅠ-109	土師器	甕	口縁～胴部	床面	－	－	－	ヘラケズリ・ヘラナデ	ヘラナデ	－	
51	4	ＳⅠ-109	土師器	甕	口縁～胴部	床面	－	－	－	ヘラケズリ・ヘラナデ	ヘラナデ	－	
51	5	ＳⅠ-109	土師器	甕	口縁～胴部	床面	－	－	－	捲き上げ痕・ヘラナデ	ヘラナデ	－	
52	6	ＳⅠ-109	土師器	甕	胴～底部	床面	－	7.6	(9.4)	ヘラケズリ・ヘラナデ	ヘラナデ	砂敷	
図	番号	出土地点	種類	器種	遺存度	出土位置・層位	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	内孔直径(cm)	外面	胎土	備考
52	7	ＳⅠ-109	土製品	鞴羽口	2	床面	(4.0)	(4.4)	2.2	－	ケズリ	緻密	
図	番号	出土地点	種類	器種	部位	出土位置・層位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面	内面	底部	備考
52	8	ＳＫ-148	土師器	坏	口縁～底部	底面	(12.8)	5.8	5.8	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	
52	9	ＳＫ-148	土師器	甕	口縁～胴部	底面	20.8	－	(14.8)	ヘラケズリ・ヘラナデ	ヘラナデ	－	
52	10	ＳＫ-148	土師器	甕	底部	底面	－	(3.4)	(3.4)	ヘラケズリ	ヘラナデ	砂敷	
図	番号	出土地点	種類	器種	部位	出土位置・層位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面	内面	底部	備考
53	1	ＳⅠ-110	土師器	甕	口縁部	床面	－	－	(3.5)	ロクロ	ロクロ	－	穿孔痕
53	2	ＳⅠ-110	土師器	鉢	略完形	床面	(17.4)	10.0	9.8	ヘラナデ	ヘラナデ	－	
53	3	ＳⅠ-110	土師器	小型壺	完形	床面	7.6	6.0	7.0	ロクロ・付着物	ロクロ・付着物	回転糸切り	熱によるハジケ
53	4	ＳⅠ-110	土師器	ミニチュア	胴～底部	床面	－	5.0	(3.8)	指頭圧痕・ヘラナデ	ヘラナデ	高台？	
図	番号	出土地点	種類	器種	部位	出土位置・層位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面	内面	底部	備考
55	1	108円	土師器	坏	口縁～体部	堆積土	(13.2)	－	(5.7)	ロクロ	ロクロ	－	
55	2	108円	土師器	坏	口縁～体部	堆積土	(12.0)	－	(5.0)	ロクロ	ロクロ	－	
55	3	108円	土師器	坏	体～底部	堆積土	－	(5.0)	(1.8)	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	
55	4	108円	土師器	ミニチュア	体～底部	堆積土	－	2.8	(0.9)	指頭圧痕	ヘラナデ	－	
55	5	108円	土師器	甕	口縁部	堆積土	－	－	－	ナデ	粘土紐捲上痕	－	
55	6	108円	須恵器	甕	胴部	堆積土	－	－	－	敲き目	ヘラナデ	－	
図	番号	出土地点	種類	器種	部位	出土位置・層位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面	内面	底部	備考
55	18	Ｙ-202	土師器	坏	口縁～体部	Ⅱ層	(14.0)	－	(4.8)	ロクロ	ロクロ	－	
55	19	Ｙ-205	土師器	坏	体～底部	Ⅱ層	－	5.6	(2.0)	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	
55	20	ＡＡ-204	土師器	坏	口縁～底部	Ⅱ層	(12.6)	(6.0)	5.2	ロクロ	黒色処理・ミガキ	回転糸切り	
55	21	ＡＡ-206	土師器	坏	体～底部	Ⅱ層	－	(5.6)	(1.7)	ロクロ	黒色処理	回転糸切り	

(　　)は残存・推定値　　遺存度１は完形　２は欠損

第６章　自然科学的分析

第１節　出土須恵器の蛍光Ｘ線分析

大谷女子大学　三辻　利一

１）はじめに

須恵器産地推定の根底にある考え方は考古学者にとっても、自然科学者にとっても属性分析の考え方であった。属性分析とは複雑多様な性質の中から、そのグループの特徴を効果的に示す性質を選び出し、その性質を使ってそれぞれの集団に分類していくことである。考古学者は緻密な土器観察によって特異な属性を選び出すし、分析化学者は多数の土器の分析データの比較から地域差を有効に示す元素を選び出し、生産地を分類する。ここまでは手法は異なるとはいえ、根底にある考え方は同じである。さらに、産地推定とは消費地出土須恵器を生産地（窯跡）に結びつけることであるが、その際の手法は考古学側 と自然科学側で大きく異なる。考古学側にはまだ、方法論は出来上がっていないのに対して、自然科学側では２群間判別分析法という方法論が出来上がっている。自然科学側から産地推定のデータが続々出されて、その結果を考古学側が形式からみて再検討をしているのが現状である。この作業の中から考古学側はこれまでにない新しい知見をみつけ出し、より詳細な土器の形式分類をするであろうし、その結果、自然科学側と一層緊密な共同研究も推進されるだろう。これが新しい土器の考古学の将来像であると筆者は考えている。

考古学側にない自然科学側のもう一つの考え方は統計学の考え方である。生産地には多数の土器破片がある。これらをすべて分析することは不可能である。また、未発掘の土器破片もあるかも知れない。これらをすべて含めて母集団という。この中から一部の土器片を任意に選択し、分析する。これらを試料という。試料の分析データから推計学の方法を使って母集団の性質を推計するのである。こうした考え方で須恵器窯群内の未発掘の窯の試料をも網羅することが出来る。考古学側にはこうした考え方はない。発掘された試料についてのみ考察が進められる。窯群内の各窯跡出土須恵器の化学特性が類似するということには根拠がある。K、Ca、Rb、Sr の４因子が地域差を示すのは地球化学的意味をもつことが示されているからである。同じ母岩から風化され、生成した粘土を素材として使ったのである。このようなことは全国各地にある須恵器窯跡群で観測されている。

このように、須恵器の産地問題はまだまだ、研究段階にあり、商業ベースで産地推定できる段階にはない。青森県についてはどうにか、地元、五所川原窯群の製品が元素分析で検出できる段階に入ってきた。また、産地不明となった須恵器の産地についても少しずつ、その産地が何処か、手掛かりが得られ始めている。

本報告では野尻(1)遺跡から出土した須恵器の産地を推定するため、蛍光Ｘ線分析を行った。

２）分析結果

分析データは表１にまとめてある。全分析値は同時に測定した岩石標準試料、JG-1 に

よる標準化値で示されている。今回は一例として、秋田県の古代秋田城跡の周辺にある須恵器窯の一つである古城巡り窯跡出土須恵器と地元、五所川原窯跡群の須恵器の間で２群間判別分析を試みた。その結果を使って野尻⑴遺跡出土須恵器の産地を探ってみた。

はじめに、二つの母集団間の２群間判別分析の結果について説明する。図１には五所川原群と古城巡り群間の判別分析の結果を示す。両軸にとったD^2（青森）、D^2（古城）はそれぞれ、五所川原群、古城巡り群の重心からのマハラノビスの汎距離の二乗値である。K、Ca、Rb、Srの分析値を使って計算された。各母集団に帰属するための必要条件はD^2（X）＜10である。（X）は母集団名である。この条件は５％の危険率をかけたホテリングのT^2検定に合格する条件から求められた。図１をみると、五所川原群の試料の殆どはD^2（青森）＜10の領域に分布しており、また、古城巡り群の試料の殆どもD^2（古城）＜10の領域に分布することがわかる。しかし、これらの領域には広々とした空白の空間があることがわかる。この無駄な空間を除去したほうが判別図は見やすくなる。この空間を除去するために、互いに、相手群の重心からのマハラノビスの汎距離の二乗値を使用した。これは図の試料集団の分布をみて経験的に決められる。図より五所川原群の試料の大部分はD^2（古城）＝15～100の間に分布しており、他方、古城巡り群の試料の大部分もD^2（青森）＝15～100の間に分布する。かくして、青森領域はD^2（青森）＜10、D^2（古城）＝15～100であり、古城巡り領域はD^2（古城）＜10、D^2（青森）＝15～100となる。もし、野尻⑴遺跡出土須恵器の中に、五所川原窯群の製品が含まれているとすれば、この図の青森領域に分布するはずであるし、古城巡り窯群の製品が含まれておれば、古城領域に分布するはずである。今回分析した試料のD^2（青森）とD^2（古城）の値は表の最右欄に示してある。この結果をプロットしたのが図２である。大部分の試料は青森領域に分布し、地元、五所川原窯群の製品が多いことが分かる。古城巡り領域に分布するものは１点もない。残りは不明領域に分布した。番号を付した試料がそれである。判別図で求めた産地推定の結果は両分布図でも確認しておくほうがよい。図３には五所川原窯群の製品と推定された試料の両分布図を示す。五所川原領域によく対応することがわかる。なお、１点あった粘土試料は五所川原領域を大きくずれて分布し、五所川原窯群の須恵器試料群とは異なる化学特性をもつことがわかった。この粘土単独では須恵器の素材になっていないことがわかる。図４には、産地不明となった試料の両分布図を示す。№14の試料はD^2（青森）の値が10をわずかに越えただけで、五所川原群窯の製品の可能性があるので、表１でも五所川原産？としておいた。両分布図でも、№14の試料は五所川原領域にほぼ対応することがわかる。しかし、残りの11点の試料はRb-Sr分布図では明らかに五所川原領域をずれることがわかる。そして、産地不明となった試料のほとんどはFe量も少なく、分析値は標準化値にして3.0以下であった。Fe量でも五所川原産ではないことを示した。なお、番号を付してない６点の試料は両分布図での分布位置は向田㉟遺跡の産地不明となった試料集団の分布位置とほぼ同じ位置に分布しており、同じ生産地の製品である可能性が高い。

以上の結果、№４、５、７、８、９、10、12、14、15、16、17、18、19、20、21、22、23、24、25、26、27、29、31、32、34、35、37、38、39、40、41、43、44、45、46の35点が五所川原窯群の製品である可能性が高いと推定された。他方、産地不明となったのは№１、２、３、６、11、13、28、30、33、36、42の11点の試料であった。これからの試料はいずれもＦｅ量も少なく3.0以下

であることも注目される。

これまでに、青森県内の遺跡出土須恵器の産地推定のデータは相当数集積されており、近い将来、それらのデータはまとめられる予定である。

表１　青森県南津軽郡浪岡町　野尻(1)遺跡須恵器胎土分析試料一覧

分析番号	サンプルNo.	器種	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	D^2(五所)	D^2(古城)	推定産地
1	15－1104	鉢	0.310	0.744	2.35	0.427	0.754	0.452	130	430	不明
2	15－1105	長頸壺	0.272	0.314	1.95	0.366	0.489	0.295	30.3	55.1	不明
3	15－1106	坏	0.319	0.197	2.16	0.476	0.437	0.183	23.8	25.2	不明
4	15－1107	鉢	0.325	0.310	2.35	0.482	0.440	0.249	9.2	54.4	五所川原(？)
5	15－1108	長頸壺	0.324	0.251	2.87	0.405	0.366	0.205	2.3	23.6	五所川原
6	15－1109	中甕	0.294	0.394	2.09	0.398	0.514	0.331	24.2	89.0	不明
7	15－1110	短頸壺	0.255	0.271	2.56	0.382	0.391	0.193	8.3	48.6	五所川原(？)
8	15－1111	坏	0.253	0.310	3.96	0.328	0.308	0.128	5.4	70.3	五所川原
9	15－1112	大甕	0.352	0.317	2.39	0.465	0.458	0.281	7.8	41.4	五所川原(？)
10	15－1113		0.291	0.232	2.88	0.382	0.357	0.194	3.3	24.5	五所川原
11	15－1114	小甕	0.446	0.213	2.27	0.617	0.480	0.253	21.7	11.7	不明
12	15－1115	坏	0.357	0.286	3.70	0.468	0.384	0.179	0.56	36.7	五所川原
13	15－1116	短頸壺	0.326	0.392	2.06	0.401	0.497	0.374	16.0	74.3	不明
14	15－1117	皿	0.419	0.229	4.10	0.501	0.333	0.204	10.9	19.7	五所川原(？)
15	15－1118	皿	0.416	0.277	3.23	0.586	0.420	0.249	5.9	34.7	五所川原
16	15－1119	鉢	0.338	0.270	4.06	0.477	0.331	0.211	3.9	48.6	五所川原
17	15－1120	坏	0.368	0.202	3.28	0.571	0.339	0.146	9.6	32.0	五所川原
18	15－1121	小甕	0.401	0.282	2.14	0.564	0.466	0.271	10.8	30.3	五所川原(？)
19	15－1122	甕	0.343	0.307	2.27	0.452	0.459	0.291	9.7	37.9	五所川原(？)
20	15－1123	長頸壺	0.338	0.164	2.42	0.452	0.335	0.186	5.2	11.3	五所川原
21	15－1124	坏	0.355	0.210	2.33	0.524	0.386	0.175	5.8	21.9	五所川原
22	15－1125	長頸壺	0.388	0.262	3.35	0.558	0.390	0.244	4.3	35.6	五所川原
23	15－1126	甕	0.333	0.315	2.92	0.461	0.421	0.218	3.2	51.0	五所川原
24	15－1127	甕	0.354	0.330	3.69	0.478	0.388	0.255	2.8	63.2	五所川原
25	15－1128	坏	0.309	0.262	3.33	0.407	0.383	0.188	2.3	30.2	五所川原
26	15－1129	長頸壺	0.352	0.216	2.22	0.546	0.394	0.165	9.8	28.2	五所川原(？)
27	15－1130	長頸壺	0.289	0.317	2.54	0.448	0.424	0.209	10.6	67.4	五所川原(？)
28	15－1131	長頸壺	0.391	0.297	2.77	0.570	0.491	0.316	17.9	39.0	不明
29	15－1132	長頸壺	0.213	0.389	3.40	0.277	0.414	0.184	11.9	107	五所川原(？)
30	15－1133	長頸壺	0.335	0.291	2.62	0.516	0.453	0.250	15.0	49.0	不明
31	15－1134	長頸壺	0.349	0.218	2.25	0.529	0.387	0.185	6.9	26.7	五所川原
32	15－1135	蓋	0.283	0.318	3.52	0.405	0.377	0.216	2.7	66.5	五所川原
33	15－1136	坏	0.370	0.207	2.18	0.563	0.474	0.171	29.8	25.0	不明
34	15－1137	坏	0.303	0.269	2.64	0.453	0.396	0.168	5.3	42.9	五所川原
35	15－1138	坏	0.340	0.196	2.44	0.507	0.395	0.171	9.5	20.6	五所川原(？)
36	15－1139	長頸壺	0.361	0.255	2.88	0.545	0.468	0.311	19.7	32.4	
37	15－1140	長頸壺	0.234	0.264	4.26	0.317	0.304	0.155	3.6	50.1	五所川原
38	15－1141	坏	0.261	0.268	3.22	0.402	0.355	0.178	4.6	52.4	五所川原
39	15－1142	長頸壺	0.348	0.185	3.10	0.447	0.386	0.181	10.3	11.3	五所川原(？)
40	15－1143	短頸壺	0.389	0.234	2.52	0.555	0.435	0.250	9.5	20.2	五所川原(？)
41	15－1144	甕	0.311	0.277	3.52	0.440	0.363	0.213	0.84	45.0	五所川原
42	15－1145	甕	0.281	0.402	2.11	0.384	0.532	0.346	32.8	97.0	不明
43	15－1146	坏	0.315	0.282	3.05	0.441	0.400	0.200	2.6	40.6	五所川原
44	15－1147	鉢	0.378	0.253	3.45	0.559	0.380	0.226	5.6	37.0	五所川原
45	15－1148	長頸壺	0.366	0.238	3.04	0.507	0.402	0.226	3.6	21.4	五所川原
46	15－1149	長頸壺	0.345	0.234	2.91	0.464	0.409	0.252	6.3	18.9	五所川原

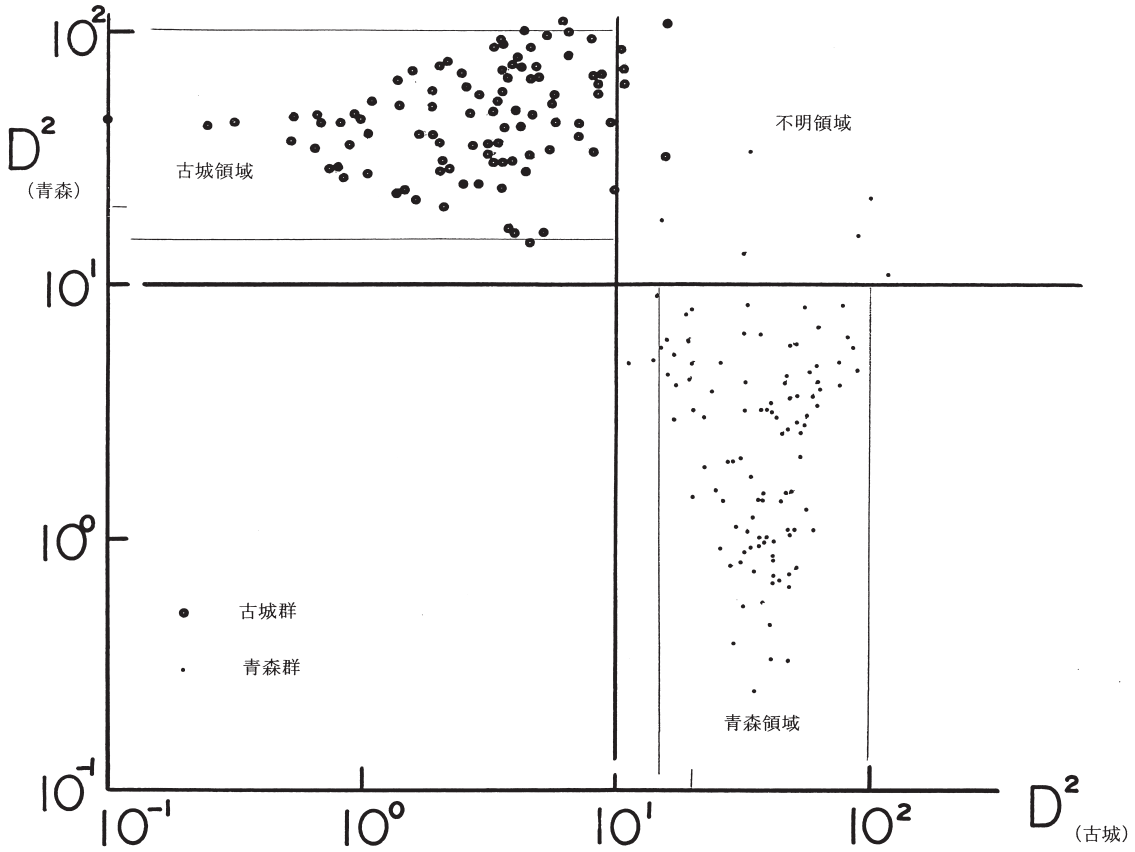


図１　青森群と古城群の相互識別（Ｋ、Ｃａ、Ｒｂ、Ｓｒ）

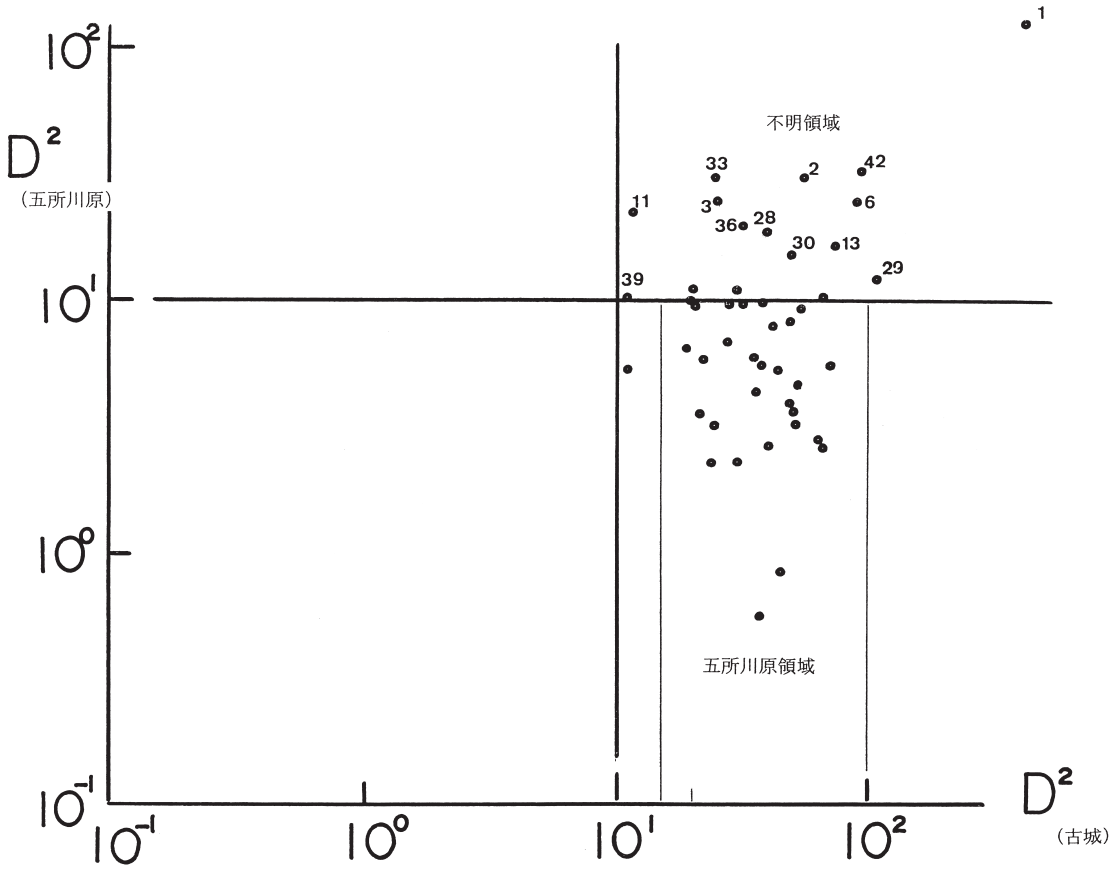


図２　野尻(1)遺跡出土須恵器の産地推定（Ｋ、Ｃａ、Ｒｂ、Ｓｒ）

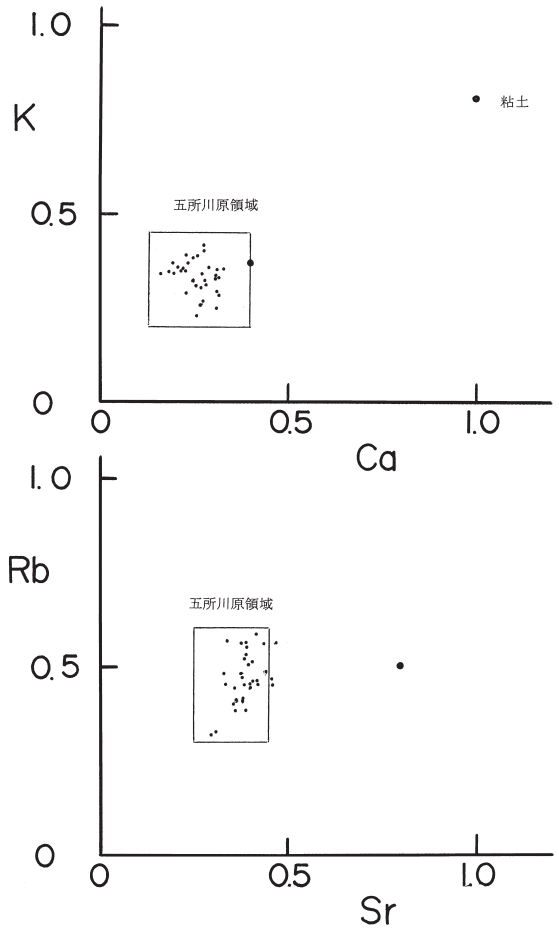


図３　五所川原産と推定された
野尻(1)遺跡の須恵器の両分布図

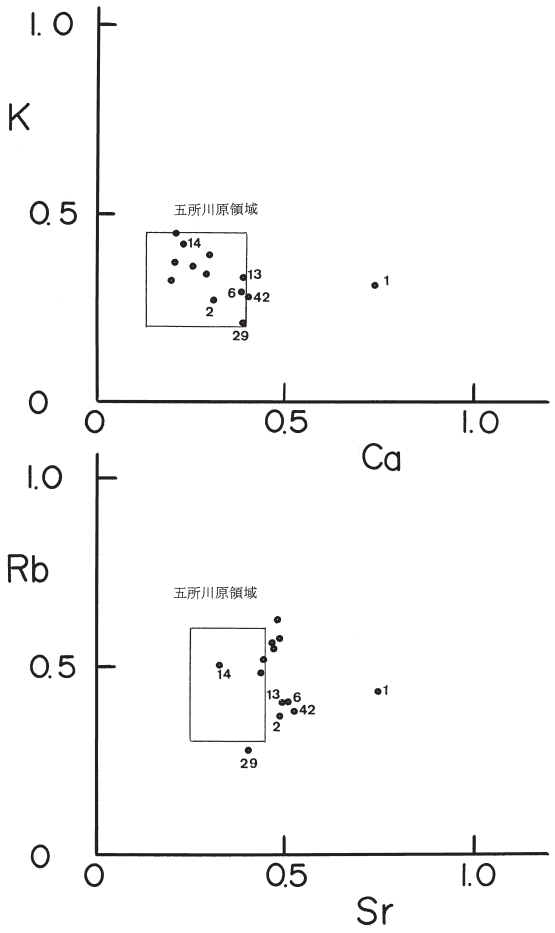


図４　産地不明となった
野尻(1)遺跡の須恵器の両分布図

第２節　胎土分析結果に対するコメント

本遺跡から出土した土器に関しては、既に第259（Ⅱ）・277（Ⅲ）・320（Ⅳ）・366（本書・Ⅵ）集（以下括弧書きのローマ数字で記述）で三辻利一による胎土分析が行われている。分析試料は平安時代の須恵器に限らず、縄文・弥生土器にも及んでいる。ここでは、須恵器のみに焦点を当て、考古学の側から胎土分析の結果について若干のコメントをする。筆者は胎土分析のみならず須恵器についても浅学である故、的をはずした見解もある程度承知の上で若干問題提起をさせていただきたい。

まず、今回の胎土分析結果について、資料の補足をさせていただく。先述したとおり本遺跡出土資料は過去に胎土分析が行われているが、今回の分析結果には実はそれらのデータは用いられていない。今回のデータはあくまでⅠ・Ⅴで報告した須恵器からサンプルを採取していることを明記しておく。

図Ⅰには今回のデータに過去のデータ（表Ⅰ）と最近発刊された五所川原須恵器窯跡群の報告書から、ＫＹ１号・ＭＺ６号・ＭＤ７号の各窯跡出土資料から採取したサンプルのデータ（表Ⅱ）をあわせ、Ｋ－Ｃａ、Ｒｂ－Ｓｒそれぞれの両分布図を作成したものである。これらからは、三辻の分析のとおり野尻⑴遺跡出土須恵器は、五所川原領域をカバーしつつその領域外にある物も存在することがわかる。図Ｉをよく見ると両分布図共に各窯跡毎にややずれながらまとまりを持っていることがわかる。Ｋ－Ｃａ分布図ではＫの値に差が有り、Ｒｂ－Ｓｒ分布図ではＲｂの値に差が見られると筆者は感じる。窯跡毎の識別については、五所川原須恵器窯跡群の報告書（五所川原市第25集・2003）中において不可能であるとしているが、検討の余地は残っていないのだろうか。

次に今回及び過去（Ⅱ・Ⅲ）に五所川原産・五所川原（？）産・産地不明とそれぞれに判定された遺物を図Ⅱ・Ⅲに集成してみた（判定については各報告書の記載を元にしたため、現在の五所川原領域の範囲内に収まる遺物もあると思われる）。形態上の観点からは非五所川原産的な要素は見あたらないというのが正直な感想である。サンプル採取の際及び整理作業の過程での観察で胎土の面で五所川原産ではないのでは、と感じた物はＶ－23－23・Ｖ－40－28・Ｖ－44－７の３点であった（23－23は五所川原？と判定されている）。五所川原産の須恵器の外見的特徴は、断面がサンドイッチ状になり、内面が赤褐色～橙色を呈する物が多いというのが大方の見解であるが(外面及び器表面近くは濃いめの青灰色)、先に挙げた３点の内23－23・44－７は器表面・断面共に灰色である。また、40－28は色調的には五所川原的であるが断面に縞模様（マーブル状）がみられ、やや異質な感じは受ける。しかしながら、先述したとおり胎土分析で非五所川原産とされた物は形態的特徴からは五所川原産である可能性が高い物ばかりである。

かつて三辻はＭＤ－７号窯跡（犬走窯跡）出土資料の胎土分析を行い、甕・壺等のＦｅ因子が五所川原産の標準値とされる3.0以上を下回るものが多い事から、器種毎に胎土を使い分けていた可能性を示唆しつつ、Ｆｅ因子を使用して供給先の遺跡出土須恵器から五所川原産須恵器を摘出する際は注意を要するとした。本遺跡出土資料で非五所川原産と判定された資料のＦｅ値を調べると、そのほとんどが3.0以下であることが表Ⅰ～Ⅱからわかる。図らずも非五所川原産とされた資料25点の内訳は甕類５・壺類12・坏類８と壺・甕で半数以上を占めている。また、壺類に関してはより大型の物が多いことも図Ⅲから明らかである。したがって、産地判定結果と考古学的な肉眼観察結果とのずれについて、上記のような視点から再度細かく検討する余地がある。しかし、五所川原産とした中にも同様な器種は存在することから、今後発掘された各窯跡出土資料との正確な対比作業が非常に重要になる。

(茅野嘉雄)

遺跡名	出土位置	試料番号	分析	図	番号	器種	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na
KY1号窯		15-947	1	1	15	坏	0.236	0.262	3.720	0.342	0.307	0.152
KY1号窯		15-948	2	1	10	坏	0.257	0.265	3.920	0.366	0.309	0.182
KY1号窯		15-949	3	1	14	坏	0.301	0.294	3.450	0.390	0.351	0.190
KY1号窯		15-950	4	1	11	坏	0.230	0.291	3.640	0.321	0.316	0.152
KY1号窯		15-951	5	1	7	坏	0.271	0.205	3.660	0.322	0.304	0.164
KY1号窯		15-952	6	1	13	坏	0.325	0.297	3.280	0.454	0.408	0.204
KY1号窯		15-953	7	1	8	坏	0.285	0.246	4.230	0.366	0.342	0.134
KY1号窯		15-954	8	1	16	坏	0.257	0.279	3.400	0.366	0.369	0.154
KY1号窯		15-955	9	1	17	坏	0.322	0.243	4.750	0.434	0.317	0.183
KY1号窯		15-956	10	1	12	坏	0.220	0.270	3.720	0.307	0.300	0.146
KY1号窯		15-957	11	1	9	坏	0.280	0.246	3.540	0.348	0.358	0.172
KY1号窯		15-958	12	1	18	坏	0.335	0.257	3.380	0.469	0.375	0.210
KY1号窯		15-959	13	1	19	坏	0.329	0.244	3.660	0.440	0.341	0.135
KY1号窯		15-960	14	1	20	坏	0.221	0.274	3.780	0.314	0.282	0.132
KY1号窯		15-961	15	2	24	鉢	0.240	0.288	3.980	0.324	0.338	0.181
KY1号窯		15-962	16	2	40	鉢	0.325	0.276	4.030	0.409	0.362	0.218
KY1号窯		15-963	17	2	25	壺Ⅰ	0.239	0.292	3.940	0.325	0.345	0.190
KY1号窯		15-964	18	3	42	壺Ⅰ	0.243	0.283	3.860	0.349	0.310	0.187
KY1号窯		15-965	19	2	41	壺Ⅱ	0.316	0.277	3.260	0.445	0.372	0.206
KY1号窯		15-966	20	3	43	壺Ⅰ	0.302	0.270	3.890	0.388	0.335	0.211
KY1号窯		15-967	21	2	38	壺Ⅲ	0.316	0.252	3.700	0.451	0.347	0.214
KY1号窯		15-968	22	2	37	壺Ⅰ	0.362	0.276	3.350	0.465	0.362	0.207
KY1号窯		15-969	23	2	35	壺Ⅰ	0.333	0.284	3.390	0.435	0.361	0.200
KY1号窯		15-970	24	2	39	壺Ⅱ	0.334	0.211	4.710	0.434	0.300	0.177
KY1号窯		15-971	25	2	36	壺Ⅰ	0.328	0.310	3.440	0.370	0.390	0.236
KY1号窯		15-972	26	2	34	壺Ⅰ	0.303	0.198	3.430	0.377	0.331	0.195
KY1号窯		15-973	27	4	50	甕Ⅱ	0.297	0.253	3.680	0.412	0.335	0.205
KY1号窯		15-974	28	3	46	甕Ⅰ	0.339	0.384	3.430	0.454	0.439	0.295
KY1号窯		15-975	29	2	33	壺Ⅰ	0.351	0.270	3.050	0.473	0.384	0.209
KY1号窯		15-976	30	3	48	甕Ⅰ	0.295	0.299	3.850	0.368	0.354	0.199
KY1号窯		15-977	31	3	47	甕Ⅰ	0.336	0.441	3.390	0.438	0.467	0.337
KY1号窯		15-978	32	4	51	甕Ⅱ	0.446	0.222	3.190	0.537	0.419	0.236
KY1号窯		15-979	33	2	30	壺Ⅰ	0.306	0.256	3.740	0.390	0.366	0.202
KY1号窯		15-980	34	2	31	壺Ⅰ	0.331	0.303	3.920	0.412	0.366	0.231
KY1号窯		15-981	35	2	32	壺Ⅰ	0.379	0.260	3.000	0.469	0.388	0.207
KY1号窯		15-982	36	4	55	土師器様	0.383	0.345	3.360	0.494	0.413	0.242
KY1号窯		15-983	37	4	52	土師器様	0.352	0.452	2.920	0.352	0.475	0.307
KY1号窯		15-984	38	4	53	土師器様	0.393	0.406	3.230	0.435	0.408	0.264
KY1号窯		15-985	39	4	54	土師器様	0.352	0.328	2.820	0.475	0.422	0.244
KY1号窯		15-986	40	3	45	甕Ⅰ	0.228	0.338	4.100	0.260	0.323	0.196

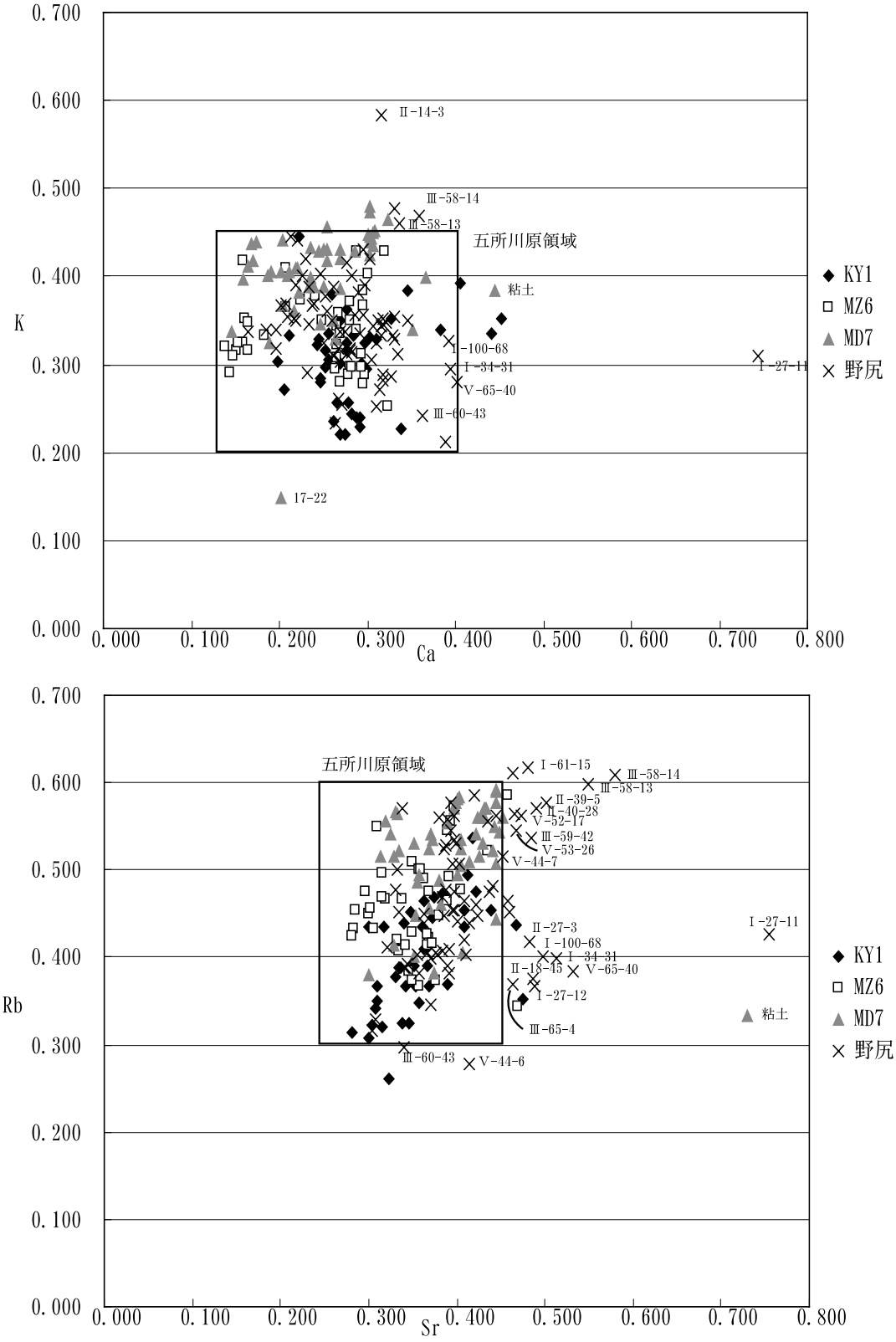
遺跡名	出土位置	試料番号	分析	図	番号	器種	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na
MZ6号窯		15-987	1	*8	1	坏	0.403	0.300	3.560	0.545	0.389	0.181
MZ6号窯		15-988	2	*8	2	坏	0.311	0.293	3.090	0.422	0.368	0.195
MZ6号窯		15-989	3	*8	3	坏	0.344	0.265	3.430	0.447	0.380	0.190
MZ6号窯		15-990	4	*8	8	坏	0.429	0.320	3.430	0.573	0.398	0.285
MZ6号窯		15-991	5	*8	10	坏	0.288	0.298	3.290	0.368	0.358	0.148
MZ6号窯		15-992	6	*8	11	坏	0.298	0.281	3.390	0.413	0.367	0.160
MZ6号窯		15-993	7	*8	13	坏	0.352	0.160	3.260	0.466	0.320	0.170
MZ6号窯		15-994	8	*8	14	坏	0.278	0.295	3.570	0.384	0.345	0.190
MZ6号窯		15-995	9	*8	16	坏	0.351	0.249	3.460	0.465	0.390	0.189
MZ6号窯		15-996	10	*8	17	坏	0.385	0.296	3.580	0.555	0.394	0.197
MZ6号窯		15-997	11	*8	19	坏	0.340	0.287	3.480	0.427	0.367	0.181
MZ6号窯		15-998	12	*9	33	鉢	0.429	0.288	3.320	0.490	0.363	0.169
MZ6号窯		15-999	13	*9	36	鉢	0.288	0.279	3.590	0.373	0.349	0.158
MZ6号窯		15-1000	14	*9	39	鉢	0.281	0.269	2.910	0.344	0.470	0.253
MZ6号窯		15-1001	15	*10	44	鉢	0.294	0.263	3.530	0.408	0.335	0.186
MZ6号窯		15-1002	16	*10	45	鉢	0.297	0.293	3.350	0.416	0.373	0.198
MZ6号窯		15-1003	17	*10	46	鉢	0.365	0.207	3.470	0.449	0.301	0.139
MZ6号窯		15-1004	18	*10	48	壺Ⅰ	0.316	0.152	3.540	0.432	0.305	0.152
MZ6号窯		15-1005	19	*10	49	壺Ⅰ	0.309	0.147	3.530	0.433	0.283	0.135
MZ6号窯		15-1006	20	*10	50	壺Ⅰ	0.347	0.164	3.340	0.497	0.316	0.179
MZ6号窯		15-1007	21	*10	51	壺Ⅰ	0.324	0.158	3.280	0.476	0.296	0.159
MZ6号窯		15-1008	22	*13	53	壺Ⅰ	0.290	0.143	3.570	0.424	0.281	0.122
MZ6号窯		15-1009	23	*13	54	壺Ⅰ	0.417	0.159	3.300	0.550	0.310	0.179
MZ6号窯		15-1010	24	*13	55	壺Ⅰ	0.322	0.265	3.520	0.414	0.342	0.173
MZ6号窯		15-1011	25	*13	57	壺Ⅰ	0.371	0.280	3.360	0.510	0.350	0.185

遺跡名	出土位置	試料番号	分析	図	番号	器種	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na
MZ6号窯		15-1012	26	*13	58	壺Ⅰ	0.368	0.296	3.190	0.478	0.405	0.236
MZ6号窯		15-1013	27	*13	68	壺Ⅰ	0.252	0.323	3.040	0.373	0.376	0.206
MZ6号窯		15-1014	28	*14	72	鉢	0.324	0.154	3.430	0.456	0.302	0.124
MZ6号窯		15-1015	29	*14	73	壺Ⅱ	0.307	0.265	3.510	0.429	0.350	0.211
MZ6号窯		15-1016	30	*14	74	壺Ⅱ	0.409	0.207	2.940	0.585	0.458	0.224
MZ6号窯		15-1017	31	*14	76	壺Ⅱ	0.349	0.280	3.300	0.475	0.369	0.218
MZ6号窯		15-1018	32	*14	77	壺Ⅱ	0.378	0.242	3.920	0.500	0.357	0.212
MZ6号窯		15-1019	33	*15	81	壺Ⅱ	0.332	0.183	3.360	0.467	0.338	0.173
MZ6号窯		15-1020	34	*15	83	甕Ⅰ	0.336	0.270	3.190	0.493	0.391	0.200
MZ6号窯		15-1021	35	*15	84	甕Ⅰ	0.297	0.283	3.670	0.419	0.333	0.211
MZ6号窯		15-1022	36	*15	85	甕Ⅰ	0.373	0.225	3.190	0.500	0.360	0.211
MZ6号窯		15-1023	37	*15	88	甕Ⅰ	0.358	0.267	2.940	0.521	0.435	0.240
MZ6号窯		15-1024	38	*15	89	壺	0.317	0.165	3.330	0.469	0.315	0.135
MZ6号窯		15-1025	39	*15	91	甕Ⅱ	0.320	0.138	3.420	0.453	0.285	0.133

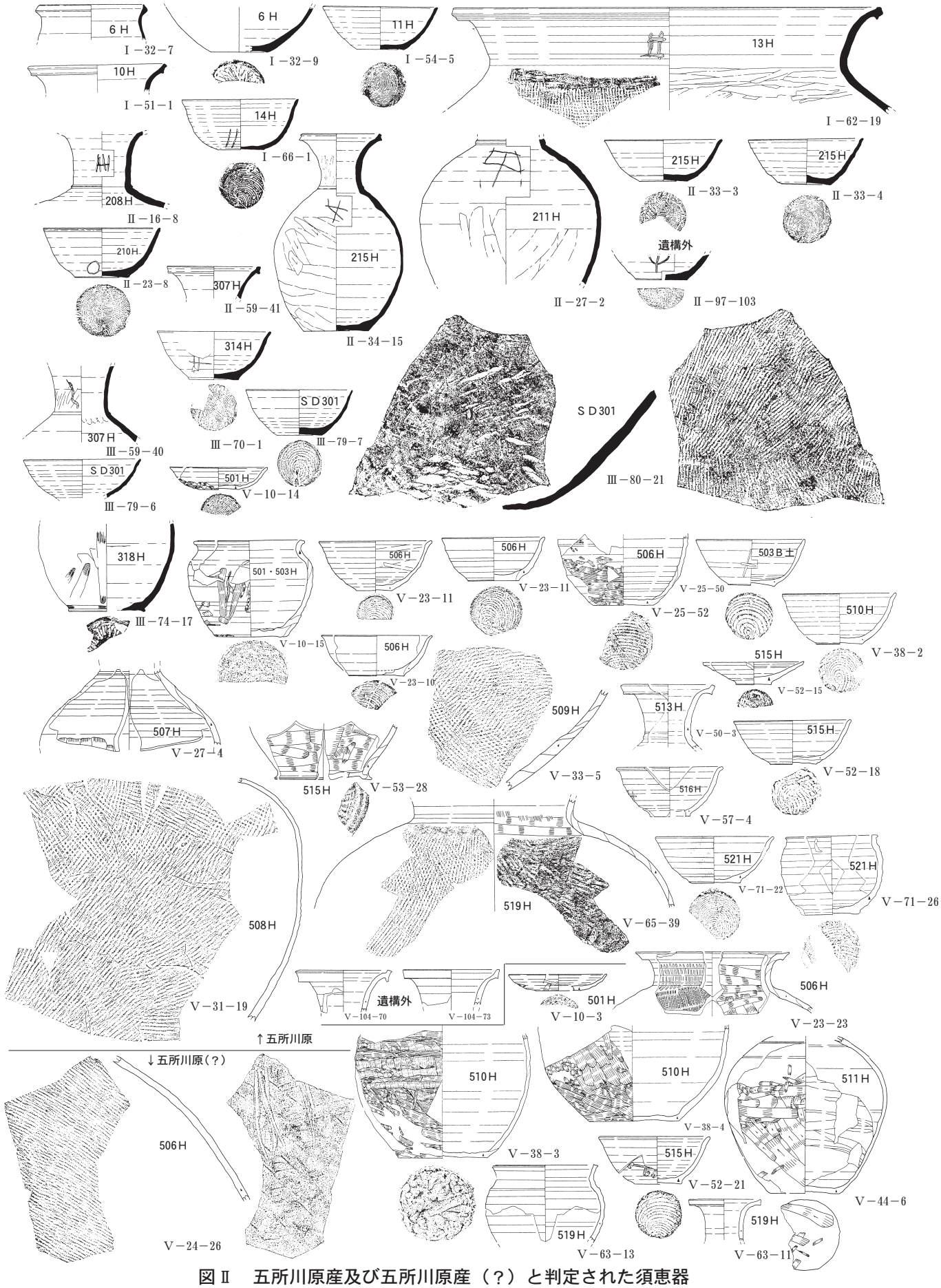
遺跡名	出土位置	試料番号	分析	図	番号	器種	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na
MD-7	1窯	10-2290	1	16	4	坏	0.439	0.174	3.720	0.567	0.330	0.160
MD-7	1窯	10-2291	2	16	7	坏	0.397	0.159	3.960	0.516	0.313	0.114
MD-7	1窯	10-2292	3	16	9	長頸壺	0.400	0.210	2.340	0.576	0.399	0.168
MD-7	1窯	10-2293	4	16	10	長頸壺	0.389	0.239	1.950	0.443	0.444	0.211
MD-7	2窯	10-2294	5	17	11	坏	0.412	0.164	3.870	0.541	0.325	0.143
MD-7	2窯	10-2295	6	17	14	坏	0.400	0.187	3.380	0.521	0.335	0.157
MD-7	2窯	10-2296	7	17	21	坏	0.148	0.202	3.210	0.531	0.351	0.164
MD-7	2窯	10-2297	8	17	22	壺	0.465	0.323	3.570	0.576	0.444	0.262
MD-7	2窯	10-2298	9	17	30	短頸壺	0.433	0.236	3.180	0.571	0.398	0.194
MD-7	2窯	10-2299	10	17	31	壺	0.472	0.302	3.600	0.591	0.445	0.277
MD-7	2窯	10-2300	11	17	33	壺	0.405	0.201	2.860	0.485	0.356	0.183
MD-7	2窯	10-2301	12	17	36	長頸壺	0.448	0.301	3.330	0.571	0.433	0.220
MD-7	2窯	10-2302	13	17	37	長頸壺	0.480	0.303	3.580	0.589	0.444	0.222
MD-7	2窯	10-2303	14	17	38	長頸壺	0.430	0.254	3.290	0.583	0.403	0.218
MD-7	2窯	10-2304	15	17	39	長頸壺	0.457	0.255	3.220	0.581	0.400	0.198
MD-7	2窯	10-2305	16	17	39	長頸壺	0.429	0.244	3.280	0.554	0.390	0.189
MD-7	2窯	10-2306	17	17	40	広口壺	0.409	0.220	3.210	0.534	0.373	0.156
MD-7	2窯	10-2307	18	20	42	鉢	0.443	0.305	3.690	0.560	0.431	0.237
MD-7	2窯	10-2308	19	20	43	鉢	0.449	0.307	3.600	0.561	0.428	0.247
MD-7	2窯	10-2309	20	21	47	大甕	0.386	0.269	2.230	0.542	0.449	0.223
MD-7	2窯	10-2310	21	21	48	大甕	0.329	0.263	3.130	0.401	0.352	0.188
MD-7	2窯	10-2311	22	21	49	大甕	0.349	0.261	3.150	0.461	0.382	0.184
MD-7	2窯	10-2312	23	21	51	大甕	0.399	0.367	3.400	0.507	0.444	0.267
MD-7	窯体周辺	10-2313	24	22	53	坏	0.434	0.307	3.790	0.540	0.422	0.250
MD-7	窯体周辺	10-2314	25	22	61	坏	0.430	0.270	3.750	0.510	0.415	0.217
MD-7	窯体周辺	10-2315	26	22	63	坏	0.406	0.211	3.130	0.540	0.371	0.174
MD-7	窯体周辺	10-2316	27	22	70	長頸壺	0.452	0.309	3.640	0.571	0.431	0.276
MD-7	窯体周辺	10-2317	28	22	73	長頸壺	0.381	0.222	2.570	0.504	0.405	0.178
MD-7	窯体周辺	10-2318	29	22	82	長頸壺	0.438	0.168	3.550	0.556	0.319	0.147
MD-7	土坑	10-2319	30	35	86	坏	0.406	0.190	3.330	0.515	0.329	0.165
MD-7	土坑	10-2320	31	35	87	坏	0.421	0.269	3.960	0.495	0.401	0.228
MD-7	土坑	10-2321	32	35	90	坏	0.425	0.302	3.840	0.516	0.425	0.240
MD-7	土坑	10-2322	33	35	92	坏	0.428	0.286	3.830	0.523	0.404	0.236
MD-7	土坑	10-2323	34	36	97	中甕	0.389	0.250	2.330	0.530	0.430	0.210
MD-7	土坑	10-2324	35	36	98	中甕	0.346	0.247	3.110	0.381	0.374	0.179
MD-7	土坑	10-2325	36	36	100	中甕	0.360	0.216	2.830	0.447	0.354	0.186
MD-7	土坑	10-2326	37	36	100	中甕	0.368	0.204	2.950	0.494	0.358	0.149
MD-7	土坑覆土	10-2327	38			壺	0.398	0.235	3.370	0.523	0.369	0.185
MD-7	2窯	10-2328	39			壺	0.339	0.352	3.220	0.405	0.407	0.177
MD-7	2窯灰原	10-2329	40			壺	0.417	0.171	3.300	0.565	0.332	0.148
MD-7	土坑覆土	10-2330	41			壺	0.409	0.218	2.560	0.535	0.404	0.160
MD-7	包含層	10-2331	42			壺	0.440	0.302	3.630	0.560	0.424	0.261
MD-7	包含層	10-2332	43			壺	0.441	0.204	2.840	0.487	0.380	0.204
MD-7	包含層	10-2333	44			壺	0.389	0.233	3.090	0.456	0.368	0.213
MD-7	包含層	10-2334	45			壺	0.338	0.146	2.720	0.380	0.300	0.150
MD-7	2窯床	10-2335	46			甕	0.446	0.303	3.240	0.559	0.453	0.286
MD-7	2窯	10-2336	47			甕	0.430	0.251	2.250	0.549	0.443	0.226
MD-7	土坑床面	10-2337	48			甕	0.325	0.189	2.830	0.413	0.328	0.168
MD-7	包含層	10-2338	49			甕	0.417	0.255	2.250	0.521	0.440	0.209
MD-7	窯周辺	10-2339	50			粘土	0.384	0.444	2.640	0.332	0.729	0.310

遺跡名	出土位置	試料番号	図	番号	器種	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	判定
野尻Ⅰ	6H	15-1108	32	9	長頸壺	0.324	0.251	2.870	0.405	0.366	0.205	五所
野尻Ⅰ	11H	15-1111	54	5	坏	0.253	0.310	3.960	0.328	0.308	0.128	五所
野尻Ⅰ	13H	15-1113	61	6		0.291	0.232	2.880	0.382	0.357	0.194	五所
野尻Ⅰ	14H	15-1115	66	1	坏	0.357	0.286	3.700	0.468	0.384	0.179	五所
野尻Ⅱ	208H	10-6972	16	8	長頸壺	0.328	0.331	3.470	0.390	0.389	0.218	五所
野尻Ⅱ	210H	10-6963	23	8	坏	0.348	0.322	3.270	0.421	0.408	0.244	五所
野尻Ⅱ	211H	10-6970	27	2	長頸壺	0.346	0.317	3.330	0.399	0.371	0.219	五所
野尻Ⅱ	215H	10-6959	33	3	坏	0.431	0.295	3.240	0.562	0.444	0.263	五所
野尻Ⅱ	215H	10-6960	33	4	坏	0.404	0.247	3.000	0.534	0.398	0.174	五所
野尻Ⅱ	215H	10-6958	34	15	長頸壺	0.477	0.331	3.230	0.611	0.463	0.281	五所
野尻Ⅱ	外	10-6973	97	103	坏	0.344	0.316	3.250	0.403	0.410	0.209	五所
野尻Ⅱ	非掲	10-6964	外	外	小甕	0.287	0.327	3.240	0.346	0.370	0.195	五所
野尻Ⅲ	307H	11-4304	59	40	長頸壺	0.333	0.329	3.440	0.402	0.378	0.231	五所
野尻Ⅲ	307H	11-4305	59	41	長頸壺	0.318	0.280	3.600	0.388	0.341	0.194	五所
野尻Ⅲ	314H	11-4341	70	1	坏	0.305	0.305	3.410	0.389	0.342	0.184	五所
野尻Ⅲ	318H	11-4346	74	17	壺	0.381	0.289	3.700	0.450	0.363	0.227	五所
野尻Ⅲ	ＳＤ301	11-4363	79	7	坏	0.319	0.267	4.150	0.412	0.321	0.176	五所
野尻Ⅲ	ＳＤ301	11-4364	79	6	坏	0.317	0.280	3.680	0.392	0.344	0.157	五所
野尻Ⅲ	ＳＤ301	11-4365	80	21	甕	0.356	0.296	2.940	0.440	0.415	0.250	五所
野尻Ⅴ	501H	15-1118	10	14	皿	0.416	0.277	3.230	0.586	0.420	0.249	五所
野尻Ⅴ	501･503H	15-1119	10	15	鉢	0.338	0.270	4.060	0.477	0.331	0.211	五所
野尻Ⅴ	506H	15-1120	23	9	坏	0.368	0.202	3.280	0.571	0.339	0.146	五所
野尻Ⅴ	506H	15-1123	25	52	長頸壺	0.338	0.164	2.420	0.452	0.335	0.186	五所
野尻Ⅴ	503Ｂ土	15-1124	25	50	坏	0.355	0.210	2.330	0.524	0.386	0.175	五所
野尻Ⅴ	507H	15-1125	27	4	長頸壺	0.388	0.262	3.350	0.558	0.390	0.244	五所
野尻Ⅴ	508H	15-1126	31	19	甕	0.333	0.315	2.920	0.461	0.421	0.218	五所
野尻Ⅴ	509H	15-1127	33	5	甕	0.354	0.330	3.690	0.478	0.388	0.255	五所
野尻Ⅴ	510H	15-1128	38	2	坏	0.309	0.262	3.330	0.407	0.383	0.188	五所
野尻Ⅴ	513H	15-1134	50	3	長頸壺	0.349	0.218	2.250	0.529	0.387	0.185	五所
野尻Ⅴ	515H	15-1135	52	15	蓋	0.283	0.318	3.520	0.405	0.377	0.216	五所
野尻Ⅴ	515H	15-1137	52	18	坏	0.303	0.269	2.640	0.453	0.396	0.168	五所
野尻Ⅴ	515H	15-1140	53	28	長頸壺	0.234	0.264	4.260	0.317	0.304	0.155	五所
野尻Ⅴ	516H	15-1141	57	4	坏	0.261	0.268	3.220	0.402	0.355	0.178	五所
野尻Ⅴ	519H	15-1144	65	39	甕	0.311	0.277	3.520	0.440	0.363	0.213	五所
野尻Ⅴ	521H	15-1146	71	22	坏	0.315	0.282	3.050	0.441	0.400	0.200	五所
野尻Ⅴ	521H	15-1147	71	26	鉢	0.378	0.253	3.450	0.559	0.380	0.226	五所
野尻Ⅴ	外	15-1148	104	70	長頸壺	0.366	0.238	3.040	0.507	0.402	0.226	五所
野尻Ⅴ	外	15-1149	104	73	長頸壺	0.345	0.234	2.910	0.464	0.409	0.252	五所
野尻Ⅰ	6H	15-1107	32	7	鉢	0.325	0.310	2.350	0.482	0.440	0.249	五所(?)
野尻Ⅰ	10H	15-1110	51	1	短頸壺	0.255	0.271	2.560	0.382	0.391	0.193	五所(?)
野尻Ⅰ	13H	15-1112	62	19	大甕	0.352	0.317	2.390	0.465	0.458	0.281	五所(?)
野尻Ⅴ	501H	15-1117	10	3	皿	0.419	0.229	4.100	0.501	0.333	0.204	五所(?)
野尻Ⅴ	506H	15-1121	23	23	小甕	0.401	0.282	2.140	0.564	0.466	0.271	五所(?)
野尻Ⅴ	506H	15-1122	24	26	甕	0.343	0.307	2.270	0.452	0.459	0.291	五所(?)
野尻Ⅴ	510H	15-1129	38	3	長頸壺	0.352	0.216	2.220	0.546	0.394	0.165	五所(?)
野尻Ⅴ	510H	15-1130	38	4	長頸壺	0.289	0.317	2.540	0.448	0.424	0.209	五所(?)
野尻Ⅴ	511H	15-1132	44	6	長頸壺	0.213	0.389	3.400	0.277	0.414	0.184	五所(?)
野尻Ⅴ	515H	15-1138	52	21	坏	0.340	0.196	2.440	0.507	0.395	0.171	五所(?)
野尻Ⅴ	519H	15-1142	63	11	長頸壺	0.340	0.185	3.100	0.447	0.386	0.181	五所(?)
野尻Ⅴ	519H	15-1143	63	13	短頸壺	0.389	0.234	2.520	0.555	0.435	0.250	五所(?)
野尻Ⅰ	5H	15-1104	27	11	鉢	0.310	0.744	2.350	0.427	0.754	0.452	不明
野尻Ⅰ	5H	15-1105	27	12	長頸壺	0.272	0.314	1.950	0.366	0.489	0.295	不明
野尻Ⅰ	6H	15-1106	32	2	坏	0.319	0.197	2.160	0.476	0.437	0.183	不明
野尻Ⅰ	6H	15-1109	34	31	中甕	0.294	0.394	2.090	0.398	0.514	0.331	不明
野尻Ⅰ	13H	15-1114	61	15	小甕	0.446	0.213	2.270	0.617	0.480	0.253	不明
野尻Ⅰ	ＳＤ32	15-1116	100	68	短頸壺	0.326	0.392	2.060	0.401	0.497	0.374	不明
野尻Ⅱ	207H	10-6971	14	3	坏	0.583	0.315	3.070	0.576	0.393	0.170	不明
野尻Ⅱ	208H	10-6962	16	1	坏	0.351	0.260	2.810	0.410	0.392	0.206	不明
野尻Ⅱ	208H	10-6968	18	45	長頸壺	0.349	0.312	2.830	0.375	0.486	0.235	不明
野尻Ⅱ	216土	10-6966	19	2	中甕	0.338	0.275	2.440	0.455	0.397	0.211	不明
野尻Ⅱ	211H	10-6969	27	3	長頸壺	0.350	0.345	1.930	0.417	0.482	0.261	不明
野尻Ⅱ	215H	10-6961	33	2	坏	0.369	0.239	2.510	0.475	0.397	0.175	不明
野尻Ⅱ	215H	10-6965	34	17	長頸壺	0.400	0.226	2.460	0.530	0.399	0.183	不明
野尻Ⅱ	217H	10-6967	39	5	小壺	0.442	0.220	2.440	0.577	0.501	0.182	不明
野尻Ⅲ	307H	11-4303	58	13	坏	0.461	0.336	2.710	0.599	0.550	0.377	不明
野尻Ⅲ	307H	11-4315	58	14	坏	0.469	0.358	2.690	0.609	0.579	0.387	不明
野尻Ⅲ	307H	11-4306	59	42	長頸壺	0.421	0.303	2.280	0.537	0.484	0.305	不明
野尻Ⅲ	307H	11-4302	60	43	壺	0.242	0.362	3.440	0.297	0.340	0.181	不明
野尻Ⅲ	311H	11-4332	65	4	坏	0.312	0.335	2.490	0.369	0.463	0.250	不明
野尻Ⅲ	318H	11-4347	74	18	壺	0.390	0.219	2.320	0.562	0.397	0.183	不明
野尻Ⅴ	510H	15-1131	40	28	長頸壺	0.391	0.297	2.770	0.570	0.491	0.316	不明

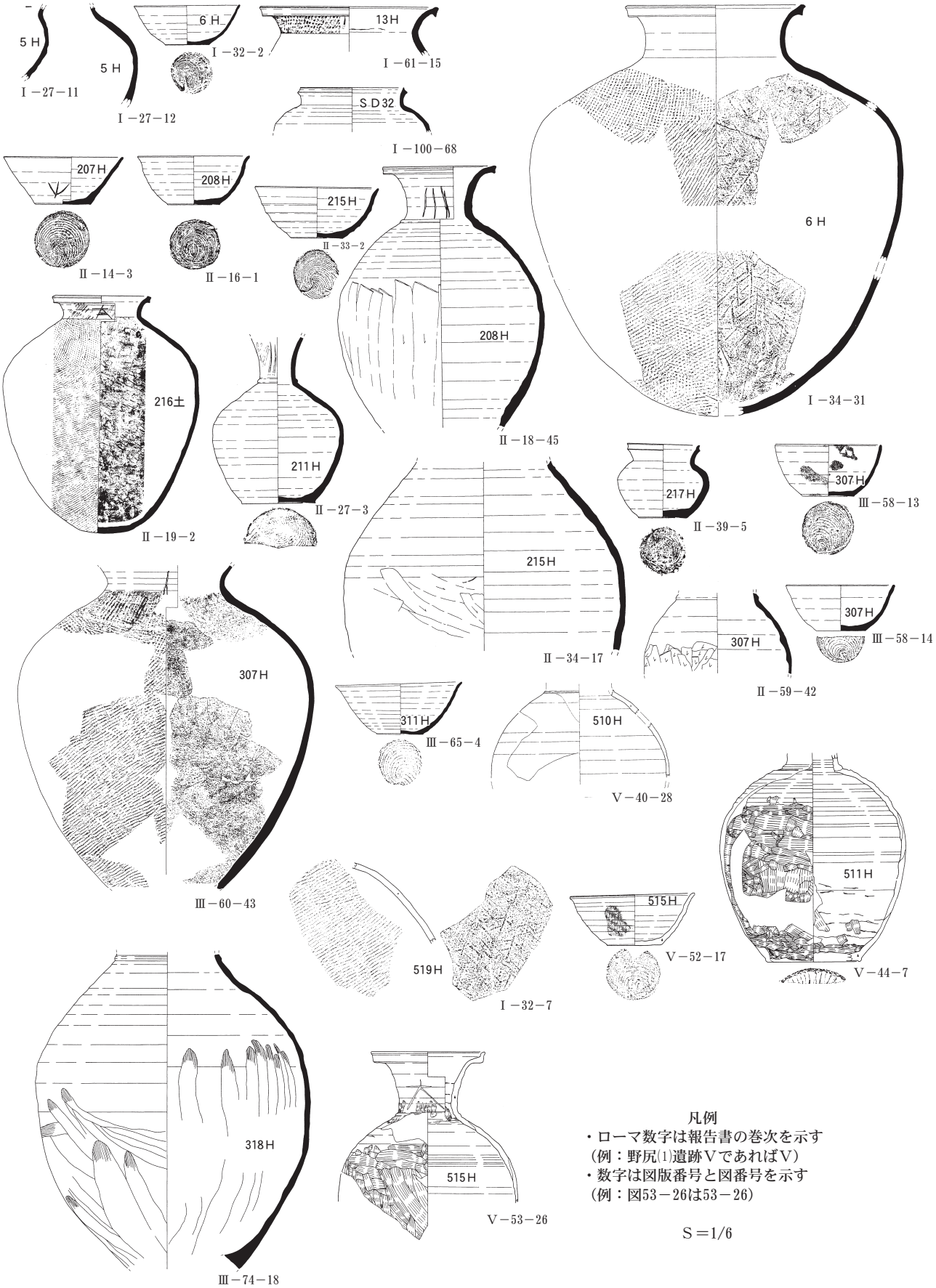
遺跡名	出土位置	試料番号	図	番号	器種	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	判定
野尻Ⅴ	511H	15-1133	44	7	長頸壺	0.335	0.291	2.620	0.516	0.453	0.250	不明
野尻Ⅴ	515H	15-1136	52	17	坏	0.370	0.207	2.180	0.563	0.474	0.171	不明
野尻Ⅴ	519H	15-1145	65	40	甕	0.281	0.402	2.110	0.384	0.532	0.346	不明
野尻Ⅴ	515H	15-1139	53	26	長頸壺	0.361	0.255	2.880	0.545	0.468	0.311	



図Ⅰ　五所川原須恵器窯跡群(KY1号・MZ6号・MD7号)と野尻(1)遺跡出土出土須恵器との比較



図Ⅱ　五所川原産及び五所川原産（？）と判定された須恵器



図Ⅲ　不明と判定された須恵器

第３節　放射性炭素年代測定１

（株）地球科学研究所

放射性炭素年代測定の依頼を受けました試料について、別表の結果を得ましたのでご報告申し上げます。

報告内容の説明

14C age (y BP)　：14C 年代　"measured radiocarbon age"
試料の 14C／ 12C 比から、単純に現在（1950年AD）から何年前（BP）かを計算した年代。
半減期はリビーの5568年を用いた。

補正14C age (y BP)　：補正 14C 年代　"conventional radiocarbon age"
試料の炭素安定同位体比（ 13C／ 12C ）を測定して試料の炭素の同位体分別を知り
14C／ 12C の測定値に補正値を加えた上で、算出した年代。
試料の　13 C値を-25（‰）に標準化することによって得られる年代値である。
暦年代を得る際にはこの年代値をもちいる。

δ 13C (permil)　：試料の測定 14C／ 12C 比を補正するための 13C／ 12C 比。
この安定同位体比は、下式のように標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表現する。

$$\delta\ ^{13}C\ (‰) = \frac{(\ ^{13}C/\ ^{12}C)[試料] - (\ ^{13}C/\ ^{12}C)[標準]}{(\ ^{13}C/\ ^{12}C)[標準]} \times 1000$$

ここで、 13C／ 12C [標準] ＝ 0.0112372である。

暦 年 代　：過去の宇宙線強度の変動による大気中14C 濃度の変動に対する補正により、暦年代を算出する。　具体的には年代既知の樹木年輪の 14C の測定、サンゴのU-Th年代と 14 C年代の比較により、補正曲線を作成し、暦年代を算出する。 最新のデータベース（"INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration" Stuiver et al, 1998, Radiocarbon 40(3)）により約19000yBPまでの換算が可能となった。*

*但し、10000yBP以前のデータはまだ不完全であり今後も改善される可能性が高いので、補正前のデータの保管を推奨します。
"The calendar calibrations were calculated using the newest calibration data as published in Radiocarbon, Vol. 40, No. 3, 1998 using the cubic spline fit mathematics as published by Talma and Vogel, Radiocarbon, Vol. 35, No. 2, pg 317-322, 1993: A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates. Results are reported both as cal BC and cal BP. Note that calibration for samples beyond about 10,000 years is still very subjective. The calibration data beyond about 13,000 years is a "best fit" compilation of modeled data and, although an improvement on the accuracy of the radiocarbon date, should be considered illustrative. It is very likely that calibration data beyond 10,000 years will change in the future. Because of this, it is very important to quote the original BP dates and these references in your publications so that future refinements can be applied to your results."

測定方法などに関するデータ

測定方法　AMS　：加速器質量分析
Radiometric　：液体シンチレーションカウンタによるβ-線計数法

処理・調製・その他　：　試料の前処理、調製などの情報

前処理　acid-alkali-acid：酸－アルカリ－酸洗浄
acid washes：酸洗浄
acid etch：酸によるエッチング
none：未処理

調製、その他

Bulk-Low Carbon Material：低濃度有機物処理
Bone Collagen Extraction：骨、歯などのコラーゲン抽出
Cellulose Extraction：木材のセルローズ抽出

Extended Counting：Radiometric による測定の際、測定時間を延長する

分析機関　BETA ANALYTIC INC.
4985 SW 74 Court, Miami, Fl, U.S.A 33155

Radiocarbon Dating Report　　Geo Science Laboratory

C14年代測定結果

No.1040

試料データ	C14年代(y BP) (Measured C14 age)	δ13C(permil)	補正 C14年代(y BP) (Conventional C14 age)
Beta- 173925	1210 ± 40	-27.6	1170 ± 40

試料名 （ 21516） 02NOJIRI-1 野尻(1)遺跡　第603号建物跡カマド

測定方法、期間　AMS-Standard

試料種、前処理など　charred material　acid/alkali/acid

Beta- 173926	1230 ± 40	-28.0	1180 ± 40

試料名 （ 21517） 02NOJIRI-2 野尻(2)遺跡　第110号竪穴住居跡床

測定方法、期間　AMS-Standard

試料種、前処理など　charred material　acid/alkali/acid

年代値はRCYBP(1950 A.D.を0年とする)で表記。モダン リファレンス スタンダードは国際的な慣例としてNBS Oxalic AcidのC14濃度の95%を使用し、半減期はリビーの5568年を使用した。エラーは1シグマ(68%確率)である。

(株)地球科学研究所　〒468 名古屋市天白区植田本町1-608 TEL052-802-0703

1 / 1

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-27.6:lab. mult=1)

Laboratory number: **Beta-173925**

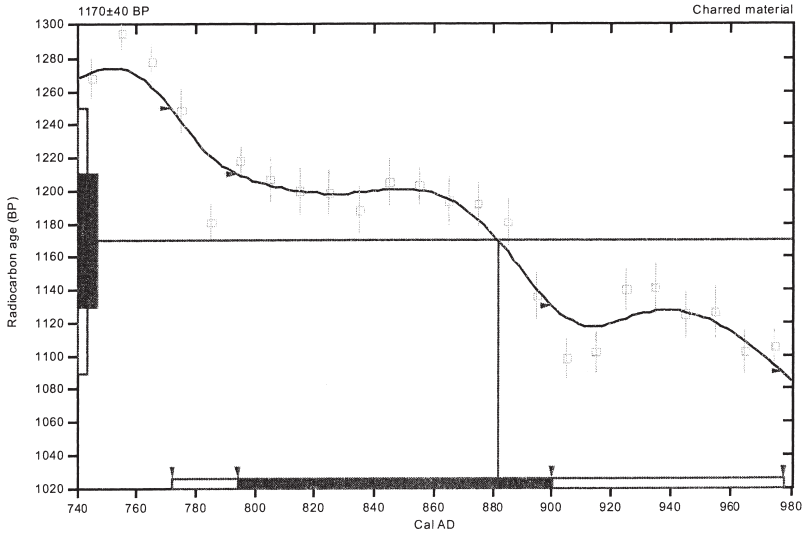
Conventional radiocarbon age: **1170±40 BP**

2 Sigma calibrated result: (95% probability) **Cal AD 770 to 980 (Cal BP 1180 to 970)**

Intercept data

Intercept of radiocarbon age with calibration curve: Cal AD 880 (Cal BP 1070)

1 Sigma calibrated result: (68% probability) Cal AD 790 to 900 (Cal BP 1160 to 1050)



References:

Database used

Calibration Database
Editorial Comment
Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, Radiocarbon 40(3), pxii-xiii
INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration
Stuiver, M., et. al., 1998, Radiocarbon 40(3), p1041-1083
Mathematics
A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates
Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322

Beta Analytic Inc.

4985 SW 74 Court, Miami, Florida 33155 USA • Tel: (305) 667 5167 • Fax: (305) 663 0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-28:lab. mult=1)

Laboratory number: **Beta-173926**

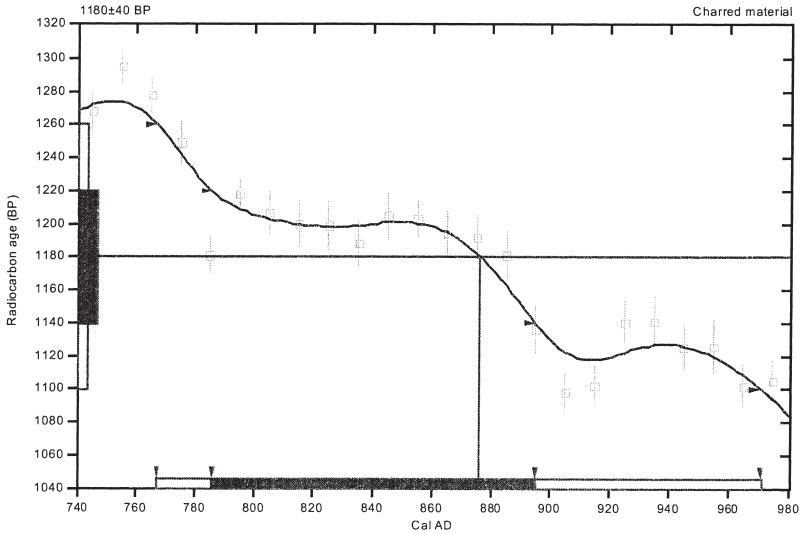
Conventional radiocarbon age: **1180±40 BP**

2 Sigma calibrated result: (95% probability) **Cal AD 770 to 970 (Cal BP 1180 to 980)**

Intercept data

Intercept of radiocarbon age with calibration curve: Cal AD 880 (Cal BP 1070)

1 Sigma calibrated result: (68% probability) Cal AD 790 to 900 (Cal BP 1160 to 1060)



References:

Database used

Calibration Database
Editorial Comment
Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, Radiocarbon 40(3), pxii-xiii
INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration
Stuiver, M., et. al., 1998, Radiocarbon 40(3), p1041-1083
Mathematics
A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates
Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322

Beta Analytic Inc.

4985 SW 74 Court, Miami, Florida 33155 USA • Tel: (305) 667 5167 • Fax: (305) 663 0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

第４節　放射性炭素年代測定２

パリノ・サーヴェイ株式会社

Ⅰ．野尻（１）　遺跡の放射性炭素年代測定

はじめに

野尻（１）遺跡は青森県南津軽郡浪岡町に所在し、梵珠山地南端の丘陵地上に位置する。今回の分析調査では、発掘調査により確認された土坑と、竪穴住居跡のカマド内から出土した炭化材の加速器による放射性炭素年代測定（ＡＭＳ法）を実施し、年代資料を得る。

１．試料

試料は、外周溝が付随する竪穴住居跡（SI-603）のカマド内から出土した炭化材１点（02NOJIRI-3）と、土坑（SK-602）の底面より出土した炭化材１点（02NOJIRI-4）の計２点である。カマド内出土炭化材は炉面から約５cmの位置、土坑出土炭化材は土坑確認面から約25cmの位置で採取されている。また、外周溝・竪穴住居跡・土坑の覆土中には白頭山火山灰がレンズ状に堆積しており、出土炭化材はいずれも火山灰層の下位から採取されている。

これらの試料全２点を対象に加速器による放射性炭素年代測定（ＡＭＳ法）を実施する。

２．分析方法

測定は、株式会社加速器分析研究所の協力を得た。なお、δ^{13}Ｃの値は加速器を用いて試料炭素の^{13}Ｃ濃度（^{13}Ｃ／^{12}Ｃ）を測定し、標準試料PDB（白亜紀のベレムナイト類の化石）の測定値を基準として、それからのずれを計算し、千分偏差（‰；パーミル）で表したものである。今回の試料の補正年代は、この値に基づいて補正をした年代である。なお、暦年較正は、丸める前の値をRADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4 (Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer) を用いて計算した。

３．結果

結果を表１・２に示す。試料の同位体補正年代値は、いずれも約1160～1110年前の８世紀末～９世紀中頃に相当する値を示す。一方、暦年較正年代はいずれも８世紀末～10世紀末の値を示す（図１・２参照）。発掘調査所見によれば、測定試料は白頭山火山灰層の下位から採取されている。早川・小山（1998）によれば、白頭山の噴火年代は946年～947年と推測されており、今回の測定結果とも調和的である。

表１　野尻（１）遺跡の放射性炭素年代測定結果

試料番号	遺跡名	遺構名	試料の質	測定年代	δ13C	補正年代	Code.No.
02NOJIRI-3	野尻（１）	SI-603	炭化材	1190±30BP	-26.86±0.59‰	1160±40BP	IAAA-30672
02NOJIRI-4	野尻（１）	SK-602	炭化材	1090±30BP	-23.68±0.95‰	1110±40BP	IAAA-30673

1)測定は、加速器質量分析法（AMS法）による。
2)年代は、1950年を基点とした年数で、補正年代はδ13Cの基に同位体効果による年代誤差を補正した値。
3)放射性炭素の半減期は、5568年を使用した。

表２　野尻（１）遺跡の暦年較正結果

試料番号	補正年代(BP)	暦年較正年代　(cal)						相対比	Code No.
02NOJIRI-3	1161±35BP	cal AD	782 -	AD 790	cal BP	1,168 -	1,160	0.071	IAAA-30672
		cal AD	814 -	AD 843	cal BP	1,136	1,107	0.221	
		cal AD	858 -	AD 899	cal BP	1,092 -	1,051	0.375	
		cal AD	920 -	AD 957	cal BP	1,030 -	993	0.332	
02NOJIRI-4	1110±34BP	cal AD	895 -	AD 924	cal BP	1,055 -	1,026	0.402	IAAA-30673
		cal AD	938 -	AD 981	cal BP	1,012 -	969	0.598	

1)計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4 (Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer) を使用
2)計算には表に示した丸める前の値を使用している。

引用文献

早川由紀夫・小山真人（1998）日本海をはさんで10世紀に相次いで起こった二つの大噴火の年月日－十和田湖と白頭山－．火山，43，p.403-407

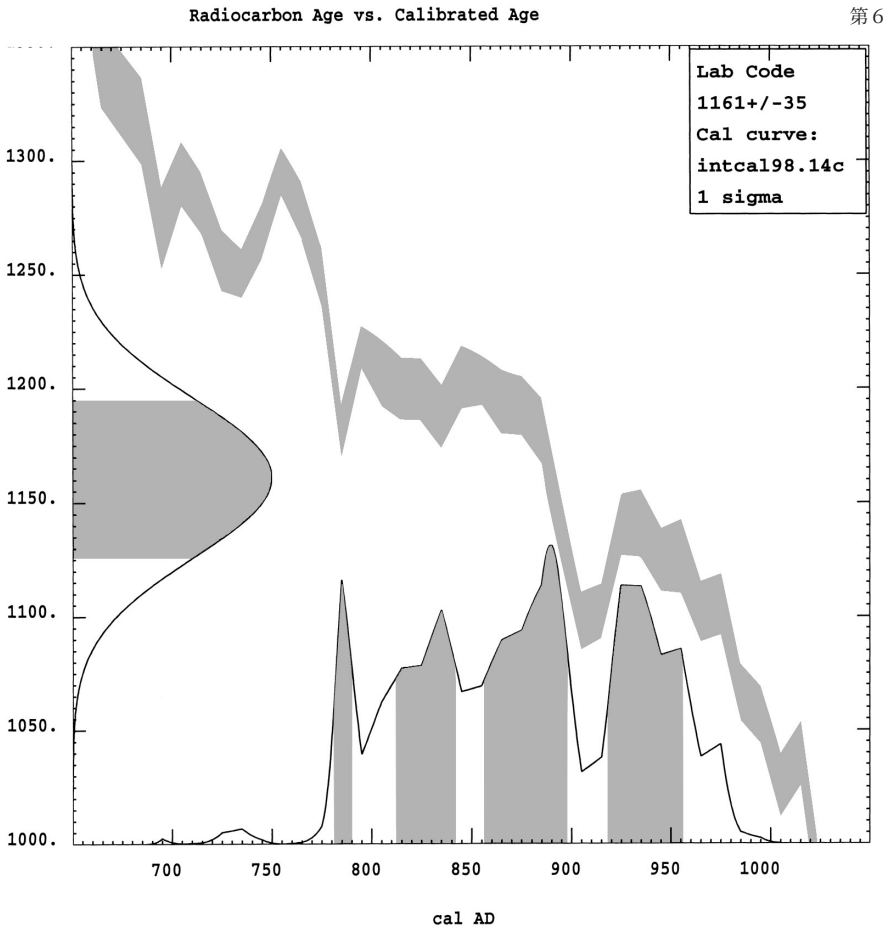


図1　放射性炭素年代と較正暦年代(02NOJIRI-3)

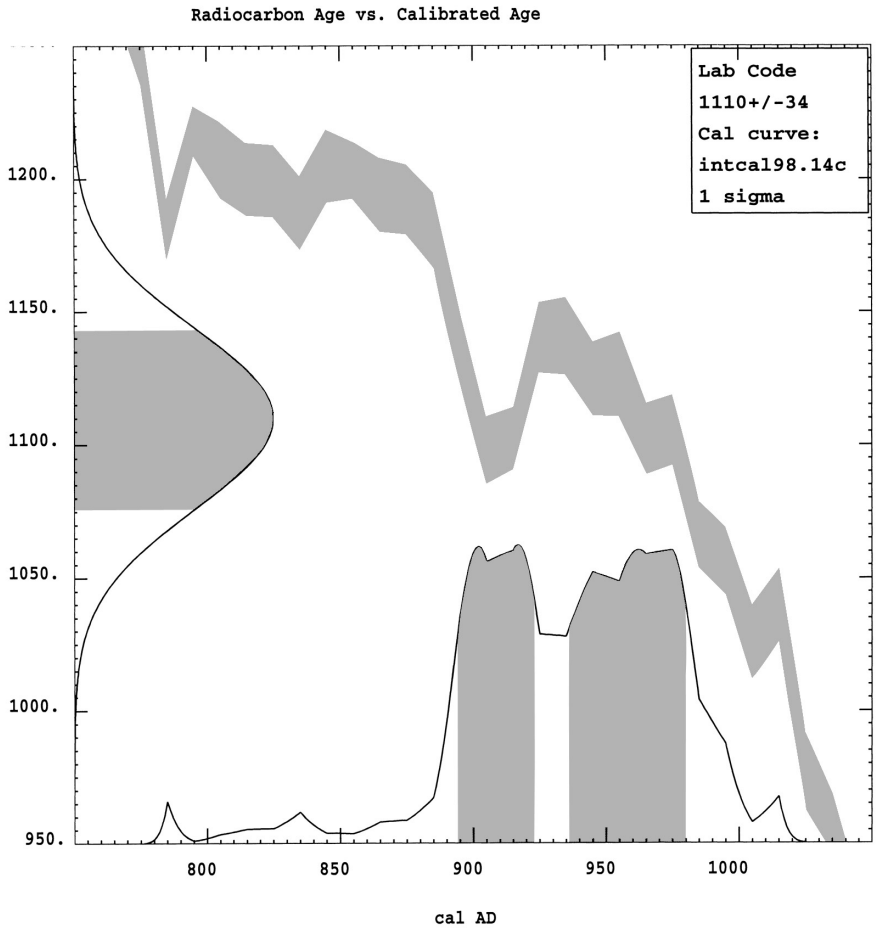


図2　放射性炭素年代と較正暦年代(02NOJIRI-4)

図56　周辺の遺跡遺構

構配置図（S＝1/5000）

第７章　まとめ

第１節　野尻⑴遺跡の建物跡について

１　外周溝が付随する竪穴と付随しない竪穴

野尻⑴遺跡では、これまでの調査で、竪穴・掘立柱建物・外周溝という所謂３点セットと呼ばれている平安時代の建物跡が多数検出されている。ここでは竪穴に外周溝が付随するものとそうでないものについてみていきたい。ほとんどの建物の竪穴部には外周溝が付随しているが、竪穴部だけのものもこれまでに16棟検出されている。全体の遺構配置図をみると、竪穴部だけのものは大きくわけてほぼ２箇所に集中していることがわかる。一つはＢＰ－65からＢＵ－50グリッドにかけての西北西～東南東ラインで、もう一つはＣＫ－70からＣＴ－57グリッドにかけての同じく西北西～東南東ラインである。旧地形からみると、外周溝が付随する竪穴は沢地形周辺に比較的集中していることがわかる。竪穴部だけの建物はそれとは対照的に、比較的水の影響を受けにくいと思われる尾根地形の平坦な部分に構築されていることがわかる。また、竪穴部だけの建物跡は他の遺構とあまり重複しない状態で検出されているが、外周溝が付随する建物跡は比較的重複していることが確認される。

現在、標高約52メートルラインに沿って町道が南北に走っている。道路の両側にはリンゴ畑が広がっていて、春先には雪解け水が滝の様に西側から東側に横切って流れる。このような光景は現在も平安時代もさほど変化はなかったものと思われる。植生の変化が雪解け水の流路を変える程影響力を持つとは考えられない。この地にすんでいた平安時代の人々も水の影響下にあったことは容易に想像できる。野尻⑴遺跡では尾根・沢部を問わず、等高線に対しほぼ垂直な軸を持って竪穴が掘られている。このことからも真っ先に水の影響を受けると思われる竪穴部を囲むように検出される外周溝は、除排水の機能を有していた可能性が高いものと考えられる。また、竪穴部だけの建物跡も溝の代わりに堤を巡らしていた可能性も否定できない。

２　第603号建物跡と第604号建物跡との関係

今回の調査で検出された第603号建物跡と第604号建物跡は近接しており、外周溝と外周溝及び外周溝と竪穴部に重複関係が認められる。新旧関係は土層の堆積状況から第603号建物跡が古く、第604号建物跡が新しいことが確認されている。両遺構とも竪穴部同士での切り合いは認められない。第603号建物跡の竪穴部の堆積土は人為的に埋め戻された様相を呈している。第604号建物跡に付随する外周溝が第603号建物跡の外周溝及び竪穴部を壊して造られていることは、一部平面、或いは前述したように堆積土の観察からも確認されている。ここで注目されることは第603号建物跡が人為的に埋め戻されていることである。つまり、第603号建物跡の竪穴部が造られていた場所は第604号建物跡の外周溝が造られる頃には更地になっていたことが想定できる。このことは第603号建物跡の竪穴部の遺物が、第604号建物跡の外周溝の想定される部分には比較的少ないことからも確認できる。また、時期決定の目安となる白頭山火山灰が第604号建物跡の竪穴部と外周溝からレンズ状に堆積している状況が確認できることから、これら２棟の建物は、火山灰降下以前に時間差をもって建てられ、最終的には廃絶されたことも推定できる。

野尻⑴遺跡内の建物跡の重複関係については、『野尻⑴遺跡Ⅲ』県埋文報第277集で木村高氏が第307・308・309号建物跡に関連して詳しく述べている（ｐ134～136)。３棟の切り合いの最新段階である３番目に構築されたものは第307号建物跡で、竪穴部と外周溝に白頭山火山灰を十分に含んでいることが確認されている。また、木村は白頭山火山灰の降下段階において、第308・309号建物跡は火山灰が流入するような深い窪みにはなっていなかったことが窺われるとも述べている。おそらく第603号建物跡も、第604号建物跡が建てられる前後は同様の状況だったものと堆積土からも判断できる。

第603号建物跡と第604号建物跡の主軸の方向は一致していない。このことは一見その場所にあったであろう古い建物（第603号建物跡）を意識しないで新しい建物（第604号建物跡）を構築したようにも感じられる。外周溝を伴う建物跡の特徴として重複関係が多いことは先に述べたが、遺構の検出状況からは①竪穴部同士の重複はほとんど認められない。②外周溝と外周溝、或いは外周溝と竪穴部の重複がほとんどである。③平面的には近接した縦・横・斜め方向での重複が認められ、主軸方向もほぼ一致する。④先行する建物跡の外周溝は後出する建物跡に再利用されているものも確認できるといった特徴がみてとれる。木村は第307・308・309号建物跡の位置関係や各々の遺構の堆積土の状況等から、同一世帯による建て替えの可能性が高いことを示唆しているが、この３棟の事例でも諸特徴として前述した①～④までを確認することができる。これらのことから、今回検出された第603号建物跡と第604号建物跡の主軸のずれも、周辺の建物や古い建物を意識した建て替えの結果生じたものとは考えられないだろうか。第603号建物跡の北東方向には第320・306号建物跡（拡張後の第306号建物跡の竪穴部及び外周溝に白頭山火山灰が堆積)、北西方向には第602号建物跡（人為堆積で白頭山火山灰は不明)、南東方向には第605号建物跡（竪穴内下部に白頭山火山灰が堆積）が平面的に位置している。いずれの遺構も第603・604号建物跡と同時期に存在していたものかどうかは不明な点が多いが、火山灰の検出状況からは第604号建物跡との同時存在も否定はできない。この時期、一世帯が利用できる土地に制限があったと仮定するならば、まず、近接する建物を意識しなければいけなかった可能性は高い。また、建物を移動できる範囲も土地利用の状況から必然的に決まっていた可能性も考えられる。第604号建物跡は第603号建物跡や他の周辺の建物の位置を意識しながら、おそらくは唯一の場所である南西方向への移動を決め、その結果として沢地形から尾根地形への若干の地形の変化によって主軸がずれた可能性が考えられるのではないだろうか。また、竪穴部同士の切り合いがみられないことからは、古い竪穴があった部分に新たに別な竪穴を基本的には造らないといったことも意識していた可能性も考えられよう。或いは、建て替え時、解体して構築部材を取り払った竪穴部はそのままで、新たに竪穴を掘る時に古い竪穴を埋め、その際に不必要な土器等も一緒に廃棄した可能性も考えられよう（後の土地利用を考えても窪地より更地の方が使いやすいことは明らかである)。また、その建物が持っている機能の停止期間を考えると、第603号建物跡の廃絶（解体）と第604号建物構築の際の時間差はほとんど無かった可能性も考えられる（竪穴部を埋める労力を考えても近接した場所に新しい竪穴を掘り、その排土で古い竪穴を埋め戻した方が合理的でもある。また、その際にも上部に堆積していたであろう黒土を仮に耕作土として利用することを考慮すれば、下部のローム層を先に埋め土として使用していた可能性も考えられる)。以上のことから、住居（建物）の建て替えが行われる場合は①まず、建物の解体が行われる。②近接した場所に新しい竪穴が掘られる。③同時に古い竪穴が新しい竪穴の排土によって埋め戻される（不要になった土器等も竪穴内に廃棄される)。④新しい建物

が構築される（掘立柱が付随するものは竪穴部に続いて構築される）。⑤その後、竪穴建物や掘立柱建物を囲むように外周溝が設けられる（位置的には古い外周溝も利用されることがある）といった工程的な時間の流れも想定され、第603号建物跡の竪穴部分に設けられた第604号建物跡の外周溝の時間差も見えてくるものと思われる。

昨今の住宅事情を考えるてみると、リハウスという造語が思い浮かんでくる。建てられた住宅はそのまま、あるいはリフォームを施した上で、住人が入れ替わることである。古代においてはこのようなリハウスという行為は当てはまらないものと考えられる。奈良～平安時代に頻繁に行われた都の遷都においても、構築部材や屋根を葺いていた瓦でさえも再利用されていたことが発掘調査や文献等で検証・証明されている。建物を建てる時に必要な部材も素材の選別から加工までのことを考えると、時間的・経済的にみてもそれほど容易に購入できたとは考えられない。おそらく、古代の一般の人々の住居（建物）の建て替えに関しても、よほどの事情、例えば火災等の災害に遭って家屋を失うこと等がないかぎり古い構築部材を再利用し、必要最低限の部材のみを新たに調達・購入していたことが考えられるのである。（笹森）

第２節　野尻⑴遺跡から出土した須恵器・土師器の特徴

本節では、野尻⑴遺跡の第１次～第６次にわたる調査で出土した古代の土器（須恵器・土師器）について、その大まかな特徴と帰属時期について考察する。本遺跡周辺では、浪岡バイパス建設事業や浪岡五所川原道路建設事業などに伴い古代の遺跡が多数調査された。既に刊行された報告書においても、各遺跡の存続時期や土器の編年が議論されている。それらの中で最も重要視されているのが遺構の重複関係と火山灰の堆積状況である。本遺跡においても多くの遺構内から白頭山－苫小牧火山灰(以後Ｂ-Ｔｍ）が検出されている。それらの状況から察するに本遺跡の主体となる時期はＢ-Ｔｍ降下以前と考えられ、火山灰降下以後については現時点で考慮する必要がないものと考えている。遺構内に堆積する火山灰については、遺構の廃絶された状況（人為的な埋め戻しの有無）によりその堆積レベルや状況が変化すると考えられる。したがって以下では、まず出土土器群を形状などの諸特徴により分類し、全体的な傾向を探った後、重複関係などから確実に古いと考えられる遺構から出土した遺物について、新期の遺構から出土した遺物と差が見られるかどうか検証する。

須恵器・土師器の分類について

基本的には『野尻⑴遺跡Ⅴ』で行った分析スタイルを踏襲するが、若干の訂正を加えた上で第１次～６次調査で出土した全土器群を対象に分類する。今回は主に器形、口唇端部の断面形状、成形・整形技術、法量の５属性についてその量と組み合わせを調査する。器面整形については、煩雑なため敢えて詳しく触れない。資料体の作成については、報告書に掲載されているもののみを対象とした。また、破片資料などで口径等が復元出来ないものなど、分析対象にならないものは省いている。

〇属性の種類と細分（第１図）

器体の成形技術

成形技術Ａ：ロクロの回転により粘土塊を引き上げて器体を成形する技術。

成形技術Ｂ：粘土紐を輪積みして器体を成形する技術。　成形技術Ｃ：ＡとＢが同時に見られるもの。

器体の整形技術群

整形技術群ａ：ロクロ整形のみ施されるもの。

整形技術群ｂ：ヘラケズリ・ヘラナデ等の整形が施されるもの。

器形及び口唇端部断面の属性

坏・皿（須恵器・土師器共通）

須恵器と土師器の違いや、土師器については内面に黒色処理をするかどうかも分類項目に入れた。

器形Ａ：体部が湾曲するもの。　器形Ｂ：底部付近が湾曲し、体部はほぼまっすぐに立上がるもの。

器形Ｃ：底部から口縁部までほぼまっすぐに立上がるもの。

口唇端部ａ：端部が外側につまみ出されるもの。　口唇端部ｂ：端部が尖り気味なもの。

口唇端部ｃ：端部がやや厚ぼったく丸みを帯びるもの。

土師器長胴甕

器形Ａ：底部から口縁までほぼまっすぐ立上がるもの。　器形Ｂ：器形Ａの体部が膨らむもの。

器形Ｃ：頸部が括れもしくは口縁が外反し、胴部最大径が口縁部の直径より小さいもの。

器形Ｄ：頸部が括れもしくは口縁が外反し、胴部最大径が口縁部の直径とほぼ同じもの。

器形Ｅ：頸部が括れもしくは口縁が外反し、胴部最大径が口縁部の直径より大きいもの。

器形Ｆ：胴部にふくらみを持ち、口縁部がすぼまるもの。

口唇端部ａ：端部が尖り気味なもの。口唇端部ｂ：端部が丸みを帯びやや厚ぼったいもの。

口唇端部ｃ：端部が四角張るもの。口唇端部ｄ：端部が上方又は上下に摘み出され前面が外側を向き平坦な物。

口唇端部ｅ：口唇端部ｄの摘み出しが弱いもの。口唇端部ｆ：端部が上方に摘み出され、前面が外傾するもの。

（口唇端部ｄ～ｆはロクロ整形によるところが大きい。）

須恵器長頸壺

全体の大きさや形状がわかる個体が少ないため主に口唇部端部断面形状の特徴のみ分類した。

口唇端部ａ：端部が上下につまみ出され、上端がほぼ平坦に仕上げられているもの。

口唇端部ｂ：端部が上方につまみ出されるが、直上せず外傾しているもの。

口唇端部ｃ：端部が上方につまみ出されほぼ直上しているもの。上端はほぼ平坦である。

口唇端部ｄ：端部が上方につまみ出されるが、ｂ・ｃに比べ屈曲が明瞭ではないもの。

口唇端部ｅ：端部が極弱く上方につまみ出されるもの。

口唇端部ｆ：端部が上方につまみ出され、端面が尖り気味なもの。

須恵器甕

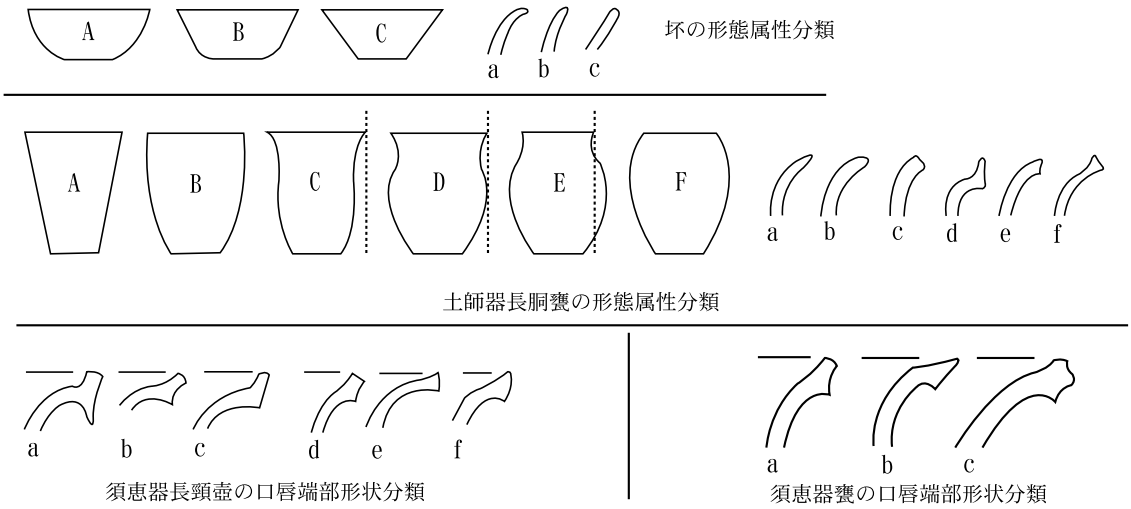
全体の大きさや形状がわかる個体が少ないため主に口唇部端部断面形状の特徴のみ分類した。

口唇端部ａ：端部が上方に摘み出され端面が平坦な物。口唇端部ｂ：端部が上方に摘み出され、外傾するもの。

口唇端部ｃ：端部に２条の沈線が施され、隆帯を意識しているもの。

その他

須恵器鉢・短頸壺・蓋、土師器蓋等が該当するが今回は敢えて細かい分類をしていない。



第１図　古代の土器の形態属性分類図

属性の組み合わせから見える土器群の特徴

皿…出土個体数は24点で、全体形のわかるものは６点である。器形は須恵器はＡが、土師器はＡ・Ｃの各形態がそれぞれ見られる。グラフ１に見られるように、法量指数のＸ値が2.0～3.0未満、Ｙ値が0.4～0.7未満の間にまとまっている。実数値では器高が４㎝未満に収まっている。また、底径の分布

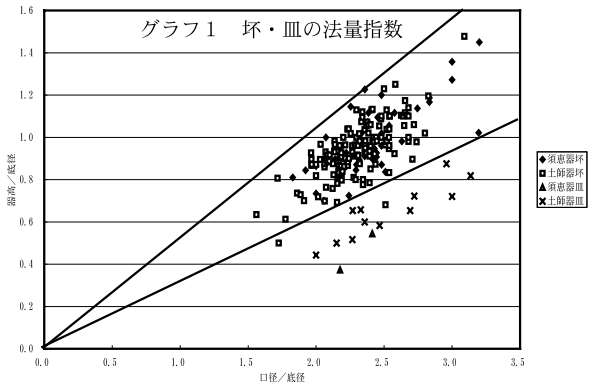
は坏のそれと変わるところがない。
坏…器形分類などの分析に耐えうるものは183点であった。全体的にいえることは器形Ａ→Ｂ→Ｃの順に少なくなることである。特に器形Ｃは少ない。また、器形と口唇部との組み合わせについても各種類の全体量における比率に変化は見られない。種類別に器形を見ていくと須恵器では器形Ａが須恵器坏全体のほぼ７割を占めているのに対し、土師器では器形Ａが土師器坏の約５割、器形Ｂが約３割と比率にも若干の差が出る。

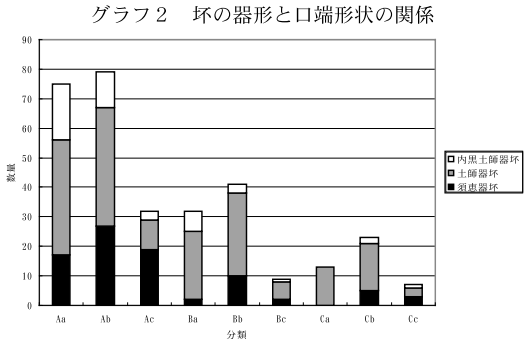
皿・坏共に成・整形技術はロクロ使用によるものが９割以上を占めるが、希に輪積み成形のものが見られる。また、土師器坏に関しては、内面に黒色処理を施すものが全体の約２割程度見られる。黒化処理は内外面に施されるものもごく希に存在する。
土師器長胴甕…口縁～底部まで確実に接合している例は少ない。したがって法量指数を算出できないので法量については口縁部の直径をグラフ化してみた（グラフ３）。第５次調査分において見られたのと同様に口径17㎝付近を境に14㎝付近と22㎝付近にピークが見られる。したがって17㎝台を境に口径の小さい方を小型甕、大きい方を大型甕とする。整形技術についてはＡ・Ｃのロクロに関連するもので全体の約３割弱を占め、Ｂの輪積み成形が７割強を占めることになる（グラフ４）。この比率は小型・大型それぞれに分けて算出してもほぼ同様の結果が得られている。成形技術ＡとＣの境界は微妙なところであるが、Ａについては基本的に小型品（坏や小型甕・鉢等）を製作するのに使用され、Ｃは大型品（大型甕・長頸壺等）を製作するのに使用されていた可能性が高いと思われる。(但し、このことについては製作実験等から得られたものではなく、土器の断面観察より得られた所見であるため、実際にこのような方法で大型品が製作できるのかは今後の課題である）輪積み成形については接合痕が内傾しているものがほとんどであり、このことは他の種類・器種全てに共通する。

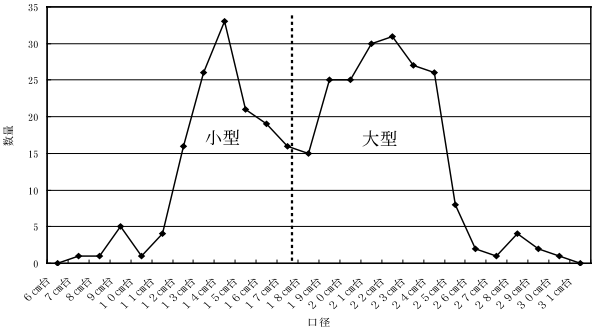
器形についてはＣ・Ｄ・Ｅで全体の約９割を占める。特に器形Ｃは全体の５割を占め、本遺跡の土師器甕を特徴づける器形と言っても過言ではない。次に器形と整形技術との組み合わせを見てみると、器形Ｃと成形Ｂが全体の約３割を占める。次に器形Ｃ＋成形Ｃ→器形Ｄ＋成形Ｂと続く。したがって本遺跡の土師器長胴甕は、器形Ｃ・Ｄの甕を輪積み成形で製作するものが多数を占め、器形Ｃの甕をロクロ成形で製作するものが２割程度を占めていることになる。長胴甕の使用痕跡については、大型の体部外面にカマド由来の被熱した粘土が付着する例が多いことから、カマドに据え付けて使用していた可能性が高い。小型に関しては口縁直下に煤状の炭化物が帯状に付着するのと、激しく被熱し、外面がはじけているものが多数見受けられるものが比較的多いことから、カマド燃焼部の支脚などに二次的に使用、或いは支脚として用いるために製作した可能性もある。
須恵器長頸壺

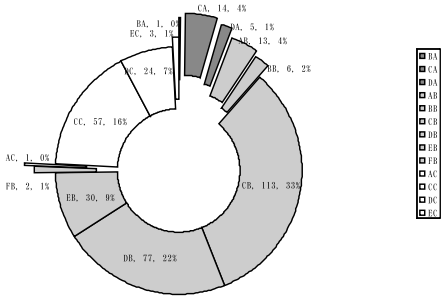
成形技術はＣが大半を占めている。特に底部付近で輪積み痕が明瞭である個体が見られるためそう判断した。ただ、上半部については輪積み痕が明瞭ではないため、長胴甕に見られる成形技術Ｂの様な、縄文土器的な成形技術ではなく、ある程度の土台を輪積みで製作し、それ以上をロクロ成形するような手法であると現時点で考えている。口唇端部形状はｄが多く、次いでｃである。頸部の付け根にはいわゆるバンドが巡るものがほとんどである。外部底面はヘラケズリが多く見られるが、高台の退化したものと菊花状のなでつけも一定量存在している。

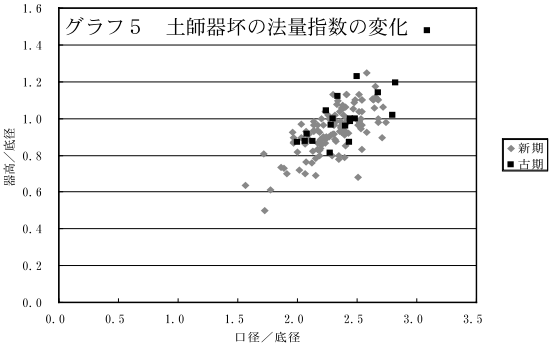
口唇端部の形状を五所川原須恵器窯跡群出土資料と対比するならば、ｄはＭＺ－６号窯跡に多く見

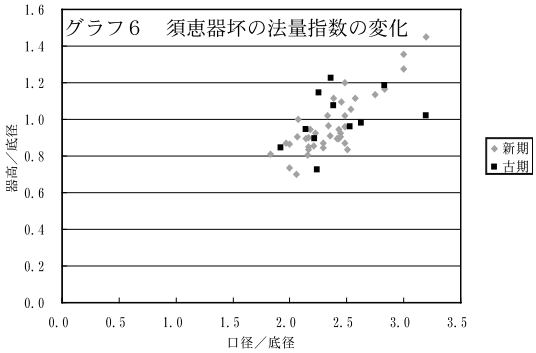


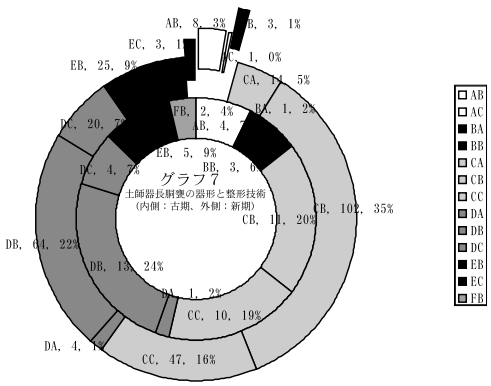


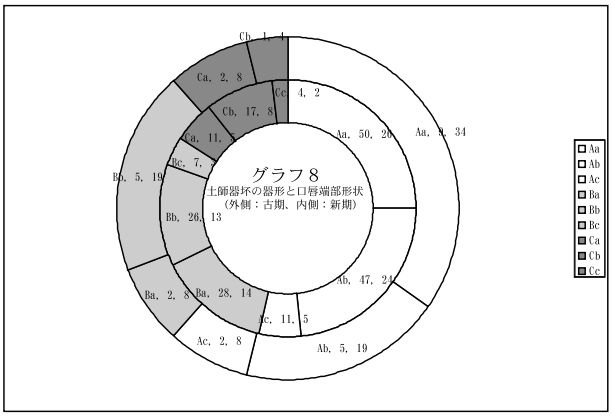












られ（壺Ⅰ類の端面b）、ｃはＭＤ－７号窯跡に多く見られるタイプ（壺Ⅰ類の端面ａ1）である。双方共にＢ-Ｔｍ降下時点で操業を停止しており、野尻⑴遺跡の年代観とも整合性がある。ただ、２つの窯跡の前後関係については、本遺跡で検証できる材料はない。

須恵器甕

個体数自体は坏・壺に比べ少ない上に全体形がわかるものはごく少数である。成形技術はＢと考えられ、タタキ整形と口縁部の回転ナデ調整により仕上げられている。頸部にはタタキ整形の跡がみられ、ほとんどの場合回転ナデ調整によりうっすらと確認できる程度まで仕上げられている。底部は丸底と平底が確認されている。底面内部には、中央部からほぼ放射状に皺が見られることがあるが、これは、底面を叩き出した際に生じたものだと考えられる。したがって最初は平底で製作を始めている可能性が高い。口唇端部の形状はａが多い。長頸壺同様に五所川原須恵器窯跡群出土資料と比較するならば、長頸壺同様ＭＺ－６・ＭＤ－７号窯跡出土資料と類似性が見られる。また、長頸壺・甕双方にいえることは、時間的に後出とされるMD－３・16号窯跡等から出土している資料との類似性が見られないことである。

土器群内の時期差について

本遺跡では、６次にわたる調査で合計81軒の建物跡が発見された。そのほとんどは竪穴部・掘立部・外周溝のいわゆる３点セットで構成される（表１）。筆者が第５次調査の報告で若干触れたように、本遺跡の建物跡のカマドは大半が南東壁に構築され、カマドを基準とした軸方向はN-110°～135°-Ｅの範囲にまとまる傾向がある。しかし、中にはこの範囲から大きくはずれるものが有り、それらについて調べると、そのほとんどが重複関係や確認状況などから比較的古い時期のものであることがわかった。具体的には第010・016・312・313・502・503(305)・504・515・603号建物跡である。以下ではこれらの遺構から出土した土器群を古期土器群、それ以外の遺構から出土した土器群を新期土器群として話を進める(他にも古手と考えられるものがあるが、ここでは敢えて触れない)。分析対象としては、個体数・残存率の点で土師器・須恵器の坏と土師器長胴甕のみとする。

土師器坏

グラフ５では新期・古期の法量指数を比較している。新期についてはＸの値が1.9～2.7、Ｙの値が0.7～1.2の範囲にまとまる。グラフ１において提示した全体の傾向をほぼ網羅している。それに対し古期についてはＸの値は新期と大差ないが、Ｙの値については0.9～1.2と新期の範囲内に収まりつつ大きい値にまとまりを持っている。したがって古期の坏は外見上やや縦長な印象を受けるものが多いことになる。成形・整形技術についてはほとんどがロクロ成・整形であるため、器形と口唇端部組み合わせについてその割合をグラフ８に示した。器形・口唇端部の組み合わせは、ほとんどその比率が変化しないことがわかる。器形の比率はＡが５～６割、Ｂが３割、Ｃが１割強となる。内面黒色処理については古期で２割程度、新期で３割程度であり、若干の増加傾向が看取される。

須恵器坏

須恵器坏では時期による目立った変化が見られなかった。ただし、グラフ６に見られるとおり、古期では新期に比べまとまりに欠ける印象を受ける。

土師器長胴甕

成形技法の面では輪積みの割合が６割→７割へと若干増加傾向にある。特に器形Ｃと結びつきその割合が増える。古期では器形Ｃで成形Ａ・ＣとＢの量はほぼ同等か成形Ａ・Ｃの方が若干多いが、新期では成形Ｂが成形Ａ・Ｃの約1.5倍となる。器形面では器形Ａ・Ｂの量で差が見られ、特に器形Ｂは新期ではほとんどない。器形Ｃ～Ｅでは器形Ｃの量が増える以外は両時期に明瞭な差はない。

遺構名	軸方向	外周溝	柱穴配置	中央Pit	竈位置	竪穴規模（軸方向、m）	竪穴規模(m)	竪穴の深さ(cm)	床面	火山灰堆積	火山灰検出位置・状態
第001号建物跡	126°	B3	Ⅲc2	－	南東辺南寄り	4.60	5.00	16.0	B	－	－
第002号建物跡	115°	－	Ⅱb1	○	－	4.20	－	20.0	B	－	－
第003号建物跡	93°	－	Ⅱd1	－	－	－	－	6.0	A	－	－
第004号建物跡	114°	B2	Ⅰa	－	－	4.30	4.60	6.0	B	－	－
第005(519)号建物跡	119°	B2	Ⅱb2	○	－	5.28	5.84	－	B	上位	外周溝全体
第006号建物跡	110°	B3	Vb2	－	南東辺南寄り	6.60	6.40	10.0	－	中位	竪穴部・外周溝・掘立部の一部
第009号建物跡	124°	B3	Ⅱb1	○	－	4.10	5.20	4.0	B	－	－
第010号建物跡	142°	C	－	－	－	4.50	4.96	－	－	－	－
第011号建物跡	122°	A1	Ⅲf2	－	－	5.44	6.56	－	－	－	－
第012号建物跡	112°	C	?	－	－	4.16	5.12	－	－	－	－
第013号建物跡	123°	B3	Ⅱb2	○	－	4.80	4.80	－	－	上位	外周溝の一部
第014号建物跡	128°	B3	Ⅰb	－	－	4.48	5.36	－	－	－	－
第015号建物跡	122°	B3	Ⅱb2	－	－	4.20	4.60	－	－	－	－
第016号建物跡	142°	B3	Ⅱb2	－	－	4.40	4.60	－	－		
第017号建物跡	118°	B3	Ⅳe2	－	南東辺南寄り	5.60	6.00	10.0	B	上位	外周溝の一部
第201号住居跡	108°	－	Ⅳe2	－	南東辺南寄り	6.18	6.30	25.0	B	－	－
第202号住居跡	108°	－	Ⅱb1	－	南東辺南寄り	5.22	5.22	－	B	－	－
第203号住居跡	102°	－	－	－	－	7.26	－	50.0	B	－	－
第204号住居跡	108.5°	B	Ⅱb2？	－	南東辺南寄り	2.40	－	50.0	B	－	－
第205号住居跡	116°	A1	Ⅰb？	－	南東辺南寄り	4.38	4.38	25.0	B	－	－
第206号住居跡	101°	B3？	－	－	－	－	5.04	50.0	B	－	－
第207号住居跡	123.5°	－	Ⅱb2	－	南東辺南寄り	4.62	4.62	50.0	A	－	－
第208号住居跡	119°	A1	Ⅲb2	－	南東辺南寄り	4.50	5.22	65.0	B	上位	外周溝全体
第209号住居跡	－	－	－	－	－	－	－	30.0	－	－	－
第210号住居跡	125°	B1	Vc2	－	南東辺南寄り	5.28	5.40	60.0	B	上位・中位	竪穴部・外周溝
第211号住居跡	112.5°	B3	Ve2	－	南東辺東寄り	6.60	6.78	20.0	B	上位～下位	竪穴部・外周溝
第212号住居跡	－	A1	Ⅰa	－	－	－	－	35.0	B	－	－
第213号住居跡	116.5°	A1	Ⅱa2	－	－	5.16	5.16	25.0	B	－	－
第214号住居跡	108.5°	B1	Ⅱd1	－	南東辺南寄り	5.16	5.28	40.0	B	上位～中位	竪穴部・外周溝
第215号住居跡	115.5°	A1	Ⅲd1	－	南東辺	6.42	6.54	60.0	B	下位	竪穴部
第216号住居跡	117°	A1	Ⅳe2	－	－	8.58	－	70.0	A	中位～下位	竪穴部・外周溝
第217号住居跡	118°	－	Vc2	－	南東辺南寄り	5.40	5.52	80.0	A	－	－
第218号住居跡	118°	－	Ⅰa	－	南東辺東寄り	2.64	3.24	30.0	B	下位	竪穴部
第219号住居跡	167.5°	－	?	－	－	6.00	6.18	－	－	下位	竪穴部
第301号建物跡	119.5°	A3	Ⅲc1？	－	－	－	－	－	－	－	－
第302号建物跡	119.5°	B2	Vb2	－	南東辺南寄り	6.72	6.88	48.0	B	上位・下位	竪穴部・外周溝
第303号建物跡	118°	B2	Vc2	－	－	5.60	6.40	－	－	中位	外周溝
第304号建物跡	139°	B2	Ⅱb2	○	－	4.48	5.12	－	－	－	－
第306A号建物跡	134°	－	Ⅲb2	－	－	6.96	－	40.0	C	－	－
第306号建物跡	134°	B2	Vb2	－	－	6.96	－	32.0	C	中位	竪穴部・外周溝
第307号建物跡	119°	B3	Vd1	－	南東辺南寄り	7.36	8.00	－	B	上位	竪穴部・外周溝
第308号建物跡	115°	B3	Ⅳb2	－	南東辺南寄り	8.64	7.60	20.0	B	－	－
第309号建物跡	121°	B1	Vc2	－	南東辺南寄り	6.56	7.04	30.0	B	上位	外周溝
第310号建物跡	115.5°	B1	ⅡB1？	－	南東辺東寄り	4.00	4.00	－	－	上位	外周溝
第311号建物跡	119°	B3？	Ⅱc1	－	南東辺南寄り	5.28	5.12	10.0	B	上位	外周溝
第312号建物跡	145°	－	Vd2	－	南東辺南寄り	6.80	7.04	60.0	A	下位	竪穴部
第313号建物跡	159.5°	－	Ⅱa2	－	南東辺南寄り	5.92	6.32	50.0	A	中位	竪穴部
第314号建物跡	149°	B3	Ⅱ f 2	－	南東辺南寄り	3.84	3.76	22.0	B	－	－
第316号建物跡	116°	－	Ⅲf2	－	－	－	6.80	－	B	－	－
第317号建物跡	128.5°	－	Ⅱa2	－	南東辺南寄り	5.92	6.32	70.0	B	－	－
第318号建物跡	111°	B3	Vd2	－	南東辺南寄り	6.00	5.92	50.0	B	中位～下位	竪穴部・外周溝
第319号建物跡	170°	－	Ⅱd2	－	南辺西寄り	4.40	4.64	70.0	B	中位	竪穴部
第320号建物跡	133°	B3	Ⅲc2	－	－	4.16	－	－	B	－	－
第501(315)号建物跡	135°	B3	Ve1	－	南東辺南寄り	9.10	9.10	30.0	A	中位	竪穴部・外周溝
第501A号建物跡	135°	B3	Ⅲd1	－	南東辺南寄り	6.96	6.60	30.0	A	－	－
第502号建物跡	110°	B1	Vc3	－	南東辺南寄り	8.20	8.00	30.0	B	－	－
第503(305)号建物跡	144°	B3	Ⅱb2	－	南東辺南寄り	5.44	5.36	28.0	B	－	－
第504A号建物跡	136°	－	Ⅲa2	－	南東辺南寄り	3.04	3.20	－	B	－	－
第504号建物跡	136°	B2	Ⅱd2	－	南東辺南寄り	4.16	3.84	26.0	C	上位	竪穴部・外周溝
第505号建物跡	95.5°	B3	Ⅲb2	－	東辺南寄り	4.72	4.16	20.0	B	上位～中位	竪穴部・外周溝の一部
第506A号建物跡	135°	B3？	Ⅲe2	－	南東辺南寄り	－	－	40.0	B	－	－
第506号建物跡	135°	B3？	Ⅳe2	－	南東辺南寄り	6.40	7.80	60.0	B	中位～下位	竪穴部・外周溝
第507号建物跡	54.5°	B3	Ⅱd2	－	北東辺北寄り	3.04	3.20	10.0	B	－	－
第508(008)号建物跡	127°	A4	Vc2	－	南東辺南寄り	5.00	6.00	18.0	B	－	－
第509(007)号建物跡	127°	A4	Ve2	－	南東辺南寄り	6.70	7.30	30.0	B	－	－
第510A号建物跡	114°	B3	Ⅲc2	－	南東辺南寄り	5.20	5.00	－	B	－	－
第510号建物跡	114°	B3	Ⅲc2	○	南東辺南寄り	5.40	5.70	30.0	A	－	－
第511号建物跡	123°	B3？	Ⅲb2？	－	南東辺南寄り	5.90	5.50	22.0	B	上位	竪穴部
第512号建物跡	101.5°	－	Ⅰb	－	東辺北寄り	3.12	3.20	36.0	B	－	－
第513号建物跡	106°	B3	Ⅱb1？	－	－	4.20	5.80	－	－	上位～中位	外周溝
第514号建物跡	－	－	Ⅰa	－	－	－	－	－	－	－	－
第515号建物跡	183°	B3	Ⅲb１？	－	南東辺南寄り？	5.40	5.50	－	－	－	－
第516号建物跡	－	A3	－	－	－	－	－	－	－	－	－
第517号建物跡	105°	B3	Ⅱa2？	－	－	3.30	3.60	－	B	－	－
第518号建物跡	119.5°	B3	Ⅱb2	－	南東辺南寄り	4.40	4.64	30.0	B	上位	外周溝
第520号建物跡	120.5°	B3	Ⅱb2？	－	－	－	－	16.0	B	－	
第521号建物跡	118°	B3	Ⅲc2	－	南東辺南寄り	5.44	6.24	30.0	B	上位～中位	竪穴部・外周溝
第601号建物跡	135°	－	Ⅱa2	－	南東辺南寄り	5.34	5.63	48.0	A	上位	竪穴部
第602号建物跡	140°	－	Ⅱb2	－	－	4.84	4.76	52.0	A	－	－
第603号建物跡	146°	B3	Ⅳa1	－	南東辺	3.76	4.30	56.0	A	上位	外周溝の一部
第604号建物跡	116°	B3	Ⅱa2	－	南東辺南寄り	4.30	4.94	40.0	A	中～下位	竪穴部・外周溝
第605号建物跡	135°	－	Ⅰa	－	南東辺南寄り	2.40	2.42	40.0	A	下位	竪穴部

表１　建物跡の一覧表

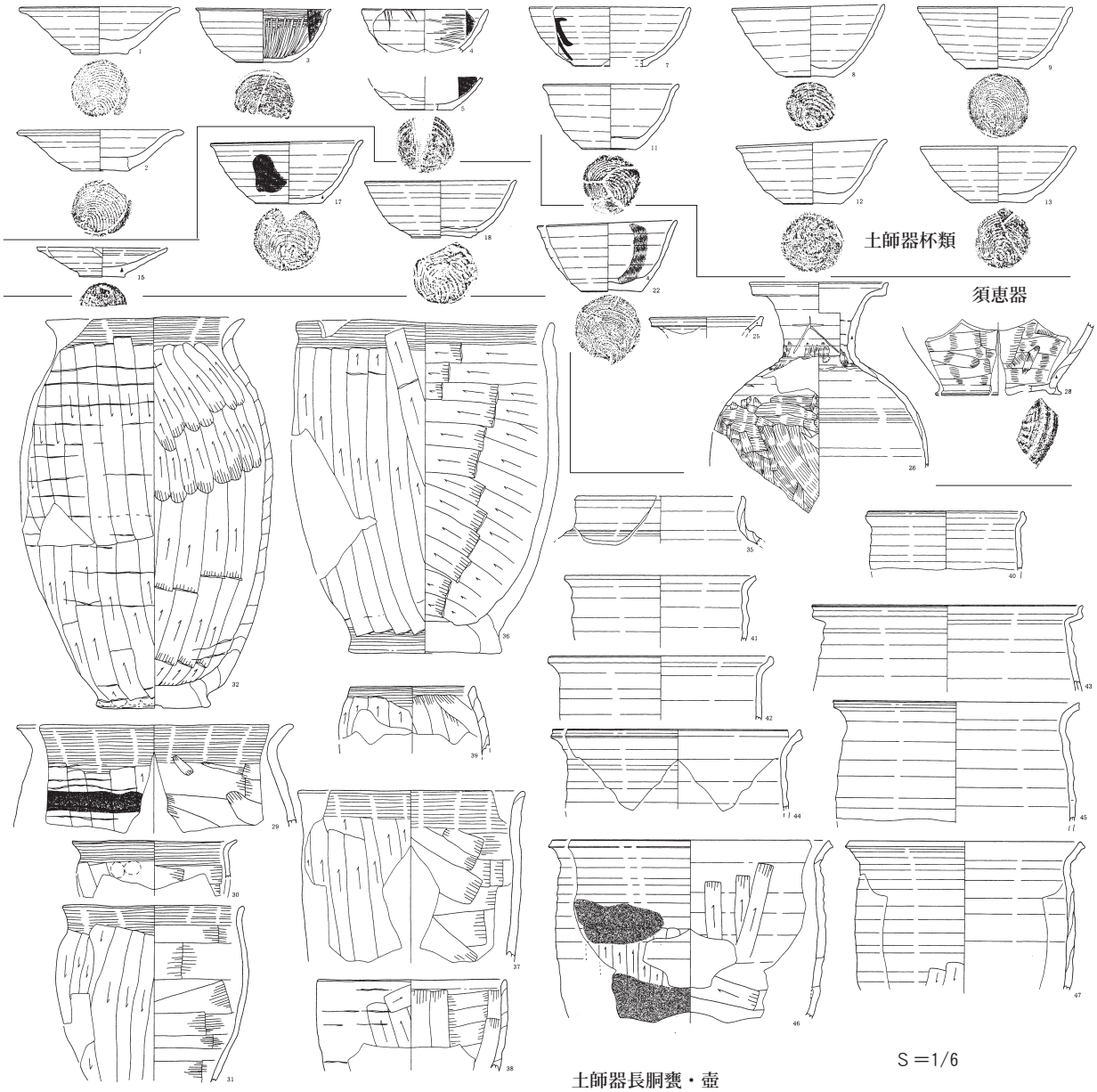
年代的な位置づけについて

先にも述べたとおり、本遺跡の遺構はそのほとんど（全てと言っても過言ではないが）がＢ-Ｔｍ降下以前に廃絶されている。したがってＢ-Ｔｍ降下を936年とする(注1)のであれば、少なくとも10世紀初頭～前葉段階で集落の終焉を迎えたと考えられる。したがって、集落の存続期間は、現時点で９世紀末葉から10世紀前葉の期間が想定できる。(注１：石塚友希夫・中村俊夫、他2003「白頭山火山の

10世紀における巨大噴火の高精度ＡＭＳ^{14}Ｃ年代測定」名古屋大学加速器質量分析計業績報告書(ＸⅣ))

集落最初期（古期）の段階においては、建物跡の軸方向に若干のぶれが見られ、新期に至り建物跡の軸方向はある程度の幅で固定される。古期段階では既に五所川原須恵器窯跡群から須恵器が供給されており、土師器自体の製作技術はロクロ成形と輪積み成形がほぼ均等に使用されている。土師器坏は底径に対する器高の値が新期よりも大きいものが多い。新期段階でも五所川原産須恵器は供給が継続されている。須恵器については古期・新期の差は今回提示できなかった。坏・皿等の食膳具が主に供給され、長頸壺・甕などの貯蔵具が次いでいる。また、鉢・短頸壺・蓋なども存在し、器種にはバラエティーが見られる。土師器長胴甕についてはロクロ成形よりも輪積み成形の比率が大きくなる傾向にある。

以上のような傾向がつかめたが、古期、新期共に実年代を与えるには未だ時期尚早である。今後浪岡バイパス建設関連で調査された周辺の遺跡との総合的な比較を行うことが重要である。(茅野嘉雄)



古期の土器群の一例（第515号建物跡外周溝出土遺物）

第３節　まとめ

野尻⑴遺跡

遺跡の位置と立地

野尻⑴遺跡は、浪岡町の北部を南流する大釈迦川右岸の丘陵部に立地する。遺跡からは北に梵珠山、東に秀峰八甲田山の峰々をのぞむことができる。本遺跡の周辺には山本・野尻⑷・野尻⑵の各遺跡や五所川原須恵器古窯跡群など平安時代の遺跡が多数存在している。

今回の調査区（第６次調査区）は平成９年度調査区（第２次調査）と平成10年度調査区（第３次調査）の間に位置している。

今回の調査区は、標高52～65メートルの大釈迦川に向かい西から東に傾斜する低位段丘面（一部中位段丘面）に位置している。

検出遺構と出土遺物

今回の調査区からは縄文時代や近世の遺物が若干ではあるが出土しており、時間的にはかなり幅をもっていることが確認できた。しかしながら主体をなしている時期は平安時代である。

今回の調査で検出された遺構は、平安時代の建物跡８棟（内３棟は平成10年度調査で一部、或いは大部分が精査済み)、土坑７基（内１基は平成10年度調査で一部精査済み)、溝跡３条（内１条は平成９年度及び10年度調査で検出された溝跡と同一の遺構)、土器埋設遺構１基、焼土遺構４基である。

出土遺物には、平安時代の土師器（坏・甕・鉢等)・須恵器（坏・甕・壺等)・ミニチュア土器・土製品（筒形土製品・碁石状土製品・土玉)・石製品（砥石等)・金属製品（板状・環状・釣り手状・釘状等）を主体に、縄文時代前期～晩期の土器・石器、近世～近代の古銭・銭貨がみられた。

まとめ

調査の結果、野尻⑴遺跡の今回の調査区は平安時代の集落の一部であることが判明し、これまで行われてきた調査結果に資料を追加することとなった。

今回の調査で主体をなすのは遺構・遺物の両面からみても前述したように平安時代である。

今回検出された建物跡８棟の内訳は竪穴部だけのものが３棟、竪穴部に掘立柱建物が付随するものが２棟、竪穴部に外周溝が付随するものが２棟、竪穴部に掘立柱建物と外周溝が付随するものが１棟(拡張・約半分は平成10年度に精査済み）である。

掘立柱建物はカマド側に、外周溝は竪穴部を囲むように例外なく斜面上方に付随している。

付随する掘立柱建物や外周溝の機能を決定づけるようなものは今回の調査区からは検出されていないが、外周溝に関しては従来言われているように除排水の機能を有していた可能性が高い。

重複がみられる第603・604号建物跡は同一世帯による建て替えの可能性も考えられる。また、建て替えが行われている期間、その建物の機能が一時的に停止することを考慮すれば、建物の解体から構築までの時間差はあまりなかったものと考えられる。

野尻⑵遺跡

遺跡の位置と立地

野尻⑵遺跡は、浪岡町の北部を南流する大釈迦川の西側の比較的緩やかな丘陵部に立地する。遺跡からは、北に梵珠山、東に八甲田山の峰々、南に阿闍羅山をのぞむことができる。本遺跡の周辺には野尻⑶・野尻⑷・高屋敷館（国指定史跡）・山元⑴・山元⑵・山元⑶遺跡等、平安時代の遺跡が数多く所在している。

今回の調査区は平成６年度の調査区の西側部分にあたり、標高42～43メートルの大釈迦川に向かい西から東に緩やかに傾斜する低位段丘面に位置している。

検出遺構と出土遺物

今回の調査区からは平安時代の遺構や遺物が発見されている。
検出された遺構は、平安時代の竪穴住居跡２軒、土坑１基、円形周溝１基（平成６年度調査で一部精査済み）である。

出土遺物には、平安時代の土師器（坏・甕・壺・鉢等）・須恵器（甕）・ミニチュア土器・鞴の羽口等がみられた。

まとめ

調査の結果、野尻⑵遺跡の今回の調査区は平安時代の集落及び墓域の一部であることが判明し、平成６年度の調査結果に資料を追加することとなった。平成６年度の調査に今回の調査で検出されたものを加えた遺構の総数は、竪穴住居跡９軒、掘立柱建物跡２棟、竪穴遺構５軒、土坑46基、焼土遺構４基、溝跡６条、円形周溝22基、溝状土坑５基となった。野尻⑵遺跡は平成５年度にも調査が行われている。平成５年度の調査区は、平成６・14年度の調査区と町道草刈線を挟んだ北側に位置していて、平安時代の竪穴住居跡10軒、土坑11基、焼土遺構２基、溝跡１条が検出されている。遺構の検出状況からみると今回の調査区とは遺跡の性格がやや異なるものと思われる。

今回の調査区では竪穴住居跡と円形周溝との重複は認められなかったものの、出土遺物や平成６年度の調査事例から、竪穴住居跡が円形周溝に先行するものと考えられ、一般的な竪穴住居からなる集落が廃絶されてから後、円形や方形の周溝を伴う墓域が形成されていったことが再確認できた。

野尻⑵遺跡では特筆すべき遺物として、第110号竪穴住居跡床面から出土した小型の土師器壺（図53－3)が挙げられる。ロクロ成形で、底部には回転糸切り痕が明瞭にみられる。外面の一部に被熱によるハジケがみられる他はほぼ完形で出土している。内外面の付着物からは灯明用に使われていた可能性も考えられる。器形的には須恵器を模したものと考えられる。このような器形の小型の壺は当該地域ではあまり類例をみることはできないが、野尻⑴遺跡第２次調査の第217号住居跡出土の須恵器小壺の胴部形態に近い。しかしながら口縁部の形態がかなり違うため出自を含め注目される遺物である。時期的にはおそらく白頭山火山灰降下以前、９世紀代中～後葉の所産と考えられる。

(調査担当者一同)

〈引用・参考文献〉

青森県教育委員会　1983　『山本遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第105集

青森県教育委員会　1994　『山元⑶遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第159集

青森県教育委員会　1995　『山元⑵遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第171集

青森県教育委員会　1995　『野尻⑵遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第172集

青森県教育委員会　1996　『野尻⑵遺跡Ⅱ・野尻⑶遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第186集

青森県教育委員会　1996　『野尻⑷遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第186集

青森県教育委員会　1998　『野尻⑴遺跡Ⅰ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第234集

青森県教育委員会　1999　『野尻⑴遺跡Ⅱ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第259集

青森県教育委員会　2000　『野尻⑴遺跡Ⅲ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第277集

青森県教育委員会　2002　『野尻⑴遺跡Ⅳ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第320集

青森県教育委員会　2002　『安田⑵遺跡Ⅲ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第321集

青森県教育委員会　2003　『野尻⑴遺跡Ⅴ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第351集

㈶印旛郡市文化財センター　1996　『臼井屋敷跡遺跡』 ㈶印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第107集

玉川　英喜　1990　「岩手県内の円形周溝と方形周溝」『紀要』Ⅹ ㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

古代城柵官衙遺跡検討会　1993　『特集シンポジウム「北日本における律令期の土器様相」』

高橋　潤　1996　「津軽地方の終末期古墳について」『坂詰秀一還暦記念論文集』

新岡　巖　1996　「建物跡と集落について」『野尻⑷遺跡』

太田原　潤　1998　「外周溝の付け替えについて」『野尻⑴遺跡Ⅰ』

木村　高　2000　「建物跡について」『野尻⑴遺跡Ⅲ』

祭祀考古学会　2002　シンポジウム「古代の地方寺院と祭祀」『祭祀考古学』 第３号

野尻(1)調査前風景

第320・306号建物跡

第320号建物跡外周溝セクション

第306号建物跡外周溝セクション

第306号建物跡外周溝底面の工具痕

第306号建物跡カマドA

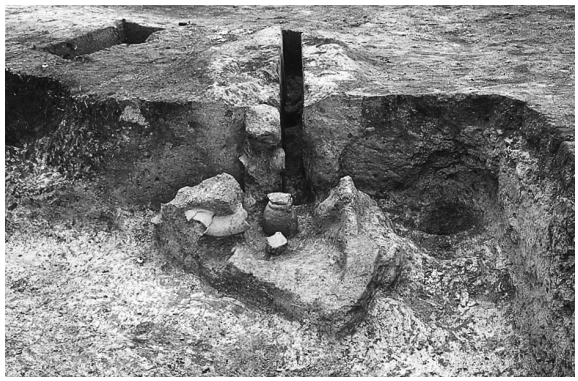
第306号建物跡カマドB

写真 1

第312号建物跡外延溝

第312号建物跡外延溝セクション

第317号建物跡



第317号建物跡カマド

第601号建物跡

第601号建物跡カマド

第602号建物跡

第602号建物跡セクション

写真 2

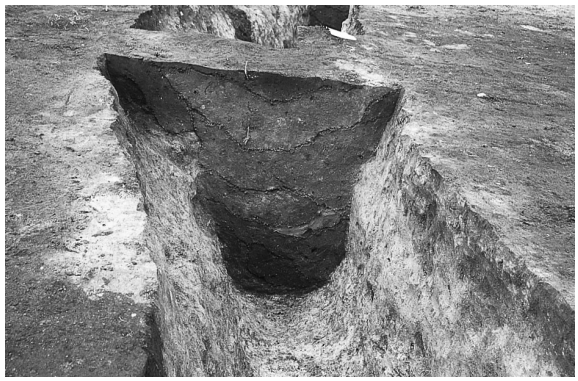
第603号建物跡

第603号建物跡遺物

第604号建物跡

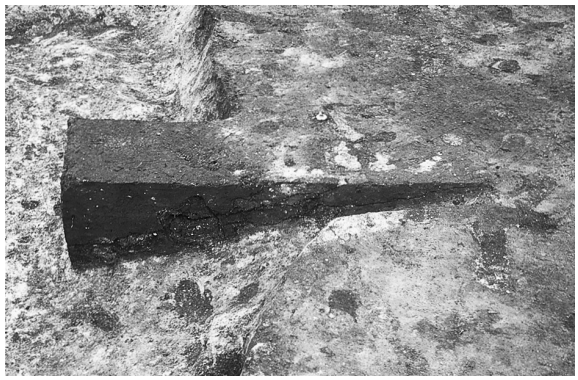
第604号建物跡カマド

第603・604号建物跡外周溝セクション



第604号建物跡外周溝セクション

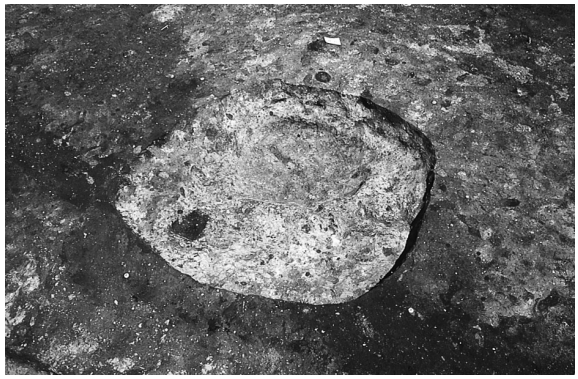
第605号建物跡



第605号建物跡カマドセクション

写真 3

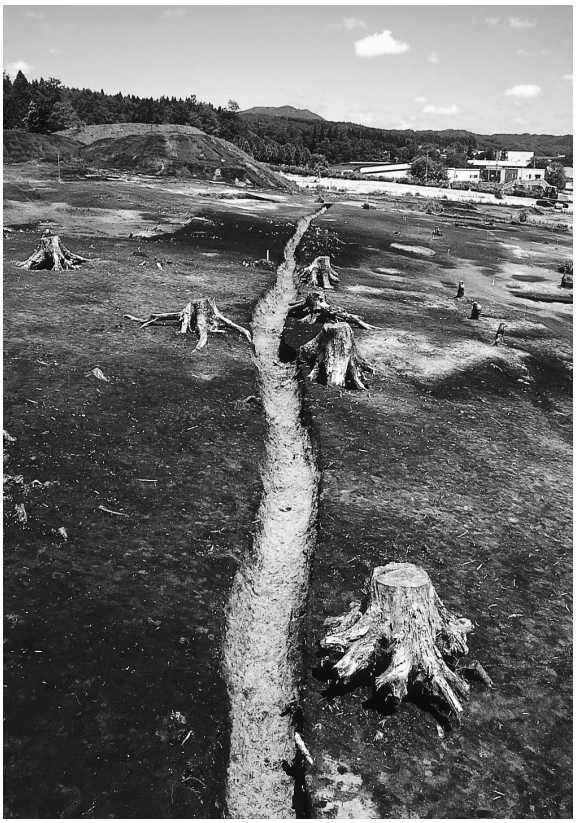
第306号土抗



第602号土抗

第603号土抗

第604号土抗



第601号溝跡

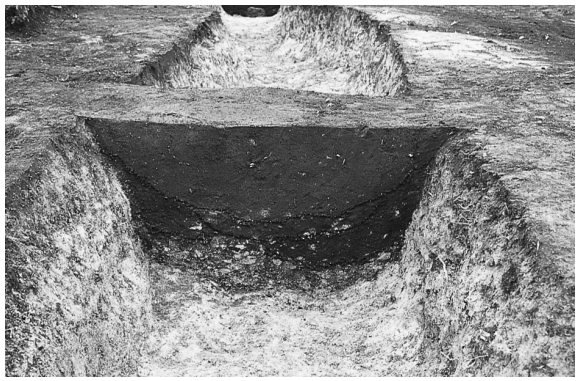
第601号溝跡セクション

第601号溝跡セクション

写真４

第602号溝跡

第602号溝跡遺物



第602号溝跡セクション

第603号溝跡

第603号溝跡セクション

第601号土器埋設遺構

第601・602号焼土遺構

写真 5

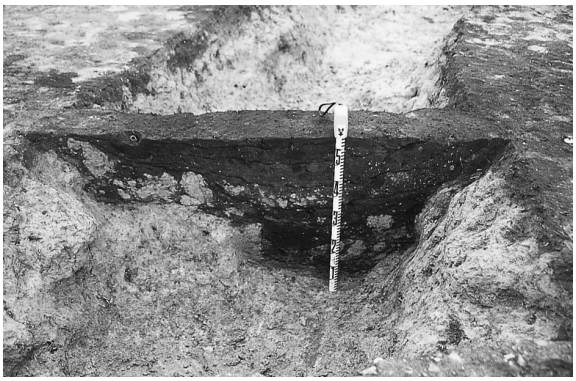
野尻(2)第109号竪穴住居跡・第148号土抗

第109号竪穴住居跡遺物

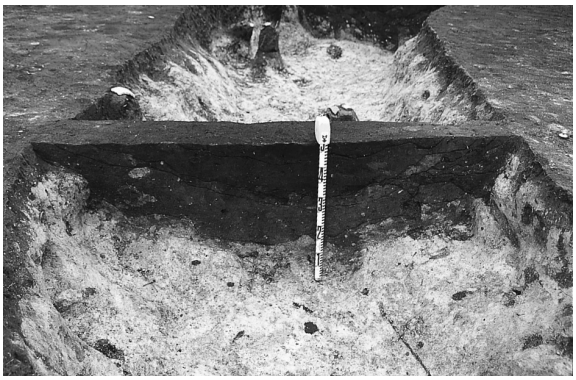
第110号竪穴住居跡

第110号竪穴住居跡遺物

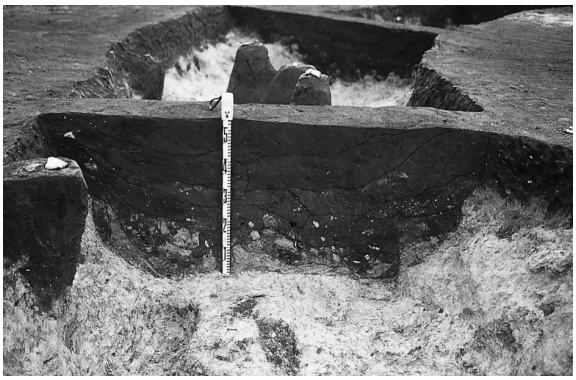
第108号円形周溝



第108号円形周溝セクションA－A′



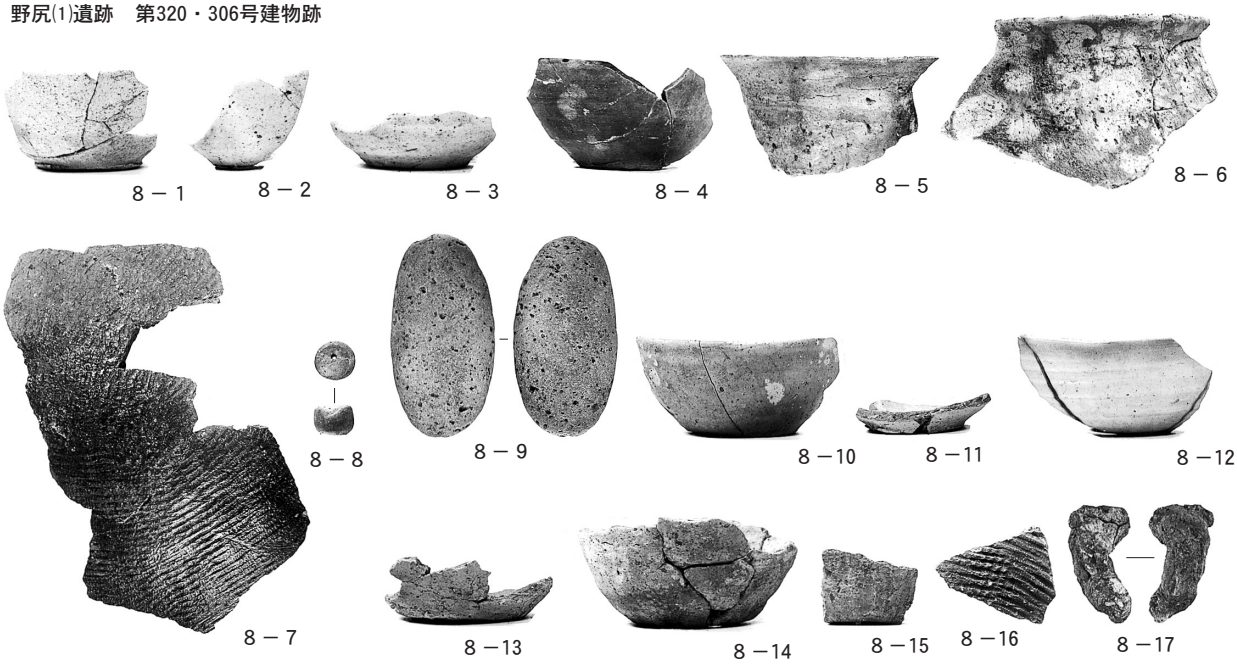
第108号円形周溝セクションB－B′



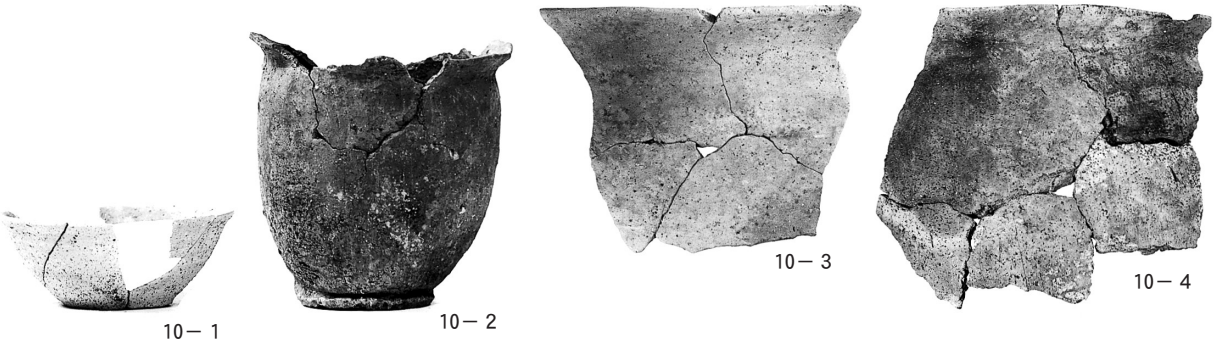
第108号円形周溝セクションC－C′

写真 6

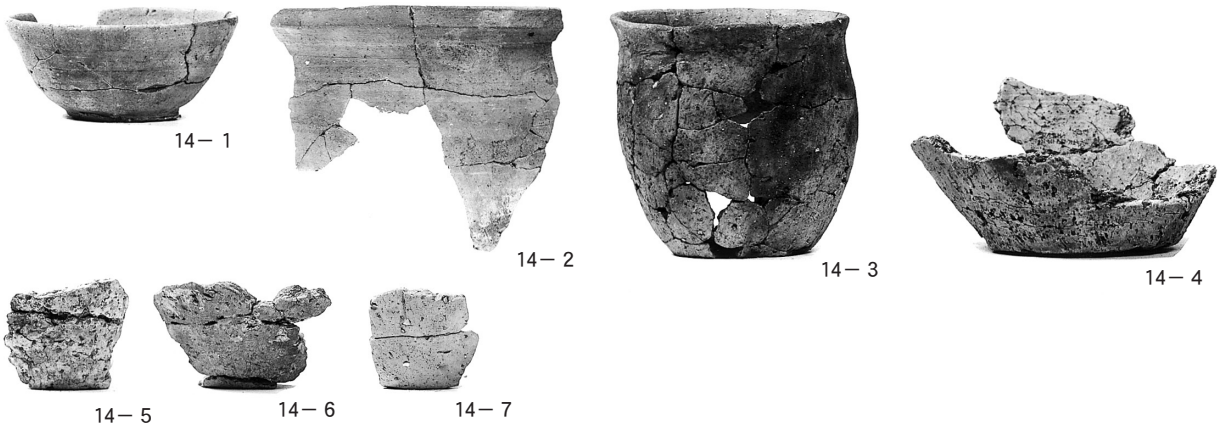
野尻(1)遺跡　第320・306号建物跡



第317号建物跡



第601号建物跡



第602号建物跡

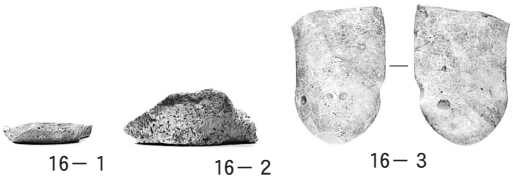


写真７

第603号建物跡

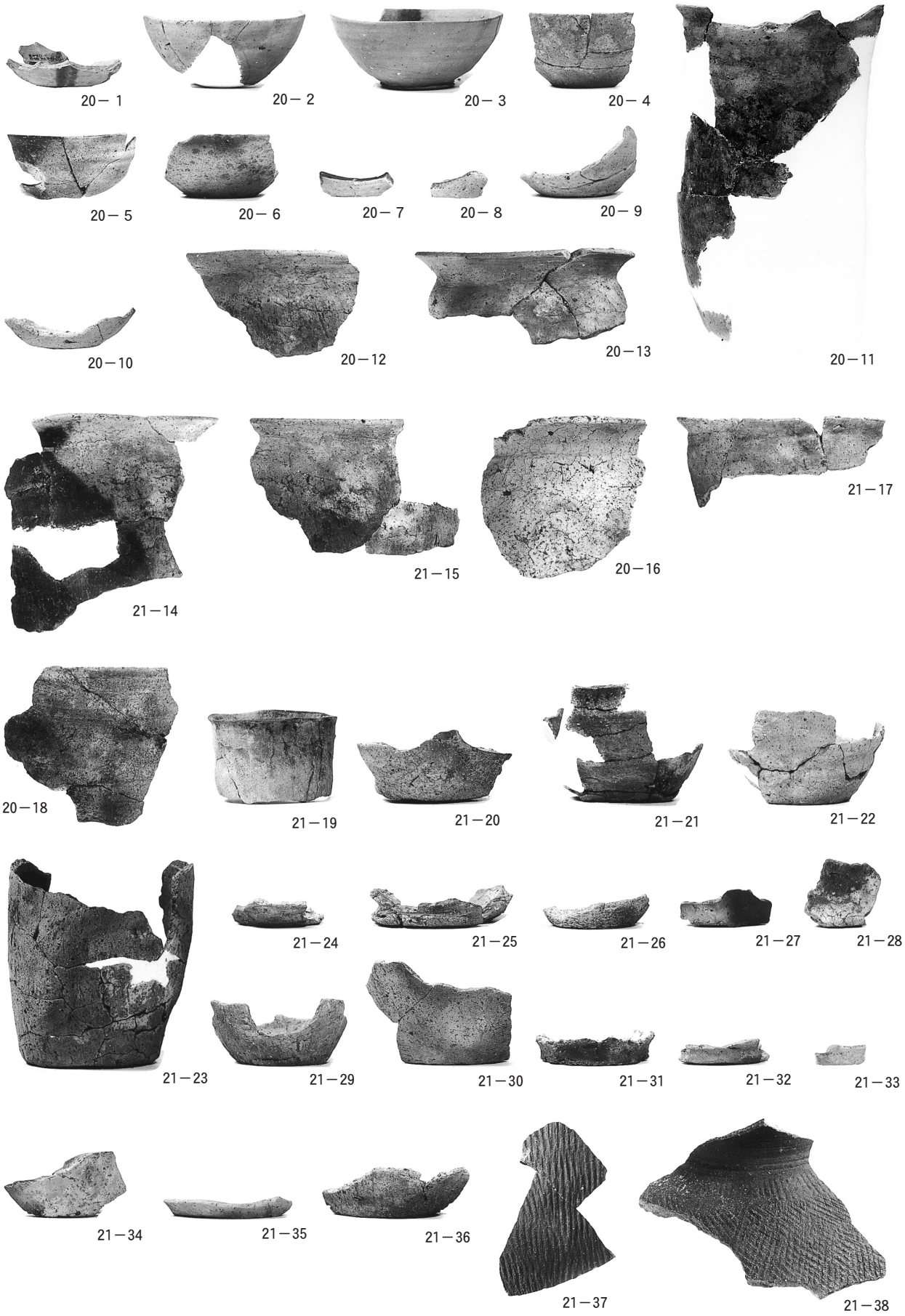


写真８

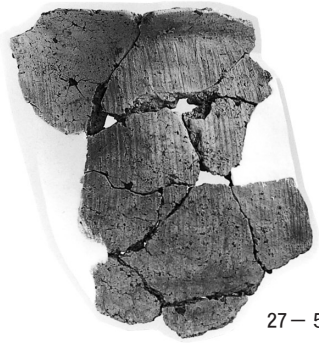
第604号建物跡

27－1

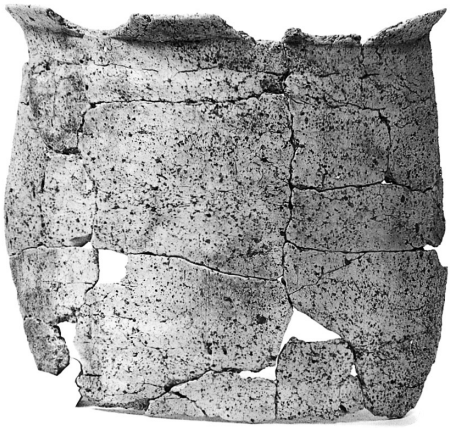
27－2

27－4

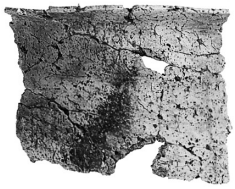
27－3


27－5

27－6


28－7

28－8


28－9

28－10

28－11

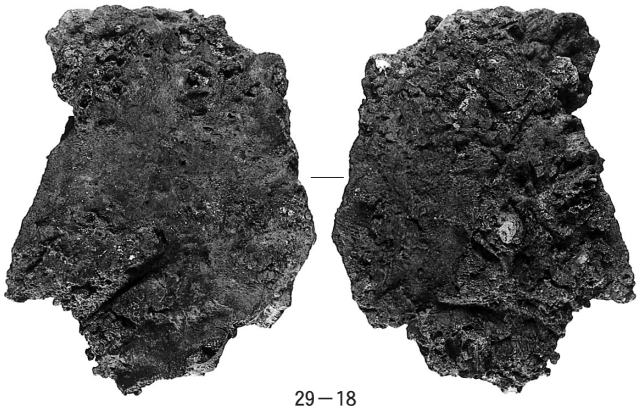
28－12

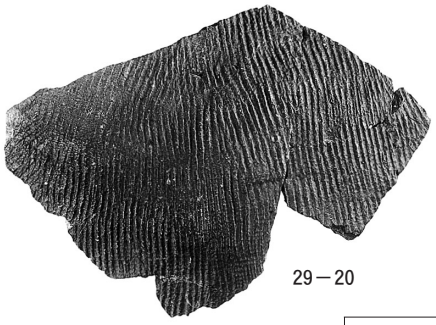
28－13

28－14

29－15

29－16


29－18


29－20

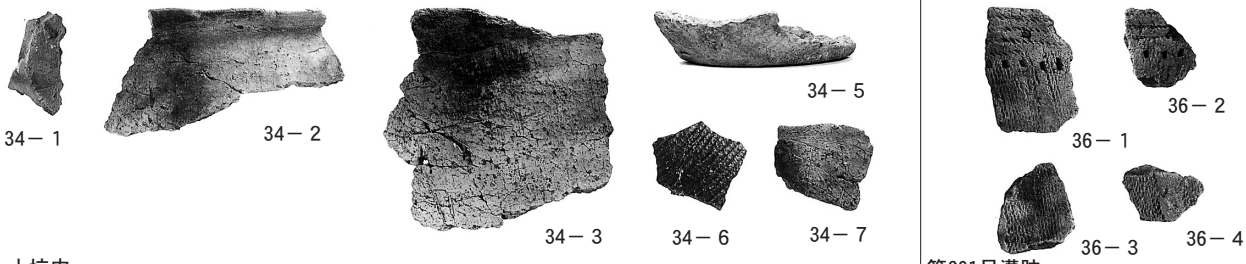
29－17

29－19

第605号建物跡

31－1

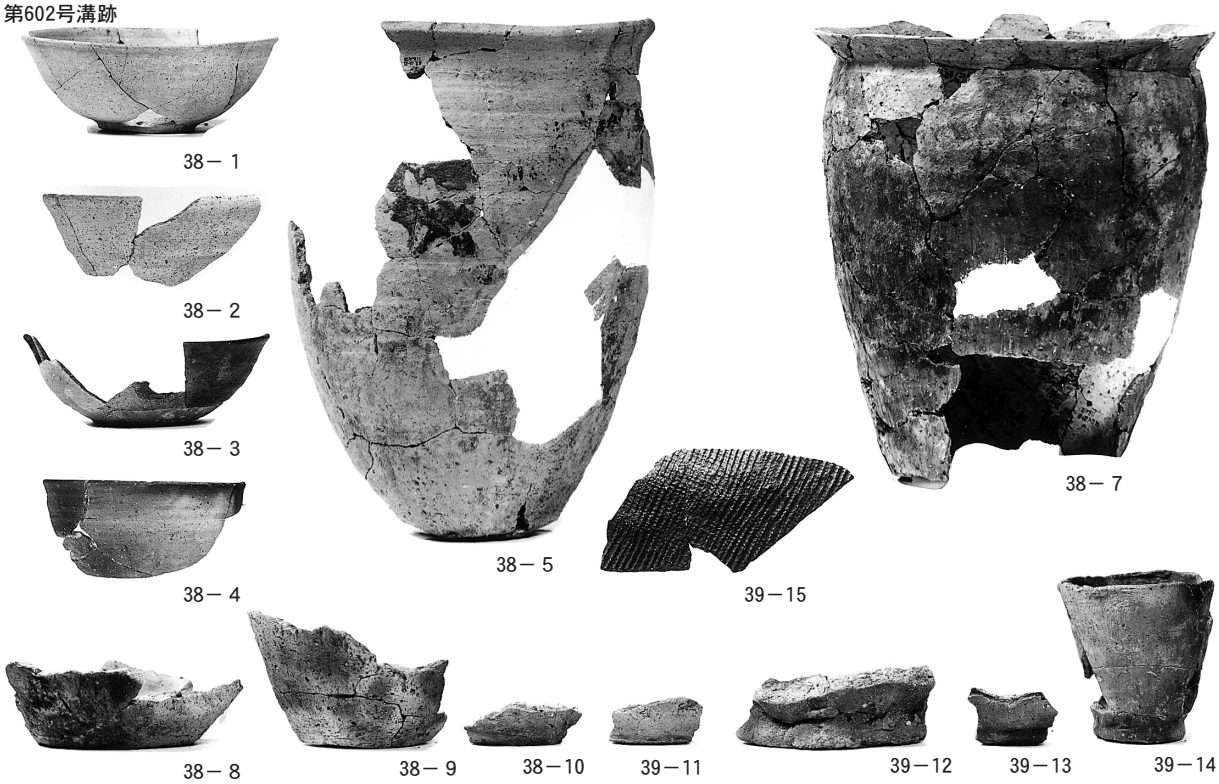
写真 9



土坑内

第601号溝跡

第602号溝跡



第601号埋設土器

遺構外

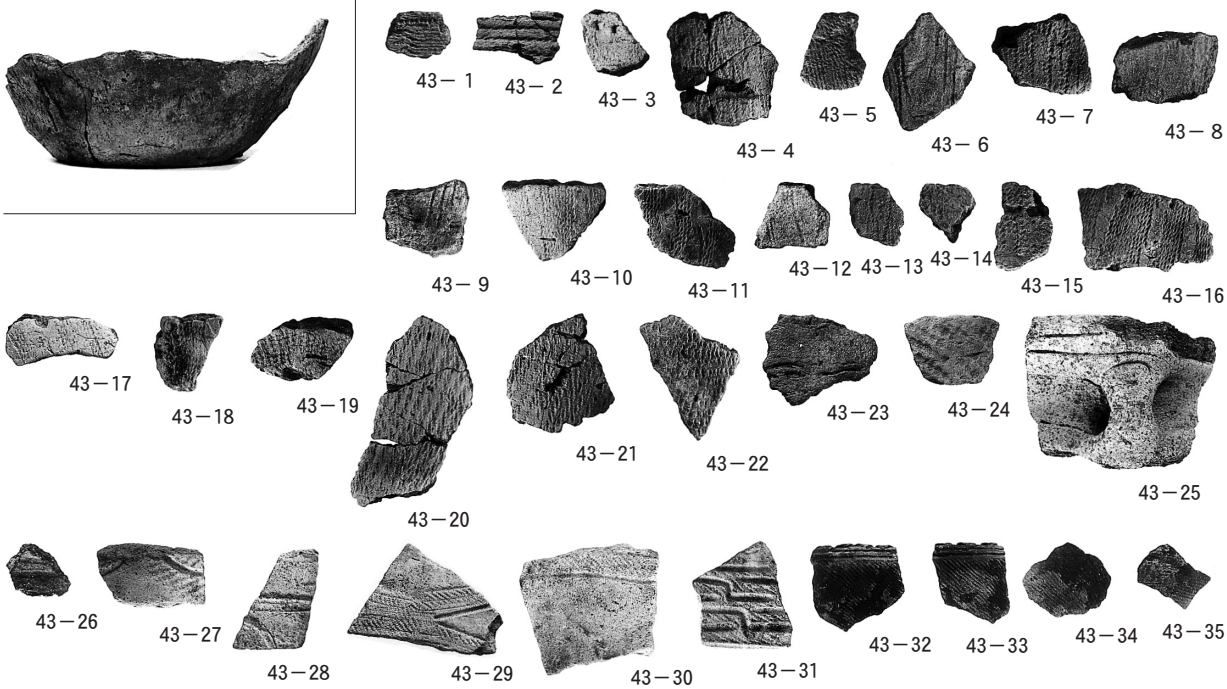


写真10

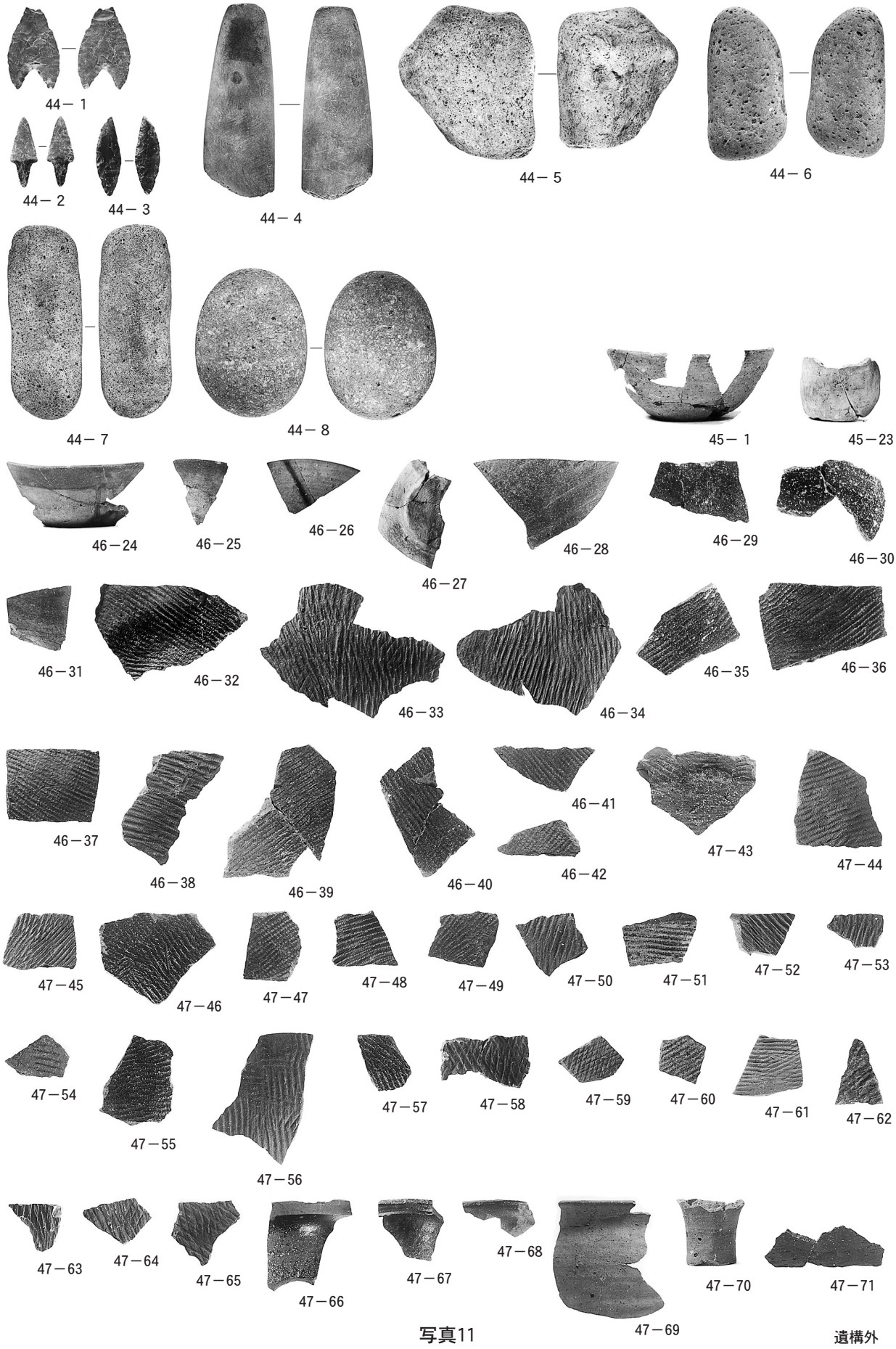
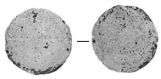
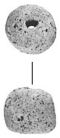

44－1
44－2
44－3
44－4
44－5
44－6
44－7
44－8
45－1
45－23
46－24
46－25
46－26
46－27
46－28
46－29
46－30
46－31
46－32
46－33
46－34
46－35
46－36
46－37
46－38
46－39
46－40
46－41
46－42
47－43
47－44
47－45
47－46
47－47
47－48
47－49
47－50
47－51
47－52
47－53
47－54
47－55
47－56
47－57
47－58
47－59
47－60
47－61
47－62
47－63
47－64
47－65
47－66
47－67
47－68
47－69
47－70
47－71

写真11　遺構外

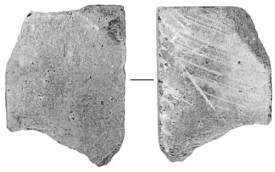
遺構外

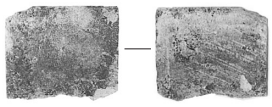

48－2

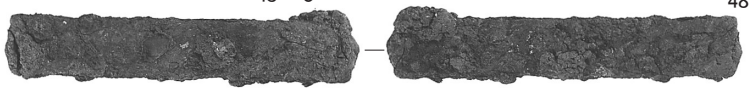
48－3

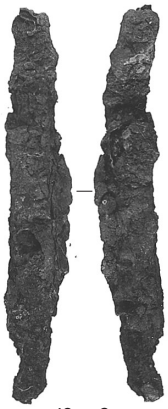

48－4

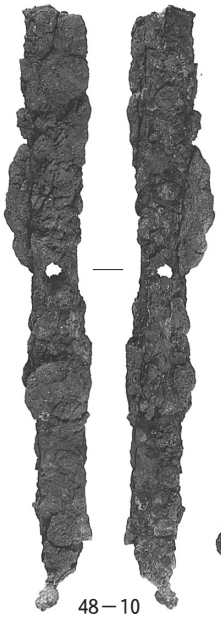
48－5


48－6

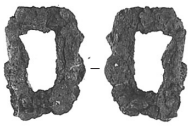

48－7

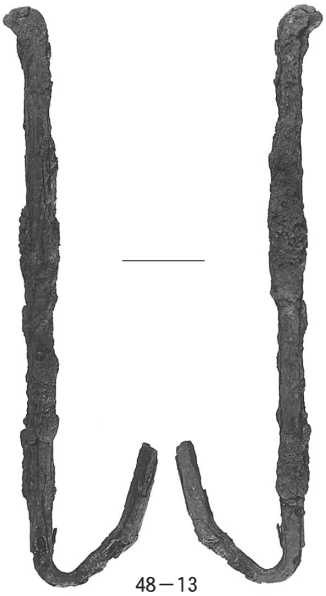

48－8


48－9


48－10

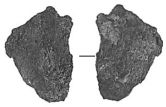
48－11

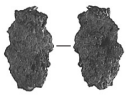

48－12

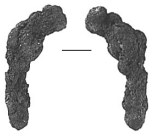

48－13

48－21

48－22

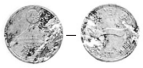

48－14

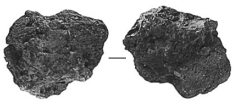

48－15

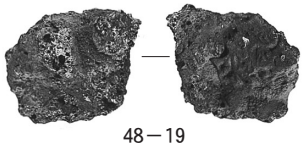

48－16

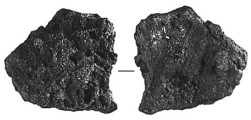
48－17

48－23


48－24

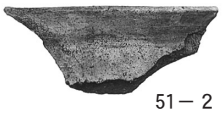

48－18


48－19

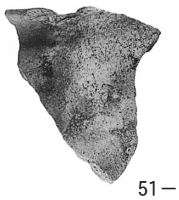

48－20

野尻(2)遺跡　第109号竪穴住居跡・第148号土抗

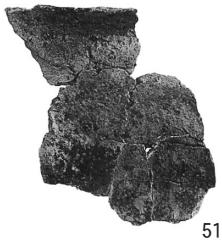
51－1


51－2

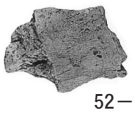
51－3


51－4

52－9


51－5

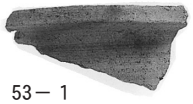
52－6


52－7

52－8

52－10

第110号竪穴住居跡

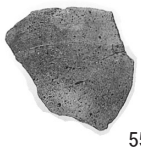

53－1

53－2

53－3

53－4

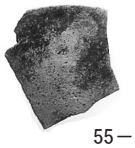
55－1


55－2

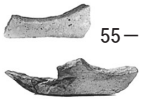
55－3

55－4

55－5


55－18

55－19


55－20
55－21

55－6

第108号円形周溝・遺構外

写真12

報告書抄録

ふりがな	のじり　いせき　のじり　いせき
書名	野尻(1)遺跡Ⅵ・野尻(2)遺跡Ⅲ
副書名	国道101号浪岡五所川原道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告 国道７号浪岡バイパス建設事業に伴う遺跡発掘調査報告
巻次	
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第366集
編著者名	笹森一朗・小林雅人・樋口徹典・茅野嘉雄
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター
所在地	〒038-0042　青森市新城字天田内152-15　ＴＥＬ 017-788-5701
発行機関	青森県教育委員会
発行年月日	西暦2004年3月22日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	旧日本測地系 (Tokyo Datum) 世界測地系 (JGD 2000) 北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
野尻(1)遺跡 (のじり いせき)	青森県南津軽郡 (あおもりけんみなみつがるぐん) 浪岡町大字徳才 (なみおかまちおおあざとくさい) 子字山本175-141外 (し あざやまもと)	02364	29060	40°44′40″ 40°44′50″	140°35′03″ 140°34′50″	20020418 ∫ 20020719	4,700	国道101号浪岡五所川原道路建設事業に伴う事前調査
野尻(2)遺跡 (のじり いせき)	青森県南津軽郡 (あおもりけんみなみつがるぐん) 浪岡町大字高屋 (なみおかまちおおあざたかや) 敷字野尻55-2外 (しきあざのじり)	02364	29061	40°44′10″ 40°44′20″	140°35′18″ 140°35′05″	20020723 ∫ 20021018	740	国道７号浪岡バイパス建設事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
野尻(1)遺跡	散布地	縄文	なし	縄文土器・石器 (石鏃・敲磨器等)	
	集落跡	平安	建物跡　８棟 土坑　７基 溝跡　３条 土器埋設遺構　１基 焼土遺構　４基	土師器・須恵器・土製品・石製品・金属製品・擦文土器	集落跡の一部を確認。白頭山火山灰降下以前の遺構が多い。
	散布地	近世・近代	なし	古銭・銭貨	
野尻(2)遺跡	集落跡	平安	竪穴住居跡　２軒 土坑　１基	土師器・須恵器・羽口	集落跡と墓域の一部を確認。白頭山火山灰降下以前の遺構。
	墓域		円形周溝　１基		

青森県埋蔵文化財調査報告書　第366集

野尻(1)遺跡Ⅵ

－国道101号浪岡五所川原道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－

野尻(2)遺跡Ⅲ

－国道７号浪岡バイパス建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－

発行年月日　平成16年３月22日
発　　行　青森県教育委員会
〒030－8540　青森市新町二丁目３－１
編　　集　青森県埋蔵文化財調査センター
〒038－0042 青森市大字新城字天田内152－15
TEL 017－788－5701･5702
印 刷 所　株式会社新印刷興業
〒030－0142　青森市大字野木字野尻37－728
TEL 017－739－6431　FAX 017－762－1804